

東 今 泉 鹿 島 遺 跡

国道122号線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

第一分冊 遺構・本文編

2007

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

調査研究館1F保管

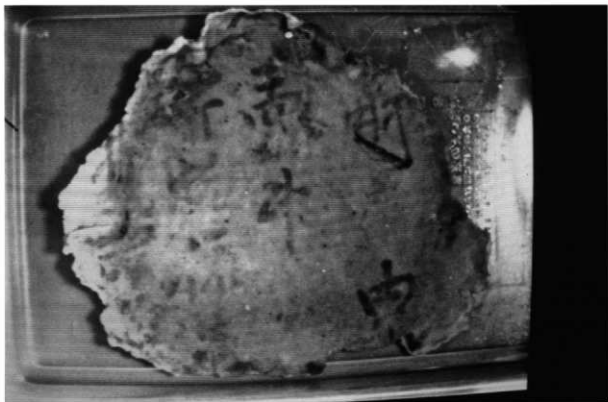
東 今 泉 鹿 島 遺 跡

国道122号線道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

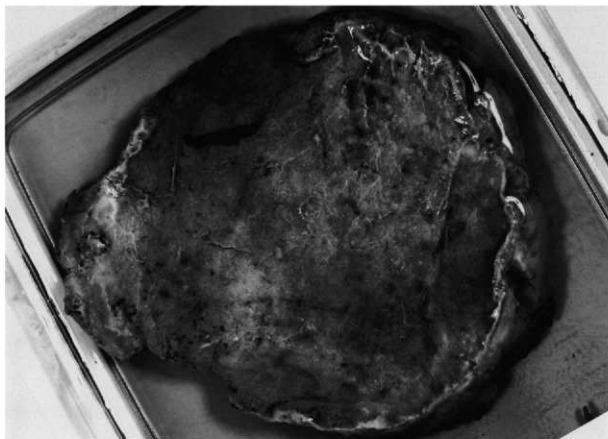
第一分冊 遺構・本文編

2007

群馬県太田土木事務所
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



63号住居跡出土漆紙文書（表）赤外線モニター写真



63号住居跡出土漆紙文書（裏）赤外線写真

序

北関東自動車道路は、増大する交通量に対応するため、群馬県、栃木県、茨城県を結ぶ高速道路として、日本道路公団により建設工事が開始され、東日本高速道路株式会社はその事業を引き継ぎ、建設工事が進められています。

国道122号線道路改良事業は、北関東自動車道路太田インターチェンジへのアクセス道路として、群馬県太田土木事務所により工事が実施されています。東今泉鹿島遺跡の発掘調査は、この国道122号線道路改良工事の事前発掘調査として、平成15年4月より実施されました。

太田市には、天神山古墳をはじめ、数多くの遺跡があります。東今泉鹿島遺跡からは、太田のシンボルである金山城を望め、周辺には大道東遺跡、楽前遺跡、鹿島浦遺跡など多くの遺跡があります。また、遺跡の近くは旧山田郡の郡家も想定されています。東今泉鹿島遺跡の発掘調査では、古墳時代から平安時代の住居跡や古代の水田など数多くの発見がありました。特に、漆紙文書の発見は特筆されます。これらの成果は、古代群馬の歴史を解明する上で貴重な資料になります。

これらの成果をあげることができたのも、群馬県太田土木事務所をはじめ、群馬県教育委員会、太田市教育委員会のご協力の賜物であります。また、調査に協力していただいた、地元太田市東今泉町、只上町の皆様、関係各位の皆様に感謝いたしまして、本書刊行の序といたします。

平成19年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
理事長 高橋 勇夫

例 言

- 1 当書は、国道122号線道路改良事業に伴う、発掘調査報告書である。
- 2 当書に掲載の東今泉鹿島遺跡所在地は、下記のとおりである。
太田市元東今泉町23-2、23-3、28、29-1、29-2、33、41-1、201、202、216、372、373、374、375、376-1、376-2、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388-2、391-3、392-1、393-3、393-4、402-1、402-2、405-2、432-1、432-4、433-1、434-5、434-7、435-2、436、440、481、482、483、484-1、484-2、488、491-2番地
- 3 発掘調査は、太田土木事務所の委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。発掘調査期間、発掘調査組織は下記のとおりである。

第一次発掘調査 期間 平成15年4月1日～平成16年3月31日

組織	理事長	小野宇三郎
	常務理事	住谷永市
	東毛事務所長	平野進一
	事業局長	神保侑史
	東毛事務所調査研究部長	真下高幸
	東毛事務所第3課長	中沢 悟
	東毛事務所庶務係長	笠原秀樹
	東毛事務所事務担当	柳岡良宏
	調査担当	井川達雄（7月31日まで） 洞口正史（8月1日から） 長沼孝則

第二次発掘調査 期間 平成16年4月1日～平成17年3月31日

組織	理事長	小野宇三郎
	常務理事	住谷永市
	事業局長	神保侑史
	東毛事務所長	平野進一
	東毛事務所調査研究部長	真下高幸
	東毛事務所庶務課長	笠原秀樹
	東毛事務所事務担当	柳岡良宏 今泉大作 清水秀紀
	調査担当	橋本 淳 深澤慶一

第三次発掘調査 期間 平成17年4月1日～平成17年5月31日

組織	理事長	小野宇三郎
	常務理事	木村裕紀
	東毛事務所長	平野進一
	東毛事務所調査研究部長	真下高幸
	東毛事務所庶務課長	笠原秀樹
	東毛事務所事務担当	柳岡良宏
	調査担当	友廣哲也 柿沼弘之

- 4 整理作業は、太田土木事務所の委託を受け、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。整理期間、整理組織は下記の通りである。

整理期間	平成17年4月1日～平成18年3月31日						
整理組織	理事長	小野宇三郎・高橋勇夫					
	常務理事	木村裕紀					
	事業局長	津金沢吉茂					
	管理部長	矢崎俊夫					
	資料整理部長	中東耕志					
	総務課長	宮前結城雄					
	総務係	係長竹内宏	須田朋子	今泉大作	栗原幸代		
	経理係	係長石井清	吉田有光	清水秀紀	佐藤聖行		
	資料整理第2課長	相京建史					
	整理担当	井川達雄					
	整理補助員	伊藤淳子	小林恵美子	阿久津久子	町田礼子	福島瑞希	吉邑玲子

整理期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日						
整理組織	理事長	高橋勇夫					
	常務理事	木村裕紀					
	事業局長	津金沢吉茂					
	管理部長	萩原 勉					
	資料整理部長	中東耕志					
	総務GL	笠原秀紀					
		須田朋子 今泉大作 栗原幸代					
	経理GL	石井 清					
		斉藤恵利子 柳岡良宏 佐藤聖行					
	資料整理第2GL	関 晴彦					
	整理担当	井川達雄					
	整理補助員	伊藤淳子	小林恵美子	阿久津久子	町田礼子	林 陽子	吉邑玲子

- 5 遺構写真については各担当者が、遺物写真については当事業団写真担当技師佐藤元彦が担当した。
- 6 石材鑑定は飯島静雄氏に依頼し、地質調査、プラント・オパール分析、炭化種子同定は古環境研究所に委託した。
- 7 本書の編集は、井川達雄が行った。執筆者は下記の通りである。

調査に至る経過	中沢 悟	
発掘調査の経過と方法	井川達雄	
基本層序	井川達雄	
遺跡の立地と歴史的環境	井川達雄	
遺構本文	井川達雄	
縄文時代の遺物	橋本 淳	
遺物観察表	井川達雄	橋本 淳(縄文時代遺物) 高井佳弘(瓦) 大西雅夫(陶磁器)

調査の成果と問題点

テフラ分析、植物珪酸体分析、種子同定 古環境研究所

東今泉鹿島遺跡出土文字資料について 高島英之

調査の成果と問題点 井川達雄

- 8 出土した漆紙文書については、東京大学文学部教授佐藤信、東京大学史料編纂所所長加藤友康、東京大学史料編纂所史料保存技術室中村尚暁、同谷昭佳の各氏の協力を得た。

また、本書の作成に当たっては、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、群馬県土本部はじめ各方面から多大な協力を得た。また、発掘調査に際しては現場で働いていただいた多くの方々をはじめ、東今泉町・只上町をはじめ遺跡周辺の方々から多大なるご支援をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。

- 9 当遺跡出土の遺物・実測図・写真等の資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

凡 例

- 1 遺構番号は、発掘調査時に付した番号をそのまま使用している。従って、整理段階で遺構から外したものは欠番となっている。
- 2 遺物には、遺物整理の最初に4桁の番号を与え、その後の変更はない。従って、遺構等の検討の結果未掲載とした遺物は、欠番となっている。また、この番号は、遺構本文、遺物実測図、遺物観察表、遺物写真を通して一致する。

- 3 各遺構図の縮尺は下記の通りである

住居跡 1:60 掘立柱・柱穴列 1:60 溝(付図) 1:200 井戸 1:40

土坑 1:40 ピット 1:40 水田・畠 1:200 全体図(付図) 1:500

遺構毎にスケールと縮尺率が記入してある。

- 4 遺物図の縮尺は1:4あるが、それ以外の縮尺もある。1:4の縮尺については図版毎に、1:4以外の縮尺については各遺物毎に、スケールと縮尺率が記入してある。

- 5 遺構図、遺物図に使用しているスクリーントーンの意味は、下記の通りである。

焼土・灰(遺構)



墨痕範囲(遺物)



灰軸陶器・緑軸陶器(遺物)



内黒(遺物)



- 6 本書の北は、座標上の北である。座標系は、日本測地系の座標系第IX系(旧座標系)を使用している。
- 7 住居跡の主軸は竈の持つ壁を規準とし、竈を持つ壁と直行する軸(竈の向きにほぼ一致)と真北との角度である。竈を持たない住居跡・掘立柱の主軸は、棟行方向とした。
- 8 遺物観察表の()は推定値または残存値である。また、色調については、農林水産省水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。

目 次

口 絵
序 言
例 凡 例

第一分冊

第I章	発掘調査の経過・方法、遺跡の立地	1
第1節	発掘調査に至る経過	1
第2節	発掘調査の経過と方法	1
第3節	基本層位	4
第4節	遺跡の立地と歴史的環境	4
第II章	発見された遺構・遺物	7
第1節	住居跡	7
第2節	掘立柱・柱穴列	193
第3節	井戸	221
第4節	溝	223
第5節	土坑	240
第6節	ピット	280
第7節	水田・畠	348
第8節	遺構外出土遺物	367
第9節	縄文時代の遺構と遺物	373
第III章	遺物観察表	381
第IV章	発掘調査の成果と問題点	451
第1節	自然科学分析	451
第2節	東今泉鹿島遺跡出土文字資料について	473
第3節	発掘調査の成果と今後の課題	484

第二分冊

写真図版

付図	付図1 東今泉鹿島遺跡全体図
	付図2 As-B 下水田全体図
	付図3 洪水層下水田全体図
	付図4 2区・18区・21区溝
	付図5 3区・19区・22区溝
	付図6 4区・20区溝
	付図7 5区溝
	付図8 16区・17区溝

挿図目次

第 1 図	東京泉源島遺跡位置図	2	第 58 図	28号住居跡、同電、同出土遺物	56
第 2 図	東今泉遺跡・向矢部遺跡・矢部遺跡調査区設定図	3	第 59 図	29号住居跡、同掘り方	57
第 3 図	周辺遺跡分布図	6	第 60 図	29号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物(1)	59
第 4 図	1号住居跡	7	第 61 図	29号住居跡出土遺物(2)	60
第 5 図	1号住居跡掘り方、同電	8	第 62 図	29号住居跡出土遺物(3)	61
第 6 図	1号住居跡出土遺物	9	第 63 図	30号住居跡	61
第 7 図	2号住居跡、同出土遺物	10	第 64 図	30号住居跡電、同出土遺物	62
第 8 図	3号住居跡、同電	11	第 65 図	31号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方	63
第 9 図	3号住居跡出土遺物	12	第 66 図	31号住居跡出土遺物	64
第 10 図	4号住居跡、同掘り方、同電	13	第 67 図	32号住居跡	64
第 11 図	4号住居跡電掘り方、同出土遺物	14	第 68 図	32号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物(1)	65
第 12 図	5号住居跡	14			
第 13 図	5号住居跡掘り方、同電、同電掘り方	15	第 69 図	32号住居跡出土遺物(2)	66
第 14 図	5号住居跡出土遺物	16	第 70 図	33号住居跡	67
第 15 図	6号住居跡、同掘り方、同電	17	第 71 図	33号住居跡掘り方、同電	68
第 16 図	6号住居跡電掘り方、同出土遺物	18	第 72 図	33号住居跡電掘り方、同出土遺物(1)	69
第 17 図	7号住居跡、同掘り方、同電	19	第 73 図	33号住居跡出土遺物(2)	70
第 18 図	7号住居跡電掘り方、同出土遺物	20	第 74 図	33号住居跡出土遺物(3)	71
第 19 図	8号住居跡、同掘り方	21	第 75 図	34号住居跡、同掘り方	72
第 20 図	8号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物(1)	22	第 76 図	34号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物	73
第 21 図	8号住居跡出土遺物(2)	23	第 77 図	35号住居跡、同掘り方	74
第 22 図	9号住居跡、同掘り方、同電、同出土遺物	24	第 78 図	35号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物(1)	75
第 23 図	10号住居跡掘り方、同出土遺物	25	第 79 図	35号住居跡出土遺物(2)	76
第 24 図	11号住居跡、同掘り方、同電	26	第 80 図	36号住居跡、同掘り方	77
第 25 図	11号住居跡電掘り方、同出土遺物	27	第 81 図	36号住居跡電、同電掘り方	78
第 26 図	12号住居跡	27	第 82 図	36号住居跡出土遺物	79
第 27 図	12号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物	28	第 83 図	37号住居跡	79
第 28 図	13号住居跡、同掘り方	29	第 84 図	37号住居跡掘り方	80
第 29 図	13号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物	30	第 85 図	37号住居跡電、同電掘り方	81
第 30 図	14号住居跡掘り方、同電掘り方、同出土遺物	31	第 86 図	37号住居跡出土遺物	82
第 31 図	15号住居跡	32	第 87 図	38号住居跡、同掘り方、同電	83
第 32 図	16号住居跡	32	第 88 図	38号住居跡電掘り方、同出土遺物	84
第 33 図	16号住居跡電	33	第 89 図	39号住居跡	84
第 34 図	17号住居跡、同掘り方、同電	34	第 90 図	39号住居跡掘り方、同電、同電掘り方	85
第 35 図	17号住居跡出土遺物	35	第 91 図	39号住居跡出土遺物	86
第 36 図	18号住居跡、同掘り方	36	第 92 図	40号住居跡	86
第 37 図	18号住居跡柱穴セクション、同出土遺物	37	第 93 図	40号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物	87
第 38 図	19号住居跡、同掘り方	38	第 94 図	41号住居跡、同掘り方、同電、同出土遺物	88
第 39 図	19号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物	39	第 95 図	42号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物	89
第 40 図	20号住居跡	40			
第 41 図	20号住居跡掘り方、同出土遺物	41	第 96 図	43号住居跡、同掘り方	90
第 42 図	21号住居跡、同掘り方	42	第 97 図	43号住居跡出土遺物	91
第 43 図	21号住居跡電、同電掘り方	43	第 98 図	44号住居跡	91
第 44 図	21号住居跡出土遺物	44	第 99 図	44号住居跡掘り方、同出土遺物	92
第 45 図	22号住居跡	44	第 100 図	45号住居跡、同掘り方	93
第 46 図	23号住居跡	45	第 101 図	45号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物	94
第 47 図	24号住居跡	45	第 102 図	46号住居跡	95
第 48 図	24号住居跡掘り方、同電、同出土遺物	46	第 103 図	46号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物(1)	96
第 49 図	25号住居跡掘り方	47			
第 50 図	25号住居跡電掘り方、同出土遺物	48	第 104 図	46号住居跡出土遺物(2)	97
第 51 図	26A号住居跡、26B号住居跡	49	第 105 図	48号住居跡	98
第 52 図	26A号住居跡掘り方、同電、同電掘り方	50	第 106 図	48号住居跡掘り方	99
第 53 図	26A号住居跡出土遺物	51	第 107 図	48号住居跡電、電掘り方	100
第 54 図	26B号住居跡掘り方、同電	52	第 108 図	48号住居跡出土遺物(1)	101
第 55 図	26B号住居跡電掘り方、同出土遺物	53	第 109 図	48号住居跡出土遺物(2)	102
第 56 図	27号住居跡、同掘り方	54	第 110 図	49号住居跡	103
第 57 図	27号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物	55	第 111 図	49号住居跡掘り方	104

第112図	49号住居跡電	105
第113図	49号住居跡電掘り方、同出土遺物①	106
第114図	49号住居跡出土遺物②	107
第115図	49号住居跡出土遺物③	108
第116図	50号住居跡	109
第117図	50号住居跡掘り方、同電	110
第118図	50号住居跡電掘り方、同出土遺物①	111
第119図	50号住居跡出土遺物②	112
第120図	51号住居跡電	113
第121図	51号住居跡、52号住居跡、53号住居跡、51号住居跡電掘り方	114
第122図	51号住居跡掘り方、52号住居跡掘り方、53号住居跡掘り方	115
第123図	51号住居跡掘り方セクション、52号住居跡掘り方セクション、53号住居跡掘り方セクション、52号住居跡電	116
第124図	52号住居跡電掘り方、53号住居跡電、同電掘り方	117
第125図	51号住居跡出土遺物、52号住居跡出土遺物、53号住居跡出土遺物	118
第126図	54号住居跡、同掘り方	119
第127図	54号住居跡電、同電掘り方	120
第128図	54号住居跡出土遺物	121
第129図	55号住居跡電	121
第130図	55号住居跡、同電掘り方	122
第131図	55号住居跡掘り方、同出土遺物①	123
第132図	55号住居跡出土遺物②	124
第133図	56号住居跡、同掘り方	124
第134図	56号住居跡電、同電掘り方	125
第135図	56号住居跡出土遺物	126
第136図	57号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物	126
第137図	58号住居跡、同掘り方	127
第138図	58号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物①	128
第139図	58号住居跡出土遺物②	129
第140図	59号住居跡	129
第141図	59号住居跡掘り方、同電、同電掘り方	130
第142図	59号住居跡出土遺物	131
第143図	60号住居跡	131
第144図	60号住居跡掘り方、同出土遺物	132
第145図	61号住居跡電	132
第146図	61号住居跡、同出土遺物	133
第147図	62号住居跡、同掘り方、同電	134
第148図	62号住居跡電掘り方、同出土遺物	135
第149図	63号住居跡	136
第150図	63号住居跡掘り方、同電掘り方	137
第151図	63号住居跡電、同出土遺物①	138
第152図	63号住居跡出土遺物②	139
第153図	64号住居跡	139
第154図	64号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物	140
第155図	65号住居跡	141
第156図	65号住居跡掘り方、同電	142
第157図	65号住居跡電掘り方、同出土遺物	143
第158図	66号住居跡、同出土遺物	144
第159図	67号住居跡、同伊、同出土遺物①	145
第160図	67号住居跡出土遺物②	146
第161図	68号住居跡、同掘り方	146
第162図	68号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物	147
第163図	69号住居跡掘り方	147
第164図	69号住居跡、同電、同電掘り方	148
第165図	69号住居跡出土遺物	149
第166図	70号住居跡	149
第167図	70号住居跡掘り方、同出土遺物	150
第168図	71号住居跡、同出土遺物	150

第169図	72号住居跡、同出土遺物	151
第170図	73号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方	152
第171図	73号住居跡出土遺物	153
第172図	74号住居跡	153
第173図	74号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物	154
第174図	75号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方	155
第175図	75号住居跡出土遺物	156
第176図	76号住居跡	156
第177図	76号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物	157
第178図	77号住居跡、同掘り方、同電	158
第179図	78号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方	159
第180図	78号住居跡出土遺物	160
第181図	79号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方	161
第182図	79号住居跡出土遺物	162
第183図	80号住居跡、同掘り方、同出土遺物	163
第184図	81号住居跡、同掘り方、同出土遺物	164
第185図	82号住居跡、同掘り方	165
第186図	82号住居跡電、同電掘り方	166
第187図	82号住居跡出土遺物	167
第188図	83号住居跡、84号住居跡重複関係	167
第189図	83号住居跡、同掘り方、同出土遺物	168
第190図	84号住居跡掘り方	168
第191図	84号住居跡、同電、同電掘り方	169
第192図	84号住居跡出土遺物	170
第193図	85号住居跡掘り方	170
第194図	85号住居跡、同出土遺物	171
第195図	86号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方	172
第196図	86号住居跡出土遺物	173
第197図	87号住居跡、同掘り方、同出土遺物	173
第198図	88号住居跡、同掘り方、同出土遺物	174
第199図	89号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方	175
第200図	89号住居跡出土遺物	176
第201図	90号住居跡、同掘り方	176
第202図	90号住居跡セクション、同電、同電掘り方	177
第203図	90号住居跡出土遺物	178
第204図	91号住居跡掘り方	178
第205図	91号住居跡、同電、同電掘り方、同出土遺物	179
第206図	94号住居跡、同掘り方、同出土遺物	180
第207図	95号住居跡、同掘り方	181
第208図	98号住居跡、同掘り方、同出土遺物	182
第209図	99号住居跡、同掘り方、同出土遺物	183
第210図	100号住居跡、同掘り方、同出土遺物	184
第211図	101号住居跡、同掘り方、同出土遺物	185
第212図	102号住居跡掘り方	185
第213図	102号住居跡、同出土遺物	186
第214図	103号住居跡、同掘り方	186
第215図	104号住居跡、同掘り方、同出土遺物	187
第216図	105号住居跡、同掘り方、同出土遺物①	188
第217図	105号住居跡出土遺物②	189
第218図	106号住居跡	190
第219図	106号住居跡掘り方、同伊、同伊掘り方、同出土遺物①	191
	106号住居跡出土遺物②	192
第220図	106号住居跡出土遺物③	192
第221図	110号住居跡電、同出土遺物	192
第222図	1号掘立柱、同出土遺物	193
第223図	2号掘立柱	194
第224図	2号掘立柱セクション、同出土遺物	195
第225図	3号掘立柱	196
第226図	3号掘立柱出土遺物	197
第227図	4号掘立柱	197
第228図	4号掘立柱セクション、同エンベージョン	198

第229図	5号竪立柱	198	第284図	173・174・175・176・180・181・182・183・184号土坑	268
第230図	5号竪立柱セクション、同エレベーション	199	第285図	187・189・190・191・192・196・197・198号土坑	269
第231図	6号竪立柱	199	第286図	199・200・201・202・203・204号土坑	270
第232図	6号竪立柱セクション、同エレベーション	200	第287図	225・226・227・228・229・230・231・233・236号土坑	271
第233図	7号竪立柱エレベーション	200	第288図	246・247・248・249・250・251・255・256・259号土坑	272
第234図	7号竪立柱	201	第289図	266・267・268・269・271・275・279・280・281号土坑	273
第235図	8号竪立柱、同出土遺物	202	第290図	283号土坑	274
第236図	9号竪立柱	203	第291図	2・7・10・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40・41・42・44・74号土坑出土遺物	275
第237図	9号竪立柱セクション	204	第292図	86・89・96・104・105・111・115・121・122・125・126号土坑出土遺物	276
第238図	10号竪立柱	205	第293図	130・134・154・159・161・162・164・170・172・184・192・196・267号土坑出土遺物	277
第239図	15号竪立柱	206	第294図	283号土坑出土遺物11	278
第240図	16号竪立柱	207	第295図	283号土坑出土遺物23	279
第241図	16号竪立柱セクション、同エレベーション、同出土遺物	208	第296図	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・17号ビット	298
第242図	17号竪立柱	209	第297図	18・19・20・21・22・23・25・27・29・30・31・34・35・36・37・38・39・40・41・42号ビット	299
第243図	17号竪立柱セクション	210	第298図	43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61号ビット	300
第244図	18号竪立柱	211	第299図	62・63・64・65・66・67・69・71・73・74・75・76・77・78・79・80・83・84・85・86号ビット	301
第245図	19号竪立柱	212	第300図	87・88・89・90・91・92・94・95・96号ビット	302
第246図	19号竪立柱セクション	213	第301図	97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109号ビット	303
第247図	21号竪立柱セクション	213	第302図	110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・120・121号ビット	304
第248図	21号竪立柱	214	第303図	122・123・124・125・126・127・128・171・172号ビット	305
第249図	24号竪立柱	215	第304図	173・174・175・176・177・178・179・180・181・182・183号ビット	306
第250図	24号竪立柱エレベーション、同出土遺物	216	第305図	184・185・186・187・188・189・190・191・192・193・194・195号ビット	307
第251図	27号竪立柱、同出土遺物	216	第306図	196・197・198・199・200・201・202・203・204・205・206・207号ビット	308
第252図	28号竪立柱	217	第307図	208・209・210・211・212・213・214・215・216・217号ビット	309
第253図	28号竪立柱セクション	218	第308図	218・219・220・221・222・223・224・225号ビット	310
第254図	2号柱穴列	218	第309図	226・227・228・229・230・231・232・233・234号ビット	311
第255図	3号柱穴列	219	第310図	235・236・237・238・239・240・241・242・243号ビット	312
第256図	2号井戸、同出土遺物	221	第311図	244・245・246・247・248・249・250・251・252号ビット	313
第257図	4号井戸	222	第312図	253・254・255・256・257・258・259・260・261号ビット	314
第258図	5号井戸	222	第313図	262・263・264・265・266・267・268・269・270・271号ビット	315
第259図	9・11号湧出出土遺物	235	第314図	272・273・274・275・276・277・279・280号ビット	316
第260図	13・14・23号湧出出土遺物	236	第315図	282・283・285・286・288・290・291・293号ビット	317
第261図	23・45・50・53・57・58号湧出出土遺物	237	第316図	294・295・299・301・302・305・306・308号ビット	318
第262図	58・59号湧出出土遺物	238	第317図	309・310・311・312・314・316・317・322号ビット	319
第263図	60・66・69・70・72・73・75・84・105号湧出出土遺物	239	第318図	323・324・325・326・327・328・340・341号ビット	320
第264図	1・2・3・4号土坑	248	第319図	342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352号ビット	321
第265図	7号土坑	249	第320図	353・354・355・356・357・358・359・360・361号ビット	322
第266図	8・9・10・11・12・13・15・16・17号土坑	250			
第267図	18・19・20・21・22・23・24・25・26号土坑	251			
第268図	27・28・38・39・40・41号土坑	252			
第269図	29・30・31・32・33・34・35・36・37号土坑	253			
第270図	42・44・46・49・50・51・52・53・54号土坑	254			
第271図	55・56・57・58・59・60・61・62号土坑	255			
第272図	64・73・74・75・78・79号土坑	256			
第273図	80・81・82・83・84・85号土坑	257			
第274図	86・87・88・89・90・92・93号土坑	258			
第275図	94・95・96・97・98号土坑	259			
第276図	99・100・104・105・106・107・108・109号土坑	260			
第277図	111・112・113・115・116・117・118・119号土坑	261			
第278図	120・121・122・123・124・125・126号土坑	262			
第279図	127・128・129・130・131・132・133号土坑	263			
第280図	134・135・138・139・140・141・142・143・144号土坑	264			
第281図	145・146・148・149・150・151・152・153・154号土坑	265			
第282図	155・156・157・158・159・160・161・162・163号土坑	266			
第283図	164・165・166・167・168・169・170・171・172号土坑	267			

.....	322
第321図 362・363・364・365・366・367・368・369・370号ビット	323
第322図 371・372・373・374・375・376・377・447・448・449号ビット	324
第323図 450・451・452・453・454・455・456・457・459・460・461・462・463・464・465・466号ビット	325
第324図 467・468・469・470・471・472・473・474・475・476・477・478・479・480・481号ビット	326
第325図 482・483・484・485・486・487・488・489・490・491・492・493・494・495・496・497号ビット	327
第326図 498・499・500・501・502・503・504・505・506・507・508号ビット	328
第327図 509・510・511・512・513・514・515・516・517号ビット	329
第328図 518・519・520・521・522・523・524・525・526号ビット	330
第329図 527・528・529・530・531・532・533・534・535号ビット	331
第330図 536・537・538・539・540・541・542・543・544号ビット	332
第331図 545・546・547・548・549・550・551・552・553号ビット	333
第332図 554・555・556・557・558・559・560・561・562号ビット	334
第333図 563・564・565・566・567・568・569・570・571号ビット	335
第334図 597・598・599・600・601・602・603・604・605号ビット	336
第335図 606・607・608・609・610・611・612・613・623号ビット	337
第336図 644・645・646・647・648・649・650・651・652号ビット	338
第337図 653・654・655・656・657・658・659・660・661号ビット	339
第338図 666・667・668・669・670・671・696・697・698号ビット	340
第339図 705・706・707・709・710・711・712・713・714・715号ビット	341
第340図 716・717・718・719・720・721・722・723・724号ビット	342
第341図 725・726・727・728・729・730・731・732・733・734号ビット	343
第342図 736・737・738・740・744・745・746・747・748号ビット	344
第343図 750・751・752・753・754・755・756・757・758号ビット	345
第344図 759・760・761・762・763・764・765・766・767号ビット	346
第345図 39・59・60・202・231・314・352・393・741号ビット出土 遺物	347
第346図 3区 As-B 下水田(1)	349
第347図 3区 As-B 下水田(2)	350

第348図 20区 As-B 下水田	351
第349図 21区 As-B 下水田	352
第350図 4区洪水層下水田(1)	353
第351図 4区洪水層下水田(2)	354
第352図 18区洪水層下水田(1)	355
第353図 18区洪水層下水田(2)	356
第354図 18区洪水層下水田(3)	357
第355図 19区洪水層下水田(1)	358
第356図 19区洪水層下水田(2)	359
第357図 19区洪水層下水田(3)	360
第358図 3区島	364
第359図 19区島	365
第360図 22区島	366
第361図 表土・遺構外出土遺物(1)	367
第362図 表土・遺構外出土遺物(2)	368
第363図 表土・遺構外出土遺物(3)	369
第364図 表土・遺構外出土遺物(4)	370
第365図 表土・遺構外出土遺物(5)	371
第366図 表土・遺構外出土遺物(6)	372
第367図 出土縄文時代土器(1)	373
第368図 出土縄文時代土器(2)	374
第369図 出土縄文時代土器(3)	375
第370図 出土縄文時代土器(4)	376
第371図 出土縄文時代土器(5)	377
第372図 出土縄文時代土器(1)	378
第373図 出土縄文時代土器(2)	379
第374図 出土縄文時代土器(3)	380
第375図 4区東壁①土層柱状図 (数字はテフラ分析の試料番号)	451
第376図 X = 36.130、Y = -39.350グリッドの土層柱状図	452
第377図 4区南壁土層柱状図	452
第378図 7区土層柱状図 (向欠部遺跡)	452
第379図 4区東壁②土層柱状図	453
第380図 3区4号トレンチ土層柱状図	453
第381図 3区西壁土層柱状図	454
第382図 19区東壁土層柱状図	454
第383図 19区西壁土層柱状図	454
第384図 17区東壁土層柱状図	455
第385図 18区西壁南地点土層柱状図	455
第386図 18区西壁北地点土層柱状図	455
第387図 4区東壁火山ガラス比ダイアグラム	456
第388図 4区東壁①植物珪酸体分析結果	457
第389図 4区南壁植物珪酸体分析結果	457
第390図 7区植物珪酸体分析結果	458
第391図 4区東壁②植物珪酸体分析結果	458
第392図 19区東壁植物珪酸体分析結果	458
第393図 19区西壁植物珪酸体分析結果	458
第394図 17区東壁植物珪酸体分析結果	459
第395図 18区西壁南壁植物珪酸体分析結果	459
第396図 18区西壁北壁植物珪酸体分析結果	459
第397図 出土黒書・刺書遺物(1)	481
第398図 出土黒書・刺書遺物(2)	482

表 目 次

第1表	掘立柱一覧	220	第11表	テフラ検出分析結果(3)	459
第2表	柱穴列一覧	220	第12表	屈折率測定結果(1)	460
第3表	土坑一覧	240	第13表	屈折率測定結果(2)	460
第4表	ピット一覧	280	第14表	植物珪酸体(プラント・オーバー)分析結果(1)	465
第5表	As-B 下水田計測値一覧	361	第15表	植物珪酸体(プラント・オーバー)分析結果(2)	466
第6表	洪水層下水田計測値一覧	361	第16表	植物珪酸体(プラント・オーバー)分析結果(3)	466
第7表	遺物観察表	383	第17表	炭化種子同定結果	472
第8表	4区東壁①における火山ガラス比分析結果	456	第18表	墨書・刻書土器一覧	476
第9表	テフラ検出分析結果(1)	459	第19表	刻書紡錘車一覧	479
第10表	テフラ検出分析結果(2)	459			

第1章 発掘調査の経過・方法、遺跡の立地

第1節 発掘調査に至る経過

東今泉鹿島遺跡と向矢部遺跡は、現在工事が進んでいる北関東自動車道太田インターチェンジの南東約300mに位置する。北関東自動車道が完成すると太田インターチェンジと(国)122号道路は連結され、北関東自動車道へ車の出入りは(国)122号を経由することになる。この工事計画にもとづき、群馬県教育委員会文化課と太田土木事務所との間で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。

工事区域北側は向矢部遺跡の包蔵地にかかっているため、埋蔵文化財発掘調査対象地である。しかし南側の事業地の多くは現在水田耕作されている低地となっており、埋蔵文化財包蔵地からは外れていた。事業地全体は、高い西北方面の矢田堀町方面から東南方向へ向かうならかな傾斜面をなしている。以前に土地改良事業が実施されており、表土の一部は入れ替え等が実施されている。土地改良前の地形図では、(国)122号西側に休泊堀に注ぎ込む小河川が認められ、西北に隣接する道路公園事業地から当該事業地にかけては、舌状の微高地形であった。また現存はしていないが、土地改良前には、この舌状の微高地中央付近、現在の北関東事業地から今回の調査区にかけてのいずれかの場所に、かつて鹿島社が鎮座していたことのある土地でもある。このように、遺跡存在の可能性の高い事業地である。

協議の結果、調査対象地内の遺跡の有無と遺跡の範囲を確認するために、試掘調査を行うことが決まり、平成15年2月に群馬県教育委員会文化課が試掘調査を実施した。調査対象地は国道50号線以南であり、以北は今後の試掘対象とした。調査区は(国)122号の西側を西調査区、東側を東調査区、北側を北調査区とした。試掘調査の結果、西調査区では縄文時代・古墳時代前期・平安時代の住居が所々で重複して確認された。この地区の遺構密度は高かった。(発掘調査によっても多くの住居が確認された。ま

た試掘調査では確認出来なかった奈良時代の水田や南の部分からは多くの奈良時代の掘立柱建物跡も調査された。)東調査区では、西調査区に近い部分で古墳・平安時代の住居が確認されたが、休泊堀に近い東側の遺構密度は低かった。(発掘調査では西調査区に近い部分で、発掘例の少ない古墳時代中期前半の住居が調査されている。)北調査区では、溝が多く確認された。(発掘調査ではこの溝の他に住居が多く調査されている。)このように、試掘調査によって場所による遺構の濃淡はあるが、ほぼ全面にわたり縄文時代・古墳時代前期・平安時代の集落や消跡等、並びに古代の水田跡等の存在が確認された。(調査対象面積38,260㎡)

試掘調査の結果をうけて群馬県教育委員会文化課と太田土木事務所との間で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、平成15年4月から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が発掘調査を開始した。一部設計変更による調査場所や調査対象面積の変更はあったが、発掘調査は平成17年5月で発掘調査は終了した。初年度の発掘調査は太田インターチェンジとの接合部分を優先し、2年目は(国)122号の拡張部分を中心に実施した。3年目の発掘調査は、土地買収の遅れた場所である。

なお、国道50号以北は、群馬県教育委員会文化課の試掘調査により遺構の無いことが確認された。

第2節 発掘調査の経過と方法

北関東自動車道は、群馬県の高崎市を通る関越自動車道から、栃木県の東北自動車道をとおり、茨城県の常磐自動車道・那珂湊に通じる北関東の大動脈として、東日本高速道路株式会社(旧日本道路公団)により建設が進められている。太田市東今泉町には北関東自動車道の太田インターチェンジが建設されることとなり、そのインターチェンジへのアクセス道路として国道122号線の道路改良工事が、太田土木事務所により実施されることとなった。

太田インターチェンジへのアクセス道路としての国道122号線の道路改良事業は、東今泉町から国道50号線北の只上町至る約1.5kmの範囲の区間である。この区間は、埋蔵文化財の遺跡としては、南から東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡、矢部遺跡にまたがっている。これらの遺跡の範囲は、東今泉鹿島遺跡が、調査予定地南端から休泊川まで、向矢部遺跡が休泊川から国道50号線まで、矢部遺跡が国道50号線以北である。

遺跡の調査対象地は、太田土木事務所の用地買収状況、工事予定等の状況により、東今泉遺跡と向矢部遺跡を合わせて実施したため、調査地区番号、遺構番号は三遺跡を通して付した。

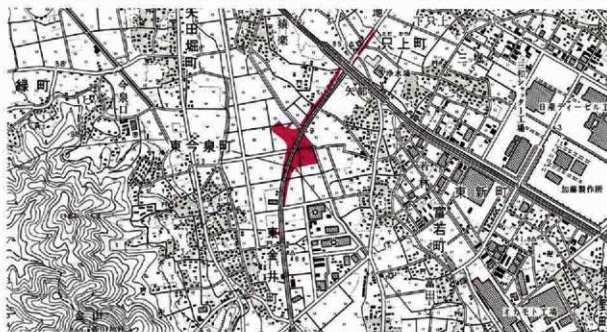
調査範囲は、この地区を南北に貫く国道122号線の両側にまたがっている。また、この区間の調査対象地は、国道122号線に出る市道で細かく区切られており、その区切りにあわせて調査区を設定した。調査地区番号は、国道122号線の西が、南から1区から15区、国道122号線の東が、南から16区から26区とした。このうち、1区から6区、16区から20区が東今泉鹿島遺跡、7区から12区が向矢部遺跡、13区から15区、23区から26区が矢部遺跡である。なお、矢部遺跡については、群馬県教育委員会文化課による発掘調査

開始後の試掘調査により、遺構が検出されなかったため、調査対象地から除外された。従って、遺構番号は付されていない。

調査は平成15年4月1日より実施された。調査地区は、太田土木事務所の要請による優先地区として、東今泉遺跡の3区・4区・5区・6区より実施された。続いて向矢部遺跡の7区・8区、東今泉鹿島遺跡の19区・20区、1区・2区と実施した。従って、この報告の東今泉鹿島遺跡の各遺構番号で飛んでいる部分は、向矢部遺跡に付した遺構番号である。なお、東今泉鹿島遺跡の3区については、遺跡に接する水田侵入路確保のため、4区については、一部事務所用地のため、5区については排土置場確保のため、二分し発掘調査を実施した。

調査は、各調査区に国家座標、水準を設定した。各調査区の座標杭は10mを基本とし、一部5m杭を設定し、グリッドを設定した。

この地区は、足尾鉍毒汚染の耕地として、圃場整備が実施され、耕土が入れ替えられている。この圃場整備による耕土入れ替えは、大部分の地点で遺構面に達しており、この部分の表土掘削は、バックホーを用いて実施した。また、遺構面に耕土入れ替えが達していない部分については、遺構の無いと判断さ



第1図 東今泉鹿島遺跡位置図 (1:25,000)

れた、浅間B軽石層・浅間B軽石混土層上面までは、バックホーを用いて実施した。

4月は、調査の準備、表土掘削等で、作業員が遺構確認をはじめたのは、4月25日であり、事務所近接の4区より開始した。調査は、4月・5月は順調に推移したが、周囲の水田に水の入る6月からは、調査区も水に没かり、排水工事を余儀なくされた。一部の遺構は、排水路確保のため破壊されている部分がある。3区・5区・6区・20区向矢部遺跡の7区・8区を調査し、秋には多くの住居跡及び洪水層下水田が確認できた19区、5区の半分、4区の事務所下部分、1区を発掘調査し、3月26日に平成15年度の発掘調査を終了した。

平成16年度は18区より発掘調査を開始し、21区・22区、向矢部遺跡9区・10区、16区、向矢部遺跡12区、17区、向矢部遺跡11区と発掘調査を続け、最後に3区の半部を調査し、3月25日に平成16年度の発掘調査を終了した。

平成17年度は、4月より未買収地であった、8区と10区の一部を調査し、5月31日に東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡の全発掘調査を終了した。



第2図 東今泉遺跡・向矢部遺跡・矢部遺跡調査区設定図

第3節 基本層位

東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡が立地する太田市東今泉町、只上町は、東から南西には、太田市のシンボルでもある金山丘陵を望み、北には、北東から延びる足尾山地を見渡すことができる。この足尾山地と金山丘陵の間隙を、北東から南西に渡良瀬川が流れている。渡良瀬川は、縄文時代以前より幾度も氾濫している。東今泉町、只上町は渡良瀬川の氾濫が形成した平地の上に立地している。

東今泉鹿島遺跡、向矢部遺跡も渡良瀬川の氾濫が形成した平地の上に立地しており、遺構面の上下に渡良瀬川の氾濫層を確認することができる。また、この氾濫層や遺跡が形成されていた頃の土層の中には、浅間B軽石・C軽石、榛名山二ツ岳の火山灰Hr-FA・Hr-FPを確認することができる。基盤層渡良瀬川が更新世後期・沖積世に形成した扇状地であり、砂礫層になっている。(詳細は、自然科学分析を参照)

東今泉町・只上町は、足尾鉱毒に汚染された一帯の一部であり、圃場整備によりこれらの汚染土は除却され、その部分には客土が行われている。従って、この地域の上層の土は大部分が客土である。客土の及ぶ範囲は、地下の層序の深度により異なるが、浅間B軽石層・浅間B軽石混土層は、消滅している部分が多い。また、一部ではHr-FA・Hr-FPや浅間B軽石を含む層まで及んでおり、住居跡等の遺構を削っている。

東今泉鹿島遺跡・向矢部遺跡の基本土層は、表土が圃場整備による客土で、その下に渡良瀬川の洪水層が幾層も堆積しており、その洪水層の中間に遺構面である当時の生活面が形成されていることになる。また、その基盤は渡良瀬川が形成した扇状地である。

第4節 遺跡の立地と歴史的環境

東今泉鹿島遺跡は、太田市東今泉町に所在する。

本遺跡は、太田市の玄関である東武伊勢崎線太田駅の北北東約3km、太田市のシンボルであり、太田市民の憩いの場でもある金山城の北西約1.5kmに位置する。遺跡は、北関東自動車道太田インターチェンジに接続する国道122号線の道路改築工事に伴うものである。遺跡は、国道122号線の東西に分かれており、遺跡からは、金山城が南西方向に望める。また、遺跡から約0.8km北で、国道122号線は、国道50号線と合流し、現代の交通の要所となっている。古代においても、この付近を東山道が通っており、交通の要所であったことが窺える。

遺跡の立地する東今泉町周辺の自然地形は、北東方向から足尾山地が連なり、南西方向には金山丘陵がのび、その間隙を、足尾山地を源流とする渡良瀬川が流れている。遺跡は、この渡良瀬川が形成した河川堆積物による平地上に立地している。渡良瀬川は、何度も氾濫し、河道も変えながら扇状地や後背湿地を形成し、平地を形成して行ったことが確かめられている。東今泉鹿島遺跡は、この渡良瀬川が更新世後期に形成した、扇状地1面の上に形成された平地上に営まれている。遺跡調査の土層からも、基盤層である扇状地の砂礫層の上に、数多くの洪水層が確認できた。

渡良瀬川の氾濫は、遺跡の覆土からも確認でき、縄文包含層・古墳時代前期集落・古墳時代後期から7世紀と推定される水田等は洪水による砂層やシルト層によって埋没しており、水田を覆った洪水層の上に奈良時代から平安時代の集落が立地している。

この金山と渡良瀬川に挟まれた平地とその周辺は、旧石器時代から人間の生活が営まれ、その跡が遺跡として確認されている。旧石器時代の遺物は、太田市教育委員会の調査で、小丸山遺跡・金井口遺跡・焼山遺跡から発見されており、埋文事業団が実施した八ヶ入遺跡からは、細石刃約370点を含む、約2000点以上の旧石器が発見されている。また、峰山遺跡からは、多くの旧石器が発見されている。

縄文時代の遺跡は、太田市教育委員会調査の下宿遺跡・細田遺跡から発見されている。埋文事業団の

調査では、二の宮遺跡から縄文時代前期の住居跡が1軒、大同東遺跡からは縄文時代中期後半から後期の住居跡が5軒、栗前遺跡から縄文時代中期後半の住居跡が2軒発見されている。東今泉鹿島遺跡からも、縄文時代早期の押型文土器から、前期の黒浜式・諸磯式・浮島式、中期の勝板式・加曾利E式、後期の称名寺式・堀之内式・加曾利B式など各時期の土器が出土しているが、遺構は土坑が検出できただけであった。

弥生時代の遺跡は、発見例が少ないが、太田市教育委員会調査の桃山遺跡から弥生時代中期から後期の土器片が出土している。埋文事業団の調査でも、矢部遺跡から弥生時代中期須和田式土器が出土しているが、遺構は確認されていない。

古墳時代になると、周辺の遺跡からも集落の発見が多くなる。太田市教育委員会が調査した二の宮遺跡・丸山北遺跡、埋文事業団が発掘調査した八ヶ入遺跡・大同西遺跡・大同東遺跡・栗前遺跡から古墳時代中期から後期の住居跡が発見されている。東今泉鹿島遺跡からも古墳時代中期前半の住居跡がまともに見えられた。遺跡の南約4kmには、国の史跡である太田天神山古墳、女体山古墳が存在する。

古墳時代後期から飛鳥時代には、周辺には集落とともに古墳や、生産跡の遺構も発見されている。菅ノ沢古墳群・七日市古墳群・矢田掘古墳群・猿楽古墳群・市場古墳群・内並木古墳群・寺ヶ入古墳群等、多くの古墳群が形成されている。谷田掘古墳群に属する巖穴山古墳は巨石石室を持つ、東毛唯一の方墳である。

生産跡としても、古墳時代後期から古代の窯跡などが発見されている。亀山窯跡・金井口埴輪窯跡・母衣窯跡・菅ノ沢須恵器窯跡・諏訪ヶ入須恵器窯跡・強戸口須恵器窯跡・丸山北窯跡・萩原窯跡など須恵器・瓦・埴輪生産の窯跡が点在する。また、製鉄遺構では太田市教育委員会が調査菅ノ沢遺跡や埋文事業団が発掘調査した峰山遺跡がある。本遺跡からは、古墳時代後半から飛鳥時代と推定される、水田が発見できた。

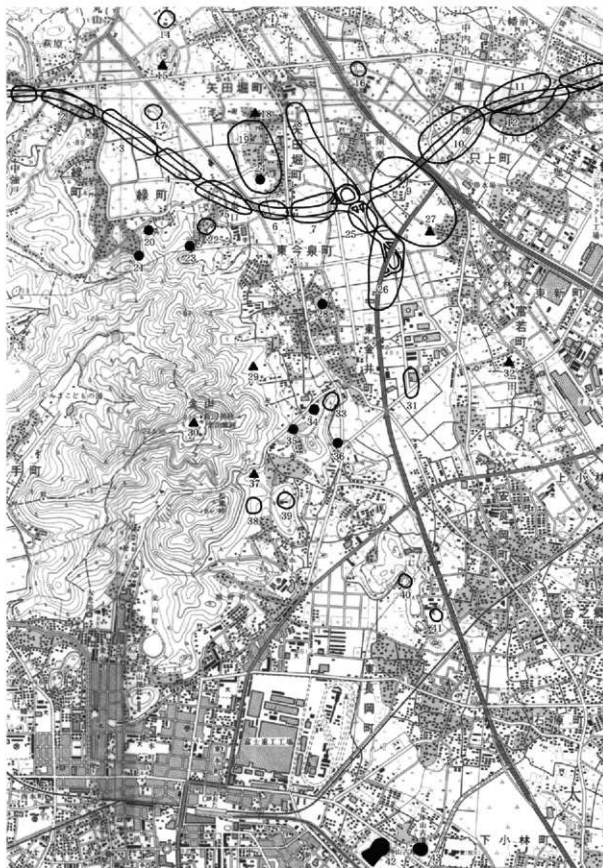
奈良・平安時代になると、遺跡周辺の集落は爆発的に増える。二の宮遺跡・八ヶ入遺跡・大同東遺跡・栗前遺跡・鹿島浦遺跡・向矢部遺跡など、すべて大きな集落遺跡である。東今泉鹿島遺跡も、多くの住居跡はこの時期の所産である。奈良・平安時代の本遺跡周辺は、この地域、山田郡の中心地であり、郡家もこの付近に存在したと推定されている。また、八ヶ入遺跡・大道西遺跡・大道東遺跡からは、古代の主要道路である東山道と推定される遺構が発見されている。

中世においても多くの城・館・砦が存在した。太田市のシンボルでもある金山城を盟主として、矢部城・富田館・狸ヶ入館・丸屋敷の砦・矢田掘城・丸山の砦などがある。

近世の遺跡は確認されていないが、各遺跡から陶磁器や軟質陶器の破片が出土しており、遺跡があったことが窺える。また、曹源寺さざえ堂は、県指定の重要文化財に指定されている。

東今泉鹿島遺跡周辺は、旧石器時代から近代に至る遺跡が密集している地域である。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|--------|------------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|-----------|---------|---------|----------|---------|----------|----------|---------|-----------|-------------|--------------|-----------|----------|----------|------------|--------|------------|----------|--------|---------|---------|----------|------------|-----------|---------|----------|-----------|-----------|---------|---------|----------|----------|
| 1 峰山遺跡 | 2 萩原遺跡 | 3 吉水車巻水田遺跡 | 4 二の宮遺跡 | 5 八ヶ入遺跡 | 6 大道東遺跡 | 7 大道西遺跡 | 8 栗前遺跡 | 9 向矢部遺跡 | 10 矢部遺跡 | 11 只上深町遺跡 | 12 新島遺跡 | 13 道原遺跡 | 14 丸山北遺跡 | 15 丸山の砦 | 16 猿楽古墳群 | 17 小丸山遺跡 | 18 矢田掘城 | 19 矢田掘古墳群 | 20 強戸口須恵器窯跡 | 21 諏訪ヶ入須恵器窯跡 | 23 菅ノ沢古墳群 | 24 巖穴山古墳 | 25 鹿島浦遺跡 | 26 東今泉鹿島遺跡 | 27 矢部城 | 28 曹源寺さざえ堂 | 29 狸ヶ入館跡 | 30 金山城 | 31 下宿遺跡 | 32 富田館跡 | 33 金井口遺跡 | 34 金井口埴輪窯跡 | 35 母衣埴輪窯跡 | 36 丸山窯跡 | 37 丸屋敷の砦 | 38 寺ヶ入古墳群 | 39 内並木古墳群 | 40 峰山遺跡 | 41 畑田遺跡 | 42 天神山古墳 | 43 女体山古墳 |
|--------|--------|------------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|-----------|---------|---------|----------|---------|----------|----------|---------|-----------|-------------|--------------|-----------|----------|----------|------------|--------|------------|----------|--------|---------|---------|----------|------------|-----------|---------|----------|-----------|-----------|---------|---------|----------|----------|



第3図 周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000分の1地形図を使用)

第II章 発見された遺構・遺物

第1節 住居跡

1号住居跡

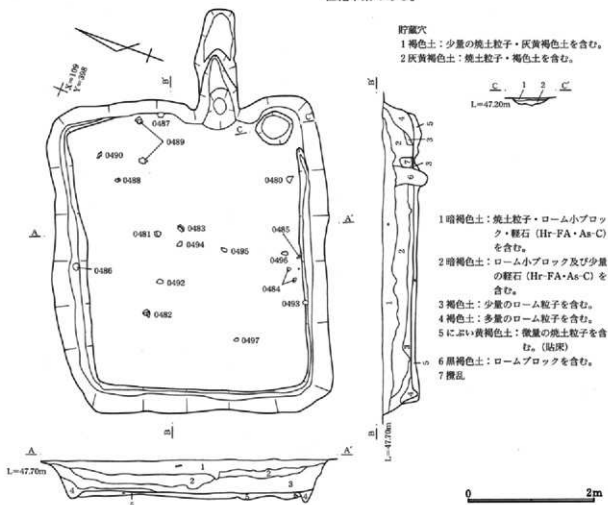
本住居跡は、4区のX=36.109・Y=-39.398付近で検出された。15号溝と重複する。新旧関係は、15号溝が本住居跡の壁の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。

住居跡の規模は東西約5.0～5.1m、南北約4.2～4.4mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-67-Eである。

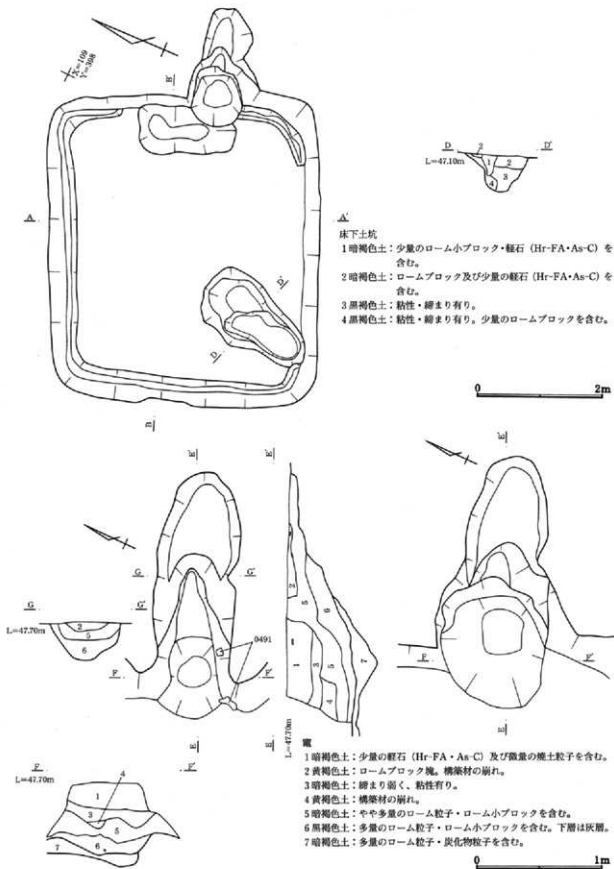
竈は東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、竈燃焼部の幅は約0.6mであり、煙道部の壁外への張り出しは約1.5mである。壁溝は竈設置の東壁

の一部を除きほぼ検出できた。壁溝の規模は、幅約0.2～0.3mであり、床面からの深さ約0.15mである。貯蔵穴は、南東隅から検出された。貯蔵穴の規模は、長軸約0.6m・短軸約0.5mであり、平面形はやや楕円形を呈する。柱穴は、検出できなかった。また、南西部からは、床下土坑が検出されている。

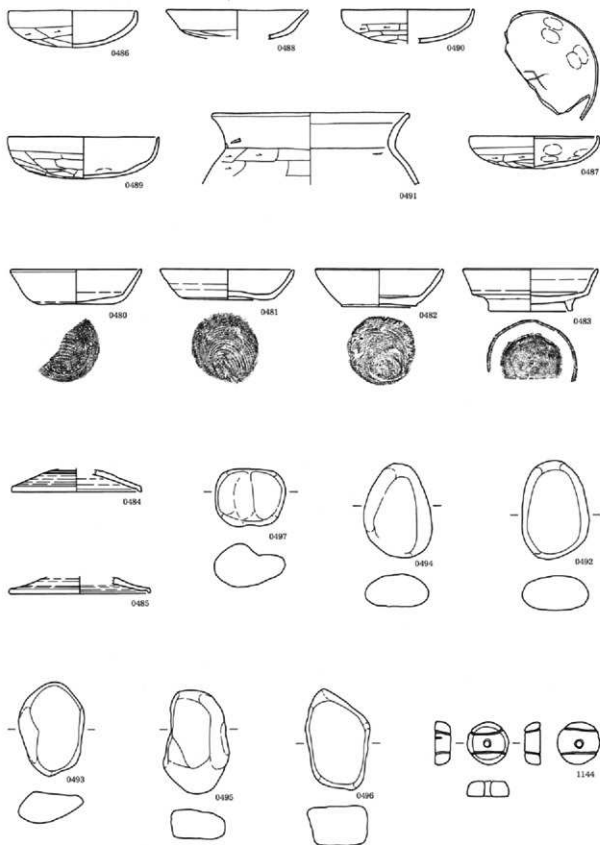
遺物は、土師器杯(486・487・488・489・490)、須恵器杯(480・481・482)、須恵器椀(483)、須恵器蓋(484・485)、土師器甕(491)、石製紡錘車(1144)石製品(492・493・494・495・496・497)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀中葉である。



第4図 1号住居跡



第5図 1号住居跡掘り方、同電



第6图 1号住居跡出土遺物

2号住居跡

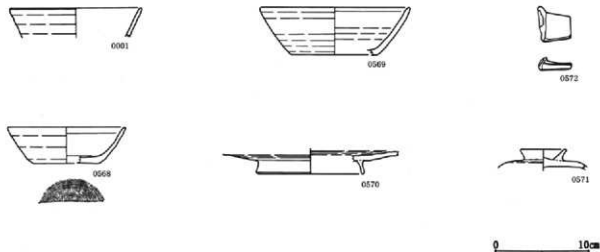
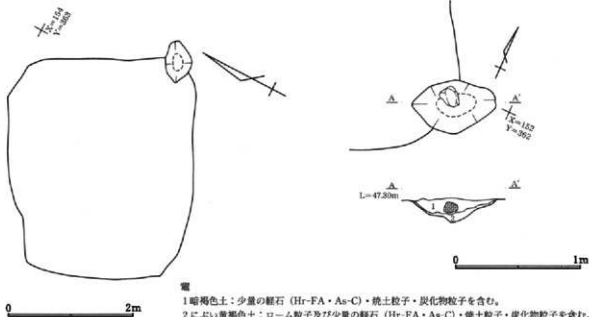
本住居跡は、5区のX=36.154・Y=-39.363付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、上面がほとんど破壊されており、掘り方での確認である。規模は推定東西約3.5m、南北約2.9mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-63°-Eである。

竈は東壁の南隅に築かれており、確認面での規模

は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出しは約0.3mである。竈燃焼部からは、構築材に使用されたと推定される石が検出された。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯 (568・569)、須恵器椀 (1)、須恵器皿 (570)、須恵器蓋 (571)、須恵器把手付碗 (572)等が出土している。遺物から推定する本住居



第7図 2号住居跡、同出土遺物

跡の年代は、9世紀前半である。

3号住居跡

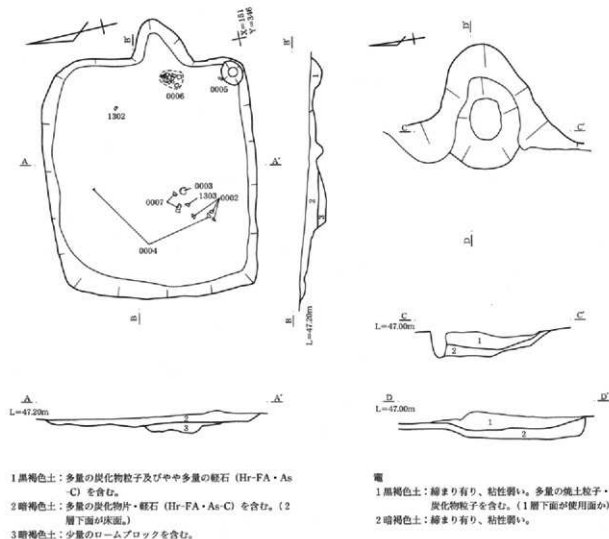
本住居跡は、5区のX=36.151・Y=-39.346付近で検出された。他の遺構との重複はない。

住居跡の規模は、東西約3.7m、南北約3.2~3.4mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-102-Eである。

竈は、東壁の中央部に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.9m、煙道部の壁外への張り

出し約0.6mである。貯蔵穴は、南東隅から検出された。貯蔵穴の規模は、長軸約0.4m、短軸約0.35m、床面からの深さ0.1mであり、平面形は楕円形を呈する。柱穴・壁溝は確認できなかった。

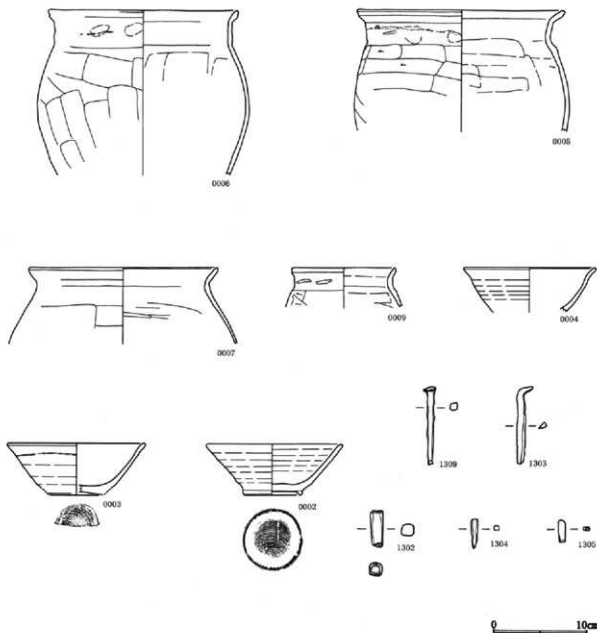
遺物は、須恵器杯（4）、須恵器碗（2・3）、土師器甕（5・6・7）、土師器台付甕（9）、鉄製釘（1304・1309）、鉄製品（1302・1303・1305）等が出



0 2m

0 1m

第8図 3号住居跡、同竈



第9図 3号住居跡出土遺物

土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀後半である。

4号住居跡

本住居跡は、4区のX=36.104・Y=-39.390付近で検出された。他の遺構との重複はない。

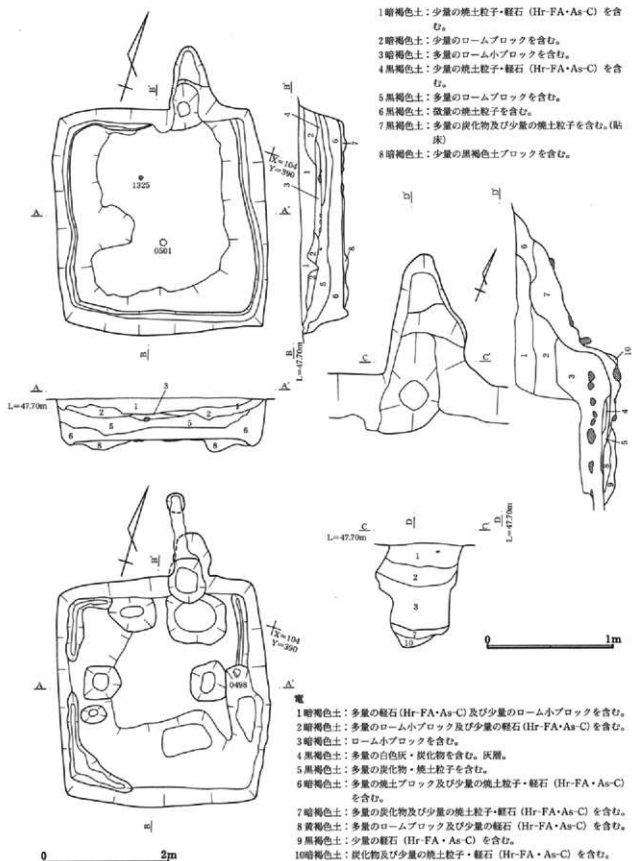
本住居跡の規模は、東西約3.3~3.4m、南北約3.5~3.6mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-18°-Wである。

電は、北壁中央やや東よりに架かっている。確認

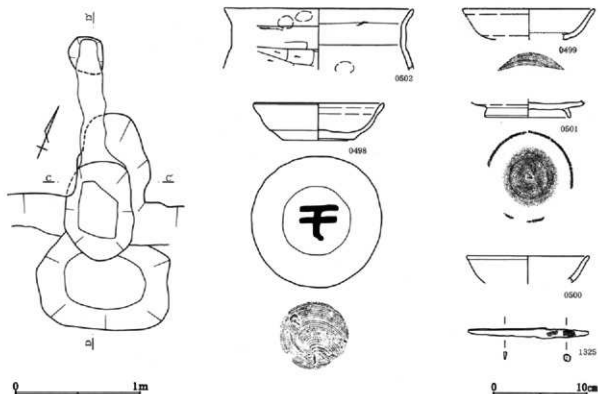
面での規模は、燃焼部の幅約0.8m、煙道部の壁外への張り出し約1.0mである。電覆土、及び電周辺の覆土からは多量の川原石が検出された。壁溝は、電付近を除いて検出できた。規模は、幅約0.1~0.15m、床面からの深さ約0.1mである。柱穴・貯蔵穴は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(498・499・500)、須恵器碗(501)、土師器甕(502)、鉄製品刀子(1325)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀

第1節 住居跡



第10図 4号住居跡、同掘り方、同電



第11図 4号住居跡電掘り方、同出土遺物

中葉である。

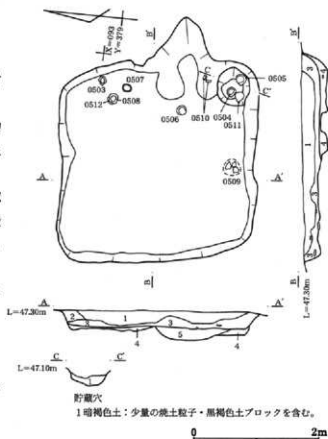
5号住居跡

本住居跡は、4区のX=36.093・Y=-39.379付近で検出された。他の遺構との重複はない。

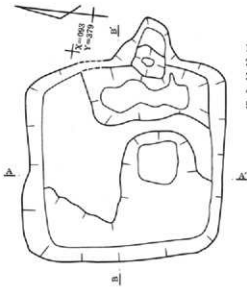
本住居跡の規模は、東西約3.0~3.2m、南北約3.1~3.2mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-81°-Eである。

竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、電燃焼部の幅は約1.0m、煙道部の壁外への張り出し約0.8mである。貯蔵穴は南東隅から検出された。規模は、長軸約0.6m、短軸約0.5m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は確認できなかった。

遺物は、土師器杯(507・508)、須恵器杯(503・504・505・506)、土師器鉢(509)、土師器甕(510・511・512)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。



第12図 5号住居跡

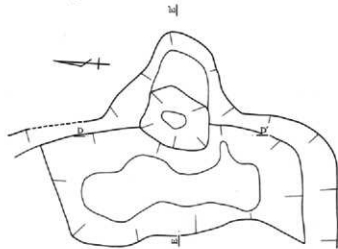
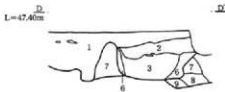
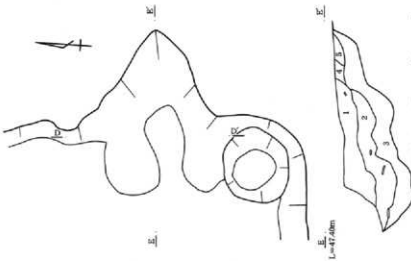


- 1 暗褐色土：多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 4 黄褐色土：ロームブロック主体。少量の黒褐色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土：少量の黒褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

0 2m

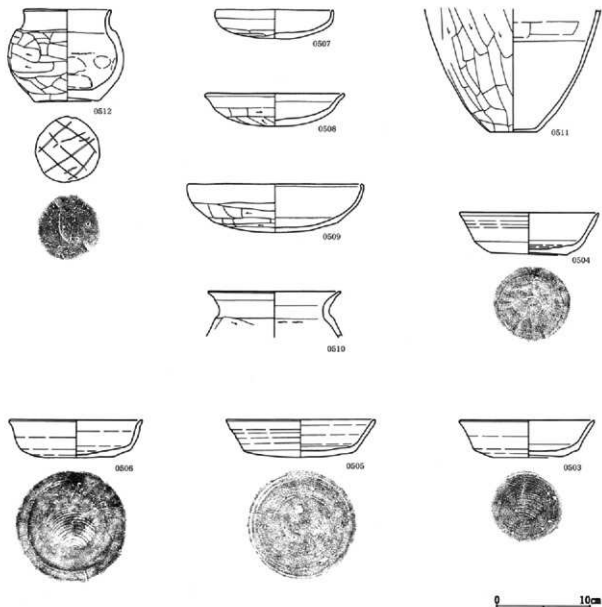
電

- 1 暗褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：多量の炭化物粒子を含む。
- 3 赤褐色土：少量の焼土ブロック・焼土粒子を含む。
- 4 赤褐色土：多量の焼土ブロック・焼土粒子及び少量の黒褐色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土：少量の黒褐色土ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 暗褐色土：多量の焼土粒子及び少量の炭化物ブロックを含む。
- 7 黄褐色土：ローム主体。(袖)
- 8 暗褐色土：微量の焼土粒子を含む。(袖)
- 9 黄褐色土：少量の黒褐色土ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。



0 1m

第13図 5号住居跡掘り方、同電、同電掘り方



第14図 5号住居跡出土遺物

6号住居跡

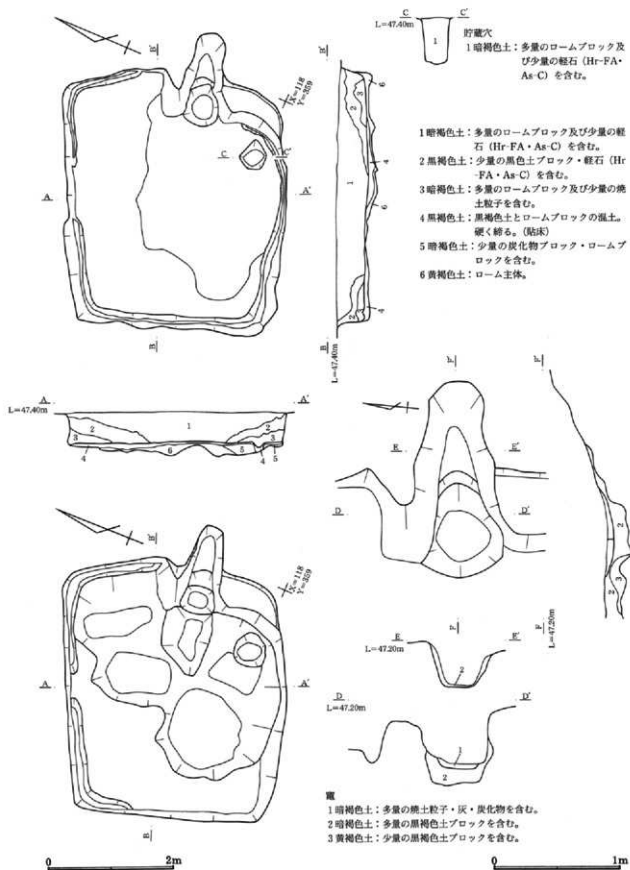
本住居跡は、4区のX=36.118・Y=-39.359付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.0～4.1m、南北約3.2m～3.5mであり、平面形は、不整形な、縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-72°-Eである。

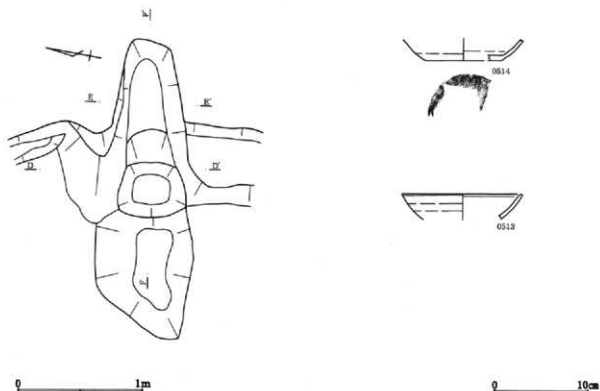
電は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約1.1m、煙道部の壁外への張り出し約0.7mである。電石、南東隅の床面は、

全体の床面より約0.35m高い。貯蔵穴は、南東隅の高い段西から検出された。規模は、一辺約0.4m、床面からの深さ約0.75mであり、平面形は不整形な方形を呈する。壁溝は、電及び電付近、北壁中央部を除き検出できた。規模は、幅約0.1～0.3m、床面からの深さ約0.05mである。柱穴は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(513・514)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。



第15図 6号住居跡、同掘り方、同電



第16図 6号住居跡電掘り方、同出土遺物

7号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.152・Y=-39.369付近で検出された。他の遺構との重複はない。

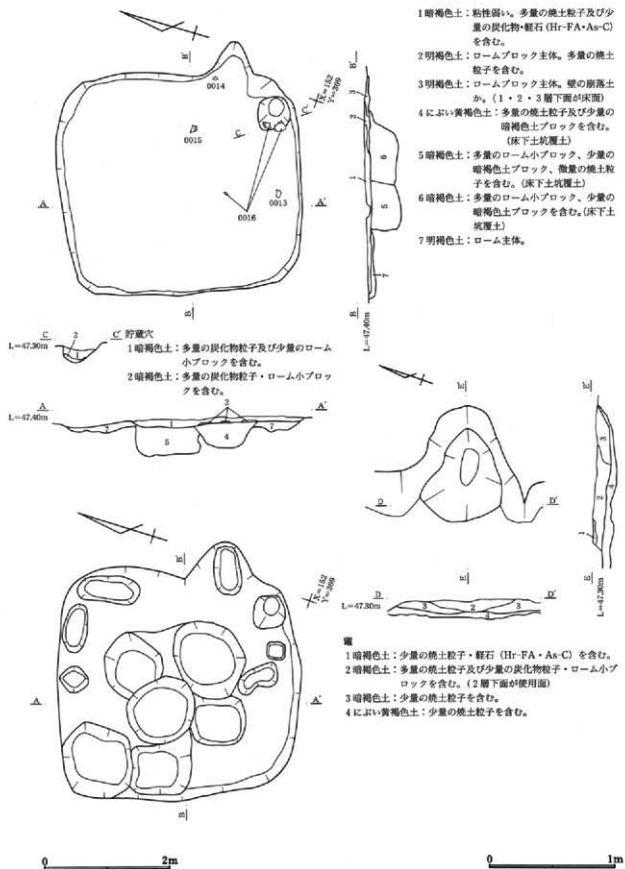
本住居跡の規模は、東西約3.35～3.55m、南北約3.6～3.9mであり、平面形は、横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-70°-Eである。

竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.7m、煙道部の壁外への張り出し約0.5mである。貯蔵穴は、南東隅から検出された。規模は、一辺約0.5m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。柱穴・

壁溝は確認できなかった。床下からは、8基の床下土坑が検出された。規模は、長辺・長軸約0.8～1.3mであり、床面からの深さ約0.4～0.5mであり、平面形は隅丸方形・隅丸長方形・不整形な楕円形等を呈する。

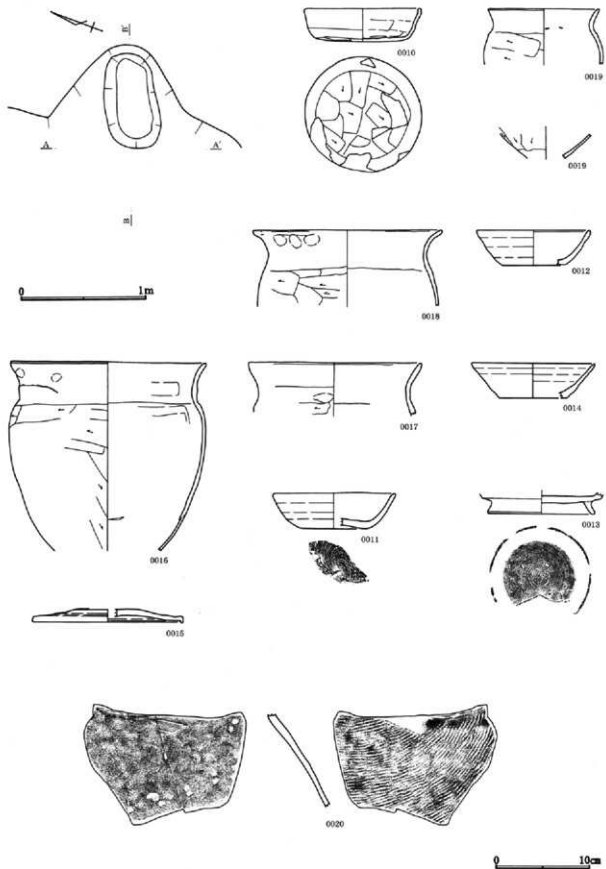
遺物は、土師器杯 (10)、須恵器杯 (11・12・14)、須恵器盤 (13)、須恵器蓋 (15)、土師器壺 (16・17・18)、須恵器壺 (20)、土師器台付壺 (19) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。

第1節 住居跡



第17図 7号住居跡、同掘り方、同電

第II章 発見された遺構・遺物



第18図 7号住居跡電掘り方、同出土遺物

8号住居跡

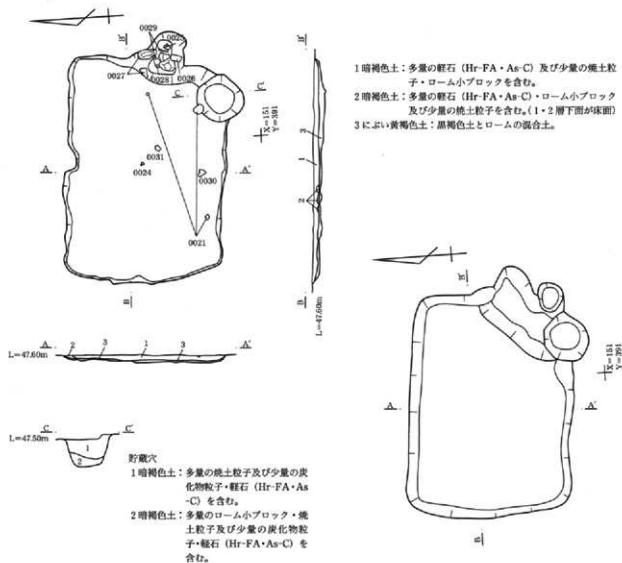
本住居跡は、5区の $X=36.151 \cdot Y=-39.391$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約2.5~2.7m、南北約3.3~3.6mであり、平面形は不整形な縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は $N-96^{\circ}-E$ である。

竈は、東壁の中央に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.7m、煙道部の壁外への張り出し約0.5mである。竈内からは、構築材に使用されたと考えられる平瓦が出土している。貯蔵穴は南東隅

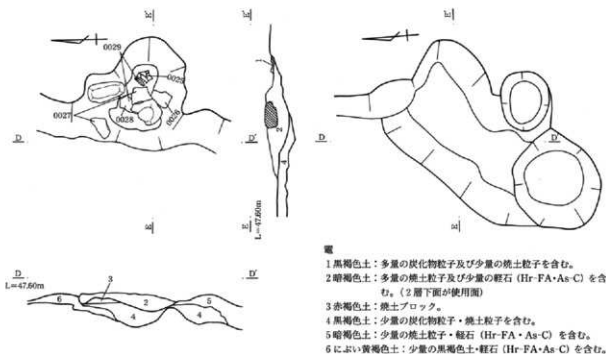
から検出された。規模は、一辺約0.7m、床面からの深さ約0.4mであり、平面形は、不整形な隅丸方形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(22)、須恵器碗(21)、灰釉陶器碗(23)、須恵器壺(31)、土師器甕(25)、土師器(24)、平瓦(26・27・28・29)、石製品(30)、鉄製品釘(1297)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第19図 8号住居跡、同掘り方

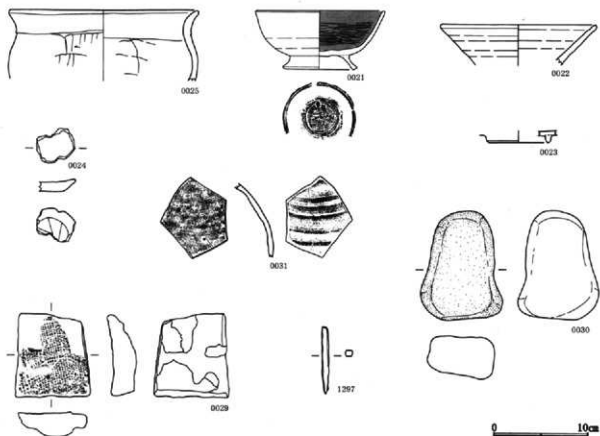
第二章 発見された遺構・遺物



電

- 1 黒褐色土：多量の炭化物粒子及び少量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土：多量の焼土粒子及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(2層下面が使用面)
- 3 赤褐色土：焼土ブロック。
- 4 黒褐色土：少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 ぶい黄褐色土：少量の黒褐色土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

0 1m



0 10cm

第20図 8号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物(1)



第21図 8号住居跡出土遺物(2)

9号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.166・Y=-39.405付近で検出された。15号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡が15号住居跡の東側部分の壁・床・電を破壊していることから、本住居跡の方が新しい。

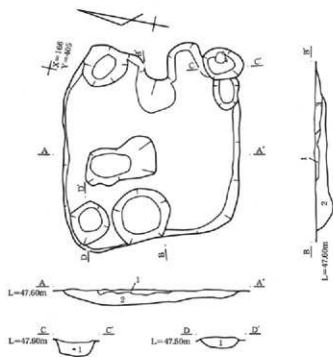
本住居跡の規模は、東西約2.9～3.2m、南北約2.7～2.8mであり、平面形は不整形な縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-74°-Eである。

電は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.2mである。貯蔵穴と推定されるピットは、

南東隅と北西隅から検出された。南東隅のピットの規模は、長軸約0.7m、短軸約0.5m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。北西隅のピットの規模は、一辺約0.6m、床面からの深さ約0.25mであり、平面形は、平面形は胴の張った不整形な方形を呈する。柱穴・壁溝は確認できなかった。

遺物は、須恵器杯(32)、土師器台付壺(8)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀後半である。

第11章 発見された遺構・遺物



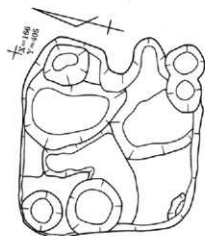
貯蔵穴

1 暗褐色土：少量のローム小ブロック及び微量の焼土粒子を含む。

床下土坑

1 暗褐色土：多量のローム小ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C)・焼土粒子を含む。

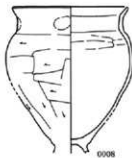
- 1 暗褐色土：少量のローム小ブロック及び微量の焼土粒子を含む。(1層下面が床面)
- 2 におい黄褐色土：多量のローム小ブロック及び少量の暗褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土：多量の焼土ブロック及び少量の炭化物粒子を含む。



竈

- 1 暗褐色土：多量の焼土ブロック・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土：多量の焼土粒子を含む。
- 3 におい黄褐色土：ローム小ブロック主体。
- 4 におい黄褐色土：ローム小ブロック主体、少量の炭化物粒子を含む。

0 2m



0032

0 1m

0 10cm

第22図 9号住居跡、同掘り方、同竈、同出土遺物

10号住居跡

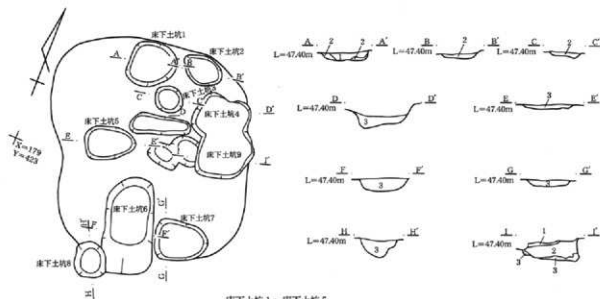
本住居跡は、5区のX=36.179・Y=-39.423付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、掘り方で検出であり、規模の確定はできないが、東西約2.5~2.6m、南北約3.3~3.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈するものと推定される。

竈、柱穴、貯蔵穴、壁溝は検出することができな

かったが、多数の床下土坑を検出することができた。規模は長辺・長軸0.5~1.5m、短辺・短軸約0.4~0.8mであり、平面形は不整形な長方形、不整形な楕円形を呈する。

遺物の出土は少ないが、床下土坑から土師器壺(33)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。

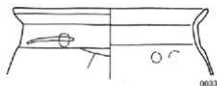


床下土坑1~床下土坑5

- 1 暗褐色土：少量のローム小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：少量のローム小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土：少量の焼土粒子及び少量のローム小ブロックを含む。

床下土坑6~床下土坑9

- 1 暗褐色土とよび黄褐色土の混合：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) 及びよび黄褐色土小ブロックを含む。
- 3 よび黄褐色土：暗褐色土を含む。



0 10cm

第23図 10号住居跡掘り方、同出土遺物

11号住居跡

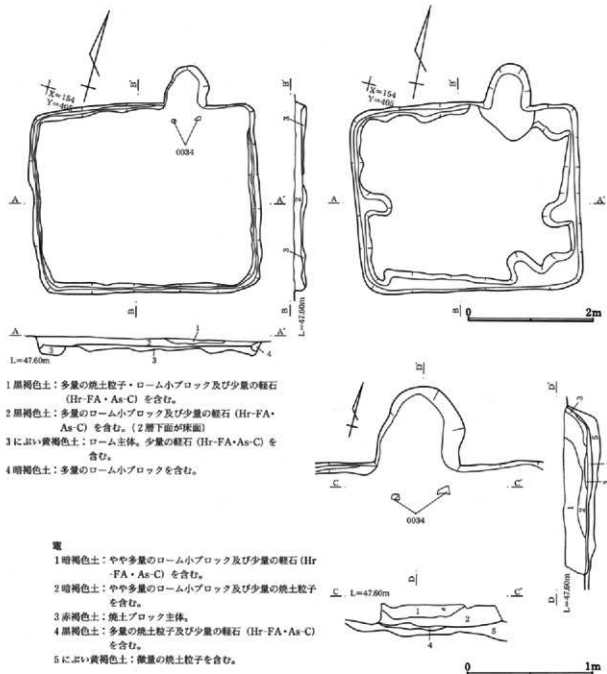
本住居跡は、5区のX=36.154・Y=-39.405付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約3.6~3.7m、南北約3.0mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-15°-Wである。

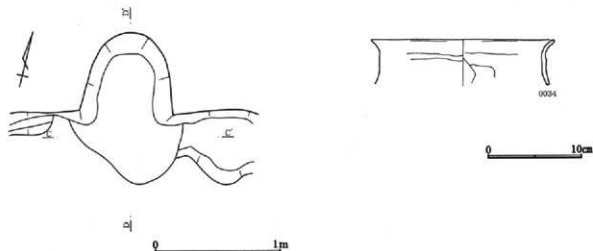
竈は、北壁の東よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.7m、煙道部の壁外への張り

出し約0.6mである。壁溝は、竈東側及び北東隅を除き検出できた。規模は、幅約0.07~0.1m、床面からの深さ約0.02~0.05mである。柱穴・貯蔵穴は確認することができなかった。

遺物の出土は少ないが、土師器甕(34)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀後半である。



第24図 11号住居跡、同掘り方、同竈



第25図 11号住居跡電掘り方、同出土遺物

12号住居跡

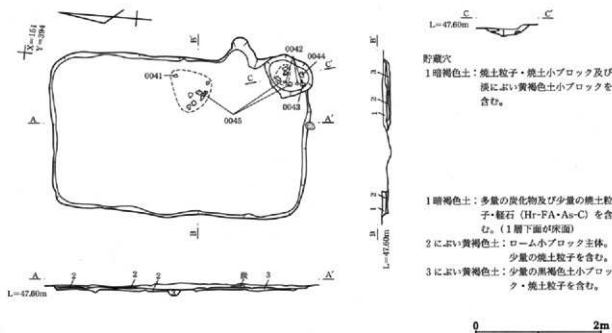
本住居跡は、5区のX=36.151・Y=-39.394付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約2.45~2.55m、南北約4.0~4.1mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-88°-Eである。

竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃烧部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.35mである。貯蔵穴は、南東隅から検出さ

れた。規模は、長軸約0.8m、短軸約0.6m、床面からの深さ約0.1mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は、検出することができなかった。

遺物は、電前、貯蔵穴を中心に土師器杯(42)、須恵器杯(41)、須恵器碗(43)、土師器甕(44)、須恵器壺(45)等出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀後半である。



第26図 12号住居跡

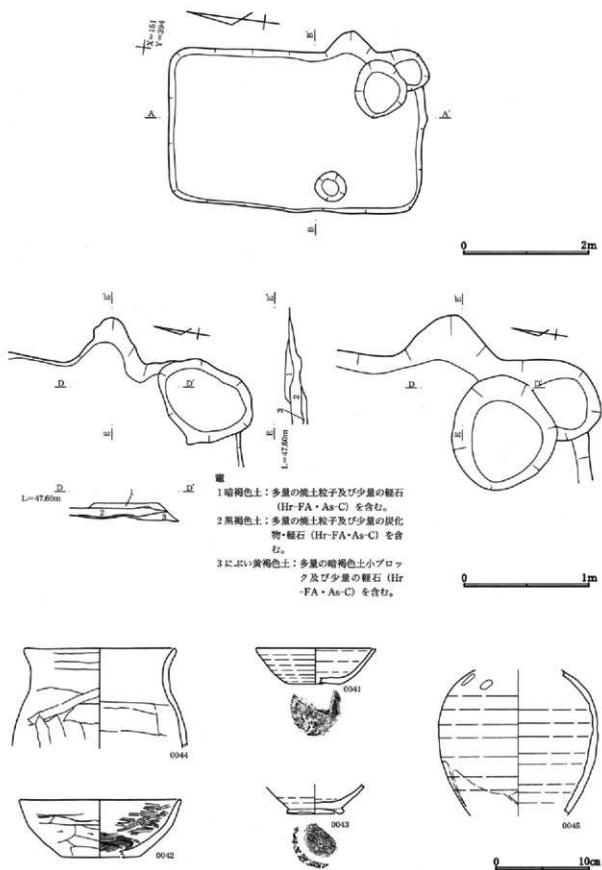
貯蔵穴

1 暗褐色土：焼土粒子・焼土小ブロック及び漢に多い黄褐色土小ブロックを含む。

1 暗褐色土：多量の炭化物及び少量の焼土粒子・磁石(Hr-FA・As-C)を含む。(1層下面が床面)

2 におい黄褐色土：ローム小ブロック主体。少量の焼土粒子を含む。

3 におい黄褐色土：少量の黒褐色土小ブロック・焼土粒子を含む。



第27図 12号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物

13号住居跡

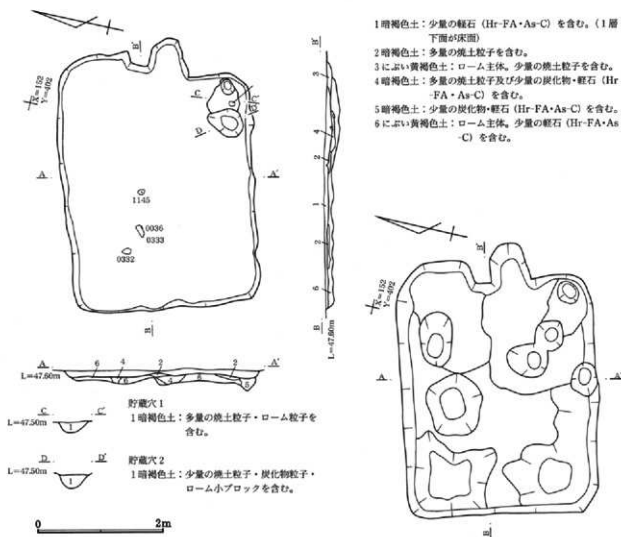
本住居跡は、5区のX=36.152・Y=-39.402付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約3.65～4.1m、南北約2.95～3.1mであり、平面形は、不整形な縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-82°-Eである。

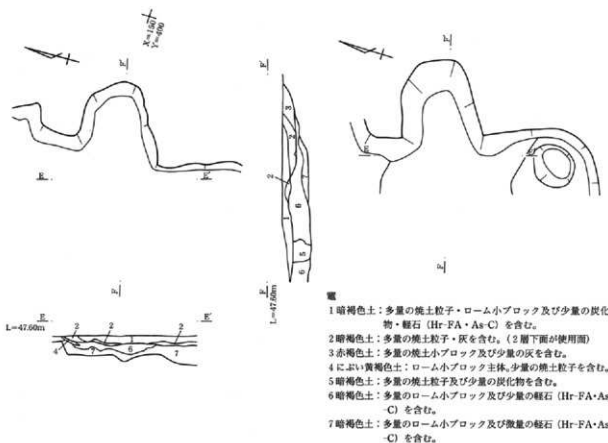
竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.5mである。貯蔵穴は、南東隅から縦に2基並んで検出された。新旧関係は、東側の貯蔵穴2が西側の貯蔵穴2の一部を破壊していることから、貯蔵穴2の方が新しい。貯蔵穴を造り替えたものと考えられる。貯蔵穴1の規模は、長軸0.5m以上、短軸約0.5m、床面からの深さ約0.2mであり、平面

形は、不定形である。貯蔵穴2の規模は、長軸約0.6m、短軸約0.45m、床面からの深さ約0.25mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床下からは、7基の土坑もしくはピット状の落ち込みが検出されている。規模は、長軸約0.4～1.2m、床面からの深さ約0.1～0.3mであり、平面形は、不整形な楕円形ないしは方形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(35・332・333)、土師器壺(36)、石製品紡錘車(1145)、石製品(37)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。



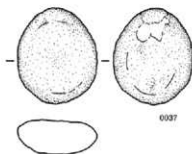
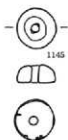
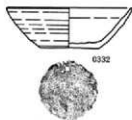
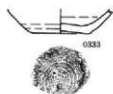
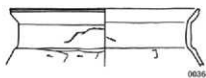
第28図 13号住居跡、同掘り方



■

- 1 暗褐色土：多量の焼土粒子・ローム小ブロック及び少量の炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：多量の焼土粒子・灰を含む。(2層下面が使用面)
- 3 赤褐色土：多量の焼土小ブロック及び少量の灰を含む。
- 4 によい黄褐色土：ローム小ブロック主体、少量の焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土：多量の焼土粒子及び少量の炭化物を含む。
- 6 暗褐色土：多量のローム小ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗褐色土：多量のローム小ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

0 1m



0 10cm

第29図 13号住居跡竈、同竈掘り方、同出土遺物

14号住居跡

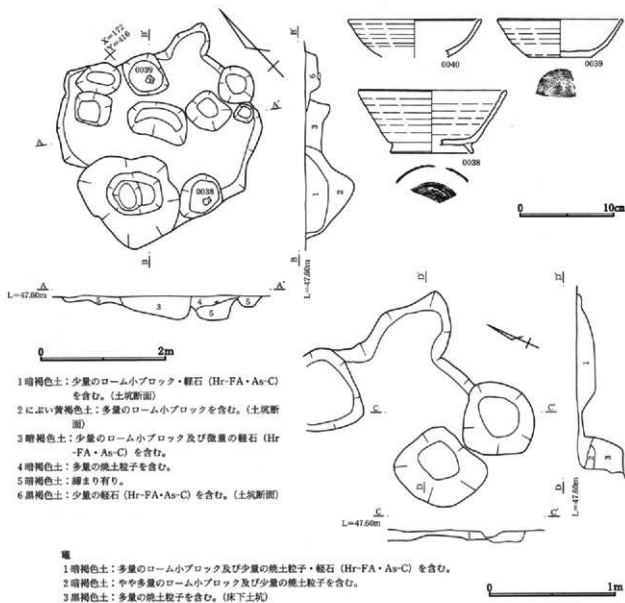
本住居跡は、5区のX=36.172・Y=-39.416付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、遺構検出面が掘り方であり、規模の確定はできないが、東西約1.8~2.2m、南北約3.0~3.2mであり、平面形は不整形な横長の長方形を呈する。主軸はN-52°-Eである。

竈は、東壁の中央に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。貯蔵穴と推定されるのは、南東隅のピットである。規模は、一辺約0.55~0.6m、確認

面からの深さ約0.25mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。床下からは6基以上の土坑もしくはピット状の落ち込みが検出できた。規模は、長辺・長軸約0.3~1.0m、短辺・短軸約0.25~0.6m、確認面からの深さ約0.1~0.3mであり、平面形は不整形な方形、長方形、楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は少ないが、須恵器杯(39・40)、須恵器椀(38)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉~後半である。



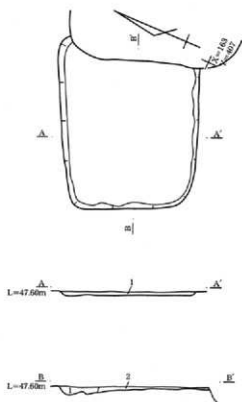
第30図 14号住居跡掘り方、同電掘り方、同出土遺物

15号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.163・Y=-39.407付近で検出された。9号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の東側部分の壁、床、竈が9号住居跡に破壊されていることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約2.8m、南北約2.0~2.2mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈するものと推定される。竈は、9号住居跡に破壊されており、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、覆土中から、土師器甕の小破片が少量出土している。遺物等から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。



- 1 黒褐色土：少量のローム小ブロックを含む。
- 2 濃い黄褐色土：少量のローム小ブロックを含む。

第31図 15号住居跡

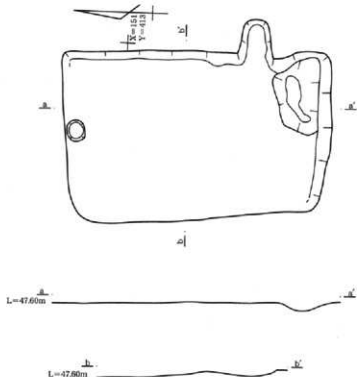
16号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.151・Y=-39.413付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、掘り方での検出であり、規模を確定することはできないが、東西約2.6~2.7m、南北約4.0~4.3mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-86°-Eである。

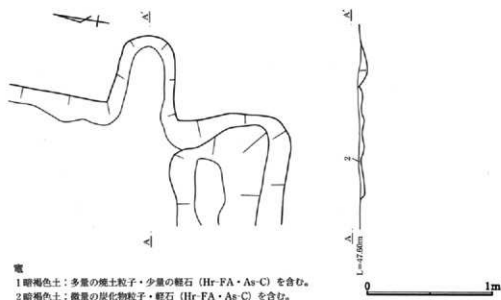
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。南東隅に長軸約1.2m、短軸約0.7m、確認面からの深さ約0.1mの落ち込みが検出できたが、貯蔵穴と断定することはできない。柱穴・壁溝は検出することができなかった。

遺物は、覆土中から、土師器甕の小破片が少量出土している。遺物等から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。



0 2m

第32図 16号住居跡



第33図 16号住居跡電

17号住居跡

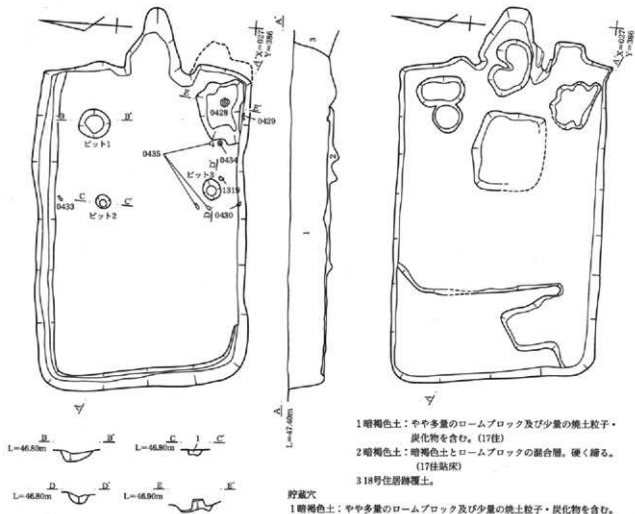
本住居跡は、3区のX=36.027・Y=-39.386付近で検出された。18号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の東側部分の壁・床・竈が、18号住居跡の北西部分の壁・床を破壊して築かれていることから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、東西約5.0～5.2m、南北約3.35～3.4mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Eである。

竈は、東壁の中央に築かれている。確認面での規模は、燃烧部の幅約0.9m、煙道部の壁外への張り出し約0.9mである。貯蔵穴は、南東隅から検出された。規模は、長軸約0.9m、短軸約0.7m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は不定形である。南西隅から西壁に沿い、北壁にかけて壁溝が検出できた。規模は、幅約0.1～0.3m、床面からの深さ約0.02～

0.08mである。床面から3基のピットが検出された。規模は、直径0.3～0.5m、床面からの深さ約0.1～0.2mであり、平面形は不整形な円形ないしは楕円形を呈する。ピットの形態、住居内の位置等から、柱穴とは考えられない。床下からは、2基の床下土坑が検出された。床下土坑1は、長軸約0.75m、短軸約0.45m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形は楕円形を呈する。床下土坑2は、長辺約1.25m、短辺約1.05m、床面からの深さ約0.4mであり、平面形は長方形を呈する。

遺物は、土師器杯(432)、須恵器杯(428・429・430・431)、須恵器短頸壺(433)、須恵器升(434)、土師器壺(435・436)、鉄製品馬具(1319)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



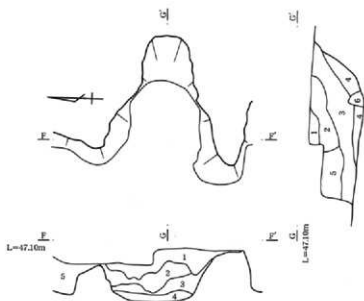
- 1 暗褐色土：やや多量のロームブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。(17住)
- 2 暗褐色土：暗褐色土とロームブロックの混合層。硬く締る。(17住貼床)
- 3 18号住居跡覆土。

貯蔵穴

- 1 暗褐色土：やや多量のロームブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。

ピット1～ピット3

- 1 暗褐色土：やや多量のロームブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。

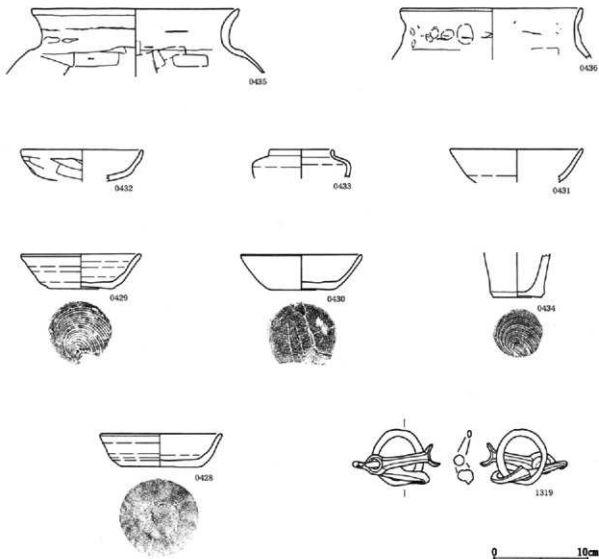


竈

- 1 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr・FA・As・C) を含む。
- 2 灰黄褐色土：粘質のローム主体。構築材の崩れ。
- 3 暗褐色土：少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。
- 4 灰黄褐色土：多量の焼土を含み、粘質。
- 5 暗褐色土：やや多量のロームブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 6 礎石



第34図 17号住居跡、同掘り方、同竈



第35図 17号住居跡出土遺物

18号住居跡

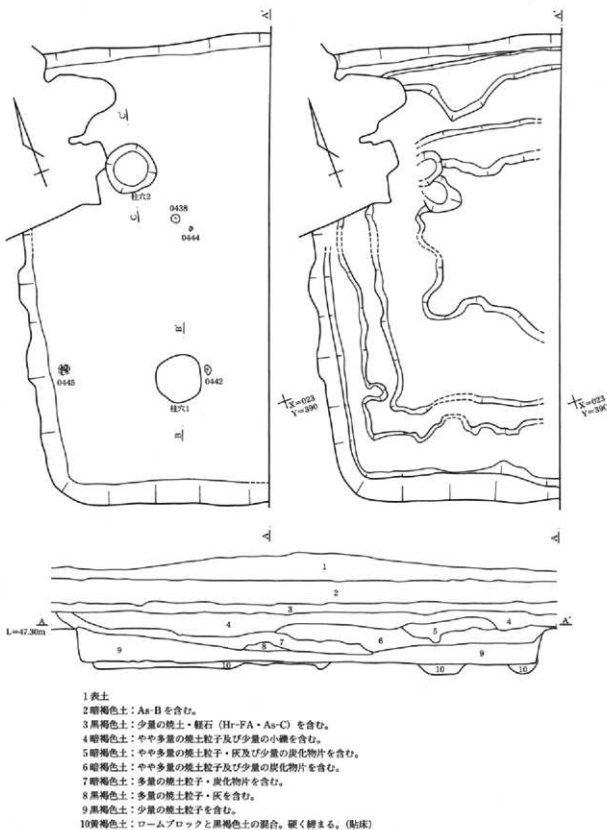
本住居跡は、3区のX=36.023・Y=-39.390付近で検出された。17号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の北西部分の壁・床が、17号住居跡の壁・床・竈に破壊されていることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東側約半分が調査区域外のため確定できないが、南北約7.3～7.5mであり、大型の住居跡である。平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。

竈は、東壁に築かれていると推定しているが、調査区域外のため確認することはできなかった。柱穴

と考えられるビットが2基検出できた。柱穴の規模は直径約0.7～0.75m、床面からの深さ約0.65～1.05mであり、平面形は不整形な円形を呈する。掘り方調査で、各壁の際が落ち込んでいることが確認できた。床面では検出できなかったが、壁溝が巡っていたものと推定される。

遺物は、土師器杯(443・444)、須恵器杯(437・440)、須恵器盤(438)、須恵器蓋(441・442)、須恵器壺(439)、土師器甕(445・446)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。

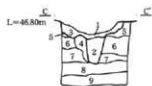


第36図 18号住居跡、同掘り方



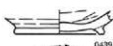
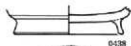
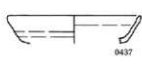
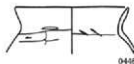
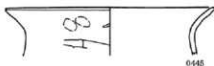
柱穴1

- 1 暗褐色土：少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含み、砂質。
2 褐色土：砂質。締まり・粘性弱い。



柱穴2

- 1 黒褐色土：微量のローム粒子を含む。締り弱く、粘性やや有り。
2 暗褐色土：砂質土。少量のローム粒子を含む。
3 暗褐色土：砂質土。多量の黄褐色土小ブロック・焼土粒子を含む。
4 暗褐色土：砂質土。多量の黄褐色土小ブロックを含む。
5 黄褐色土：砂質ローム。
6 黄褐色土：締り強く、粘性弱い。
7 明褐色土：鉄分の沈着がある。
8 黒褐色土：やや砂質。締り有り。
9 濃い黄褐色土：粘質土。下方に多量の礫を含む。



第37図 18号住居跡柱穴セクション、同出土遺物

19号住居跡

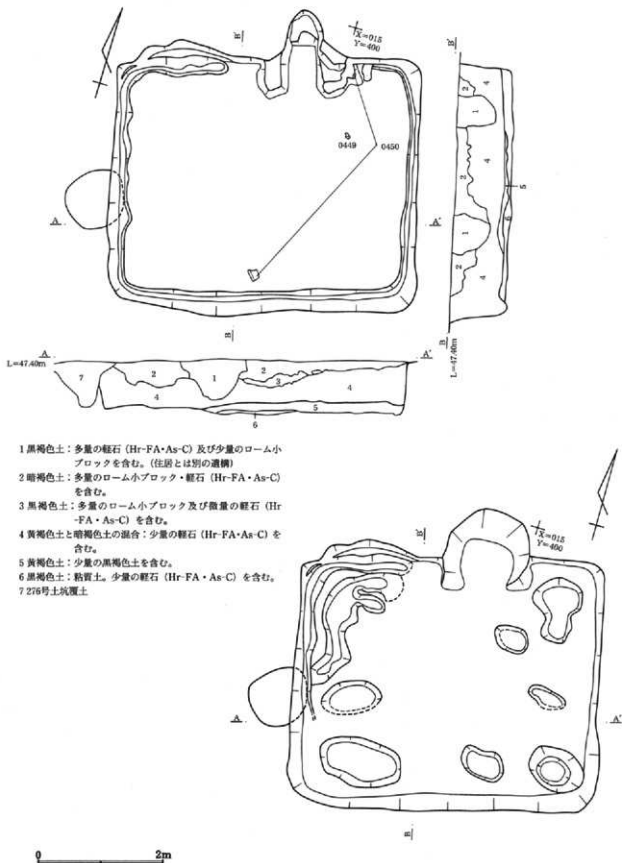
本住居跡は、3区のX=36.015・Y=-39.400付近で検出された。276号土坑と重複する。新旧関係は、本住居跡の西壁の一部を276号土坑が破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約4.35~4.4m、南北約4.05~4.15mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-12°-Wである。

竈は、北壁中央やや東よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.65m、煙道部の壁外への張り出し約0.75mである。壁溝は、竈及び電付

近を除いて、検出できた。規模は、幅約0.07~0.2m、床面からの深さ約0.07~0.1mである。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。掘り方調査では8基以上の土坑もしくはピット状の落ち込みが検出された。規模は長軸・長辺0.6~1.3m、短辺0.4~0.75mであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。

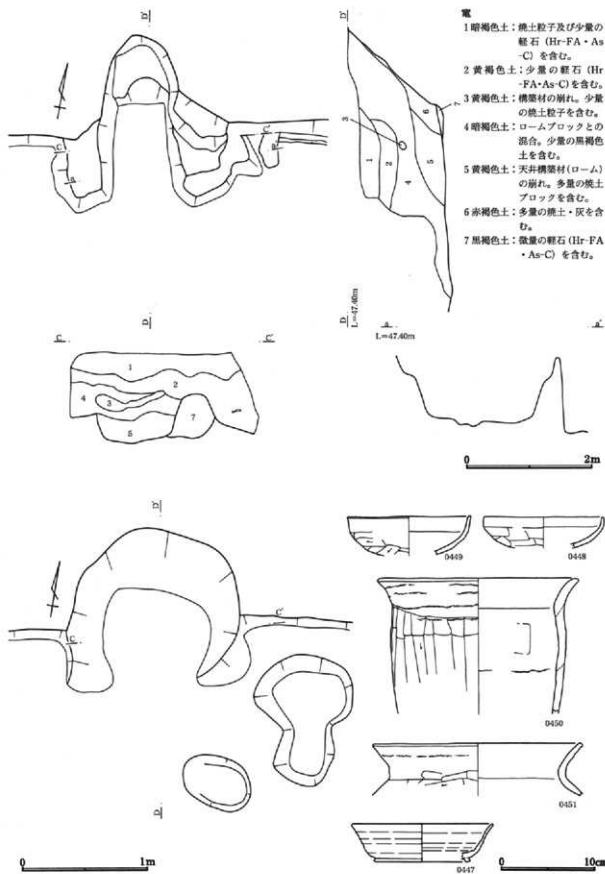
遺物は、土師器杯(448・449)、須惠器碗(447)、土師器甕(450・451)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀前半である。



- 1 黒褐色土：多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のローム小ブロックを含む。(住居とは別の遺構)
- 2 暗褐色土：多量のローム小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：多量のローム小ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 黄褐色土と暗褐色土の混合：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黄褐色土：少量の黒褐色土を含む。
- 6 黒褐色土：粘質土。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 276号土坑覆土

第38図 19号住居跡、同掘り方

第1節 住居跡



第39図 19号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物

20号住居跡

本住居跡は、3区のX=36.008・Y=-39.391付近で検出された。他の遺構との重複はない。

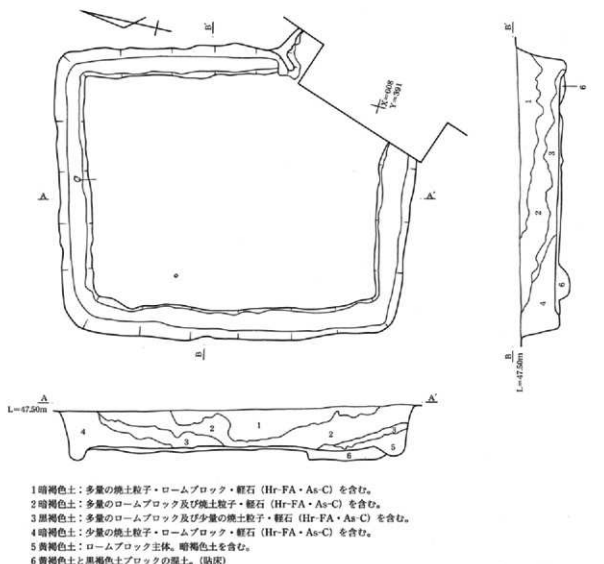
本住居跡は、南東隅付近が調査区域外になり、規模は確定できないが、東西約4.6~4.7m、南北約5.4~5.6mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-74°-Eである。

竈は、東壁南よりに築かれており、左袖とその周辺が検出できた。規模は不明である。壁溝は、竈部

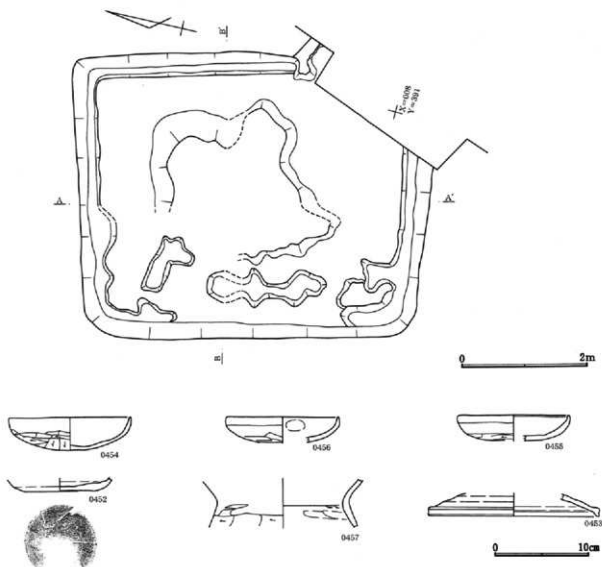
分を除き巡るものと推定される。規模は、幅約0.25~0.4m、床面からの深さ約0.045~0.07mである。

柱穴・貯蔵穴は検出することができなかった。

遺物は、土師器杯(454・455・456)、須恵器杯(452)、須恵器蓋(453)、土師器甕(457)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀前半~中葉である。



第40図 20号住居跡



第41図 20号住居跡掘り方、同出土遺物

21号住居跡

本住居跡は、6区の $X=36.209 \cdot Y=-39.445$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.15～4.25m、南北約5.3～5.4mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-10°-Wである。

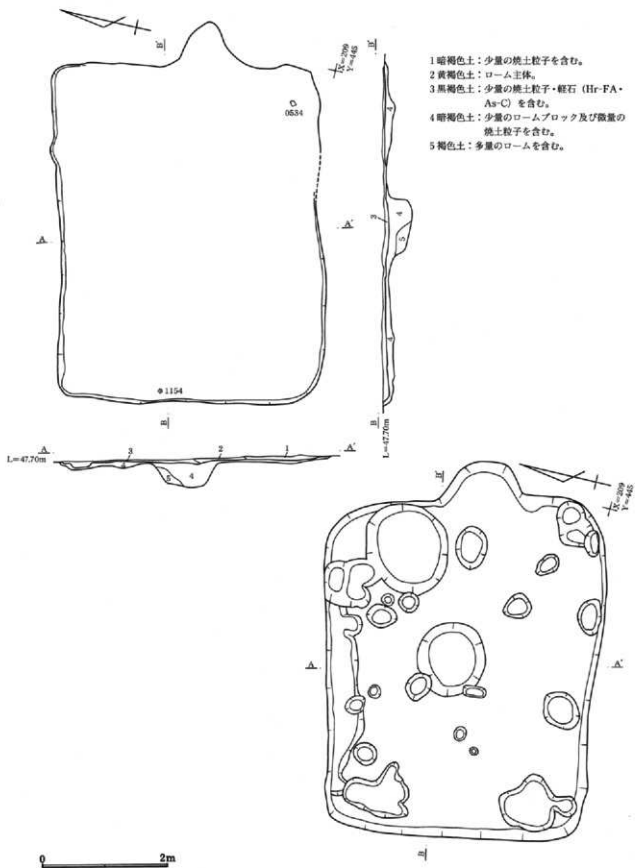
竈は、北壁中央やや東よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.8m、煙道部の壁外への張り出し約0.7mである。

貯蔵穴と推定されるピットは、掘り方調査で、北東隅から検出された。規模は、長軸約0.75m、短軸約0.5m、確認面からの深さ約0.15mであり、平面形

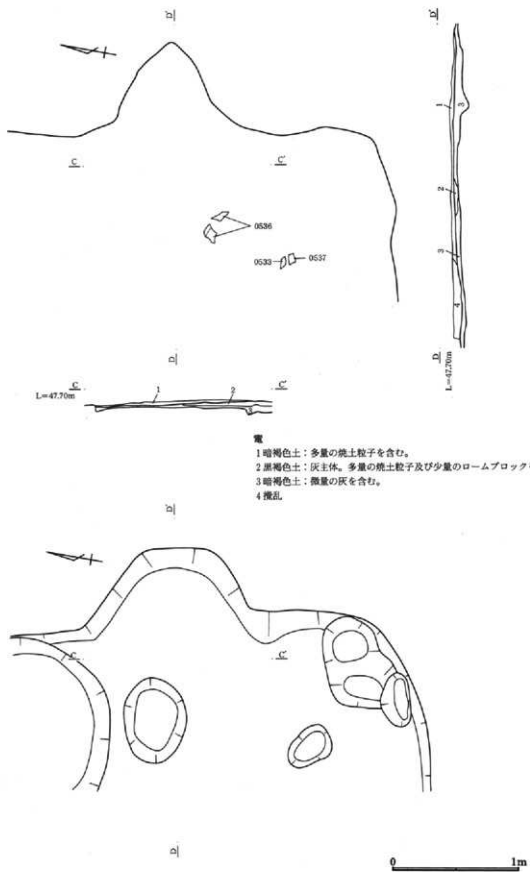
は不定形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかったが、掘り方調査で多数の土坑・ピット状落ち込みを確認することができた。規模は、長軸・直径0.1～1.5m、短軸0.1～1.2m、床面からの深さ0.1～0.45mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。

遺物は、土師器杯(535)、須恵器杯(533・534・537)、須恵器椀(532)、土師器壺(536)、石製品紡錘車(1154)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。

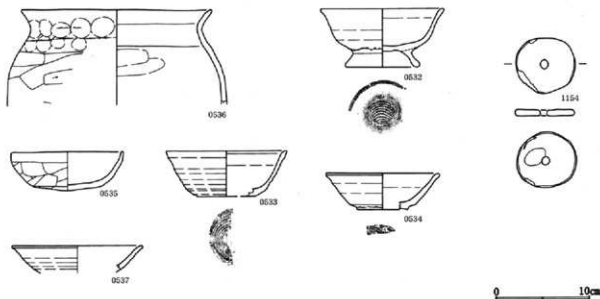
第II章 発見された遺構・遺物



第42図 21号住居跡、同掘り方



第43図 21号住居跡電、同電掘り方



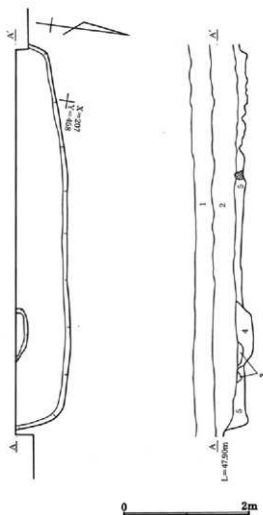
第44図 21号住居跡出土遺物

22号住居跡

本住居跡は、6区のX=36.207・Y=-39.458付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、大部分が調査区域外になり、北壁よりの一部が検出出来ただけであり、規模は不明であるが、東西は約6.1m以上的大型住居跡であり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。竈・柱穴・貯蔵穴は不明である。北壁側で壁溝は確認できなかった。

出土遺物は非常に少なく、覆土中から土師器甕の小破片が少量出土しているだけである。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。

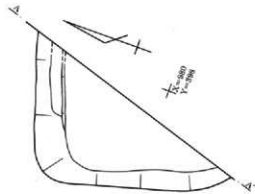


- 1 表土
- 2 黒褐色土：少量の焼土粒子・軽石を含む。
- 3 暗褐色土：少量の焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 5 褐色土：少量の黒褐色土ブロックを含む。

第45図 22号住居跡

23号住居跡

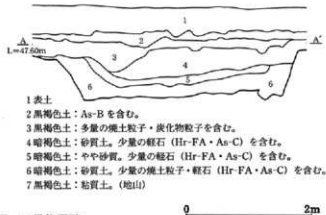
本住居跡は、3区のX=35.980・Y=-39.398付近で検出された。22号溝・23号溝と重複する。22号溝との新旧関係は、本住居跡の西壁の一部を同溝が破壊していることから、本住居跡の方が古い。23号溝との新旧関係は、本住居跡の西壁の一部を同溝が破壊していることから、本住居跡の方が古い。



第46図 23号住居跡

本住居跡の規模は、北西部だけの検出であり、他は調査区域外のため不明である。竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は、不明である。

出土遺物は非常に少なく、土師器・須恵器の小破片が少量出土しているだけである。遺物等から推定する本住居跡の年代は、9世紀以後である。



- 1 表土
- 2 黒褐色土：As-Bを含む。
- 3 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土：砂質土。少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 5 暗褐色土：やや砂質。少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 6 暗褐色土：砂質土。少量の焼土粒子・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 7 黒褐色土：粘質土。（地山）

24号住居跡

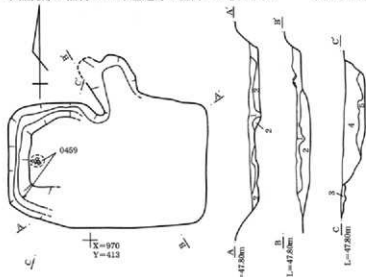
本住居跡は、3区のX=35.970・Y=-39.413付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約3.15～3.2m、南北約1.9～2.0mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-1'-Eである。

竈は、北壁中央に築かれている。確認面での規模は、燃燒部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し

約0.7mである。住居跡の西側部分からは壁溝が検出された。規模は、幅約0.15～0.25m、床面からの深さ約0.1～0.15mである。柱穴・貯蔵穴は検出できなかった。

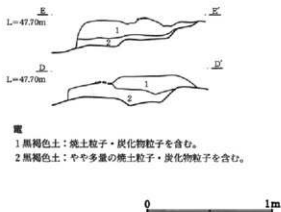
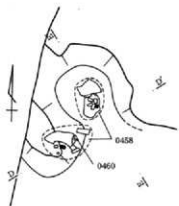
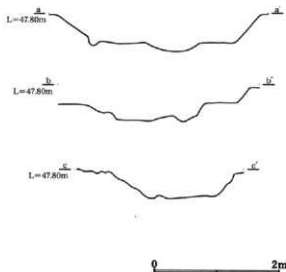
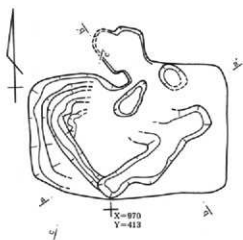
遺物は、土師器杯（460）、土師器甕（458・459）等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第47図 24号住居跡

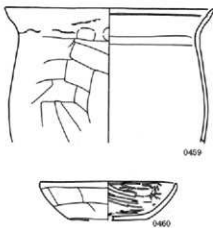
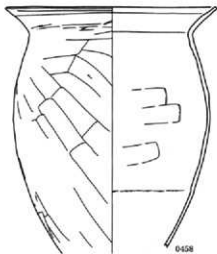
- 1 黒褐色土：少量の焼土粒子・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 2 暗褐色土：ローム小ブロック及び少量の焼土粒子・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 3 黒褐色土：砂質土。焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 4 黒褐色土：砂質土。やや多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 5 黒褐色土：粘質。多量のロームブロックを含む。

第二章 発見された遺構・遺物



電

- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
 2 黒褐色土：やや多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。



0 10cm

第48図 24号住居跡掘り方、同電、同出土遺物

25号住居跡

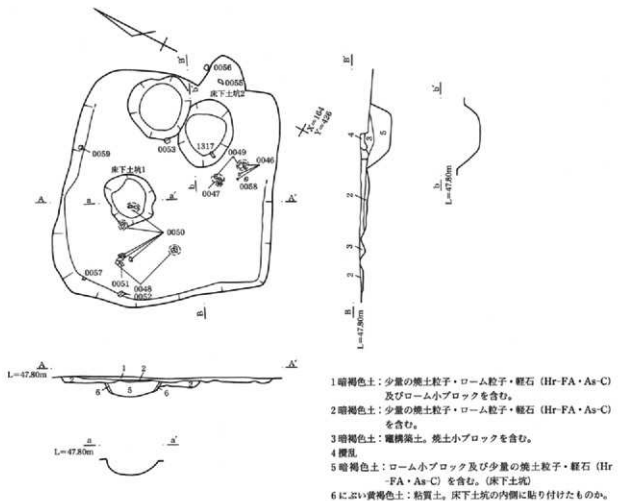
本住居跡は、5区の $X=36.164 \cdot Y=-39.426$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は掘り方での検出であり、規模は確定できないが、東西約3.2~3.7m、南北約3.2~3.5mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-65°-Eである。

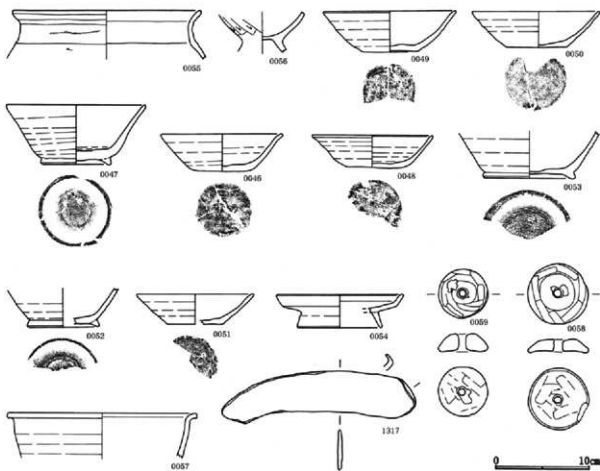
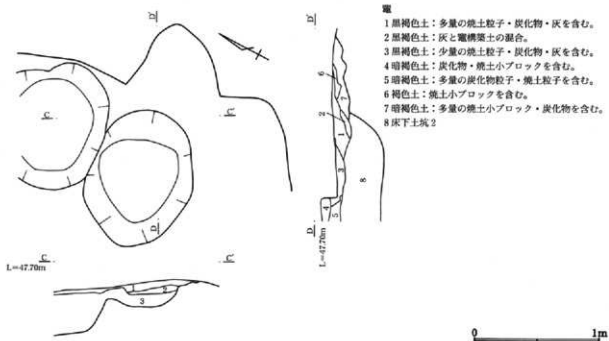
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.7m、煙道部の壁外への張り出し約0.5mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。床下からは、3基の床下土坑が検出できた。床下土坑1の規模は、長軸約0.9m、短軸約0.7m、床面からの深さ約0.25mであり、平面形は不整

形な楕円形を呈する。床下土坑2の規模は、長軸約1.1m、短軸約0.8m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形はやや不整形な楕円形を呈する。床下土坑3の規模は、長軸約1.05m、短軸約0.95m、確認面からの深さ約0.3mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は、須恵器杯(46・48・49・50・51)、須恵器椀(47・52・53)、須恵器盤(54)、須恵器鉢(57)、土師器壺(55)、土師器台付壺(56)、土製紡錘車(58・59)、鉄製品鎌(1317)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉~後半である。



第49図 25号住居跡掘り方



第50図 25号住居跡電掘り方、同出土遺物

26A号住居跡

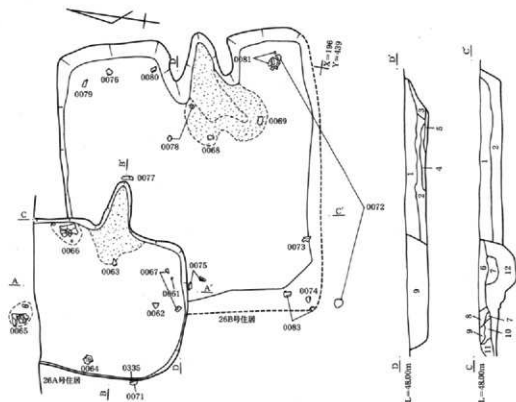
本住居跡は、5区の $X=36.198 \cdot Y=-39.441$ 付近で検出された。26B号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の南東部分の壁・床・竈が、26B号住居跡の北西部分の壁・床を破壊して築かれていることから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、北側の一部が調査区域外のため確定できないが、東西約2.25~2.45m、南北2.5m以上であり、平面形は横長の隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸は $N-95^{\circ}-E$ である。

竈は、東壁の中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外

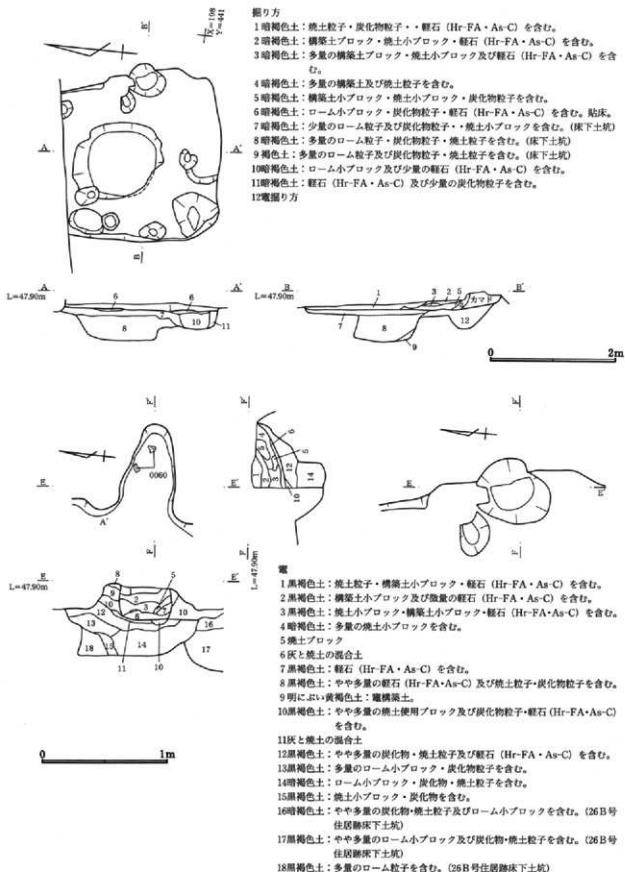
への張り出し約0.8mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では、10基の土坑もしくはピット状の落ち込みを確認できた。住居跡中央の土坑上落ち込みの規模は、長軸約1.4m、短軸約1.2m、確認面からの深さ約0.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。

遺物は、須恵器杯(61・63・70・71・335)、須恵器碗(60・62)、灰陶陶器皿(64)、土師器甕(65・66・67)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。

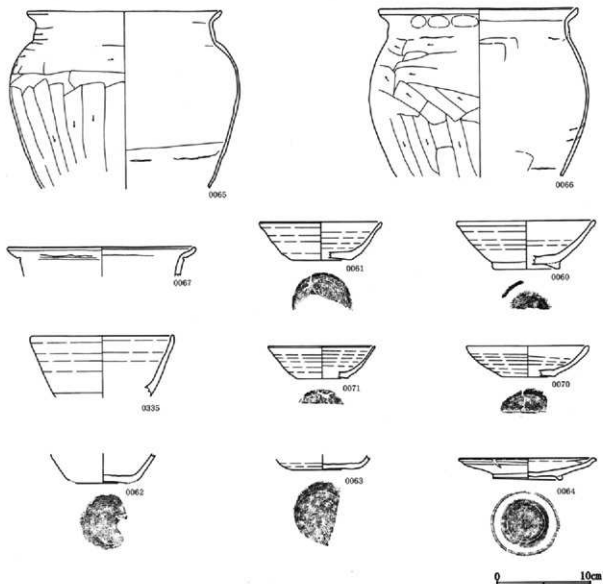


- 1 黒褐色土：炭化物・焼土粒子・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(26B号住居跡)
- 2 黒褐色土：炭化物・焼土粒子及び少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(26B号住居跡)
- 3 明に黄色褐色土：竈袖の崩れた土。(26B号住居跡)
- 4 黒褐色土：やや多量の焼土粒子・炭化物を含む。(26B号住居跡)
- 5 黒色土：灰・炭化物の集中。機土ブロックを含む。(26B号住居跡)
- 6 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(26A号住居跡)
- 7 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。(26A号住居跡)
- 8 黒褐色土：多量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(26A号住居跡)
- 9 黒褐色土：炭化物粒子・焼土粒子及び少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(26A号住居跡)
- 10 黒褐色土：褐色土粒子及び少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(26A号住居跡)
- 11 黒褐色土：少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(26A号住居跡)
- 12 26A号住居跡電線り方参照。

第51図 26A号住居跡、26B号住居跡



第52図 26A号住居跡掘り方、同電、同電掘り方



第53図 26A号住居跡出土遺物

26B号住居跡

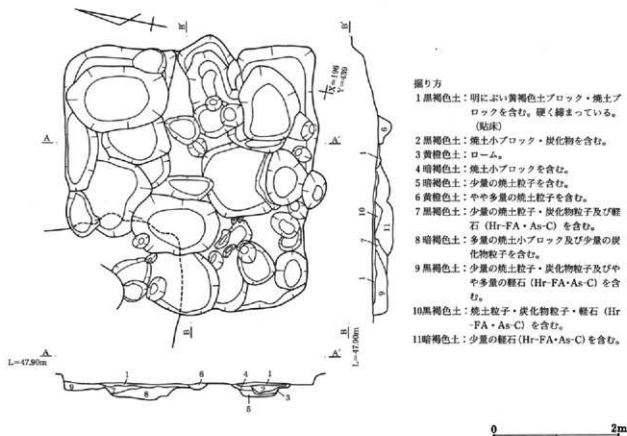
本住居跡は、5区のX=36.196・Y=-39.439付近で検出された。26A号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の北西部分の壁・床が、26A号住居跡の南東部分の壁・床・竈により破壊されていることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約4.5m、南北約4.1mであり、平面形は、隅丸方形を呈する。主軸はN-78°-Eである。

竈は、東壁中央や南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6mであり、確認面での

の煙道部の壁外への張り出しはない。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかったが、床下から数多くの土坑・ビット状の落ち込みを検出することができた。掘り方としては特殊である。

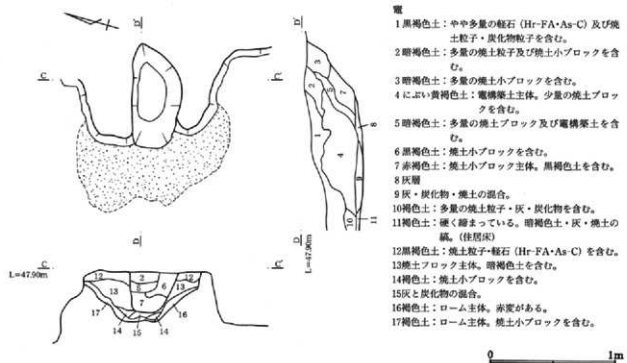
遺物は、須恵器杯 (68・69)、須恵器碗 (72・73・75・76)、須恵器皿 (74)、土師器甕 (77・78・79・80)、土師器台付甕 (81・82・83・334) 等が出土している。土師器台付甕が4個体も出土しているのが特徴である。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。



掘り方

- 1 黒褐色土：明い黄褐色土ブロック・焼土ブロックを含む。硬く締まっている。(見床)
- 2 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 3 黄褐色土：ローム。
- 4 暗褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 5 暗褐色土：少量の焼土粒子を含む。
- 6 黄褐色土：やや多量の焼土粒子を含む。
- 7 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子及び軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 8 暗褐色土：多量の焼土小ブロック及び少量の炭化物粒子を含む。
- 9 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子及びやや多量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 10 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 11 暗褐色土：少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。

0 2m

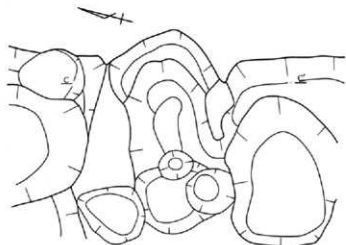


掘

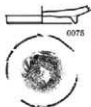
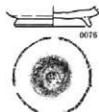
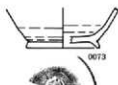
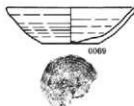
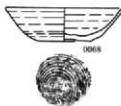
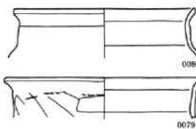
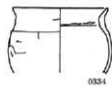
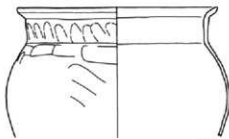
- 1 黒褐色土：やや多量の軽石(Hr-FA・As-C)及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土：多量の焼土粒子及び焼土小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
- 4 にい黄褐色土：電機築土主体。少量の焼土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土：多量の焼土ブロック及び電機築土を含む。
- 6 黒褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 7 赤褐色土：焼土小ブロック主体。黒褐色土を含む。
- 8 灰層
- 9 灰・炭化物・焼土の混和。
- 10 褐色土：多量の焼土粒子・灰・炭化物を含む。
- 11 褐色土：硬く締まっている。暗褐色土・灰・焼土の混。(住居床)
- 12 黒褐色土：焼土粒子・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 13 焼土ブロック主体。暗褐色土を含む。
- 14 褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 15 灰と炭化物の混和。
- 16 褐色土：ローム主体。赤変がある。
- 17 褐色土：ローム主体。焼土小ブロックを含む。

0 1m

第54図 26B号住居跡掘り方、同電



0 1m



0 10cm

第55図 26B号住居跡電掘り方、同出土遺物

27号住居跡

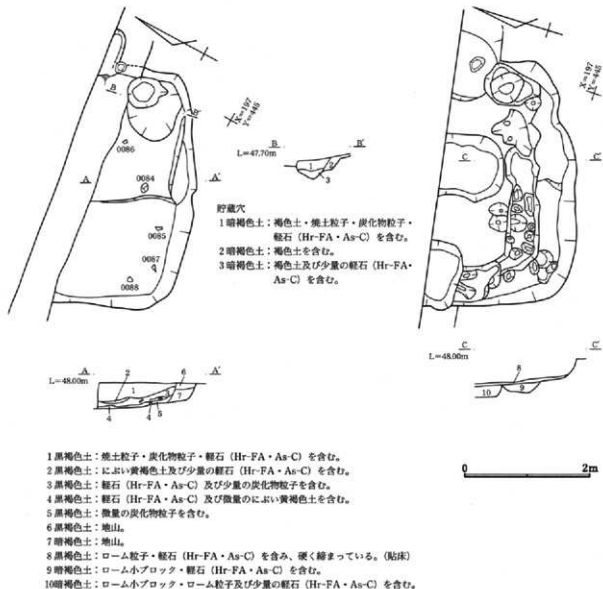
本住居跡は、5区のX=36.197・Y=-39.445付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、北側部分が調査区域外のため確定できないが、東西は約3.8m以上であり、平面形は、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-68°-Eである。

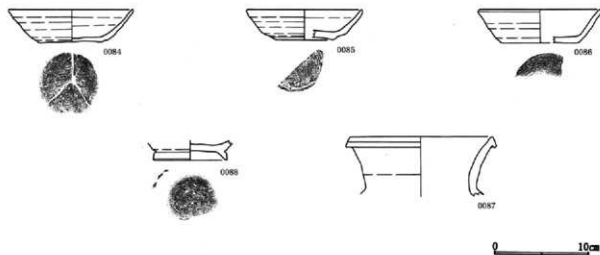
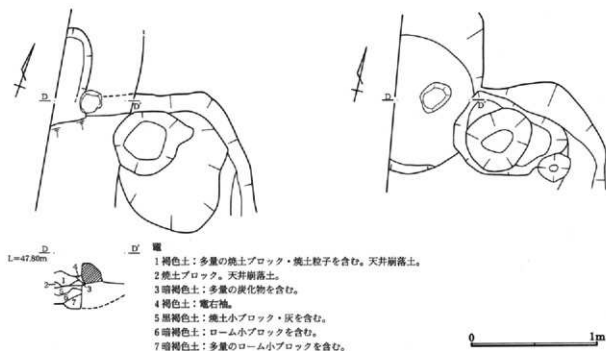
竪は東壁に築かれている。南側半分の検出のため、

規模は不明である。貯蔵穴は南東隅から検出された。規模は、長軸約0.6m、短軸約0.5m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(84・85・86)、須恵器椀(88)、須恵器壺(87)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第56図 27号住居跡、同掘り方



第57図 27号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物

28号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.197・Y=-39.445付近で検出された。他の遺構との重複はない。

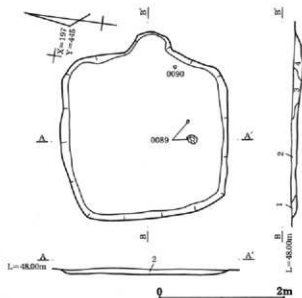
本住居跡の規模は、東西約2.4~2.65m、南北約2.4~2.6mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。主軸はN-80°-Eである。

電は、東壁中央に築かれている。確認面での規模

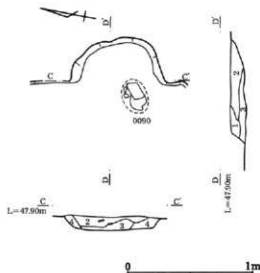
は、燃焼部の幅約0.65m、煙道部の壁外への張り出し約0.35mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。

出土遺物は少ないが、須恵器杯(89)、土師器甕(90)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。

第11章 発見された遺構・遺物



- 1 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量の焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：多量の焼土粒子及び炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 覆土

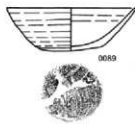


電

- 1 黒褐色土：ローム粒子及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 4 黒褐色土：地山。



第58図 28号住居跡、同電、同出土遺物



29号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.196・Y=-39.450付近で検出された。他の遺構との重複はない。

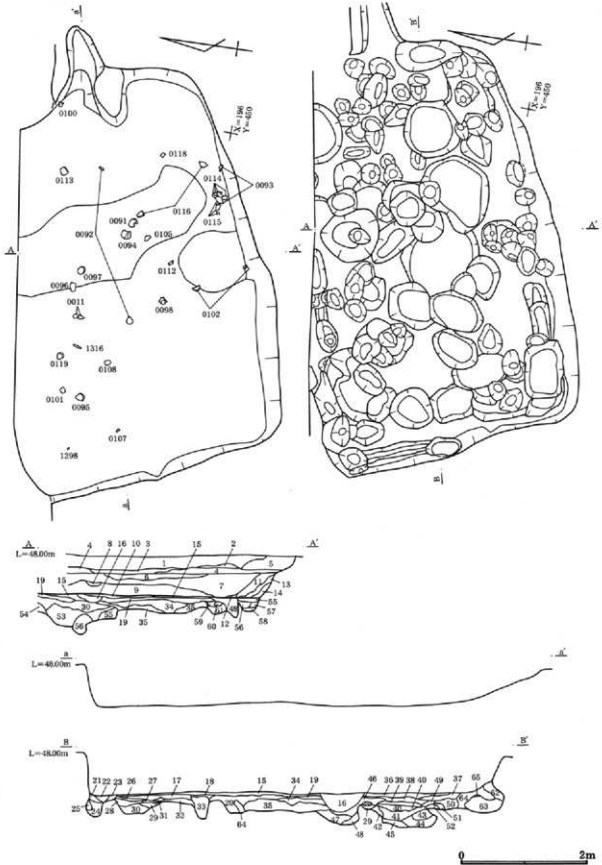
本住居跡の規模は、北西部分が調査区域外のため確定できないが、東西約6.1~6.2m、南北約4.3m以上であり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈すると考えられる大型の住居跡である。主軸はN-64°-Eである。

電は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.9mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかったが、掘り方調査で南西隅から西壁にかけて、壁溝が掘られていたと推測させる。溝状の遺構が検

出できた。

本住居跡の掘り方は、土坑状、ビット状の落ち込みが数多く掘られており、通常の掘り方とは異なっている。

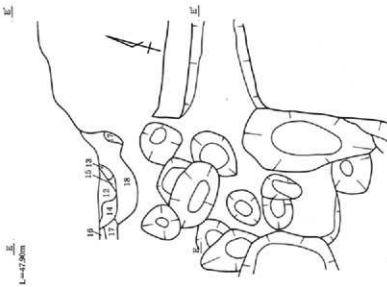
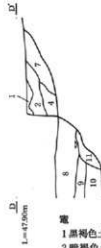
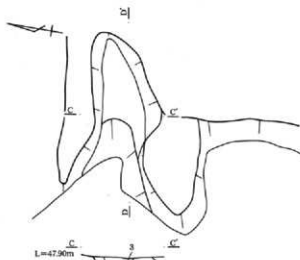
遺物は、須恵器杯 (91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・104・105・106・107・108・109)、須恵器椀 (102・103)、須恵器把手付椀 (1146)、須恵器盤 (110)、須恵器蓋 (111・112・113)、須恵器壺 (120)、土師器甕 (114・115・116・117・118)、土師器台付甕 (119)、鉄製品刀子 (1308・1316)、鉄製品釘 (1298) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半~中葉である。



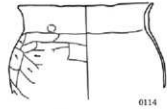
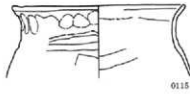
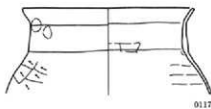
第59図 29号住居跡、同掘り方

第II章 発見された遺構・遺物

- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・褐色土を含む。
- 3 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 暗褐色土：焼土粒子及び少量の炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：多量の焼土粒子及び褐色土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 黒褐色土：多量の焼土・炭化物を含み、硬く締まっている。
- 7 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び少量のローム小ブロックを含む。
- 8 焼土ブロック
- 9 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・ローム小ブロックを含む。
- 10 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロックを含み、硬く締まっている。
- 11 暗褐色土：多量の炭化物及び少量の焼土小ブロックを含む。
- 12 ロームブロック
- 13 黒褐色土：ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 14 黒褐色土：ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む。
- 15 貼床：下層の土が固く締まっている。
- 16 黒褐色土：ロームブロック・焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 17 暗褐色土：褐色土ブロック・焼土ブロックを含む。
- 18 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のローム小ブロックを含む。
- 19 黒褐色土：褐色土ブロック及び少量の焼土ブロックを含み、灰層を挟む。
- 20 黒褐色土：褐色土ブロック・にぶい黄褐色土ブロック・焦土ブロックを含む。
- 21 黒褐色土：ロームブロックを含む。
- 22 黒褐色土：やや多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のロームブロックを含む。
- 23 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C)・焼土粒子を含む。
- 24 褐色土：ロームブロック主体。黒褐色土を含む。
- 25 にぶい黄褐色土 (粘質ローム) と黒褐色土の混合。
- 26 黒褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C)・焼土ブロックを含む。
- 27 黒褐色土：灰主体。
- 28 褐色土：多量の焼土ブロック及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 29 褐色土：一部焼土化。
- 30 褐色土：灰を結状硬で含む。
- 31 褐色土：やや多量の焼土ブロックを含む。
- 32 褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C)・焼土粒子を含む黒褐色土を結状に含む。
- 33 暗褐色土：やや多量の褐色土ブロックを含む。
- 34 黒褐色土：多量の褐色土ブロックを含む。
- 35 褐色土：ハードローム層。にぶい黄褐色土ブロック・焼土小ブロックを含む。
- 36 褐色土：黒褐色土・焼土粒子を含む。(貼床)
- 37 褐色土：焼土粒子・焼土ブロックを含む。(貼床)
- 38 黒褐色土：多量の灰を含み、褐色土と焼土の混合層が結状に重なる。
- 39 褐色土：ローム主体。焼土ブロック・炭化物を含む。
- 40 黒褐色土：褐色土・焼土粒子・炭化物を含む。
- 41 暗褐色土：褐色土・焼土ブロックを含み、灰が結状に入る。
- 42 褐色土：ハードロームブロックの集合。炭化物・焼土粒子を含み、灰が結状に入る。
- 43 褐色土：ハードロームブロック主体。やや多量の炭化物・焼土粒子を含む。
- 44 褐色土：ハードロームブロック主体。炭化物・焼土粒子・灰を含む。
- 45 褐色土：ハードロームブロック主体。多量の焼土小ブロック・黒色灰を含む。
- 46 暗褐色土：褐色土小ブロック・焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 47 褐色土：ハードロームブロックの集合。炭化物・焼土粒子を含み、硬く締まる。
- 48 黒褐色土：褐色土を含む。
- 49 焼土小ブロックと褐色土ブロックの混合。
- 50 褐色土：多量の黒褐色土及び少量の焼土ブロックを含む。
- 51 褐色土：ハードローム層。にぶい黄褐色土ブロック・焼土ブロックを含む。
- 52 焼土小ブロックと褐色土ブロックの混合。硬く締まる。
- 53 黒褐色土：多量のロームブロック及び焼土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 54 黒褐色土：多量のロームブロック及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 55 黒褐色土：やや多量のロームブロック及び焼土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。締まっている。
- 56 黒褐色土：ローム小ブロック・焼土小ブロックを含む。
- 57 黒褐色土：焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のローム小ブロックを含む。
- 58 黒褐色土：少量のローム小ブロックを含む。
- 59 黒褐色土：洪水層主体。ローム小ブロックを含む。
- 60 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 61 黒褐色土：多量のローム小ブロック及び焼土粒子を含む。
- 62 黒褐色土：焼土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 63 黒褐色土：洪水層を含む。
- 64 覆瓦
- 65 焼土ブロック

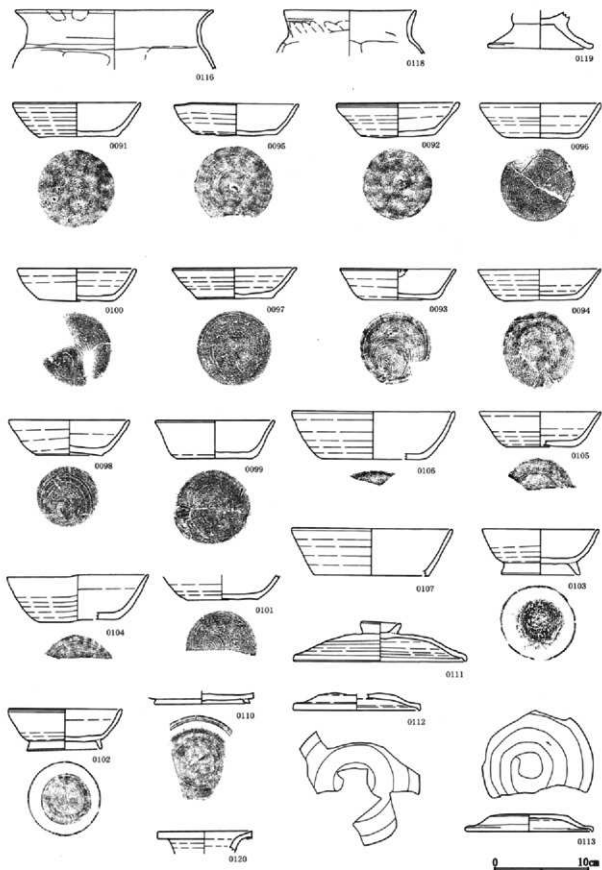


- 1 黒褐色土：焼土小ブロックを含む。
 2 暗褐色土：やや多量のローム小ブロックを含む。
 3 暗褐色土：多量の灰を含む。
 4 焼土ブロックと灰の混合層：暗褐色土を含む。
 5 暗褐色土：焼土粒子を含む。
 6 褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
 7 黒褐色土：炭化物及び少量のローム粒子を含む。
 8 黒褐色土：多量の炭化物及び焼土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 9 暗褐色土：ローム小ブロック及び少量の焼土小ブロックを含む。
 10 暗褐色土：炭化物・焼土粒子を含む。
 11 暗褐色土：多量の焼土小ブロック・灰を含む。
 12 褐色土：ロームブロック主体。黒褐色土ブロック・焼土ブロックを含む。
 13 褐色土：焼土粒子を含む。
 14 黒褐色土：焼土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C)・褐色土を含む。
 15 褐色土：多量のローム小ブロック・焼土小ブロックを含む。
 16 焼土小ブロック・灰主体：褐色土ブロックを含む。
 17 褐色土：多量のローム小ブロック・焼土小ブロック及び灰を含む。
 18 褐色土：多量のローム小ブロック・焼土小ブロック含む。

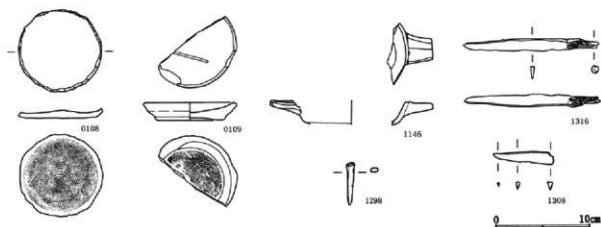


第60図 29号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物(1)

第II章 発見された遺構・遺物



第61図 29号住居跡出土遺物(2)



第62図 29号住居跡出土遺物(3)

30号住居跡

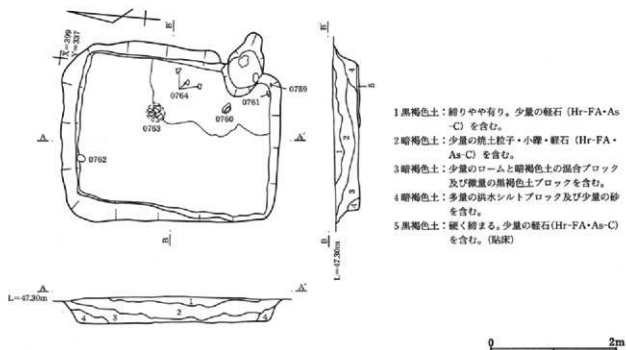
本住居跡は、19区のX=35.399・Y=-39.337付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約3.4~3.5m、南北約2.7~2.9mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-91°-Eである。

竈は、東壁の南隅に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.55m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。電燃焼部からは、支脚に使用さ

れたと考えられる石が、掘えられた状態で確認できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認することができなかった。

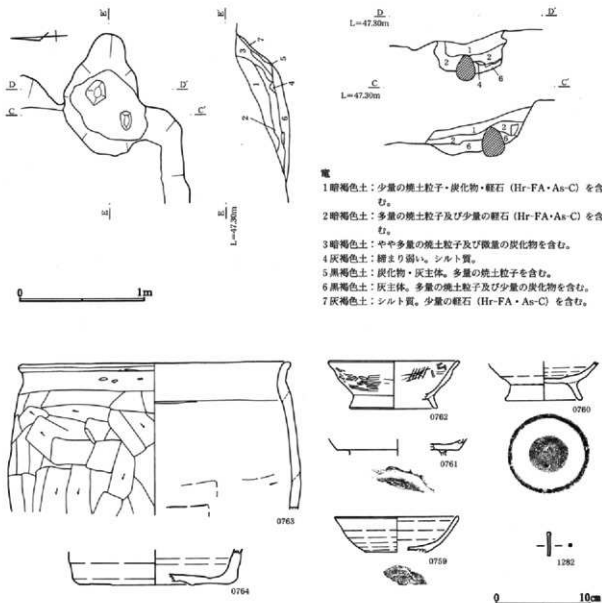
遺物は須恵器椀(759・760・761・762)、土師器甕(763)、須恵器甕(764)、鉄製品釘(1282)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、10世紀前半である。



- 1 黒褐色土：締りやや有り。少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 2 暗褐色土：少量の焼土粒子・小礫・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 3 暗褐色土：少量のロームと暗褐色土の混合ブロック及び微量の黒褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土：多量の洪水シルトブロック及び少量の砂を含む。
- 5 黒褐色土：硬く締まる。少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。(貼床)

第63図 30号住居跡

第二章 発見された遺構・遺物



第64図 30号住居跡竈、同出土遺物

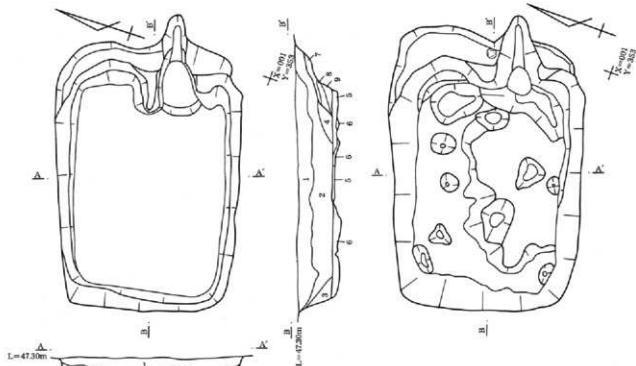
31号住居跡

本住居跡は、19区のX=36.001・Y=-39.353付近で検出された。他の遺構との重複はない。

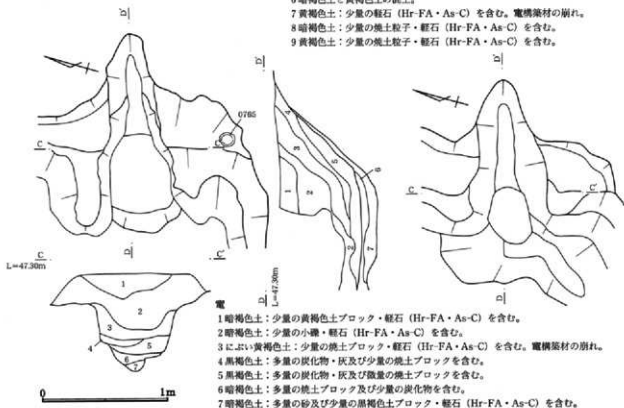
本住居跡の規模は、東西約2.7~3.0m、東西約4.15~4.25mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。本住居跡の東側の壁には、中段があり、中段の規模は、南北約3.75m~4.0mである。中段の存在、竈の設置状況等を考えると、本住居跡は建てかえられたと推定され、内側の住居跡が新しいと推定される。主軸はN-78°-Eである。

竈は東壁の中央、やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.9mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認できなかった。掘り方調査では、床下から多くの土坑状落ち込み、ピット状落ち込みを検出することができた。

須恵器杯(765)、土師器高杯(766)、須恵器壺(767)、石製品(768)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。

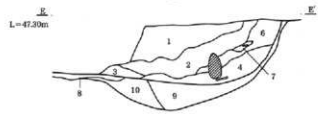
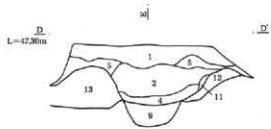
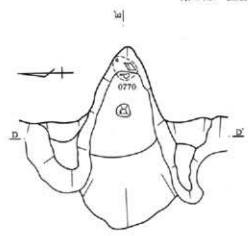
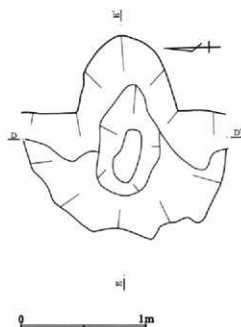
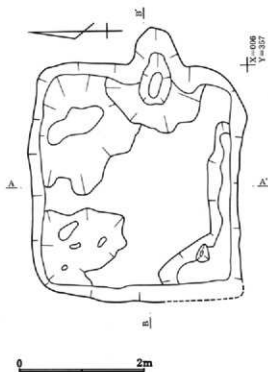


- 1 暗褐色土：砂質。多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土粒子・炭化物・ロームブロック・小礫を含む。
- 2 暗褐色土：砂質。少量の焼土粒子・洪水土ブロックを含む。
- 3 黒褐色土：少量の砂・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 暗褐色土：少量の焼土粒子・ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土と黄褐色土の混土。少量の黒褐色土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土と黄褐色土の混土。
- 7 黄褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。電線架材の崩れ。
- 8 暗褐色土：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 9 黄褐色土：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

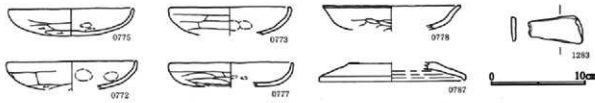


- 1 暗褐色土：少量の黄褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：少量の小礫・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 にぶい黄褐色土：少量の焼土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。電線架材の崩れ。
- 4 黒褐色土：多量の炭化物・灰及び少量の焼土ブロックを含む。
- 5 黒褐色土：多量の炭化物・灰及び少量の焼土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：多量の焼土ブロック及び少量の炭化物を含む。
- 7 暗褐色土：多量の砂及び少量の黒褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

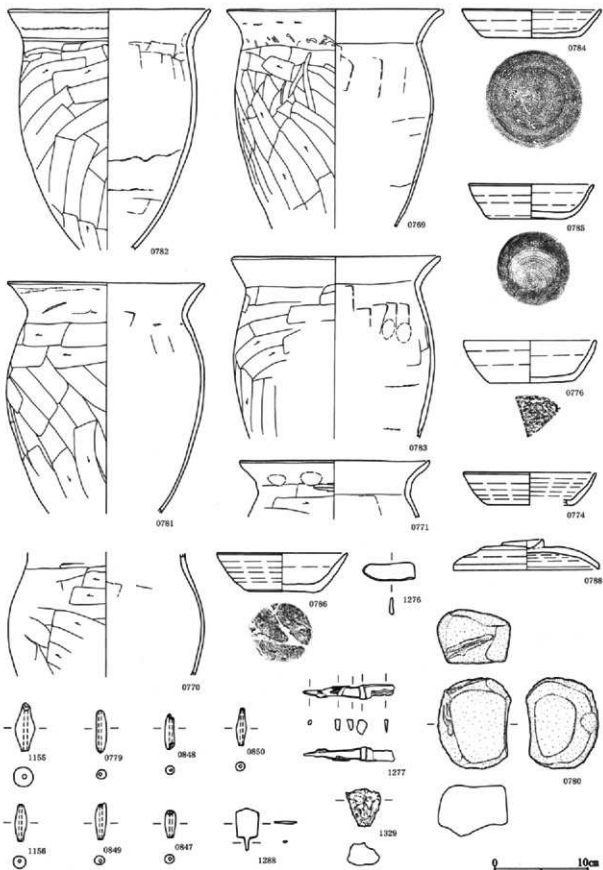
第65図 31号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方



- 電
- 1 暗褐色土：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 2 黄褐色土：少量の焼土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 3 暗褐色土：少量の焼土粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 4 黒褐色土：炭化物・灰主体。
 - 5 黄褐色土と暗褐色土の混土。少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 6 黄褐色土：多量の焼土粒子を含む。
 - 7 赤褐色土：焼土ブロック。
 - 8 暗褐色土：硬く締まる。多量のロームブロック及び少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。貼床。
 - 9 暗褐色土：多量の砂及び少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 10 暗褐色土：締り強い。多量のロームブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 11 黄褐色土：ロームブロック。電機素材の崩れ。
 - 12 黒褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 13 暗褐色土：砂質。少量の焼土粒子・小礫・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。



第68図 32号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物(1)



第69図 32号住居跡出土遺物(2)

33号住居跡

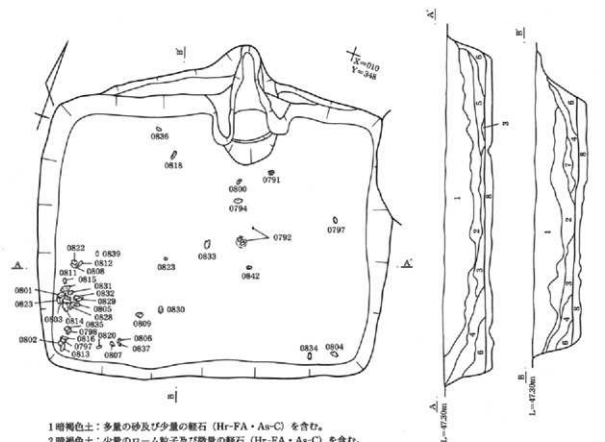
本住居跡は、19区のX=36.010・Y=-39.348付近で検出された。78号土坑と重複する。新旧関係は、同土坑が本住居跡の東壁の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約5.35～5.65m、南北約4.5～4.9mであり、平面形は横長の隅丸方形を呈する。本住居跡の北壁には中段があり、中段までの規模は南北約4.4～4.5mである。中段のあることから、本住居跡・竈は建てかえた可能性が考えられる。主軸はN-17-Wである。

竈は北壁中央やや東よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への

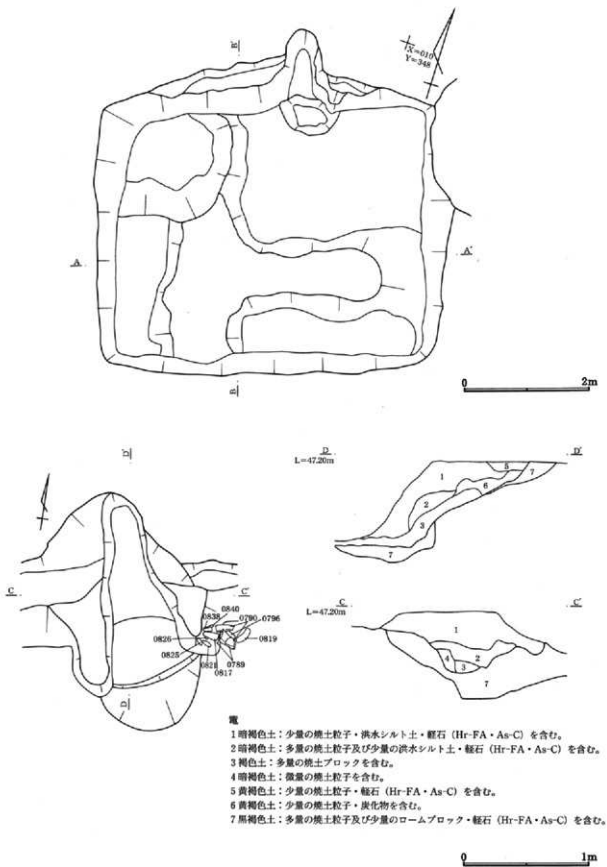
張り出し0.5mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。

遺物は、土師器杯(792・793・794・795・796)、須恵器杯(789・790・791)、鉄製品釘(1279・1280)、石製品(797・798・799・800・801・802・803・804・805・806・807・808・809・810・811・812・813・814・815・816・817・818・819・820・821・822・823・824・825・826・828・829・830・831・832・833・834・835・836・837・838・839・840)等である。石質、大きさの類似する石製品が数多く出土していることが注目される。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。



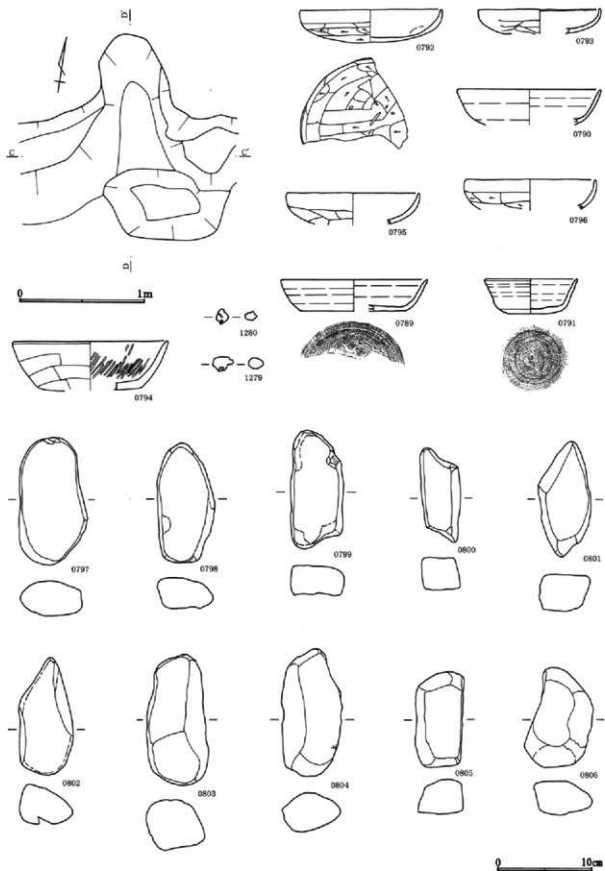
- 1 暗褐色土：多量の砂及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 暗褐色土：多量のロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土：少量のローム粒子・砂及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 暗褐色土：少量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 暗褐色土：少量のロームブロック及び微量の焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土：多量の砂ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 暗褐色土と黄褐色土の混土。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

第70図 33号住居跡



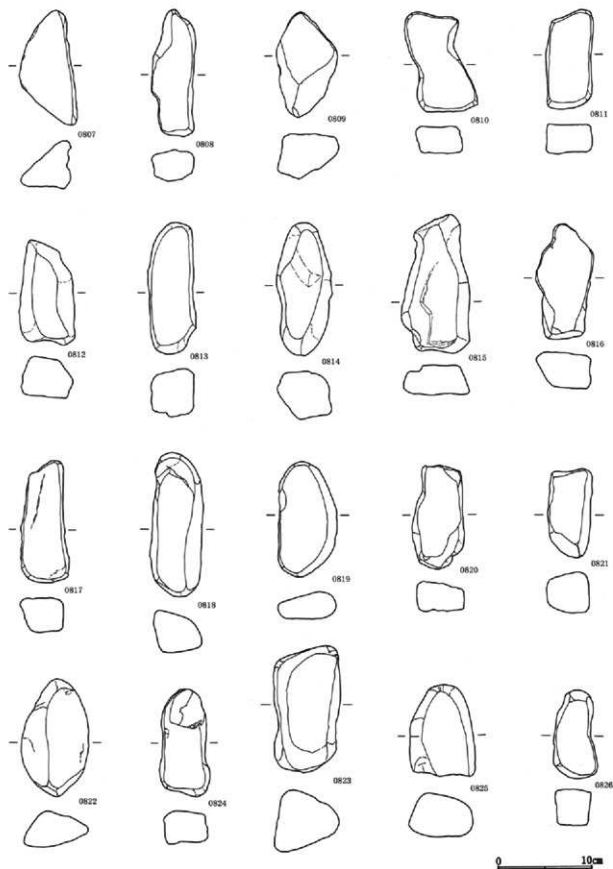
第71図 33号住居跡掘り方、同電

第1節 住居跡

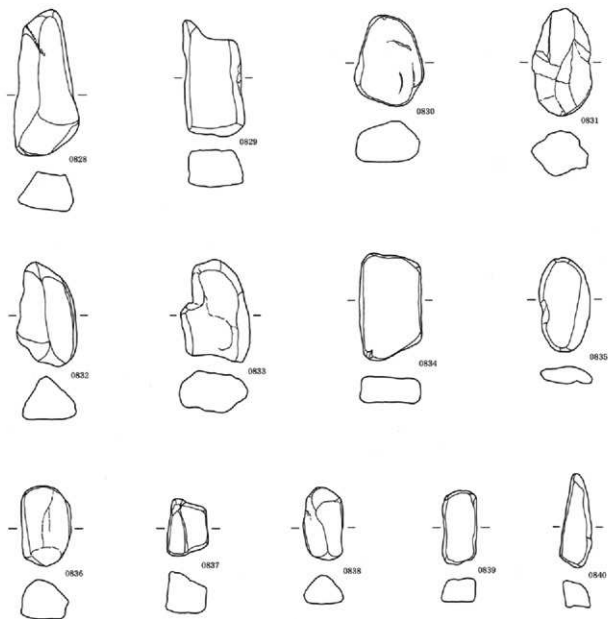


第72図 33号住居跡電掘り方、同出土遺物(1)

第二章 発見された遺構・遺物



第73図 33号住居跡出土遺物(2)



第74図 33号住居跡出土遺物(3)

34号住居跡

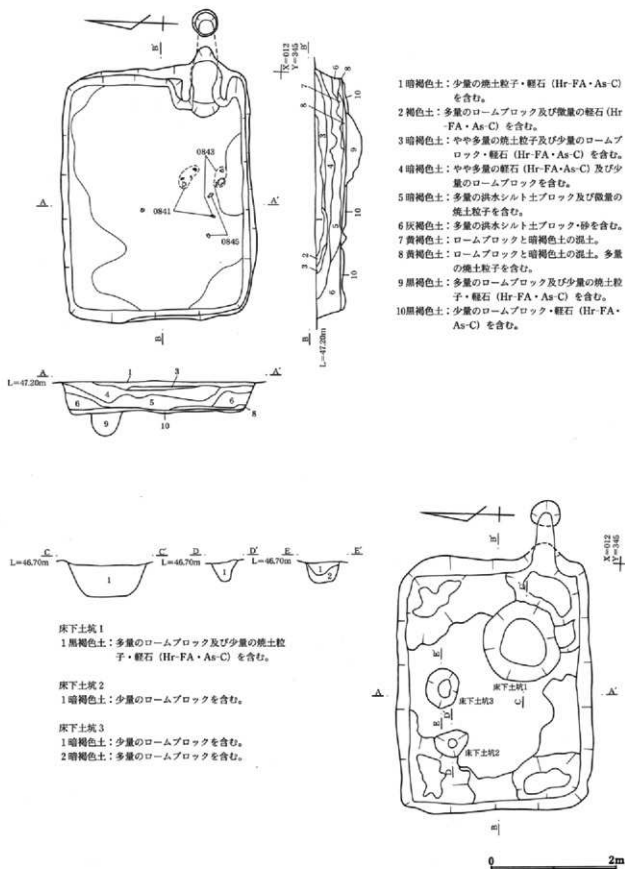
本住居跡は、19区のX=36.012・Y=-39.345付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.0～4.1m、南北約2.95～3.1mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-86°-Eである。

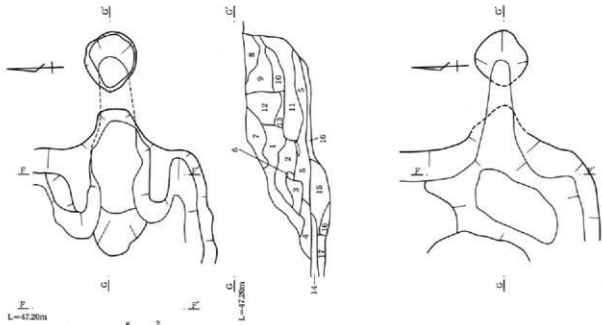
竈は、東壁南隅に構築されている。残存状態は良好であり、両袖と壁外の煙突部分も検出できた。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外

への張り出し約0.9m、煙道部先端の直径0.4mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認できなかったが、掘り方調査で3基の床下土坑を検出することができた。

遺物は、土師器杯(846)、須恵器杯(842・844)、須恵器椀(841)、須恵器蓋(843)、土師器甕(845)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第75図 34号住居跡、同掘り方



L=47.20m

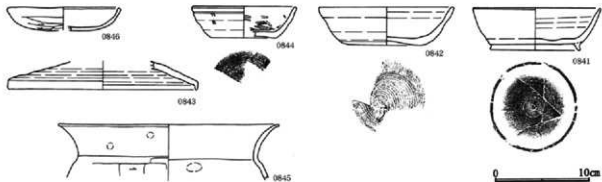
L=47.20m



0 1m

電

- 1 暗褐色土：少量の焼土粒子・ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黄褐色土：ローム主体。電網造材の崩れ。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量の暗褐色土を含む。
- 3 黄褐色土：ローム主体。電網造材の崩れ。多量の焼土小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土：1層と焼土の混土。少量の炭化物を含む。
- 5 暗褐色土：焼土・炭化物・灰の混土。
- 6 明黄褐色土：電網造材の崩れ。
- 7 暗褐色土：多量のロームブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 黄褐色土：ロームブロック主体。少量の焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 10 黄褐色土：洪水シルト土。煙道崩落に伴い崩れた土。
- 11 暗褐色土：多量の炭化物・灰及び少量の焼土ブロックを含む。
- 12 地山：煙道部天井としての地山の掘り残し。
- 13 赤褐色土：2層の焼けた土。
- 14 黒褐色土：粘質土。締まり強い。多量のロームブロックを含む。(貼床)
- 15 黒褐色土と黄褐色ロームの混土。
- 16 黄褐色土：ローム主体。少量の暗褐色土ブロックを含む。
- 17 暗褐色土：多量のロームブロックを含む。床下土坑1の覆土。
- 18 黄褐色土：ローム主体。被熱して硬化している。
- 19 黄褐色土：ローム主体。電柱。
- 20 暗褐色土：少量のローム粒子・黒褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。



第76図 34号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物

35号住居跡

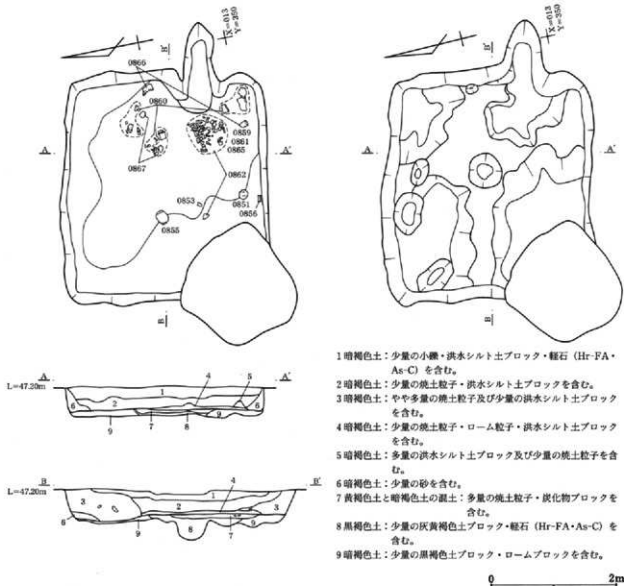
本住居跡は、19区のX=36.012・Y=-39.350付近で検出された。96号土坑と重複する。新旧関係は、同土坑が、本住居跡の南西部の壁・床の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約3.6～3.7m、南北約3.15～3.3mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-97-Eである。

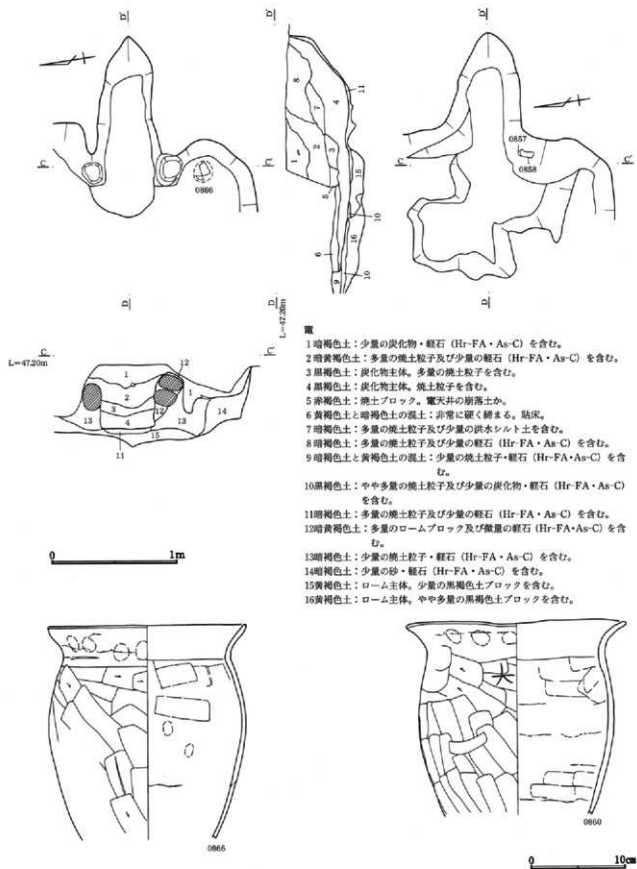
竈は東壁南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.8mである。竈の袖には石が用いられており、両

袖に据えられた状態で検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、床下から土坑状落ち込み、ピット状落ち込みを検出することができた。

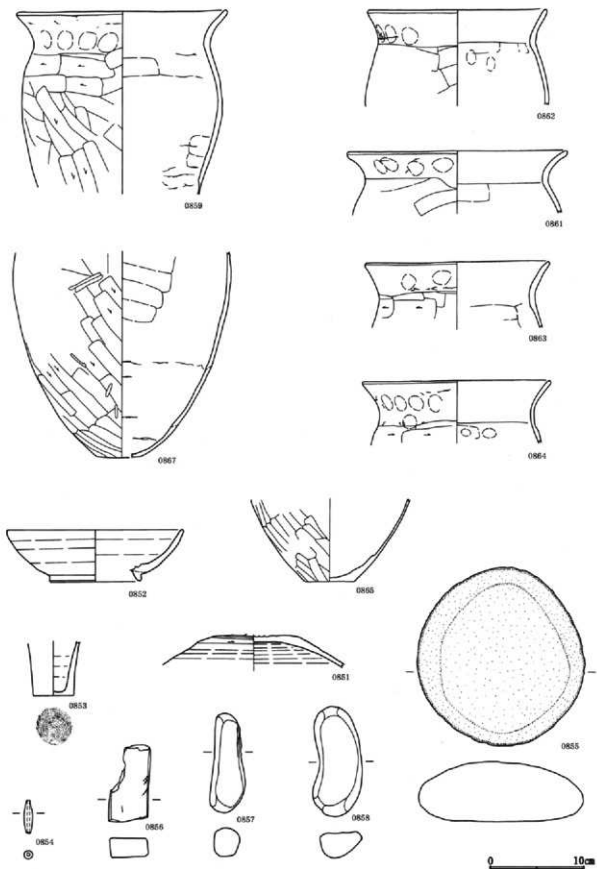
遺物は須恵器椀(852)、須恵器蓋(851)、須恵器升(853)、土師器甕(859・860・861・862・863・864・865・866・867)、土製品鍾(854)、石製品(855・856・857・858)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第77図 35号住居跡、同掘り方



第78図 35号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物(1)



第79図 35号住居跡出土遺物(2)

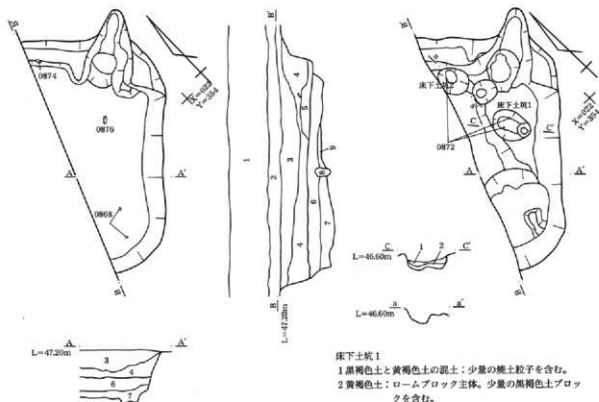
36号住居跡

本住居跡は、19区のX=36.022・Y=-39.354付近で検出された。37号住居跡と重複する。新旧関係は、不明である。

本住居跡の規模は、北西部の約1/3が調査区域外のため確定できないが、南北は約3.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-47°-Eである。本住居跡の東壁には中段があり、中段までの規模は南北約3.3mである。中段のあることから、本住居跡・竈は建てかえた可能性が考えられる。

竈は、北壁の東よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.5mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認することができなかった。掘り方調査では、2基の床下土坑が確認でき、竈燃焼部からも土坑状落ち込みを確認することができる。

遺物は、土師器杯(871)、須恵器杯(868・869・870)、土師器壺(872・873・874・875)、石製品(876)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。



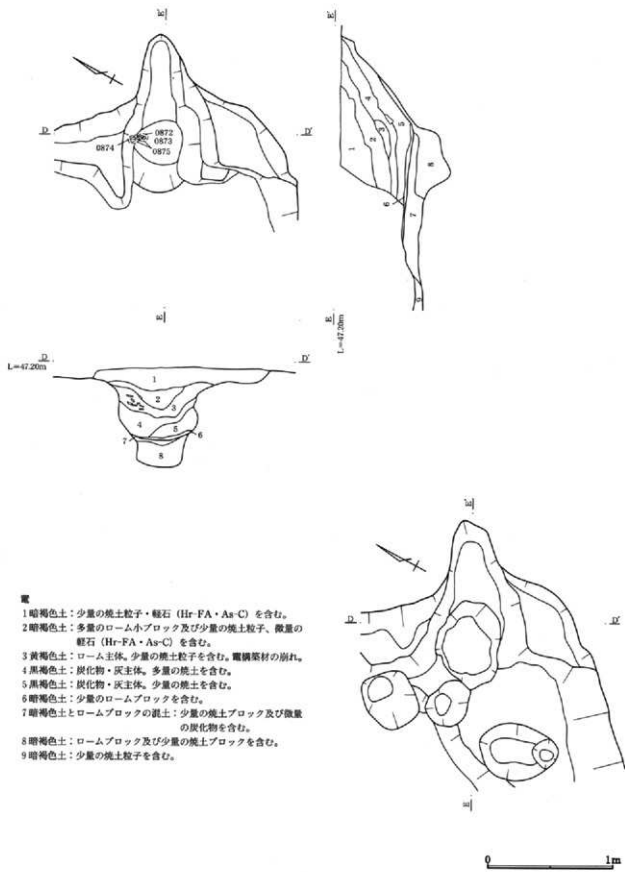
1 表土

- 2 暗褐色土：少量の洪水シルト土ブロック・小礫・焼土粒子・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 3 暗褐色土：少量のロームブロック・小礫・焼土粒子・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 4 暗褐色土：微量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 5 暗褐色土：少量の洪水シルト土ブロック・砂を含む。
- 6 暗褐色土：少量の焼土ブロック・炭化物・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 7 黒褐色土と黄褐色土の混土：締まりやや有り。
- 8 覆瓦

床下土坑1

- 1 黒褐色土と黄褐色土の混土：少量の焼土粒子を含む。
- 2 黄褐色土：ロームブロック主体。少量の黒褐色土ブロックを含む。

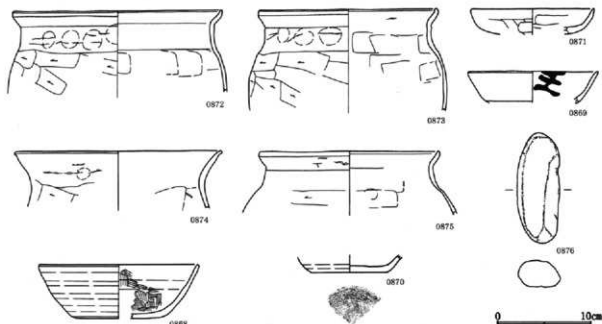
第80図 36号住居跡、同掘り方



-
- 1 暗褐色土：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 2 暗褐色土：多量のローム小ブロック及び少量の焼土粒子、微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 3 黄褐色土：ローム主体、少量の焼土粒子を含む。縄文層材の崩れ。
 - 4 黒褐色土：炭化物・灰主体。多量の焼土を含む。
 - 5 黒褐色土：炭化物・灰主体。少量の焼土を含む。
 - 6 暗褐色土：少量のロームブロックを含む。
 - 7 暗褐色土とロームブロックの混土：少量の焼土ブロック及び微量の炭化物を含む。
 - 8 暗褐色土：ロームブロック及び少量の焼土ブロックを含む。
 - 9 暗褐色土：少量の焼土粒子を含む。

第81図 36号住居跡電、同電掘り方

第1節 住居跡



第82図 36号住居跡出土遺物

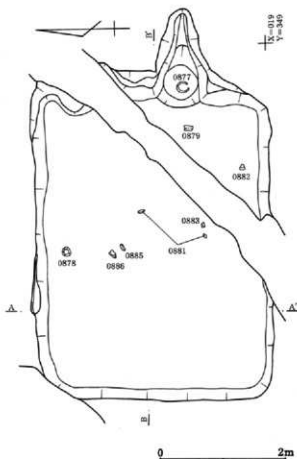
37号住居跡

本住居跡は、19区のX=36.019・Y=-39.349付近で検出された。36号住居跡、23号溝と重複する。36号住居跡との新旧関係は不明である。23号溝との新旧関係は、同溝が北東部から南西部にかけての壁・床の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約5.3～5.2m、南北約2.75～2.8mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-95°-Eである。本住居跡の竈の築かれている東壁には中段があり、中段までの規模は東西約4.9～5.0mである。中段のあることから、本住居跡・竈は建てかえた可能性が考えられる。

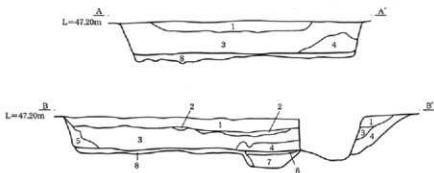
竈は、東壁やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.55m、煙道部の壁外への張り出し約1.0mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、住居中央部から床下土坑を検出することができた。

遺物は、土師器杯(880・881・884)、須恵器杯(878・882・883)、土師器鉢(877)、土師器甕(879)、石製品(885・886)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀中葉～後半である。

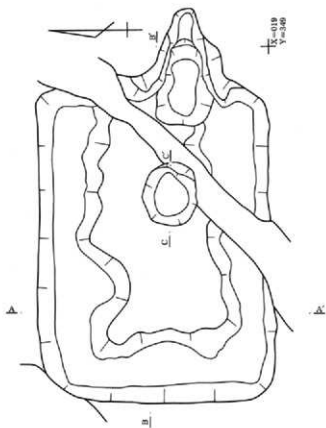


第83図 37号住居跡

第二章 発見された遺構・遺物



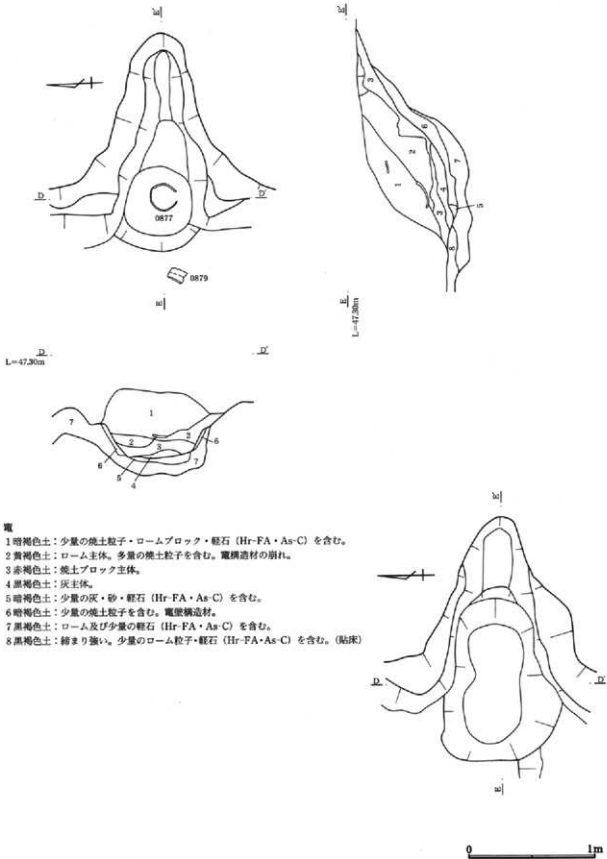
- 1 暗褐色土：少量の焼土粒子・小礫・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 2 暗褐色土：多量の炭化物粒子及び少量の焼土粒子・ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土：炭化物粒子及び少量の焼土粒子・ロームブロックを含む。
- 4 暗褐色土：多量の砂及び少量のロームブロック・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 5 暗褐色土：多量の地山黒褐色土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：多量のロームブロック及び少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 7 暗褐色土と黄褐色土の混土：締まり有り。
- 8 暗褐色土と黄褐色土の混土。



床下土坑
1 暗褐色土と黄褐色土の混土。

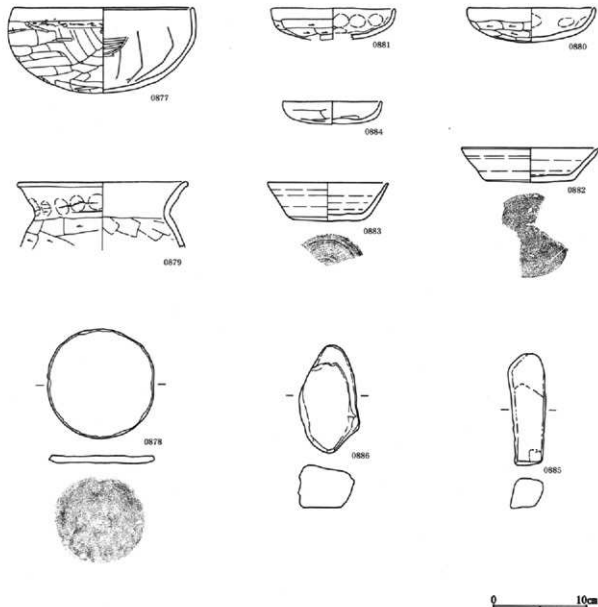


第84図 37号住居跡掘り方



第85図 37号住居跡電、同電掘り方

第二章 発見された遺構・遺物



第86図 37号住居跡出土遺物

38号住居跡

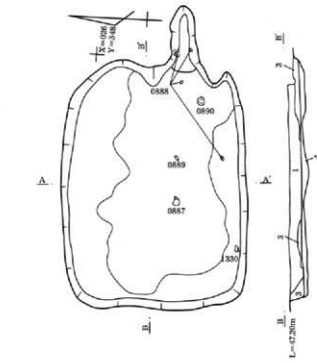
本住居跡は、19区のX=36.026・Y=-39.348付近で検出された。23号溝と重複する。新旧関係は、同溝の覆土中に本住居跡の竈が築かれていることから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、東西約3.6～3.9m、南北約2.8～2.95mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-89°-Eである。

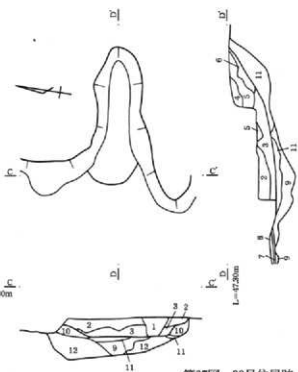
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での

規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約1.0mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、床下から多くのビット状落ち込みを検出することができた。

遺物は、須恵器碗(889)、灰軸陶器壺(887)、土師器甕(888)、石製品(890)、鉄滓(1330)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



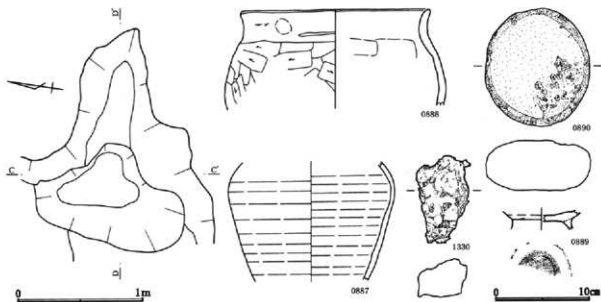
- 1 暗褐色土：多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のロームブロック・小礫を含む。
- 2 暗褐色土：少量の黒褐色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土：少量のロームブロック・小礫を含む。
- 4 黒褐色土：多量の軽石 (Hr-FA・As-C)・洪水シルト土ブロック・砂及び少量の焼土粒子を含む。



- 電
- 1 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 2 暗褐色土：少量の炭化物粒子・ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 3 黄褐色土：ローム主体。少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。崩落した電構造材。
 - 4 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 5 赤褐色土：焼土ブロック主体。少量のロームブロックを含む。
 - 6 暗褐色土：少量の焼土ブロックを含む。
 - 7 暗褐色土：硬く締まる。多量のローム小ブロックを含む。(貼床)
 - 8 黄褐色土：硬く締まる。ローム主体。灰を含む。(貼床)
 - 9 黒褐色土：少量の焼土粒子・ローム粒子・洪水シルト土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 10 黄褐色土：ローム主体。少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 11 赤褐色土：多量の焼土粒子及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 12 黒褐色土と黄褐色土の混土：多量のロームブロックを含む。



第87図 38号住居跡、同掘り方、同電



第88図 38号住居跡電掘り方、同出土遺物

39号住居跡

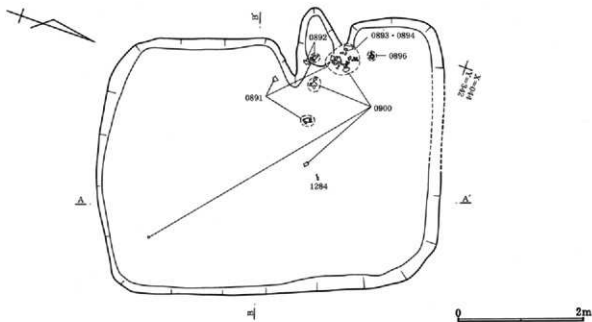
本住居跡は、19区のX=36.044・Y=-39.342付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.05～4.25m、南北約5.4～5.5mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-69°-Eである。

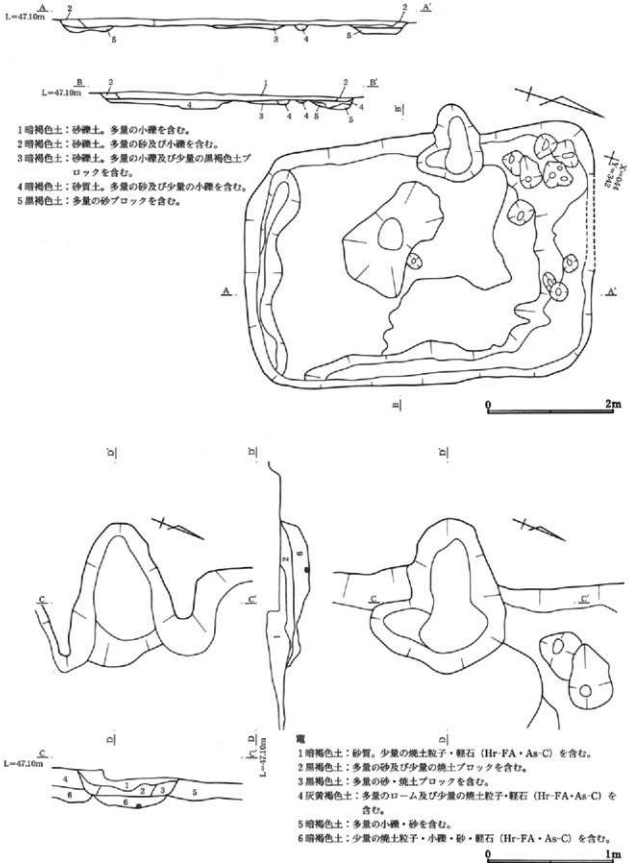
竈は、西壁の北よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.3mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は、検出す

ることができなかったが、掘り方調査で、南壁及び東壁に沿い溝状の落ち込みを確認することができた。また、北側部分からは多くのピット状落ち込みを検出することができた。

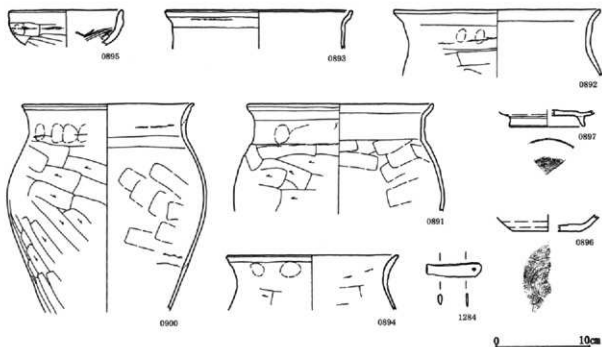
遺物は、土器器杯(895)、須恵器杯(896)、須恵器椀(897)、土器器甕(891・892・893・894・900)、鉄製品(1284)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。



第89図 39号住居跡



第90図 39住居跡掘り方、同電、同電掘り方



第91図 39号住居跡出土遺物

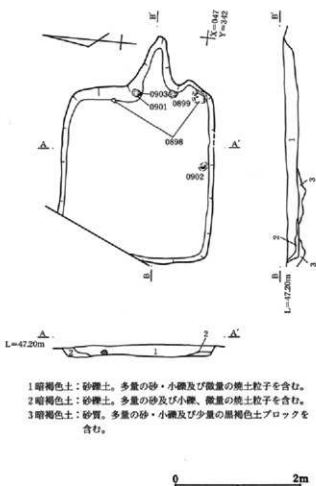
40号住居跡

本住居跡は、19区のX=36.047・Y=-39.342付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、北西部分が調査区域外のため確定できないが、東西約2.35～2.45m、南北約2.9mであり、縦長の隅丸長方形を呈する小型の住居跡である。主軸はN-83°-Eである。

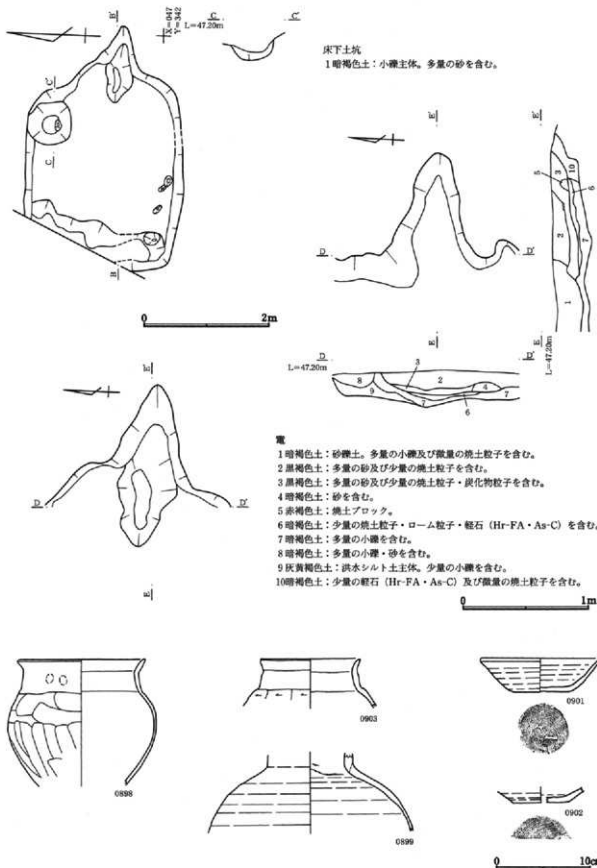
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.75mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認することができなかったが、掘り方調査で、北東隅から貯蔵穴の可能性が考えられる床下土坑が検出できた。規模は、直径約0.7m、確認面からの深さ約0.2mであり、平面形は、不整形な円形を呈する。

遺物は、須恵器杯 (901・902)、須恵器壺 (899)、土師器壺 (898)、土師器台付壺 (903) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。



- 1 暗褐色土：砂礫土。多量の砂・小礫及び微量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土：砂礫土。多量の砂及び小礫、微量の焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土：砂質。多量の砂・小礫及び少量の黒褐色土ブロックを含む。

第92図 40号住居跡



第93図 40号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物

41号住居跡

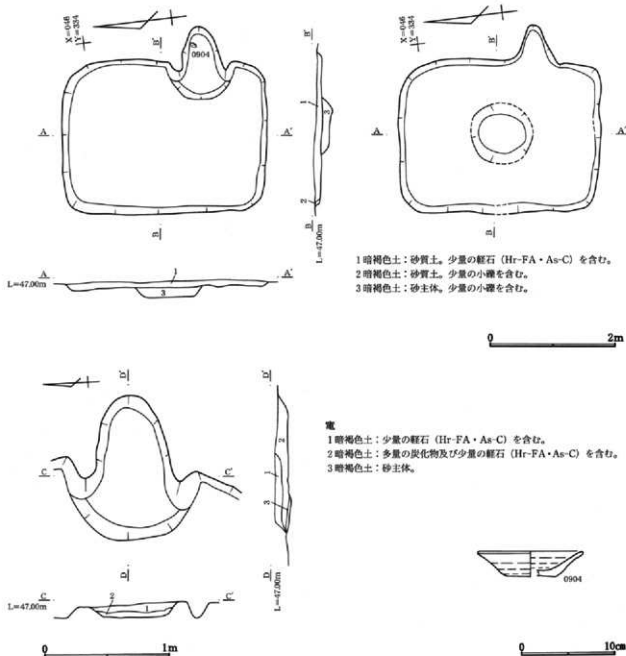
本住居跡は、19区のX=36.046・Y=-39.334付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約2.3~2.5m、南北約3.15~3.25mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-95°-Eである。

竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.55mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出す

ることができなかった。掘り方調査では、住居中央から床下土坑を検出することができた。規模は、直径約1.0m、床面からの深さ約0.25mであり、平面形は円形を呈する。

遺物の出土は少ないが、竈内から土師器杯(904)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。



第94図 41号住居跡、同掘り方、同竈、同出土遺物

42号住居跡

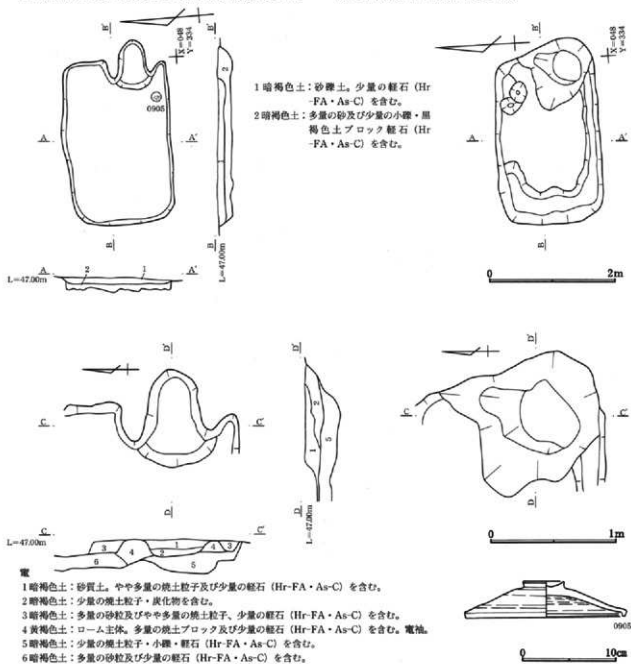
本住居跡は、19区のX=36.048・Y=-39.334付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約2.5～2.6m、南北約1.65～1.75mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する小型の住居跡である。主軸はN-91°-Eである。

竈は、東壁南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.35m、煙道部の壁外への張り出し約0.3mである。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝

は検出することができなかった。掘り方調査では、南壁から西壁に沿い、壁溝と考えることも可能な溝状の落ち込みを検出することができた。また、北東隅からは、貯蔵穴と考えることも可能なビット状落ち込みを2基検出することができた。

遺物の出土は少ないが、南東隅付近から須恵器蓋(905)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。



第95図 42号住居跡、同掘り方、同竈、同電掘り方、同出土遺物

43号住居跡

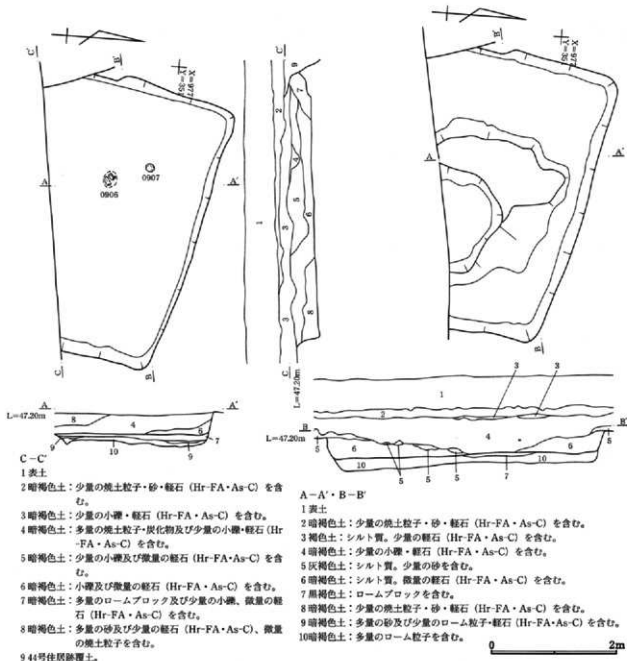
本住居跡は、19区のX=35.977・Y=-39.351付近で検出された。44号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の西壁の一部が、44号住居跡の東壁によって破壊されていることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、南側部分が現在の水路により調査不能のため確定できないが、東西約4.35~4.5mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈

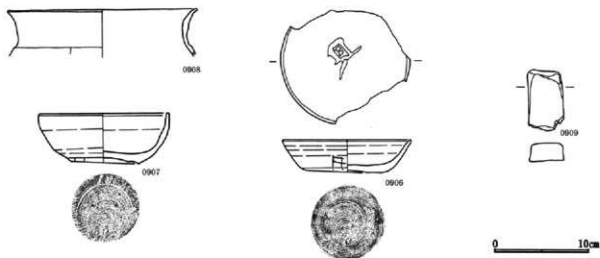
すると推測される。

竈は、調査不能区域にあつたものと考えられる。調査範囲内で、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、中央部分から土坑状の落ち込みを検出することができた。

遺物は、須恵器杯(906・907)、土師器甕(908)、石製品砥石(909)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第96図 43号住居跡、同掘り方



第97図 43号住居跡出土遺物

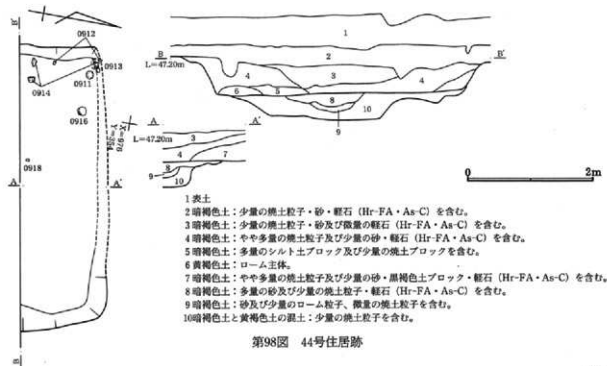
44号住居跡

本住居跡は、19区のX=35.976・Y=-39.354付近で検出された。43号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の東壁が、43号住居跡の西壁の一部を破壊して築かれていることから、本住居跡の方が新しい。

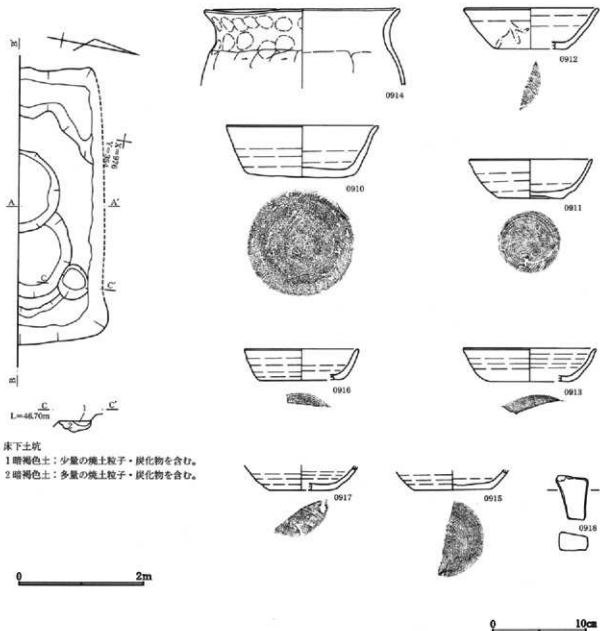
本住居跡の規模は、南側部分が現在の水路により調査不能のため確定できないが、東西約4.35~4.55mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。

竈は、調査不能区域に築かれていたものと推定される。調査範囲から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、床下土坑を検出することができた。

遺物は、須恵器杯(910・911・912・913・915・916・917)、土師器甕(914)、石製品砥石(918)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第98図 44号住居跡



第99図 44号住居跡掘り方、同出土遺物

45号住居跡

本住居跡は、4区のX=36.091・Y=-39.392付近で検出された。他の遺構との重複はない。

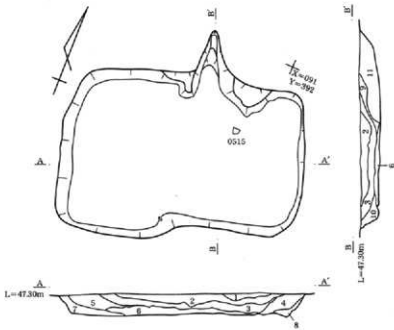
本住居跡の規模は、東西約3.6~3.9m、南北約2.35~2.65mであり、平面形は不整形な横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-18°-Wである。

竈は、北壁の中央に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.75mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は、検出で

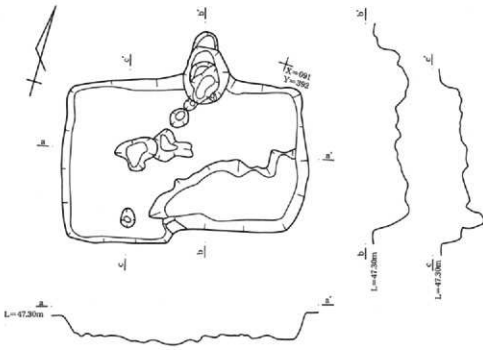
きなかった。掘り方調査で土坑状、ビット状の落ち込みがいくつか検出されたが、いずれも柱穴・貯蔵穴とは考えられない。

遺物は、須恵器壺(515)、土鍾(516・517・518・519・520)、鉄製品刀子(1321)等が出土している。本住居跡からは、土鍾が集中的に出土しているのが特徴である。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。

第1節 住居跡

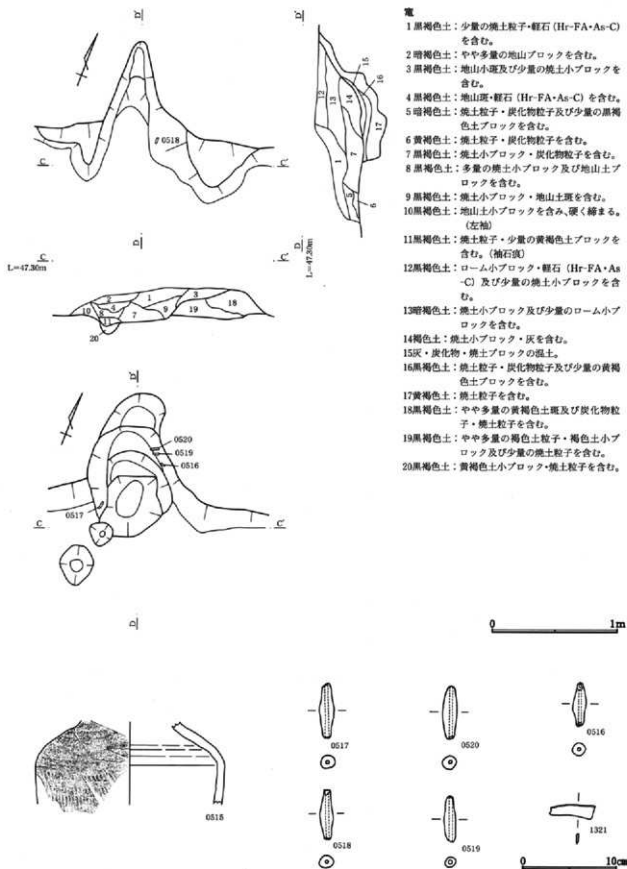


- 1 黒褐色土：褐色土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：褐色土小ブロック・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 暗褐色土：多量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土を含む。
- 4 黒褐色土：多量の褐色土斑及び炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：やや多量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 黒褐色土：炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の褐色土斑を含む。
- 7 黒褐色土：炭化物粒子・褐色土斑・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 9 黒褐色土：炭化物粒子・褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 10 褐色土：炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 11 竪断面図参照



第100図 45号住居跡、同掘り方

第二章 発見された遺構・遺物



第101図 45号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物

46号住居跡

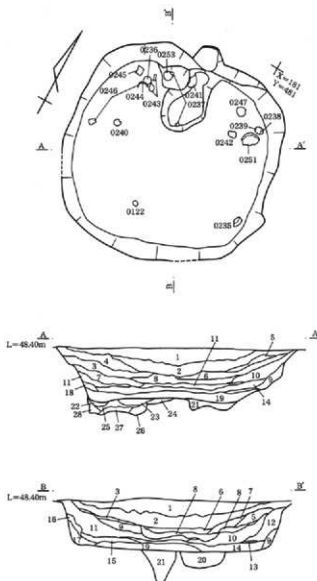
本住居跡は、5区のX=36.181・Y=-39.481付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約3.0～3.4m、南北約3.2mであり、平面形は不整形な、丸みを帯びた、隅丸方形を呈する。主軸はN-13°-Wである。

竈は、北壁中央に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.35m、煙道部の壁外への張り出し約0.2mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出するこ

とができなかった。掘り方調査では、床下から多くの土坑状、ピット状の落ち込みが検出できた。

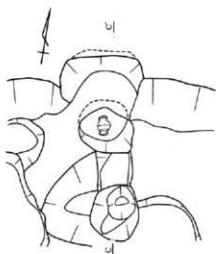
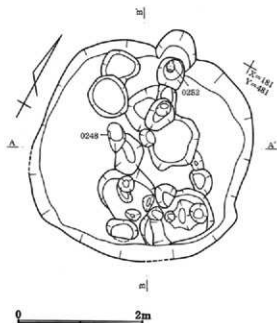
遺物は、土師器杯(250)、須恵器杯(121・234・235・236・237・238・239・240・241・242・243・244・245・246)、須恵器椀(122・247)、須恵器皿(248)、須恵器鉢(251)、須恵器蓋(249)、土師器甕(123)、土師器台付甕(252・253)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。



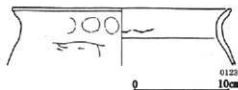
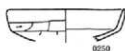
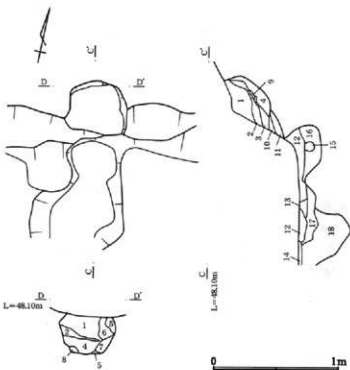
- 1 桃間B軽石(Hr-FA・As-C)ユニット
- 2 黒褐色土:炭化物・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 3 黒褐色土:洪水層主体。少量の焼土粒子を含む。
- 4 黒褐色土:焼土粒子・炭化物粒子及び少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 5 黒褐色土:炭化物の粗粒を含む。
- 6 暗褐色土:焼土粒子・炭化物粗粒及び少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 7 黒褐色土:少量の軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 8 暗褐色土:汚れた洪水層。少量の焼土粒子を含む。
- 9 暗褐色土:汚れた洪水層。
- 10 黒褐色土:洪水層主体。
- 11 黒褐色土:洪水層主体。ローム粒子を含む。
- 12 暗褐色土:汚れた洪水層。焼土粒子・炭化物を含む。
- 13 暗褐色土:ロームと洪水層の混土。焼土粒子・炭化物を含む。
- 14 暗褐色土:ロームと洪水層の混土。多量の焼土粒子及び炭化物を含む。
- 15 暗褐色土:汚れた洪水層。ローム小ブロックを含む。
- 16 暗褐色土:汚れた洪水層。少量の炭化物を含む褐色土を含む。
- 17 黒褐色土:崩れたローム漸移層。少量の炭化物を含む。
- 18 黒褐色土:崩れた洪水層ブロック。
- 19 暗褐色土:多量のローム小ブロック及び焼土粒子・炭化物を含む。
- 20 黒褐色土:少量のローム小ブロック・洪水層小ブロックを含む。
- 21 黒褐色土:多量のローム小ブロックを含む。
- 22 黒褐色土:洪水層主体。クロボク土ブロックを含む。
- 23 黒褐色土:ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子を含む。
- 24 黒褐色土:少量のローム小ブロックを含む。
- 25 黒褐色土:やや多量のローム小ブロックを含む。
- 26 黒褐色土:ローム小ブロックを含む。
- 27 褐色土:崩れたロームと洪水層の混合。
- 28 黒褐色土:ロームブロック・クロボク土ブロックを含む。

第102図 46号住居跡

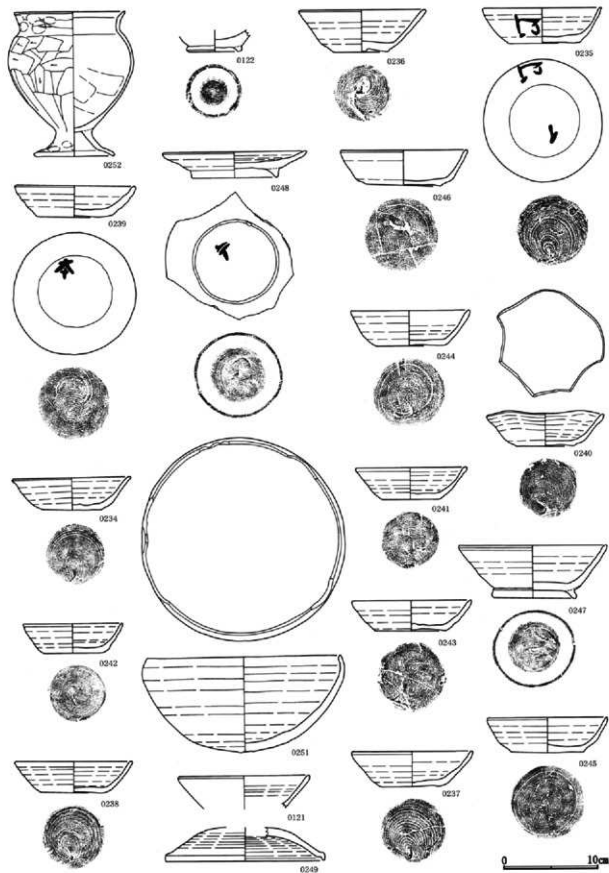
第二章 発見された遺構・遺物



- 電
- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・軽石 (Hr-FA-As-C) を含む。
 - 2 褐色土：構築材の崩れ。焼土ブロックを含む。
 - 3 褐色土：構築材の崩れ。
 - 4 黒褐色土：多量の炭化物及び焼土小ブロックを含む。
 - 5 黒褐色土：焼土粒子・軽石 (Hr-FA-As-C) を含む。硬く締まる。
 - 6 褐色土：構築土主体。焼土ブロックを含む。
 - 7 暗褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量の電機築土小ブロックを含む。
 - 8 暗褐色土：少量の電機築土小ブロックを含む。
 - 9 焼土ブロック
 - 10 褐色土：ロームブロック主体。洪水層土を含む。
 - 11 炭化物・焼土ブロック・灰の混合。
 - 12 黒褐色土：多量のロームブロック及び炭化物を含み、圧縮されている。(貼床)
 - 13 暗褐色土：焼土ブロック・炭化物を含む。
 - 14 褐色土：圧縮されているローム。(貼床)
 - 15 ロームブロック：一部赤変。
 - 16 暗褐色土：赤変したロームブロックを含む。
 - 17 黒褐色土：焼土ブロック・ローム粒子及び少量の炭化物を含む。
 - 18 黒褐色土：少量のローム小ブロック・焼土小ブロックを含む。



第103図 46号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物(1)



第104図 46号住居跡出土遺物2)

48号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.193・Y=-39.452付近で検出された。他の遺構との重複はない。

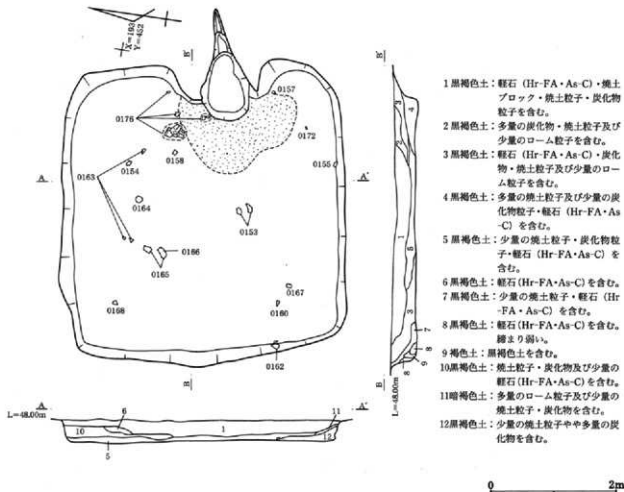
本住居跡の規模は、東西約4.5~4.7m、南北約4.5mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN78°Eである。

電は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面で規模は、燃焼部の幅約0.7m、煙道部の壁外への張り出し約0.85mである。床面からは、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかったが、掘り方調査で、電右、南東隅近くから貯蔵穴と推定できる床下土坑2が検出された。規模は長軸約0.7m、短軸約0.55m、床面からの深さ約0.4mであり平面形は楕円形を呈する。

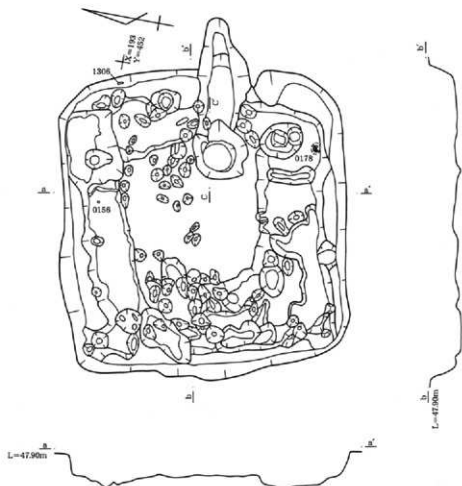
また、掘り方調査では多くの土坑状・ピット状の落ち込みを検出することができた。特に、電手前の

床下土坑1の覆土中からは、多量の灰・炭化物・焼土が検出され、電構築材に使用された粘質ロームも確認できた。規模は長軸約1.0m、短軸約0.85m、床面からの深さ約0.8mである。平面形は、不定形を呈し、土坑中段が張り出している断面形を呈する。灰掻き坑と考えることが可能である。

遺物は、土師器杯(174・175)、須恵器杯(153・155・156・157・158・159・160・166・167・168)、須恵器椀(161・162・164)、須恵器把手付碗(163)、須恵器鉢(169・170)、須恵器皿(172)、須恵器盤(173)、須恵器蓋(165・171)、土師器壺(176・177)、土師器台付壺(178)、鉄製品刀子(1306)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半~中葉である。



第105図 48号住居跡



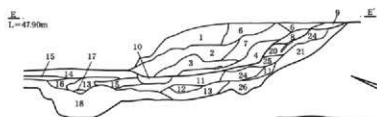
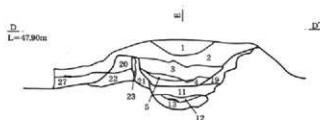
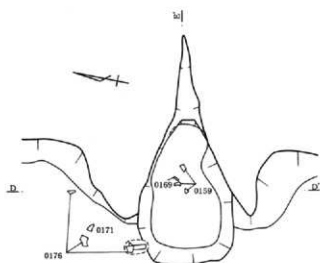
床下土坑

- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。硬く締まる。
- 2 羅漢瓦土と暗褐色土の混合層：焼土粒子を含む。
- 3 炭化物の縞状堆積層：ローム・焼土の水平圧縮層が挟まる。
- 4 ロームと暗褐色土の混合層。
- 5 黒褐色土：ローム小ブロック・炭化物を含む。
- 6 暗褐色土：多量の炭化物及び少量の焼土小ブロック・ローム小ブロックを含む。
- 7 暗褐色土：炭化物及び少量の焼土小ブロック・ローム小ブロックを含む。
- 8 暗褐色土：焼土小ブロック及び少量のローム小ブロックを含む。
- 9 黒色灰・焼土小ブロック・ローム小ブロックの混合層。
- 10 ローム小ブロック層：黒褐色土を含む。

0 2m

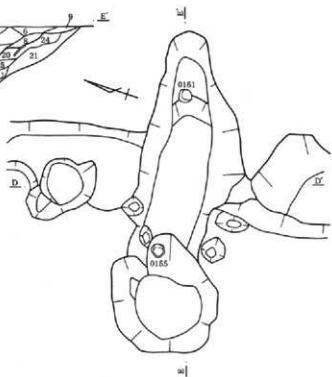
第106図 48号住居跡掘り方

第II章 発見された遺構・遺物

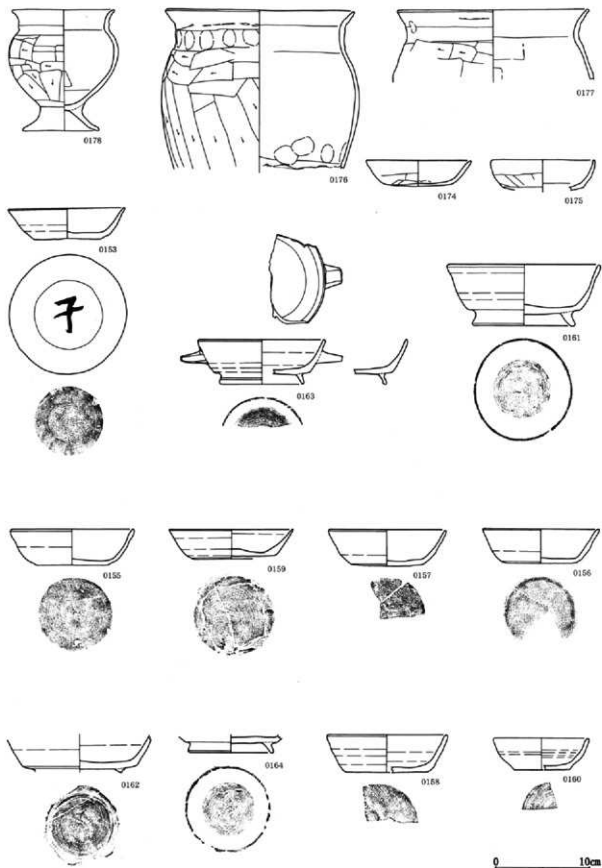


■

- 1 暗褐色土：構築土小ブロック・炭化物及び少量の焼土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土：焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物及び構築土を含む。
- 3 暗褐色土：構築土の崩れ。焼土小ブロックを含む。
- 4 焼土ブロック主体。構築土ブロックを含む。
- 5 構築土の崩れ。
- 6 暗褐色土：構築土主体。
- 7 暗褐色土：構築土ブロック主体。一部赤変。
- 8 構築土ブロックと焼土ブロックの混入。
- 9 赤変した構築土。
- 10 灰層
- 11 灰層：焼土ブロックを含む。
- 12 黒褐色土・焼土・灰・ローム小ブロックの混入。
- 13 黒褐色土・焼土・灰の混入。ローム粒子を含む。
- 14 暗褐色土：多量の炭化物・焼土粒子を含む。
- 15 灰・焼土・ロームの混入土の織状層（水平圧縮されている）。
- 16 暗褐色土：少量の焼土ブロック・ローム粒子を含む。
- 17 炭化物層
- 18 黒褐色土：微量の焼土粒子・ローム粒子を含む。
- 19 暗褐色土：焼土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 20 暗褐色土：やや多量の焼土粒子及び重構築土・軽石（Hr・FA・As・C）を含む。
- 21 褐色土：重構築土がやや赤変。軽石（Hr・FA・As・C）を含む。
- 22 暗褐色土：焼土小ブロック・軽石（Hr・FA・As・C）を含む。
- 23 樫乱：木の根
- 24 焼土ブロックの集合。
- 25 灰と焼土ブロックの混入。
- 26 暗褐色土：焼土粒子・灰を含む。
- 27 暗褐色土：焼土小ブロック・炭化物及び構築土斑を含む。

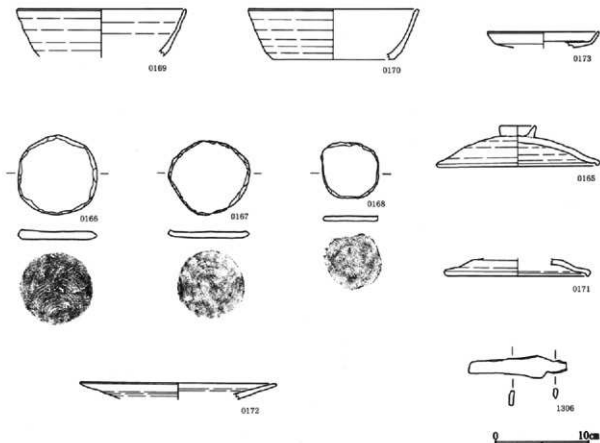


第107図 48号住居跡電、電掘り方



第108図 48号住居跡出土遺物(1)

第II章 発見された遺構・遺物



第109図 48号住居跡出土遺物(2)

49号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.185・Y=-39.450付近で検出された。他の遺構との重複はない。

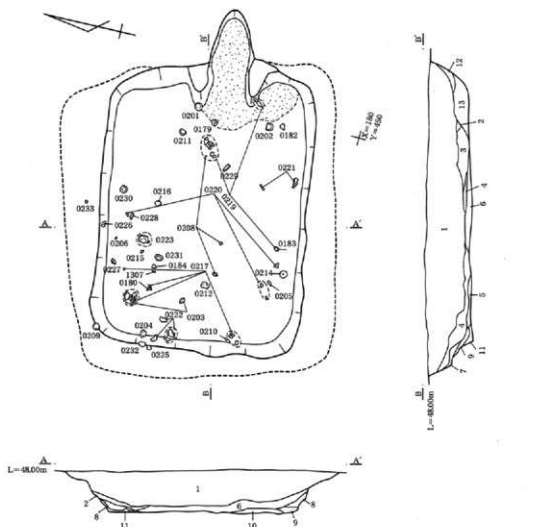
本住居跡の規模は、東西約4.3~4.5m、南北約3.3mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-82°-Eである。

竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.8mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認できなかったが、掘り方調査で、南東隅から貯蔵穴と推定される床下土坑2が検出された。規模は、長軸約0.65m、短軸約0.5m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

また、掘り方調査では多くの土坑状・ピット状落ち込みを検出できた。ピット状落ち込みを柱穴と考えるには、その形態、住居内の位置等から難がある。

住居内の中央からは、多量の炭化物・焼土を含む床下土坑1が検出できた。規模は、上段で長軸1.75m、短軸約1.4mであり、下段で長軸約0.75m、短軸約0.4mであり、全体の床面からの深さは約0.45mである。平面形は、上段が不整形な長方形、下段が不整形な楕円形を呈する。この床下土坑の用途は不明である。

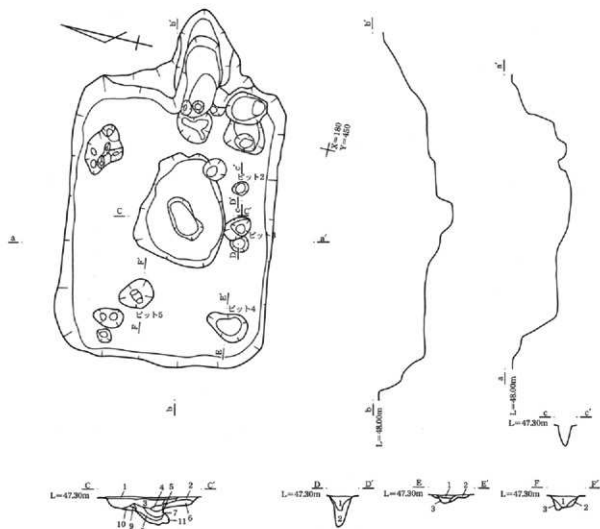
遺物は、須恵器杯(154・200・201・202・203・204・205・206・207・208・211・216・225・226)、須恵器椀(179・180・209・210・212・213)、須恵器把手付椀(224)、土師器鉢(215)、須恵器鉢(217)、須恵器蓋(214・218)、須恵器壺(227)、須恵器羽釜(223)、土師器甕(181・182・219・220・221・222)、土師器台付甕(183・184)、鉄製品刀子(1307)、鉄滓(228)、石製品(229・230・231・232・233)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



- 1 黒褐色土：やや多量の焼土・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：挟層物無し。
- 3 黒褐色土：焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物・電機煉土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土：焼土粒子・少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 6 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土：洪水層の崩れ。
- 8 黒褐色土：炭化物粒子を含む。
- 9 黒褐色土：ローム粒子を含む。
- 10 暗褐色土：多量のローム粒子及び褐色土を含む。
- 11 暗褐色土：ローム粒子・褐色土を含む。
- 12 黒褐色土：少量の焼土粒子を含む。(覆土)
- 13 黒褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。(覆土)

0 2m

第110図 49号住居跡



床下土坑

- 1 暗褐色土：多量の焼土粒子・炭化物及びローム粒子を含む。硬く締まる。
- 2 黒褐色土：焼土粒子・洪水土小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土：多量の焼土粒子・炭化物及び少量のロームを含む。
- 5 暗褐色土：焼土小ブロック・ロームを含む。
- 6 暗褐色土：多量の炭化物及びやや多量のロームを含む。
- 7 暗褐色土：少量のロームを含む。
- 8 黒褐色土：やや多量のロームを含む。
- 9 暗褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 10 暗褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 11 暗褐色土：ロームを含む。

ピット3

- 1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土：多量のロームを含む。

ピット4

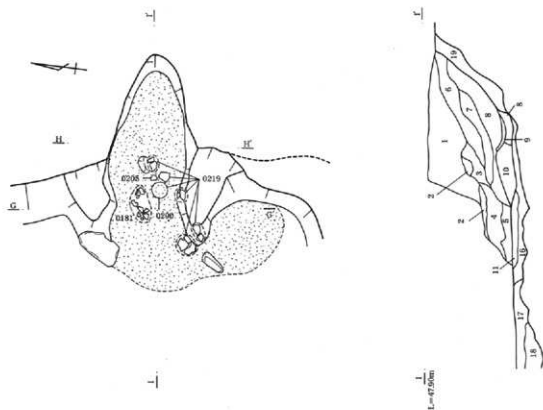
- 1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・ローム小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土：ローム小ブロック・ロームを含む。
- 3 暗褐色土：ローム小ブロックを含む。

ピット5

- 1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土：多量のロームを含む。
- 3 暗褐色土：多量のローム小ブロックを含む。

0 2m

第111図 49号住居跡掘り方

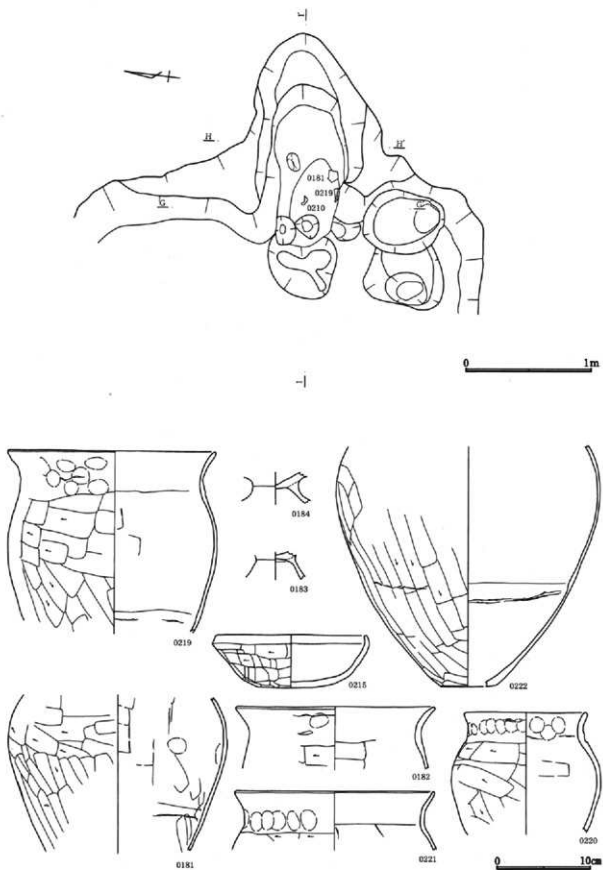


説

- 1 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物及びやや多量の洪水土を含む。
- 2 黒褐色土：多量の焼土粒子及び軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 3 黒褐色土：構築土の崩れた土主体。少量の焼土小ブロックを含む。
- 4 黒褐色土：多量の炭化物・灰を含む。
- 5 焼土・黒色灰の混合層
- 6 褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 7 暗褐色土と焼土小ブロックの混合
- 8 焼土ブロックの集合
- 9 灰
- 10 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物・洪水土を含む。
- 11 灰と焼土の混合層
- 12 褐色土：ローム（電柱）
- 13 黒褐色土：多量のローム（地山）ブロック及び焼土小ブロックを含む。
- 14 黒褐色土：多量のローム（地山）ブロックを含む。
- 15 暗褐色土：汚れたローム漸移層。
- 16 暗褐色土：ハードロームブロック及び少量の焼土小ブロックを含む。
- 17 黒褐色土：やや多量のハードロームブロック及び焼土粒子を含む。
- 18 褐色土：ハードロームブロックと黒褐色土との混合土。
- 19 焼土ブロック主体：黒褐色土を含む。
- 20 炭化物と灰の互層：部分的に焼土層を挟む。
- 21 黒褐色土：焼土粒子を含む。
- 22 暗褐色土：多量の焼土粒子・炭化物・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 23 黒褐色土：ローム粒子・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 24 暗褐色土：多量の焼土及びロームを含む。
- 25 黒褐色土：ロームブロックを含む。
- 26 黒褐色土：灰色灰・黒色灰・ロームブロックを含む。

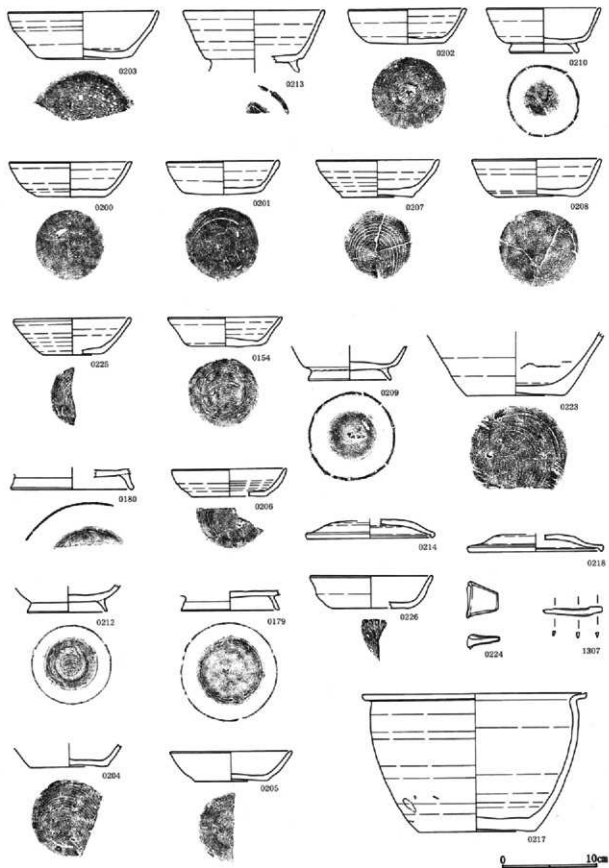
0 1m

第112図 49号住居跡電

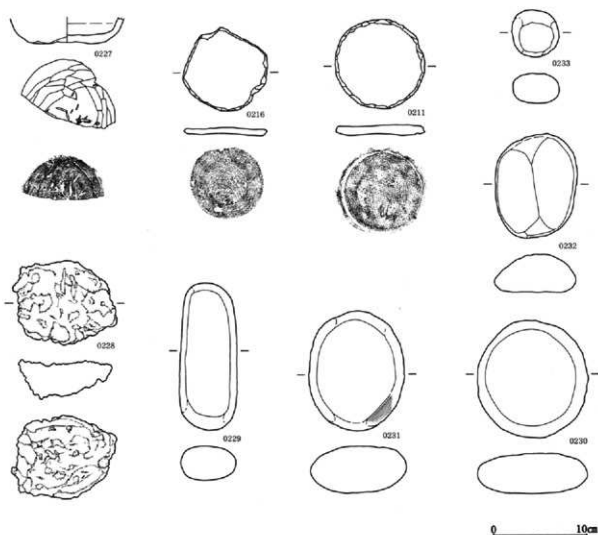


第113図 49号住居跡電掘り方、同出土遺物(1)

第1節 住居跡



第114図 49号住居跡出土遺物(2)



第115図 49号住居跡出土遺物(3)

50号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.184・Y=-39.470付近で検出された。他の遺構との重複はない。

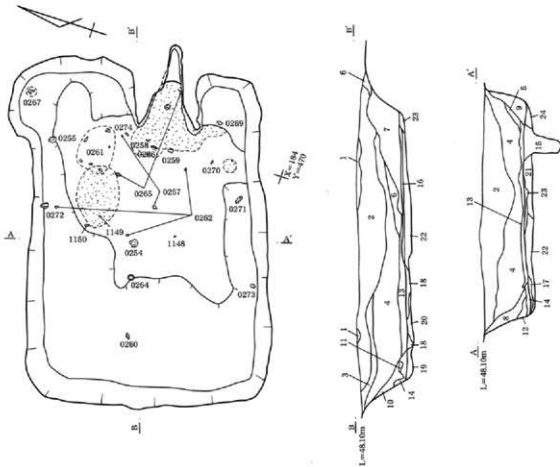
本住居跡の規模は、東西約5.2m～5.5m、南北約3.6～3.9mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈するが、北東隅に北側への張り出しを持つ。張り出しの規模は、東西約1.2m、南北約0.35mである。主軸はN-76°-Eである。

竈は、東壁中央のやや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.7m、煙道部の壁外への張り出し約0.4mである。竈燃焼部からは、支脚石が据えられた状態で検出できた。

床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は確認できなかった

が、掘り方調査で貯蔵穴と推定できる床下土坑1を、北東隅から検出できた。規模は、長軸約0.75m、短軸約0.55m、床面からの深さ約0.5mであり、上場の平面形は不整形な楕円形を呈する。また、下場では、長辺約0.6m、短辺約0.45mであり、平面形は不整形な長方形を呈する。

遺物は、土師器杯(261・262・263)、須恵器杯(254・255・256・257・258・259・265・266)、須恵器碗(260・264・274)、須恵器蓋(269)、土師器壺(267・268)、土製品錘(270・1148・1149・1150)、石製品(271・272・273)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀末～9世紀前半である。

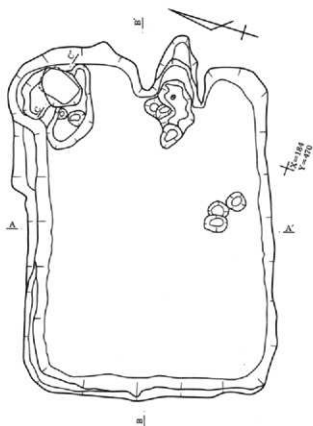


- 1 黒褐色土：As-B 及び少量の焼土粒子を含む。
- 2 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 3 黒褐色土：洪水土斑を含む。
- 4 黒褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。
- 5 黒褐色土：多量の洪水土斑を含む。
- 6 黒褐色土：竪溝底土・焼土ブロック・照色灰を含む。
- 7 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物及び洪水土斑を含む。
- 8 暗褐色土：洪水土粒子・洪水土斑を含む。
- 9 黒褐色土：やや多量の洪水土斑を含む。
- 10 黒褐色土：多量の洪水土斑を含む。
- 11 暗褐色土：地山土のブロック。
- 12 黒褐色土：多量の洪水土粒子及び炭化物粒子を含む。
- 13 暗褐色土：挟層物無し。
- 14 暗褐色土：ローム漸移層の崩れ。
- 15 黒褐色土：硬質砂質土小ブロックを含む。
- 16 黒褐色土：ローム小ブロック・炭化物・焼土を含み、塊状に硬く締まる。(粘床)
- 17 暗褐色土：崩れた二次堆積ローム。
- 18 黒褐色土：ローム小ブロック・炭化物を含む。
- 19 黒褐色土：少量の炭化物を含む。
- 20 ロームブロック層：黒褐色土を含む。
- 21 暗褐色土：ローム斑・硬質砂質土ブロックを含む。
- 22 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 23 黒褐色土：炭化物を塊状に含む。
- 24 暗褐色土：竪溝。

0 2m

第116図 50号住居跡

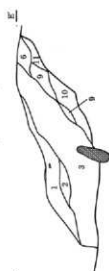
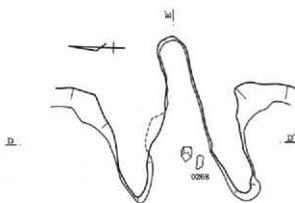
第二章 発見された遺構・遺物



床下土坑

- 1 ローム衝移層ブロックと褐色ロームブロックの混合層
- 2 炭水土ブロック主体：ロームブロック・黒褐色土ブロック・焼土小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土ブロックと褐色ロームブロックの混合層

0 2m



竈

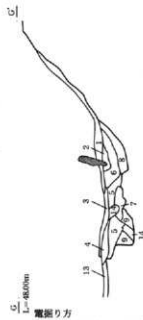
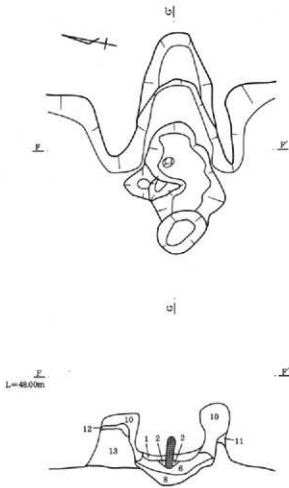
- 1 黒褐色土：電構築土小ブロック・焼土粒子・炭化物を含む。
- 2 黒褐色土：電構築土小斑を含む。
- 3 ぶい黄褐色土：天井・袖屑落土。焼土小ブロックを含む。
- 4 電構築土の崩れ。汚れている。
- 5 電構築土の崩れ。ブロック状。汚れている。
- 6 ぶい黄褐色土：焼土粒子を含む。
- 7 黒褐色土：多量の焼土粒子・電構築土小ブロック及び炭化物を含む。
- 8 黒褐色土：焼土小ブロック・電構築土小ブロックを含む。
- 9 焼土ブロックの集合
- 10 焼土ブロックと灰の混合層
- 11 黒褐色土（地山）

D
L=48.00m

E
L=48.00m

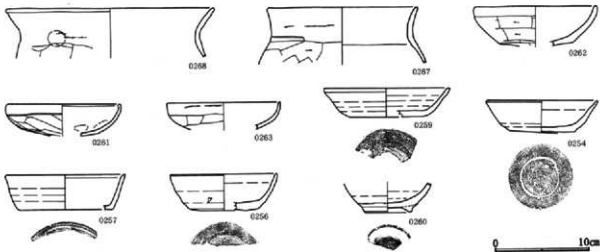
0 1m

第117図 50号住居跡掘り方、同竈

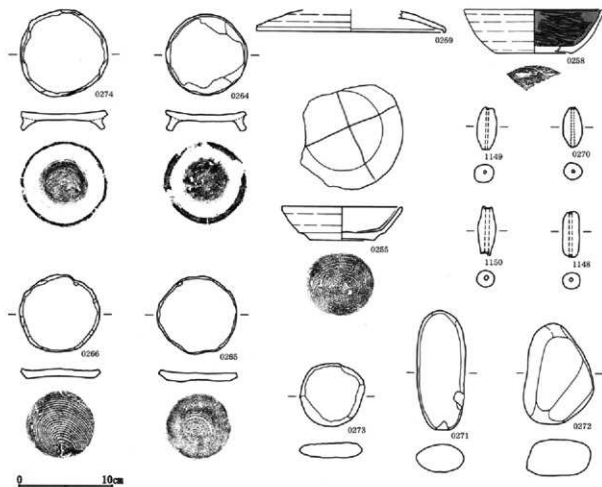


電掘り方

- 1 灰層：焼土ブロックを含む。
- 2 褐色土：支脚の支えに用いた粘質のローム。
- 3 電機築土・焼土・灰の積状堆積層
- 4 灰・焼土・ロームの積状堆積層
- 5 暗褐色土：ロームブロック・焼土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：電機築土ブロック中心。焼土ブロックを含む。
- 7 黒褐色土：ローム漸移層中心。焼土ブロック・ローム粒子を含む。
- 8 暗褐色土：やや多量の焼土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土：ロームブロックを含む。
- 10にふい黄褐色土：電軸。
- 11にふい黄褐色土と黒褐色土の混合土。
- 12黒褐色土：地山掘り残しの袖。
- 13ローム漸移層：地山掘り残しの袖。
- 14攪乱。



第118図 50号住居跡電掘り方、同出土遺物(1)



第119図 50号住居跡出土遺物(2)

51号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.191・Y=-39.465付近で検出された。52号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡が52号住居跡の南壁・東壁の一部を破壊していること、本住居跡の北側の壁・床が52号住居跡の南側の床上から検出されたことから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、東西約3.7m、南北約2.75~2.9mであり、平面形は、縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-70°-Eである。

竈は、東壁の中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約1.05mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、5基の土坑状・ビット状落ち込みを検出したが、そ

の形態、住居内の位置から柱穴・貯蔵穴とは考えにくい。

遺物は、須恵器杯(185・186)、須恵器皿(187・188)、土師器甕(189・190)、土師器台付甕(192)、須恵器羽釜(191)、須恵器甕(193)、鉄製品鏝(1315)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。

52号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.193・Y=-39.465付近で検出された。51号住居跡、53号住居跡と重複する。51号住居跡との新旧関係は、本住居跡の南壁・東壁の一部が51号住居跡の北側の壁床により破壊されていること、本住居跡の南側の覆土中から51号住

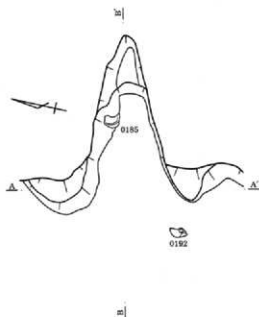
居跡の北側の壁・床の一部が検出されたことから、本住居跡の方が古い。53号住居跡との新旧関係は、本住居跡の北壁の一部を破壊して、53号住居跡南側の壁・床が築かれていること、本住居跡の北側の覆土中から53号住居跡南側の壁・床が検出されたことから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約3.0m、南北約3.1~3.15mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-80°-Eである。

竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.55m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では、住居内の中央部及び各隅から土坑状・ピット状の落ち込みが検出された。貯蔵穴の可能性が考えられるのは、南東隅のピットである。規模は、長軸約0.4m、短軸約0.3m、床面からの深さ約0.35mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は、須恵器碗（198・199）等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半~中葉である。

53号住居跡

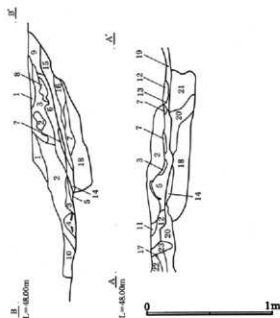


本住居跡は、5区のX=36.195・Y=-39.465付近で検出された。52号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の南側の壁・床の一部が、52号住居跡の北側の壁の一部を破壊して築かれていること、52号住居跡北側の覆土中から、本住居跡の南側の壁・床の一部が検出されたことから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、北側部分が調査区域外のため確定できないが、東西約4.5mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-82°-Eである。

竈は、東壁に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約1.15mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では、2基のピット状落ち込みが検出できた。南東隅のピット状落ち込みは、貯蔵穴の可能性が考えられる。規模は、長軸約0.5m、短軸約0.45m、床面からの深さ約0.4mであり、平面形は不定形である。

遺物は、須恵器碗（194・195）、土師器甕（196）、土師器台付甕（197）、等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉~後半である。

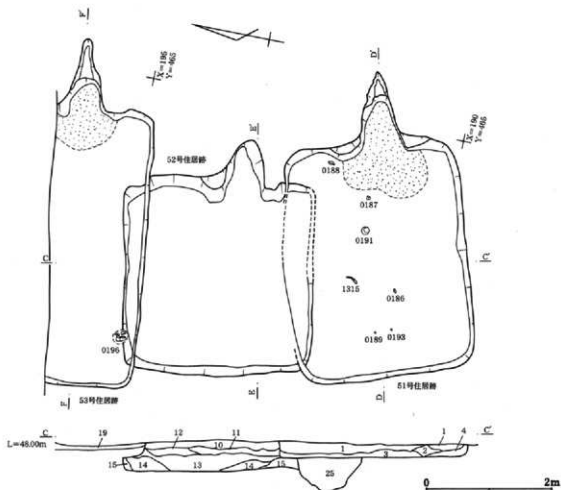
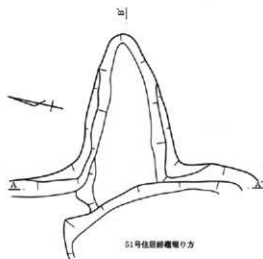


第120図 51号住居跡電

第二章 発見された遺構・遺物

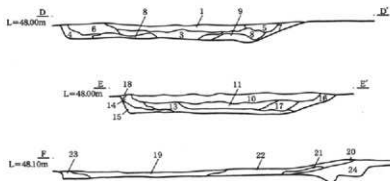
電

- 1 黒褐色土：電網築土斑を含む。
- 2 暗褐色土：電網築土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 3 黄褐色土：天井崩落土。焼土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土：電網築土斑・焼土・炭化物を含む。
- 5 黒色灰：焼土ブロックを含む。
- 6 焼土ブロックと褐色土（電網築土）の混合
- 7 焼土ブロック
- 8 暗褐色土：やや多量の焼土小ブロックを含む。
- 9 暗褐色土：焼土小ブロック・ローム小ブロックを含む。
- 10 暗褐色土：電網築土粒子・炭化物粒子及び少量の焼土粒子を含む。
- 11 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 12 褐色土：ローム。（電網築材）
- 13 暗褐色土：全体に赤変。
- 14 灰・炭化物層
- 15 焼土ブロック主体：黒褐色土・ロームブロックを含む。
- 16 黒褐色土：ローム粒子を含む。
- 17 黒褐色土：ローム斑を含む。
- 18 暗褐色土：焼土粒子・ローム粒子を含む。
- 19 黒褐色土：多量の褐色土斑及び焼土粒子を含む。
- 20 黒褐色土：ローム斑及び少量の炭化物を含む。
- 21 黒褐色土：ロームブロック・ローム斑・焼土小ブロックを含む。
- 22 黒褐色土：少量のローム斑を含む。
- 23 雑品



第121図 51号住居跡、52号住居跡、53号住居跡、51号住居跡電掘り方

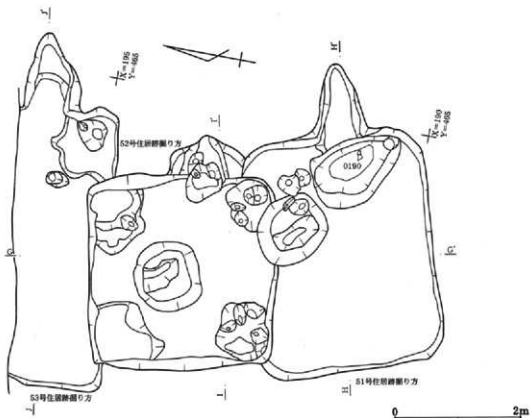
第1節 住居跡



- 1 黒褐色土：焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(51住)
- 2 黒褐色土：ローム斑及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(51住)
- 3 黒褐色土：焼土粒子及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(51住)
- 4 黒褐色土：少量の洪水土斑を含む。(51住)
- 5 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(51住)
- 6 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・洪水土斑を含む。(51住)

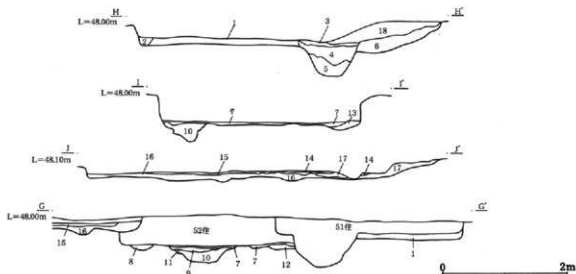
- 7 黒褐色土：焼土粒子・ローム斑・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(51住)
- 8 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・ローム斑を含む。(51住)
- 9 黒褐色土：多量のシルト質堆土斑及びローム小ブロックを含む。(51住)
- 10 黒褐色土：焼土粒子・炭化物及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(52住)
- 11 黒褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量の洪水土斑を含む。(52住)
- 12 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物・洪水土斑を含む。(52住)
- 13 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物及び微量の洪水土斑を含む。(52住)
- 14 黒褐色土：洪水土斑を含む。(52住)

- 15 黒褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(52住)
- 16 暗褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量のローム斑を含む。(52住)
- 17 暗褐色土：洪水土斑及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。(52住)
- 18 洪水土ブロック
- 19 黒褐色土：多量の炭化物を含む。(53住)
- 20 黒褐色土：やや多量の焼土ブロックを含む。(53住)
- 21 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物を含む。(53住)
- 22 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物及び少量のローム斑・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(53住)
- 23 黒褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(53住)
- 24 覆層土 (53住)
- 25 床下土坑 (51住)



第122図 51号住居跡掘り方、52号住居跡掘り方、53号住居跡掘り方

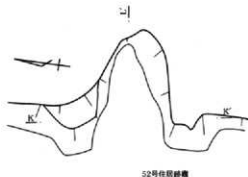
第二章 発見された遺構・遺物



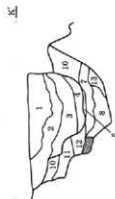
掘り方

- 1 黒褐色土：汚れたローム主体。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土・洪水土頭を含む。(51住)
- 2 黒褐色土：炭化物を含む。(51住)
- 3 黒褐色土：少量のロームブロックを含み、硬く締まる。(51住)
- 4 暗褐色土：崩れたローム主体。黒褐色土頭を含む。(51住)
- 5 黒褐色土：褐色土ブロック及び少量の黒褐色土ブロックを含む。(51住)
- 6 電網り方 (51住)
- 7 黒褐色土：ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物及び微量の洪水土頭を含む。(52住)

- 8 黒褐色土：少量の炭化物・ローム斑を含む。(52住)
- 9 黒褐色土：多量の洪水土頭を含む。(52住)
- 10 黒褐色土：洪水土粒子・洪水土頭を含む。(52住)
- 11 ロームブロック (52住)
- 12 黒褐色土：少量の洪水土頭を含む。(52住)
- 13 電網 (52住)
- 14 焼土と粘土の混合 (53住)
- 15 黒褐色土：焼土粒子・炭化物及び少量の洪水土頭を含む。(53住)
- 16 黒褐色土：少量の洪水土頭を含む。(53住)
- 17 黒褐色土：多量の焼土・炭化物及び洪水土頭を含む。(53住)
- 18 電網 (51住)



52号住居跡



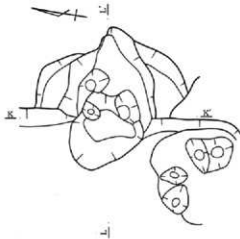
電

- 1 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 褐色土：粘質のローム。
- 3 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・ローム斑を含む。
- 4 黒褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 5 黒灰・炭化物層：焼土小ブロックを含む。
- 6 洪水土：地山の崩れ。
- 7 焼土小ブロックと灰の混合層

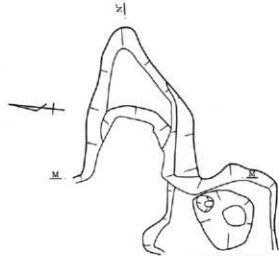
- 8 黒褐色土：ロームブロック・焼土小ブロック及び少量の洪水土ブロックを含む。
- 9 褐色土：汚れたローム。
- 10 褐色土：ローム。(電網硬土)
- 11 黒褐色土：少量のローム斑・軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量の焼土粒

- 12 暗褐色土：多量の焼土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 13 暗褐色土：少量のローム斑を含む。
- 14 暗褐色土：住居跡床。
- 15 暗褐色土：多量のロームブロックを含む。

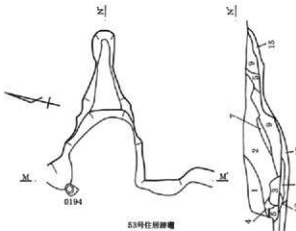
第123図 51号住居跡掘り方セクション、52号住居跡掘り方セクション、53号住居跡掘り方セクション、52号住居跡電



52号住居跡電掘り方



53号住居跡電掘り方

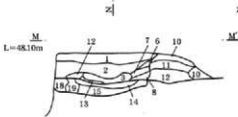


53号住居跡電



電

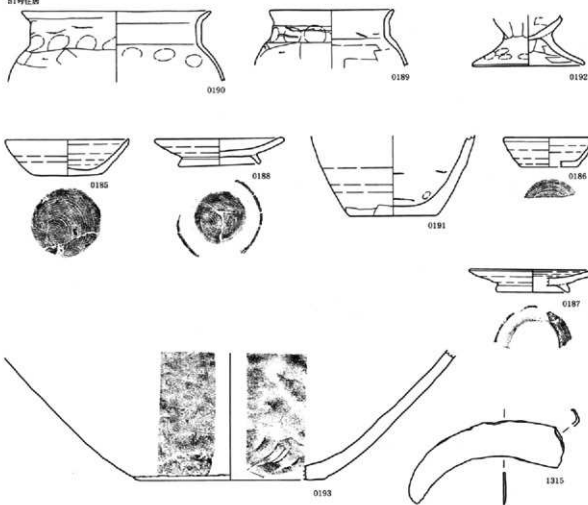
- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物及び少量の焼土小ブロックを含む。
- 3 黄褐色土：電天井の崩落土。下部は赤変。
- 4 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 5 黒褐色土：多量の電構築土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：多量の焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土：電構築土の崩れ。全体に赤変。
- 8 暗褐色土：電構築土の崩れと灰の混合。
- 9 崩れた焼土。
- 10 黒褐色土：焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 11 黒褐色土：洪水土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。袖構築材の粘質土。
- 12 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 13 灰層
- 14 焼土と電構築土の混合
- 15 黒褐色土：焼土ブロックを含む。
- 16 焼土とロームの混合土の圧縮。(貼床)
- 17 黒褐色土洪水土斑及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 18 黒褐色土：やや多量の焼土粒子を含む。
- 19 掘底。



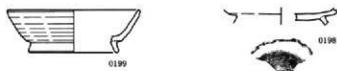
第124図 52号住居跡電掘り方、53号住居跡電、同電掘り方

第二章 発見された遺構・遺物

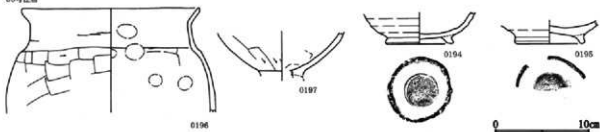
51号住居



52号住居



53号住居



第125図 51号住居跡出土遺物、52号住居跡出土遺物、53号住居跡出土遺物

54号住居跡

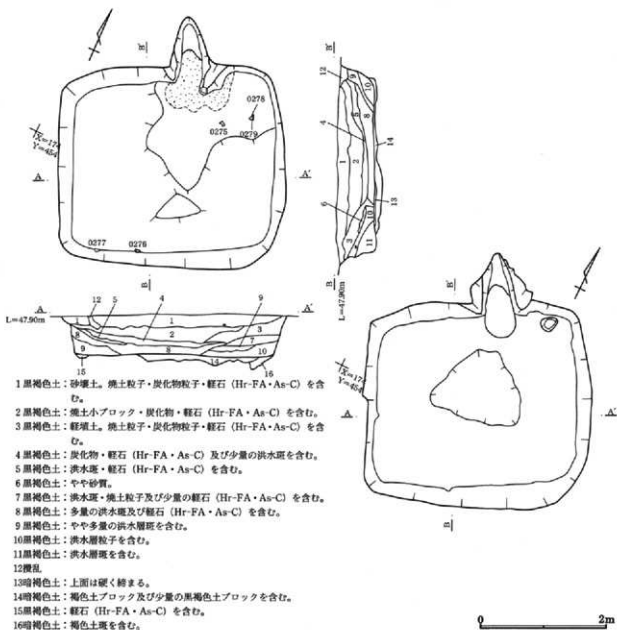
本住居跡は、5区のX=36.174・Y=-39.454付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約3.4~3.6m、南北約3.1~3.3mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-23°-Wである。

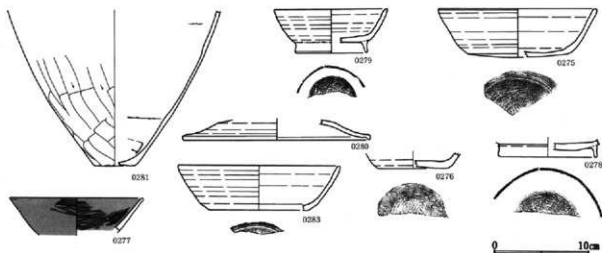
竈は、北壁の中央やや東よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し0.8mである。竈燃焼部奥からは、支脚に使用されたと考えられる石が、右袖先端からは、

袖材に使用された石が検出された。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査で、貯蔵穴とも考えられるピットが北東隅から検出できた。規模は、長軸約0.25m、短軸約0.2m、床面からの深さ約0.45mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は、須恵器杯(275・276・277・283)、須恵器椀(278・279)、須恵器蓋(280)、土師器甕(281)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半~9世紀前半である。



第126図 54号住居跡、同掘り方



第128図 54号住居跡出土遺物

55号住居跡

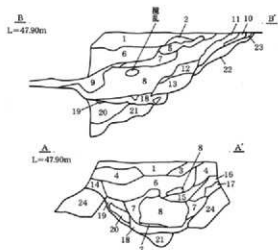
本住居跡は、5区のX=36.167・Y=-39.443付近で検出された。35号溝と重複する。新旧関係は、本住居跡の覆土中に35号溝が確認できないことから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、東西約3.8~4.5m、南北約3.8~4.0mであり、平面形は隅丸台形を呈する。住居跡の平面形は、南東隅が広がる形状であり、中段を形成している。広がった部分のレベルは、床面より約0.3~0.4m高くなっている。主軸はN-84°-Eである。

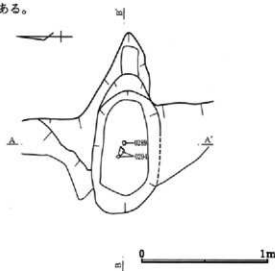
竈は東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。壁溝は、竈部分及び南東隅

部分を除いて検出できた。規模は、幅約0.15~0.3m、床面からの深さ約0.05~0.15mである。床面から柱穴・貯蔵穴は検出することができなかったが、掘り方調査で検出した土坑状・ピット状の落ち込みから、貯蔵穴の可能性が考えられるピットが検出できた。ピットは南東隅から検出された。規模は、長軸約0.45m、短軸約0.3mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は、須恵器杯(282・284・285・287・288・289・296)、須恵器蓋(290・291)、須恵器甕(292)、土師器甕(293・294)、石製品(295)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



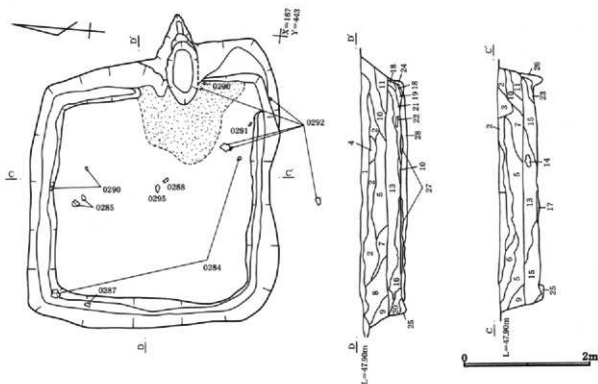
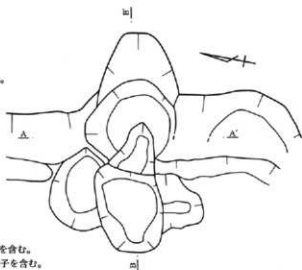
第129図 55号住居跡電



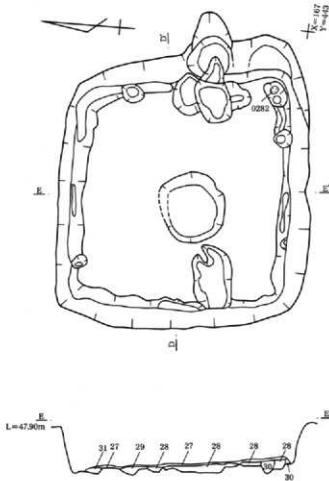
第11章 発見された遺構・遺物

電

- 1 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量の構築土斑及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土：構築土小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び少量の構築土小ブロックを含む。
- 5 にぶい黄褐色土：構築土ブロック。
- 6 暗褐色土：構築土・焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 7 にぶい黄褐色土：天井の崩落土。焼土ブロックを含む。
- 8 にぶい黄褐色土：天井の崩落土。部分的に赤変。
- 9 暗褐色土：構築土斑を含む。
- 10 暗褐色土：多量の焼土ブロックを含む。
- 11 焼土化した構築土：煙道の崩れ。
- 12 にぶい黄褐色土：天井の崩落土。
- 13 焼土ブロックの集合
- 14 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C)・構築土粒子を含む。
- 15 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C)・構築土小ブロックを含む。
- 16 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 17 暗褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C)・構築土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 18 にぶい黄褐色土：天井の崩落土。多量の焼土ブロック・炭化物を含む。
- 19 黒色灰と焼土の混合
- 20 暗褐色土：少量の褐色土小ブロックを含む。
- 21 黒褐色土：褐色土小ブロック・焼土小ブロックを含む。
- 22 黒褐色土：やや多量の焼土小ブロックを含む。
- 23 黒褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 24 地山の崩り出し：竈袖。

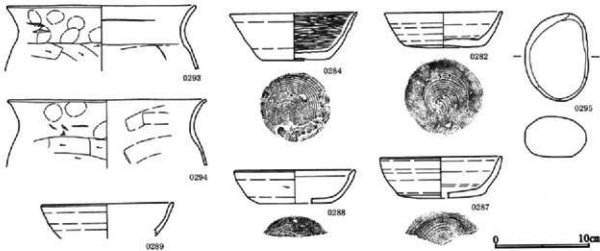


第130図 55号住居跡、同電掘り方

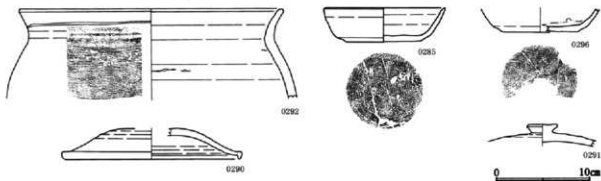


- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：炭化物及び少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 黒褐色土：炭化物片を含む。
- 5 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・褐色土斑及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 黒褐色土：少量の褐色土斑・焼土粒子を含む。
- 8 黒褐色土：やや多量の褐色土斑及び少量の焼土粒子を含む。
- 9 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 10 黒褐色土：褐色土斑及び少量の焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 11 黒褐色土：少量の焼土粒子・褐色土粒子を含む。
- 12 黒褐色土：褐色土斑及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 13 黒褐色土：ローム斑・ローム小ブロックを含む。
- 14 ロームブロック
- 15 黒褐色土：炭化物粒子及び少量のローム斑を含む。
- 16 暗褐色土：多量のローム粒子及び少量のローム斑を含む。
- 17 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 18 暗褐色土：汚れた洪水土主体。ローム粒子を含む。
- 19 炭化物と焼土ブロックの混合
- 20 黒褐色土：汚れた洪水土主体。クロボク土ブロックを含む。
- 21 黒褐色土：汚れた洪水土主体。少量の炭化物粒子・焼土粒子を含む。
- 22 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 23 黒褐色土：大きな洪水土斑を含む。
- 24 暗褐色土：ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。
- 25 黒褐色土：ローム斑を含む。
- 26 黒褐色土：少量の洪水土斑を含む。
- 27 黒褐色土：ロームブロック・炭化物を含み、硬く締まる。(貼床)
- 28 暗褐色土：黒褐色土斑を含む。
- 29 黒褐色土：クロボク土ブロック及び少量のロームブロックを含む。
- 30 黒褐色土：やや多量のロームブロック及び炭化物粒子を含む。
- 31 黒褐色土：微量のロームブロックを含む。

0 2m



第131図 55号住居跡掘り方、同出土遺物(1)



第132図 55号住居跡出土遺物(2)

56号住居跡

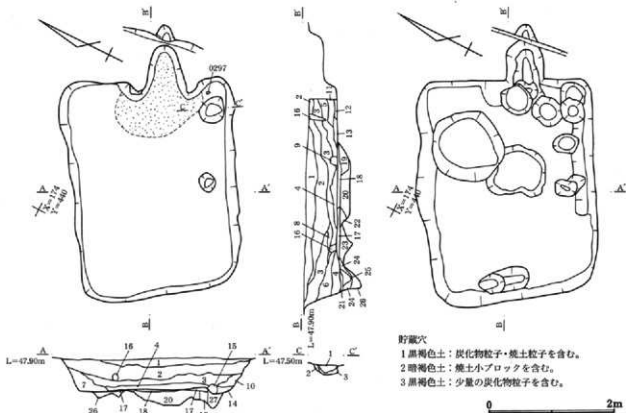
本住居跡は、5区のX=36.174・Y=-39.440付近で検出された。他の遺構との重複はないが、試掘トレンチで東側部分の上面が破壊されている。

本住居跡の規模は、東西約3.3~3.55m、南北約2.55~2.8mであり、平面形は不整形な縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-58°-Eである。

竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃烧部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.9mである。貯蔵穴は、南東隅から検

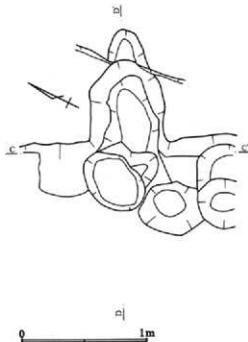
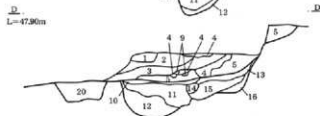
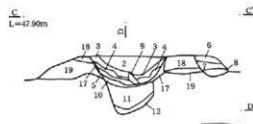
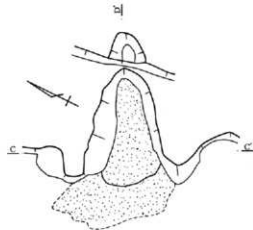
出された。規模は、長軸約0.45m、短軸約0.35m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では、床下から8基の土坑状・ピット状の落ち込みが確認できた。

遺物の出土は少ないが、須恵器杯(297・298)、須恵器蓋(302)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第133図 56号住居跡、同掘り方

- 1 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土：炭化物片・焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の褐色土小ブロックを含む。
- 3 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) ・やや大きな炭化物片及び少量の焼土粒子・褐色土小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土：少量の焼土粒子・褐色土小ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 暗褐色土：褐色土小ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) ・炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土：微量の焼土粒子・炭化物片・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 暗褐色土：褐色土小ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 9 暗褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 10 暗褐色土：焼土小ブロック・炭化物及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 11 褐色土：竊穴土に多量の暗褐色土及び焼土粒子を含む。
- 12 暗褐色土：褐色土粒子・焼土粒子を含む。
- 13 暗褐色土：褐色土塊を含む。
- 14 褐色土：暗褐色土を含み、硬く締まる。(貼床)
- 15 ビット覆土
- 16 覆瓦
- 17 黒褐色土：焼土粒子・炭化物を含み、硬く締まる。(貼床)
- 18 黒褐色土：焼土・炭化物を塊状に含み、硬く締まる。(貼床)
- 19 ロームブロック：黒褐色土を含む。
- 20 黒褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 21 黒褐色土：水平に圧縮されたロームを塊状に含む。(貼床)
- 22 黒褐色土：ローム塊を含む。
- 23 黒褐色土：少量のローム小ブロックを含む。
- 24 黒褐色土：ローム斑・ローム小ブロックを含む。
- 25 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 26 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 27 ビット覆土

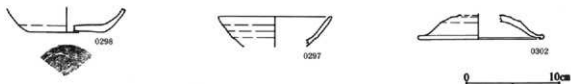


電

- 1 暗褐色土：多量の焼土小ブロック・構築土斑及び炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土：炭化物粒子及び構築土斑を含む。
- 3 暗褐色土：炭化物粒子を含む。
- 4 構築土 (天井崩落土)：やや多量の焼土ブロックを含む。
- 5 焼土ブロック：やや多量構築土 (天井崩落土) を含む。
- 6 黒褐色土：構築土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 7 黒褐色土：焼土粒子を含む。
- 8 暗褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。
- 9 覆瓦
- 10 黒色灰層
- 11 暗褐色土：焼土ブロック・炭化物・灰ブロック及びローム斑を含む。
- 12 黄褐色土：地山ロームの崩れ。焼土小ブロックを含む。
- 13 焼土小ブロック主体：灰・ロームブロックを含む。
- 14 ぶい黄褐色土ブロック：焼土小ブロックを含む。
- 15 暗褐色土：多量の炭化物及びロームブロック・焼土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。
- 16 暗褐色土：多量のロームブロック及び焼土小ブロックを含む。
- 17 黄褐色土：竈内壁。多量の焼土小ブロックを含む。
- 18 黄褐色土：竈土。
- 19 黒褐色土：多量の黄褐色土斑及び焼土小ブロックを含む。電柱。
- 20 暗褐色土：焼土小ブロック・炭化物・ローム斑を含む。

第134図 56号住居跡電、同電掘り方

第II章 発見された遺構・遺物



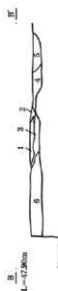
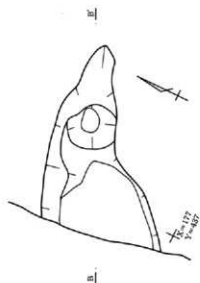
第135図 56号住居跡出土遺物

57号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.177・Y=-39.437付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、圍場整備で大部分が破壊されており、竈部分しか検出できなかったため、住居跡の規模等は不明である。竈は、その形状から東壁に築かれていたと推定される。柱穴・貯蔵穴と推定されるピットも検出できず、壁溝と推定される溝も確認できなかった。

遺物は、少量であるが竈から須恵器杯(299・303)、土師器台付壺(307)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



竈

- 1 にぶい黄褐色土：多量の焼土ブロックを含む。
- 2 焼土ブロック
- 3 黒色灰層
- 4 黒褐色土：やや多量の焼土小ブロックを含む。
- 5 黒褐色土：焼土粒子を含む。
- 6 にぶい黄褐色土：微量の焼土小ブロックを含み、硬く締まる。



第136図 57号住居跡竈、同竈掘り方、同出土遺物

58号住居跡

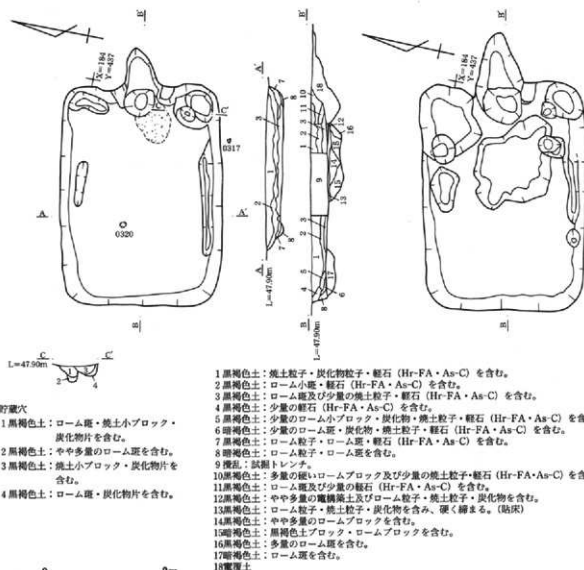
本住居跡は、5区のX=36.184・Y=-39.437付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、南北に掘られた試掘トレンチにより、南北の壁の一部が破壊されている。住居跡の規模は、東西約3.5m、南北約2.5~2.6mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-80°-Eである。

竈は、東壁の中央に築かれている。燃焼部からは、支脚に使用されたと推定される石が、掘えられた状態で検出できた。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。

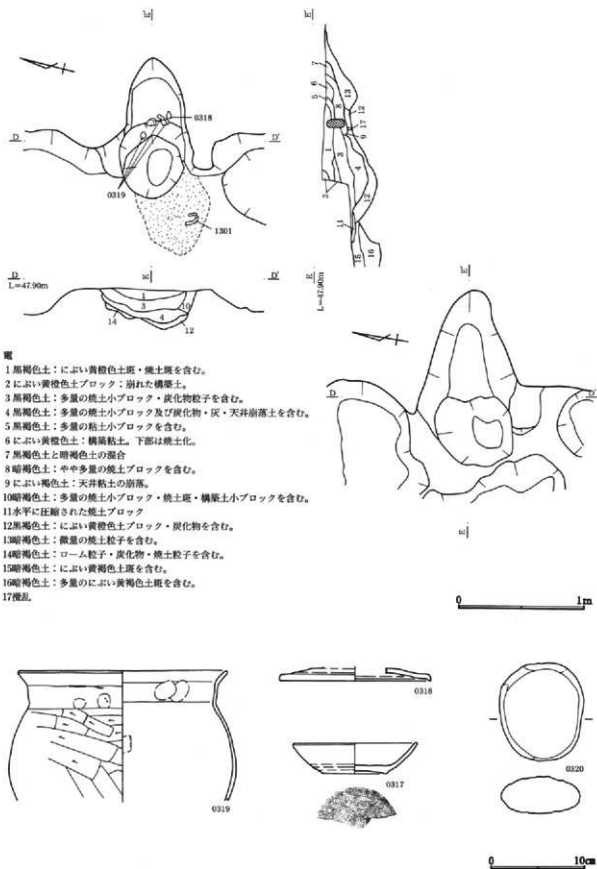
貯蔵穴は、南東隅から検出された。規模は、長軸約0.55m、短軸約0.4m、床面からの深さ約0.25mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。南壁沿いの中央部、北壁沿いの中央部、東壁沿いの北東隅から、壁溝と推定される溝が検出された。規模は、幅約0.15~0.2m、床面からの深さ約0.05mである。柱穴は確認できなかった。掘り方調査では、東側半分から土坑状・ピット状の落ち込みが検出できた。

遺物は、須恵器杯(317)、須恵器蓋(318)、土師器壺(319)、石製品(320)、鉄製品紡錘車(1318)、鉄製品鋤先(1301)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。



第137図 58号住居跡、同掘り方

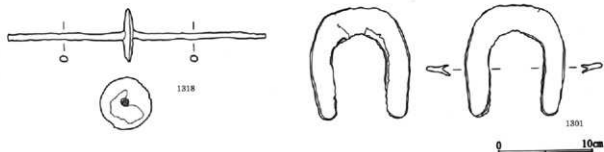
第二章 発見された遺構・遺物



圖

- 1 黒褐色土：にぶい黄褐色土斑・焼土斑を含む。
- 2 にぶい黄褐色土ブロック：崩れた構築土。
- 3 黒褐色土：多量の焼土小ブロック及び炭化物粒子を含む。
- 4 黒褐色土：多量の焼土小ブロック及び炭化物・灰・天井崩落土を含む。
- 5 黒褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
- 6 にぶい黄褐色土：構築粘土。下部は焼土化。
- 7 黒褐色土と暗褐色土の混合
- 8 暗褐色土：やや多量の焼土ブロックを含む。
- 9 にぶい褐色土：天井粘土の崩落。
- 10 暗褐色土：多量の焼土小ブロック・焼土斑・構築土小ブロックを含む。
- 11 水平に圧縮された焼土ブロック
- 12 黒褐色土：にぶい黄褐色土ブロック・炭化物を含む。
- 13 暗褐色土：微量の焼土粒子を含む。
- 14 暗褐色土：ローム粒子・炭化物・焼土粒子を含む。
- 15 暗褐色土：にぶい黄褐色土斑を含む。
- 16 暗褐色土：多量のにぶい黄褐色土斑を含む。
- 17 雑乱。

第138図 58号住居跡竈、同電掘り方、同出土遺物(1)



第139図 58号住居跡出土遺物(2)

59号住居跡

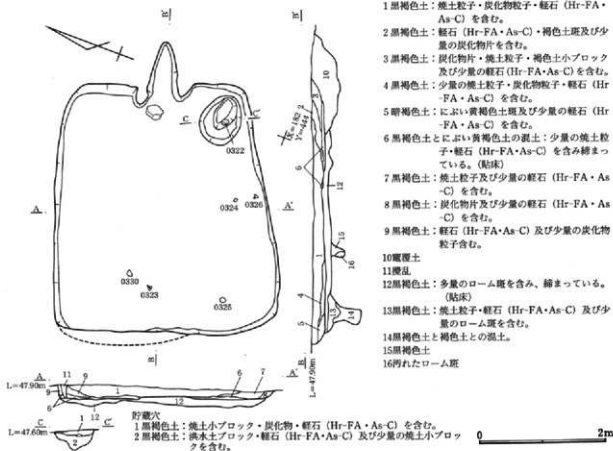
本住居跡は、5区のX=36.182・Y=-39.444付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.0~4.1m、南北約3.0~3.6mであり、平面形は隅丸台形を呈する。主軸はN-72°-Eである。

竈は、東壁中央に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.35m、煙道部の壁外への張り出し約0.7mである。貯蔵穴は、南東隅から検出された。

規模は、長軸約0.8m、短軸約0.65m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形は不整形な槽形を呈する。柱穴・壁溝は確認できなかった。掘り方調査では、北東隅・南東隅・南西隅から多くのピット状落ち込みを検出することができた。

遺物は、須恵器杯(321・322・323・324・325・326)、須恵器蓋(327)、土師器甕(328・329・330)、土師器台付甕(331)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。



第140図 59号住居跡

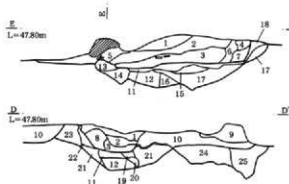
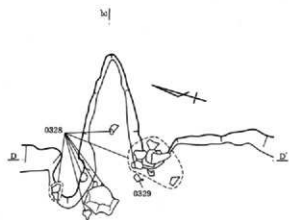
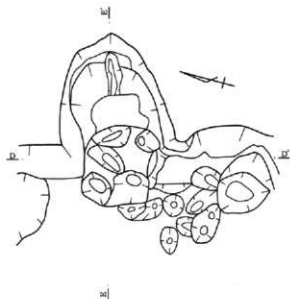
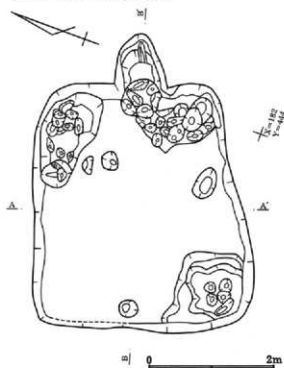
- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C)・褐色土斑及び少量の炭化物片を含む。
- 3 黒褐色土：炭化物片・焼土粒子・褐色土小ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 黒褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 暗褐色土：にぶい黄褐色土斑及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混土：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含み締まっている。(貼床)
- 7 黒褐色土：焼土粒子及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 黒褐色土：炭化物片及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 9 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の炭化物粒子を含む。
- 10 覆面土
- 11 擾乱
- 12 黒褐色土：多量のローム斑を含み、締まっている。(貼床)
- 13 黒褐色土：焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のローム斑を含む。
- 14 黒褐色土と褐色土との混土。
- 15 黒褐色土
- 16 汚れたローム斑

貯蔵穴

1 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

2 黒褐色土：赤黄土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土小ブロックを含む。

第二章 発見された遺構・遺物



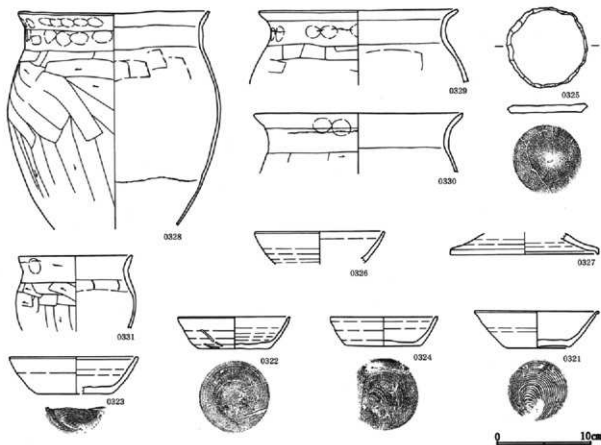
電

- 1 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 2 暗褐色土：構築土の崩れ主体、やや多量の焼土小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土：多量の焼土小ブロック・炭化物及び黒色灰を含む。
- 4 暗褐色土：焼土斑・黒色灰斑主体。
- 5 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・構築土斑を含む。
- 6 暗褐色土と焼土小ブロックの混土：多量の灰を含む。
- 7 黒褐色土：多量の灰及び焼土小ブロックを含む。
- 8 暗褐色土：焼土小ブロック・炭化物・構築土斑を含む。
- 9 黒褐色土：紅石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 10 黒褐色土：多量の洪水土斑及び炭化物粒子を含む。
- 11 焼土ブロック・灰・構築ブロックの混土
- 12 黒褐色土：多量の焼土小ブロック・焼土粒子を含む。
- 13 暗褐色土：構築土ブロック・焼土ブロック・炭化物を含む。
- 14 褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 15 暗褐色土：多量の構築土ブロックを含む。
- 16 暗褐色土：砂質ロームブロックを含む。
- 17 暗褐色土：少量の砂質ロームブロック・焼土粒子を含む。
- 18 黒褐色土：多量の灰・焼土粒子を含む。
- 19 暗褐色土：多量の焼土ブロックを含む。
- 20 暗褐色土：焼土ブロックを含む。
- 21 褐色土：焼土ブロック・焼土斑を含む。
- 22 におい・橙色土：赤変している。
- 23 におい・橙色土：焼土小ブロックを含み、硬く締まる。
- 24 暗褐色土：多量の褐色土斑を含む。
- 25 貯蔵穴覆土

0 1m

第141図 59号住居跡掘り方、同電、同電掘り方

第1節 住居跡



第142図 59号住居跡出土遺物

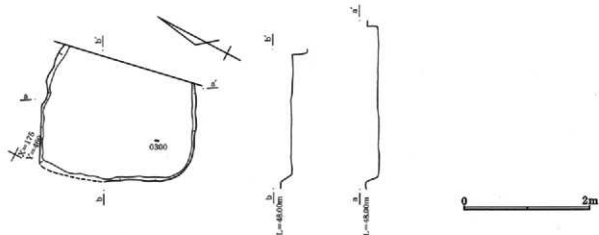
60号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.175・Y=-39.460付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、東側部分が試掘トレンチにより破壊されており、全体の規模は不明であるが、南北約2.35~2.45mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。

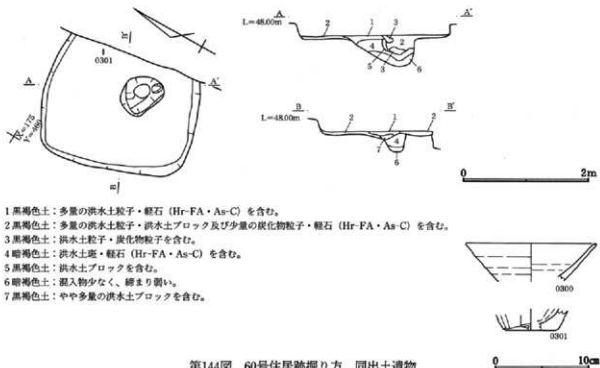
竈は不明であるが、東壁に築かれていたものと推定される。柱穴・壁溝は検出できなかった。貯蔵穴は不明である。

遺物の出土は少ないが、須恵器杯(300)、須恵器羽釜(301)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、10世紀前半である。



第143図 60号住居跡

第二章 発見された遺構・遺物



- 1 黒褐色土：多量の洪水土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：多量の洪水土粒子・洪水土ブロック及び少量の炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：洪水土粒子・炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土：洪水土斑・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：洪水土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：混入物少なく、締まり弱い。
- 7 黒褐色土：やや多量の洪水土ブロックを含む。

第144図 60号住居跡掘り方、同出土遺物

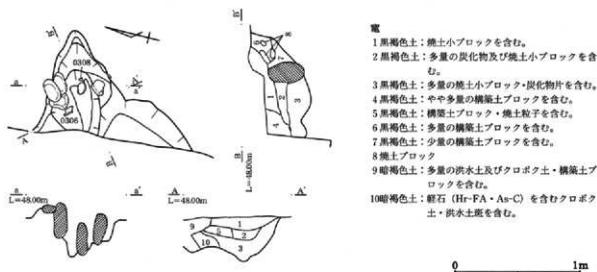
61号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.169・Y=-39.456付近で検出された。他の遺構との重複はない。

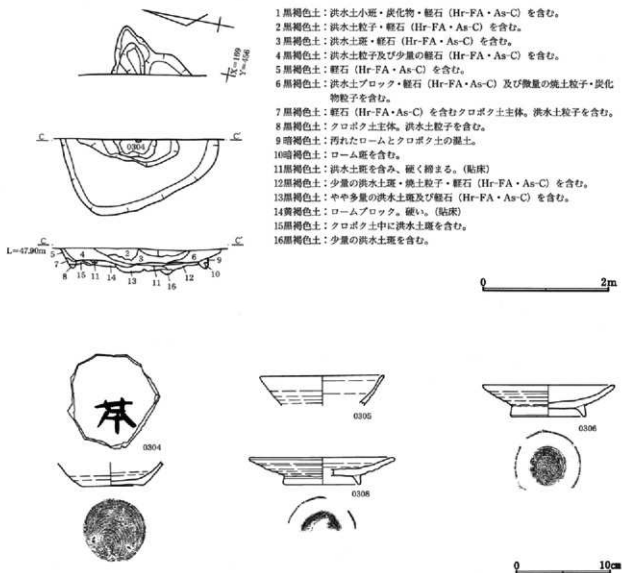
本住居跡の規模は、住居中央部を試掘トレンチにより破壊されており確定できないが、東西約2.1～2.2m、南北約2.2～2.4mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸台形を呈すると推定される。主軸はN-55°-Eである。

電は、東壁南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査で、住居内中央部から土坑状の落ち込みが検出されている。

遺物は、須恵器杯 (304・305)、須恵器皿 (306・308)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。



第145図 61号住居跡電



第146図 61号住居跡、同出土遺物

62号住居跡

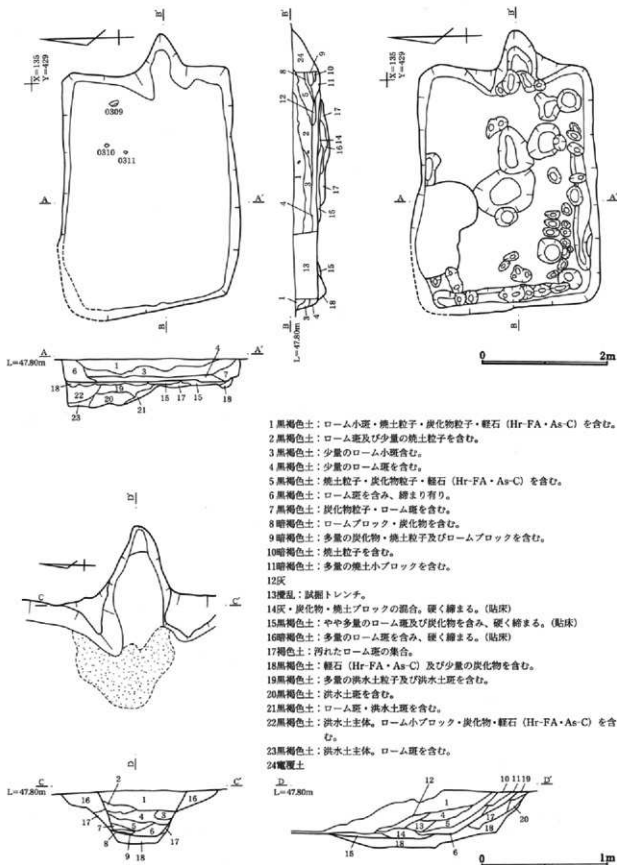
本住居跡は、5区の $X=36.135 \cdot Y=-39.429$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、北西隅部分が試掘トレンチで破壊されているが、東西約2.7~2.8m、南北約3.8~4.0mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は $N-88^{\circ}-E$ である。

電は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.55mである。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかったが、掘り方

調査で貯蔵穴と推測できるビット、壁溝と推測できる溝が検出できた。貯蔵穴と考えられるビットは、南東隅から検出された。規模は、直径約0.4m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は不整形な円形を呈する。壁溝と考えられる溝は、南壁・西壁沿いに検出された。規模は、幅約0.2~0.25m、床面からの深さ約0.1mである。また、掘り方からは多くのビット状、土坑状落ち込みが検出されている。

遺物は、土師器杯(311)、須恵器杯(309)、須恵器蓋(310)、鉄滓(312)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。

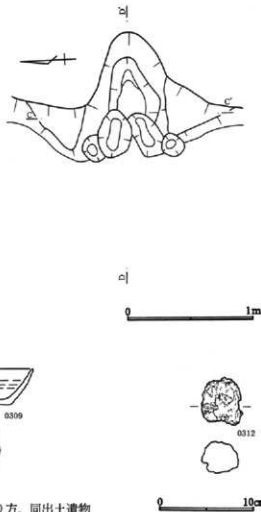


- 1 黒褐色土：ローム小斑・焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：ローム斑及び少量の焼土粒子を含む。
- 3 黒褐色土：少量のローム小斑を含む。
- 4 黒褐色土：少量のローム斑を含む。
- 5 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 黒褐色土：ローム斑を含み、締まり有り。
- 7 黒褐色土：炭化物粒子・ローム斑を含む。
- 8 暗褐色土：ロームブロック・炭化物を含む。
- 9 暗褐色土：多量の炭化物・焼土粒子及びロームブロックを含む。
- 10 暗褐色土：焼土粒子を含む。
- 11 暗褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
- 12 灰
- 13 燧石：鉄網トレンチ。
- 14 灰・炭化物・焼土ブロックの混在。硬く締まる。(貼床)
- 15 黒褐色土：やや多量のローム斑及び炭化物を含み、硬く締まる。(貼床)
- 16 暗褐色土：多量のローム斑を含み、硬く締まる。(貼床)
- 17 褐色土：汚れたローム斑の集合。
- 18 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の炭化物を含む。
- 19 黒褐色土：多量の洪水土粒子及び洪水土斑を含む。
- 20 黒褐色土：洪水土斑を含む。
- 21 黒褐色土：ローム斑・洪水土斑を含む。
- 22 黒褐色土：洪水土主体。ローム小ブロック・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 23 黒褐色土：洪水土主体。ローム斑を含む。
- 24 電線土

第147図 62号住居跡、同掘り方、同電

電

- 1 黒褐色土：ローム粒子・軽石（Hr・FA・As・C）を含む。
- 2 黒褐色土：焼土小ブロック・ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土：崩れたロームが赤変。焼土小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土：ローム斑・焼土小ブロックを含む。
- 5 褐色土：シルト質ロームブロック主体。
- 6 暗褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 7 暗褐色土とロームアブロックの混土。
- 8 焼土小ブロックの集合
- 9 黒褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 10 黄褐色土：構築土（ローム）の崩れ。
- 11 明褐色土：赤変したローム。焼土小ブロックを含む。
- 12 暗褐色土：ロームアブロック・炭化物を含む。
- 13 暗褐色土：多量の炭化物・焼土粒子及びロームブロックを含む。
- 14 暗褐色土：多量の焼土小ブロックを含む。
- 15 暗褐色土：灰層。
- 16 黒褐色土：黄褐色ローム斑・焼土小ブロックを含む。
- 17 黒褐色土：洪水土の崩れ・灰・焼土の混土。
- 18 黒褐色土：洪水土小ブロックを含む。
- 19 暗褐色土：ロームの赤変。
- 20 暗褐色土：多量の焼土ブロックを含む。



第148図 62号住居跡電掘り方、同出土遺物

63号住居跡

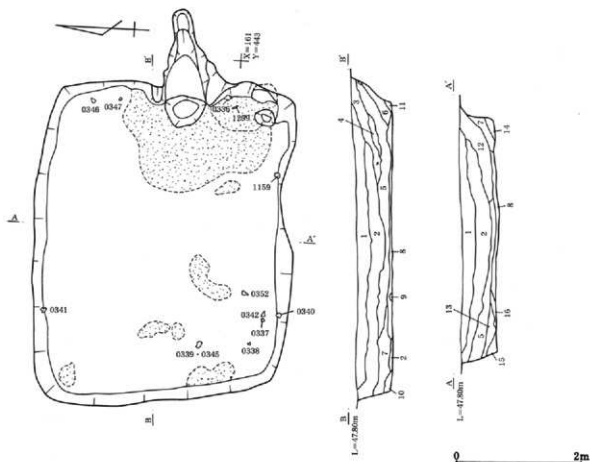
本住居跡は、5区のX=36.161・Y=-39.443付近で検出された。35号溝と重複する。新旧関係は、本住居跡の電煙道部が、35号溝の覆土中から検出できたことから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、東西約4.9～5.1m、南北約4.0～4.1mであり、平面形は不整形な縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Eである。

電は、東壁中央に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約1.15mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、貯蔵穴と推定できる床下土坑2が、南東隅から検出された。規模は、長軸約0.5m、短軸約0.45m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形は不整形な楕円形を呈

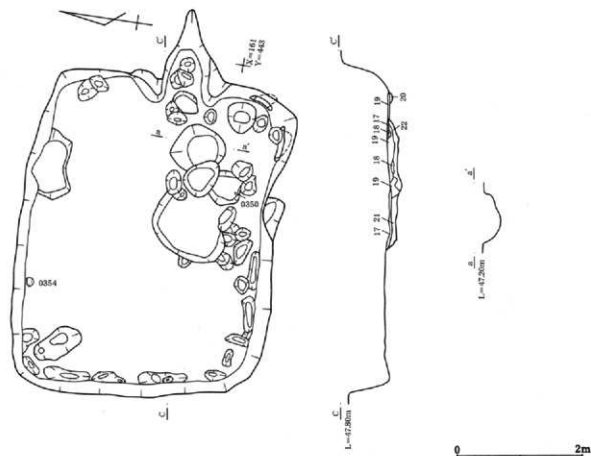
する。壁溝と推定される溝状の落ち込みが、南壁～西壁に沿って断続的に検出された。規模は、幅約0.15～0.2mであり、床面からの深さ約0.05～0.1mである。電手前からは、灰掻き坑とも考えられる床下土坑1が検出された。規模は、長軸約0.85m、短軸約0.75mであり、平面形は不整形な楕円形を呈し、覆土中には多量の灰・炭化物が混入していた。

遺物は、土師器杯(349)、須恵器杯(336・337・338・340・341・343・345・347・348)、須恵器椀(339)、須恵器鉢(344)、須恵器短頸壺(346)、土師器壺(350・351・352)、土師器台付壺(353)、須恵器壺(342)、鉄製品刀子(1299)、鉄製品釘(1300)、石製品(354)、漆紙文書(1159)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



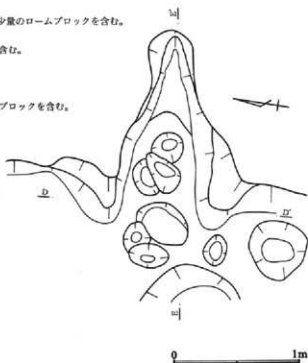
- 1 黒褐色土：ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム粒子及びローム小ブロック・焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：多量のローム粒子・焼土小ブロックを含む。
- 4 褐色土：ローム斑・黒褐色土・焼土小ブロックを含む。
- 5 褐色土：ロームブロック・炭化物粒子・焼土小ブロックを含む。
- 6 褐色土：多量のロームブロック・黒褐色土及び焼土ブロックを含む。
- 7 黒褐色土：多量の炭化物粒子・焼土粒子及びロームブロックを含む。
- 8 黒褐色土：やや多量の焼土粒子・炭化物粒子及びロームブロックを含む。
- 9 焼土ブロック
- 10 黒褐色土：ローム斑及び少量の焼土粒子を含む。
- 11 褐色土：ハードローム (電池)
- 12 黒褐色土：ローム斑・炭化物片を含む。
- 13 黒褐色土：多量のローム斑・ローム粒子を含む。
- 14 黒褐色土：炭化物粒子を含む。
- 15 黒褐色土：焼土斑を含む。
- 16 褐色ロームの層状体積：直下に反層。
- 17 暗褐色土：硬く締まっている。(陥床)
- 18 褐色土のブロック
- 19 褐色土ブロック主体：焼土小ブロックを含む。
- 20 褐色土斑主体：焼土粒子を含む。
- 21 褐色土ブロック・暗褐色土・焼土小ブロック・灰の混合。硬く締まる。
- 22 灰・炭化物の集中

第149図 63号住居跡

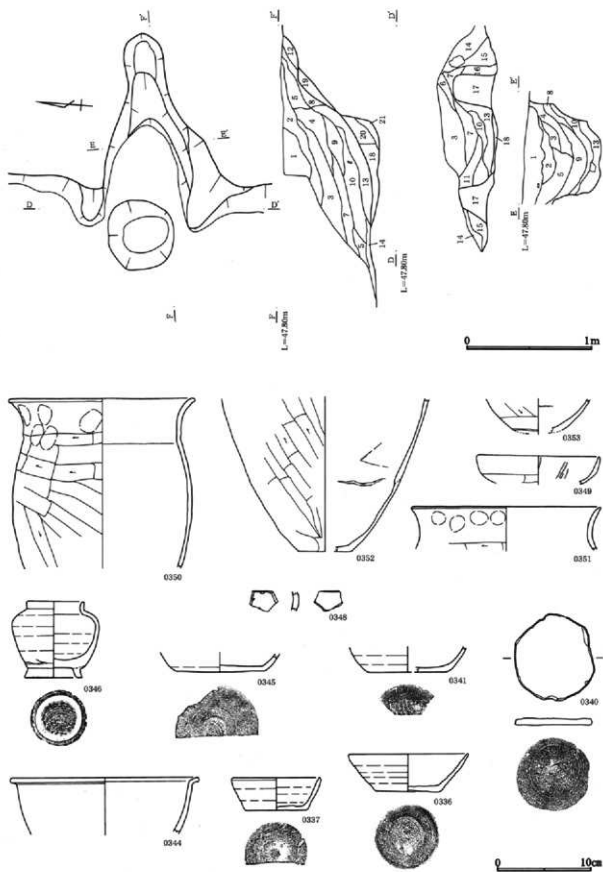


Ⅱ

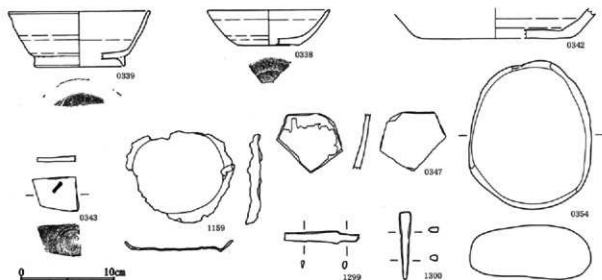
- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のロームブロックを含む。
- 2 暗褐色土：焼土小ブロック・ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土：多量のロームブロック及び焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 4 暗褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 5 褐色土：ローム (鋼筋材) の崩落。
- 6 暗褐色土：多量の炭化物及び焼土小ブロックを含む。
- 7 暗褐色土：多量の焼土小ブロック及び炭化物及び少量のローム小ブロックを含む。
- 8 暗褐色土：ローム斑・焼土斑を含む。
- 9 暗褐色土：混入物少なく、締まり弱い。
- 10 におい黄褐色土：ローム主体。焼土小ブロックを含む。
- 11 褐色土：やや汚れている。
- 12 暗褐色土：混入物無し。粘質で、締り有り。
- 13 におい黄褐色土：ローム (鋼筋材)。多量の焼土小ブロックを含む。
- 14 暗褐色土：赤変したローム。黒色灰・焼土小ブロックを含む。
- 15 黒褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 16 黒褐色土：やや多量のロームブロックを含む。
- 17 黒褐色土：多量のロームブロックを含む。
- 18 灰層
- 19 黒褐色土：焼土ブロックを含む。
- 20 焼土ブロック主体：灰を含む。
- 21 暗褐色土：焼土ブロックを含む。



第150図 63号住居跡掘り方、同電掘り方



第151図 63号住居跡竈、同出土遺物(1)



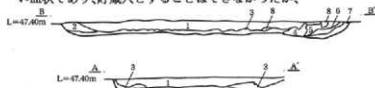
第152図 63号住居跡出土遺物(2)

64号住居跡

本住居跡は、5区のX=36.139・Y=-39.443付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.15~4.25m、南北約3.3mであり、平面形は縦長の隅丸方形を呈する。主軸はN-68°-Eである。

竈は、東壁中央やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.3mである。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。南東隅の落ち込みは、浅い皿状であり、貯蔵穴とすることはできなかったが、



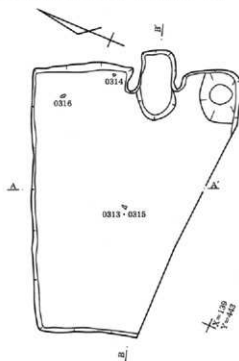
- 1 黒褐色土：ローム斑・炭化物・焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：やや多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の炭化物・焼土粒子・ロームを含む。
- 3 黒褐色土：やや多量のローム斑を含む。
- 4 黒褐色土：ローム斑・焼土粒子を含む。
- 5 黒褐色土：焼土斑を含み、硬く締まる。
- 6 焼土
- 7 灰
- 8 検石

0 2m

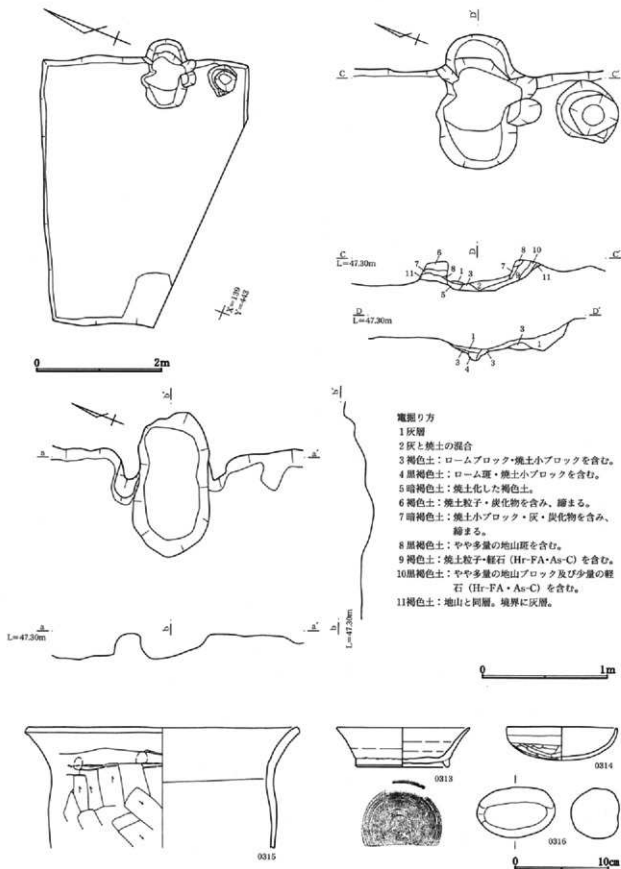
第153図 64号住居跡

掘り方調査で貯蔵穴と考えられるビットが検出された。ビットは、南東隅に築かれている。規模は、長辺約0.7m、短辺約0.6mで、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は不整形な長方形を呈する。

遺物は、土師器杯 (314)、須恵器椀 (313)、土師器壺 (315)、石製品 (316) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀中葉~後半である。



X=36.139
Y=-39.443



第154図 64号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物

65号住居跡

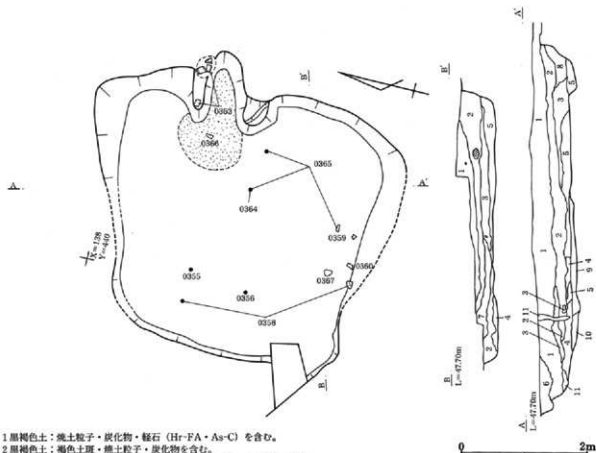
本住居跡は、5区のX=36.138・Y=-39.440付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.2～4.3m、南北約3.8～4.2mであり、平面形は不整形な隅丸台形を呈する。主軸はN-94°-Eである。

竈は、東壁北よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.45m、煙道部の壁外への張り出し約0.55mである。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁

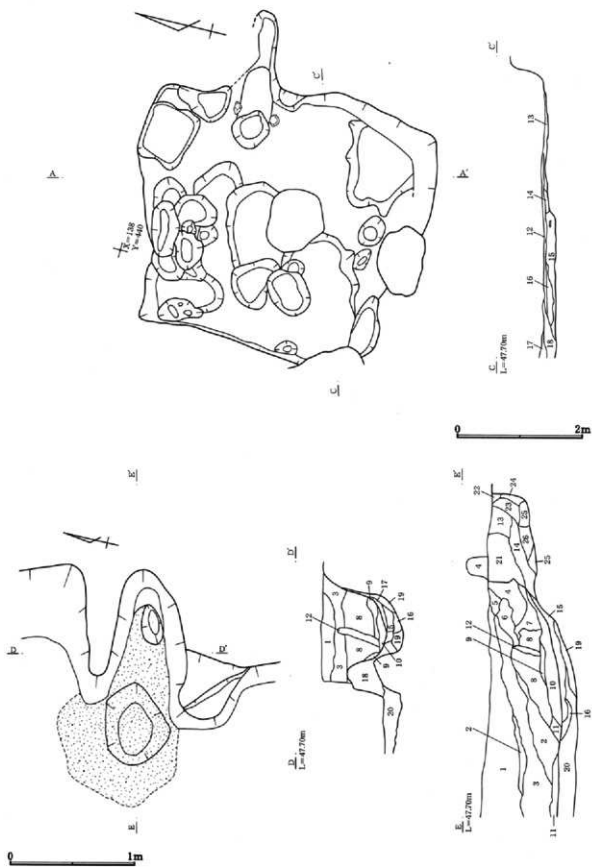
溝は検出することができなかった。掘り方調査では、数多くの土坑状落ち込み、ピット状落ち込みが検出できた。

遺物は、土師器杯(360・361)、須恵器椀(356)、須恵器壺(355)、須恵器鉢(357)、須恵器蓋(359)、土師器壺(363・364・365・366)、須恵器壺(358)、石製品(367)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀中葉である。

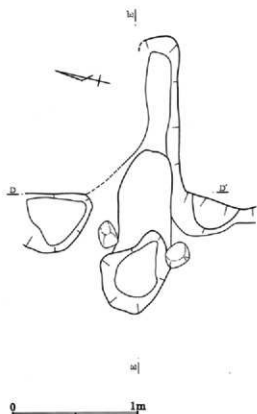


- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：褐色土斑・焼土粒子・炭化物を含む。
- 3 褐色土：褐色土の大きなブロック主体。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 褐色土：褐色土斑・褐色土ブロック主体。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む、汚れている。
- 5 黒褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。
- 6 黒褐色土：やや多量の褐色土斑及び焼土粒子・炭化物を含む。
- 7 黒褐色土：褐色土(3層)斑を含む。
- 8 黒褐色土：褐色土小ブロックを含む。
- 9 褐色土：地山ローム主体。焼土小ブロック・炭化物粒子を含む。
- 10 褐色土：汚れた地山ローム主体。
- 11 覆土
- 12 13層・14層・15層・16層が硬く締まっている。(粘床)
- 13 褐色土：焼土ブロック・焼土斑を含む。
- 14 暗褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 15 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) ・ロームブロックを含む。
- 16 暗褐色土：多量の炭化物粒子及び焼土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 17 褐色土：ロームブロック主体。(住居外の別遺構)
- 18 黒褐色土：炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(住居外の別遺構)

第155図 65号住居跡

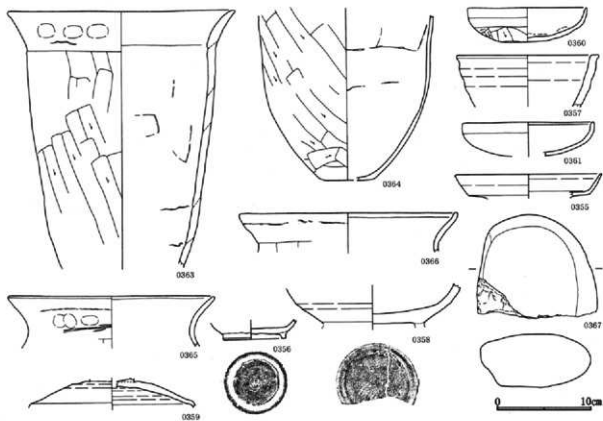


第156図 65号住居跡掘り方、同電



電

- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：褐色土斑・焼土粒子・炭化物を含む。
- 3 褐色土：褐色土斑・褐色土ブロック主体。軽石 (Hr-FA・As-C) を含み、汚れている。
- 4 黒褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 5 黒褐色土と褐色土の混土
- 6 黒褐色土：クロボク土ブロック主体。褐色土を含む。
- 7 褐色土：構築土の崩落したものが赤変。焼土ブロックを含む。
- 8 褐色土：構築土の崩落。ローム・焼土小ブロックを含む。
- 9 褐色土：構築土の崩落したものが赤変。
- 10 褐色土ブロック主体。炭化物・灰・焼土ブロックを含む。
- 11 黒褐色土：焼土粒子・炭化物を含む。
- 12 雑品。
- 13 暗褐色土：少量の焼土小ブロック及び炭化物粒子・黒褐色土斑を含む。
- 14 暗褐色土：少量の焼土小ブロック及び炭化物粒子を含む。
- 15 炭・炭化物・焼土ブロックの混合
- 16 暗褐色土：焼土ブロック・炭化物を含む。
- 17 灰層
- 18 褐色土：やや汚れた地山ローム。粘質。焼土小ブロックを含む。(袖)
- 19 褐色土：焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 20 褐色土：灰・焼土・炭化物の混合が圧縮されている。(住居床)
- 21 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土主体。地山ブロックを含む。(住居外の別遺構)
- 22 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含み、締まっている。(住居外の別遺構)
- 23 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含み、締まっている。(住居外の別遺構)
- 24 褐色土と暗褐色土の混合。(住居外の別遺構)
- 25 褐色土：やや汚れた地山と同質の土。(住居外の別遺構)
- 26 褐色土：少量の焼土小ブロック・炭化物を含む。(住居外の別遺構)



第157図 65号住居跡電掘り方、同出土遺物

66号住居跡

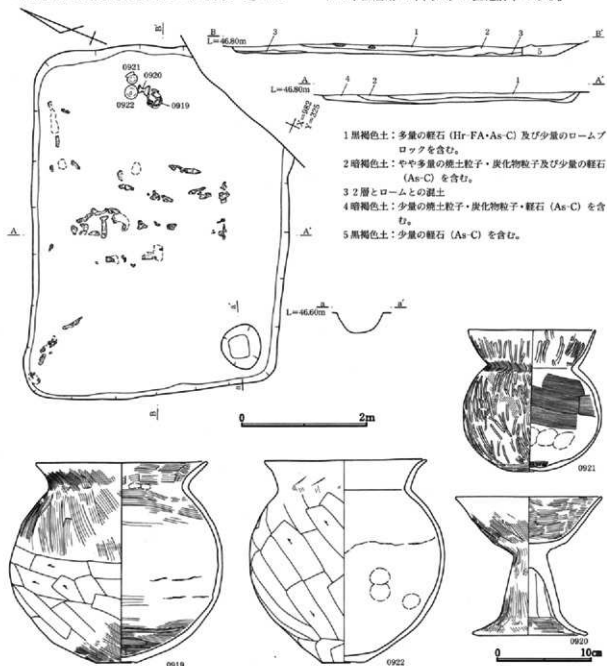
本住居跡は、19区のX=35.982・Y=-39.325付近で検出された。44号溝と重複する。新旧関係は、同溝が本住居跡の南東部の壁・床の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約5.5～5.6m、南北約4.0～4.1mであり、平面形は歪な隅丸長方形ないしは歪な平行四辺形を呈する。主軸はN-69°-Eである。

本住居跡は火災住居と考えられ、床面から多くの

炭化物・焼土が検出できたが、炉を明確に確認することはできなかった。貯蔵穴は、南東隅に築かれている。規模は、長軸約0.7m、短軸約0.6m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形は、不整形な楕円形を呈する。柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は土師器埴(921)、土師器高杯(920)、土師器壺(919・922)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



第158図 66号住居跡、同出土遺物

67号住居跡

本住居跡は、19区のX=35.979・Y=-39.335付近で検出された。178号土坑と重複する。新旧関係は、同土坑が本住居跡の北東部の壁・床の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。

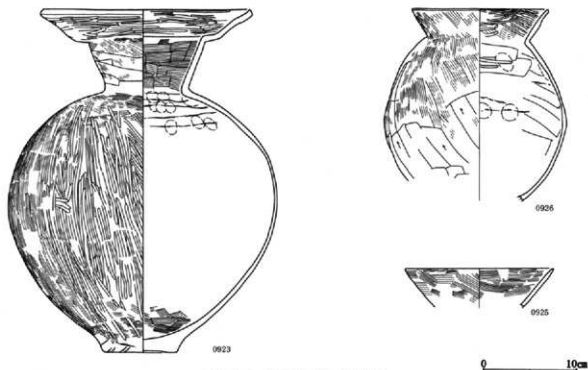
本住居跡の規模は、東西約4.35～4.4m、南北約3.25～3.35mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-49°-Eである。

炉は、西壁中央や南よりの脇から検出された。規模は、直径約0.35m、床面からの深さ約0.1mであり、平面形は円形を呈する。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。

遺物は、土師器埴(924)、土師器高杯(925・928・929)、土師器壺(923)、土師器甕(926・927)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



第159図 67号住居跡、同炉、同出土遺物(1)



第160図 67号住居跡出土遺物(2)

68号住居跡

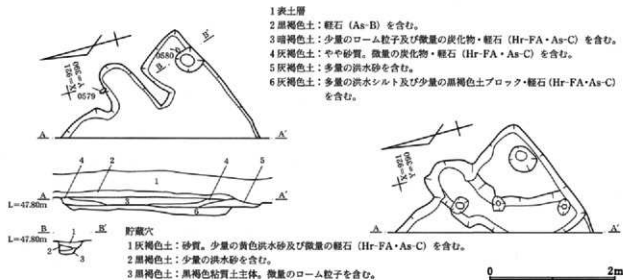
本住居跡は、18区のX=35.921・Y=-39.390付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、西側の大部分が調査区域外のため、不明である。主軸はN-63°-Eである。

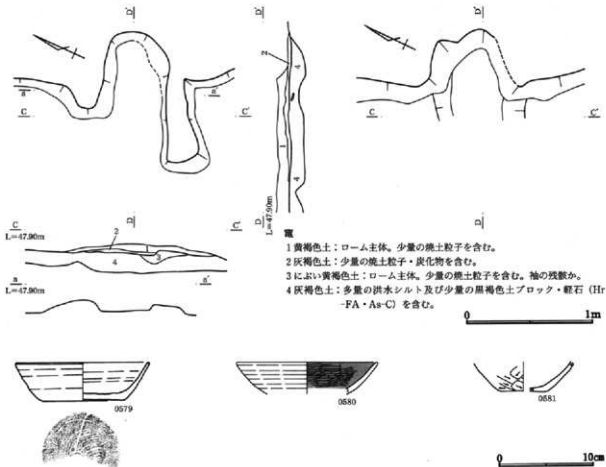
竈は、東壁やや南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.3mである。貯蔵穴は南東隅付近に築かれ

ている。規模は、長軸約0.45m、短軸約0.4m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。調査範囲から柱穴、壁溝は検出できなかった。掘り方調査では3基のピット状落ち込みを検出することができた。

遺物は、須恵器杯(579)、須恵器碗(580)、土師器甕(581)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半である。



第161図 68号住居跡、同掘り方



第162図 68号住居跡電、同電掘り方、同出土遺物

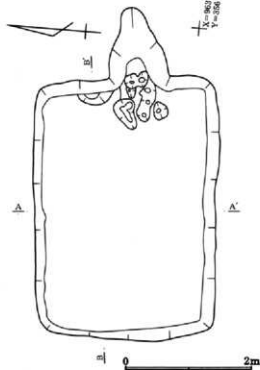
69号住居跡

本住居跡は、18区の $X = 35.963 \cdot Y = -39.356$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約4.05~4.15m、南北約2.8~2.9mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸は $N-81^{\circ}-E$ である。

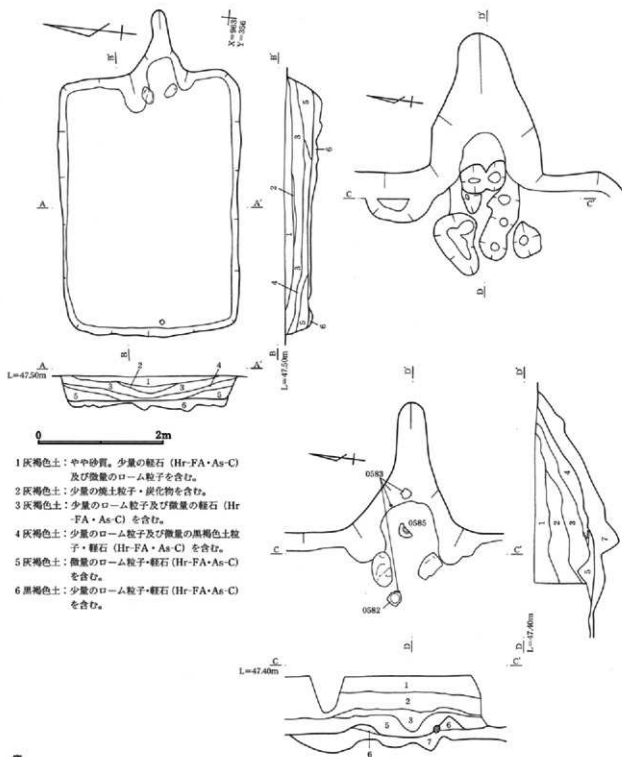
竈は東壁中央に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.45m、煙道部の壁外への張り出し約1.0mである。また、竈燃焼部からは、袖に使用されたと考えられる石が検出できた。柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。

遺物は、須恵器杯 (583・584)、須恵器碗 (582)、須恵器蓋 (585)、須恵器壺 (586) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半~中葉である。



第163図 69号住居跡掘り方

第二章 発見された遺構・遺物



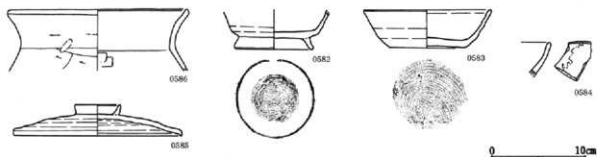
- 1 灰褐色土：やや砂質。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量のローム粒子を含む。
 2 灰褐色土：少量の焼土粒子・炭化物を含む。
 3 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 4 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の黒褐色土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 5 灰褐色土：微量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 6 黒褐色土：少量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

電

- 1 灰褐色土：やや砂質。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量の焼土粒子・ローム粒子を含む。
 2 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 3 灰褐色土：多量のロームブロック及び少量の焼土粒子を含む。
 4 暗赤褐色土：焼土主体。微量のローム粒子を含む。
 5 黄褐色土：ロームブロック主体。電柱遺物の崩落土。
 6 黄褐色土：電柱の残り。
 7 黒褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

0 1m

第164図 69号住居跡、同電、同電掘り方



第165図 69号住居跡出土遺物

70号住居跡

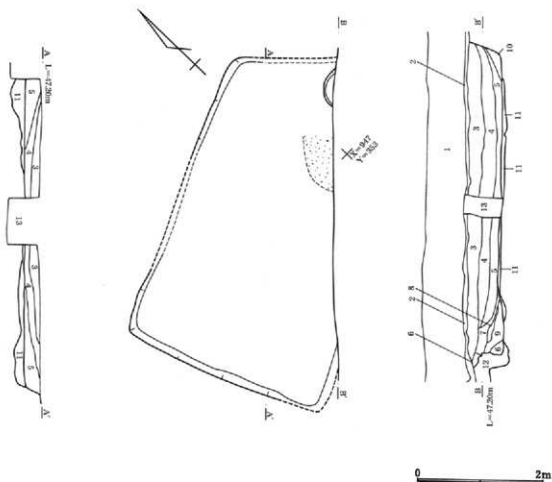
本住居跡は、18区の $X=35.947 \cdot Y=-39.353$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、南東部分が調査区域外のため確定できないが、東西約4.8m、南北約3.4mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は $N-68^{\circ}-E$ である。

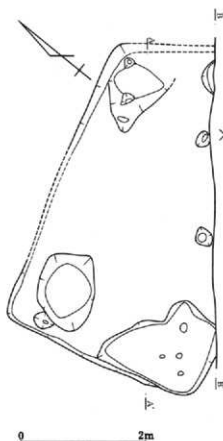
竈は、調査区域外のため不明であるが、焼土等の

分布などから、東壁の南よりに築かれていると推定される。調査範囲内から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では土坑状落ち込み、ピット状落ち込みを検出することができた。

遺物の出土は少ないが、須恵器杯(587)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半～中葉である。



第166図 70号住居跡



A-A'・B-B'共通

- 1 表土層：客土。
- 2 黒褐色土：軽石 (As-B) を含む。
- 3 灰褐色砂質土：微量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 灰褐色砂質土：少量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 褐灰色砂質土：微量の炭化物・ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 浅黄色土：少量の炭化物を含む。竈構築材の崩れ。
- 7 暗灰黄色土：多量の焼土粒子及び少量の炭化物を含む。
- 8 橙色土：焼土主体。
- 9 におい褐色土：多量の焼土・灰を含む。
- 10 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 11 暗灰色土：多量のロームブロック及び少量の褐色土ブロック・洪水砂を含む。
- 12 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 13 擾乱。



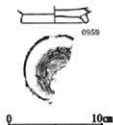
第167図 70号住居跡掘り方、同出土遺物

71号住居跡

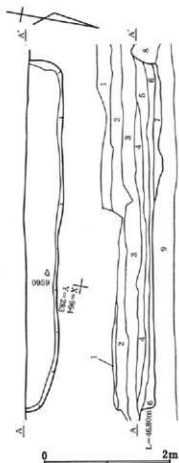
本住居跡は、21区のX=35.964・Y=-39.283付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、南側の大部分が調査区域外であり、北側の一部の調査のため確定できないが、東西約5.6mであり、隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈する大型の住居跡と推測される。

竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は、調査範囲の中で検出することはできなかった。遺物の出土は少ないが、須恵器椀 (959) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。



- 1 灰白色土：表土。
- 2 暗褐色土：軽石 (As-B) を含む。
- 3 黒褐色土：やや多量の洪水砂及び微量の炭化物を含む。
- 4 灰黄褐色土：やや多量の洪水砂を含む。
- 5 灰黄褐色土：やや多量の洪水砂及び少量の焼土粒子を含む。
- 6 褐色土：やや多量の洪水砂及び微量の焼土粒子を含む。
- 7 黄褐色土：洪水砂とロームの混土。
- 8 灰黄褐色土：洪水砂。
- 9 砂礫層と軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土の混土。



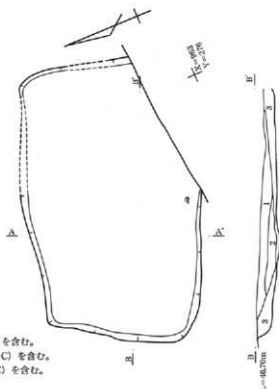
第168図 71号住居跡、同出土遺物

72号住居跡

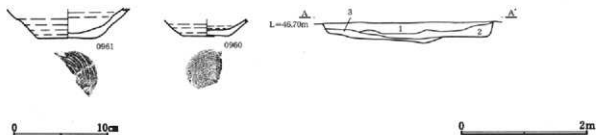
本住居跡は、21区の $X=35.963 \cdot Y=-39.276$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、南東部の一部が調査区域外のため確定できないが、東西約4.1～4.5m、南北約2.5～2.8mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈すると推測される。主軸は $N-109^{\circ}-E$ である。

調査範囲内から、竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。遺物の出土は少ないが、須恵器杯(960・961)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀後半である。



- 1 灰褐色土：やや砂質。少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
 2 灰褐色土：微量の黒褐色土粒子・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
 3 灰褐色土：少量の洪水シルト・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。



第169図 72号住居跡、同出土遺物

73号住居跡

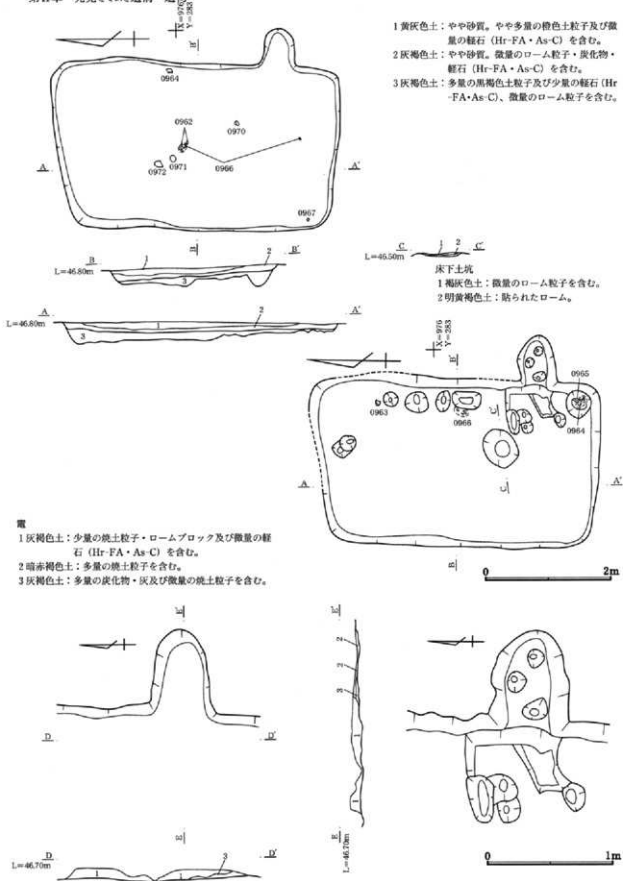
本住居跡は、21区の $X=35.976 \cdot Y=-39.283$ 付近で検出された。165号土坑と重複する。新旧関係は、不明である。

本住居跡の規模は、東西約2.6～2.7m、南北約4.2～4.6mであり、平面形は横長の隅丸長方形ないしは隅丸台形を呈する。主軸は $N-90^{\circ}-E$ である。

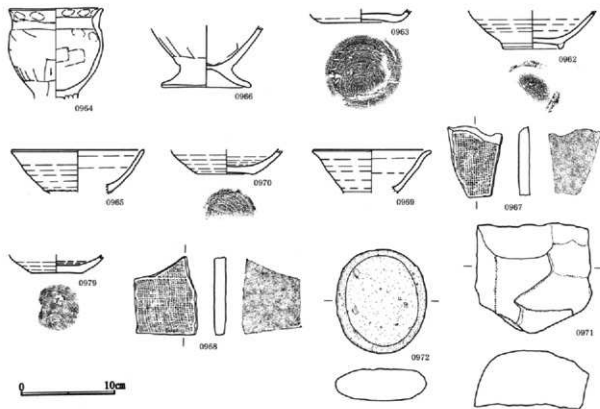
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、確認面での燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。竈からは、掘り方調査で袖石を据えたと考えられるピット、支脚を据えたと考えられるピットが検出できた。床面から柱

穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかったが、掘り方調査で貯蔵穴と推定されるピットを南東隅から確認することができた。規模は、長軸約0.45m、短軸約0.4m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は楕円形を呈する。また、掘り方からは住居内中央部の床下土坑のほか、多くのピット状落ち込みを検出することができた。須恵器杯(963・969・970・979)、須恵器椀(962・965)、土師器台付甕(964・966)、平瓦(967・968)、石製品(971・972)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。

第11章 発見された遺構・遺物



第170図 73号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方



第171図 73号住居跡出土遺物

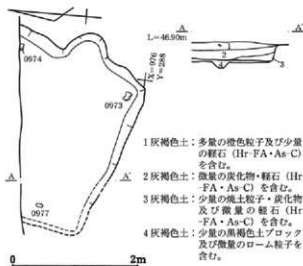
74号住居跡

本住居跡は、21区のX=35.976・Y=-39.288付近で検出された。81号住居跡と重複する。新旧関係は、南側の壁の一部が、81号住居跡の北側の床を破壊して築かれていることが確認できたことにより、本住居跡の方が新しい。

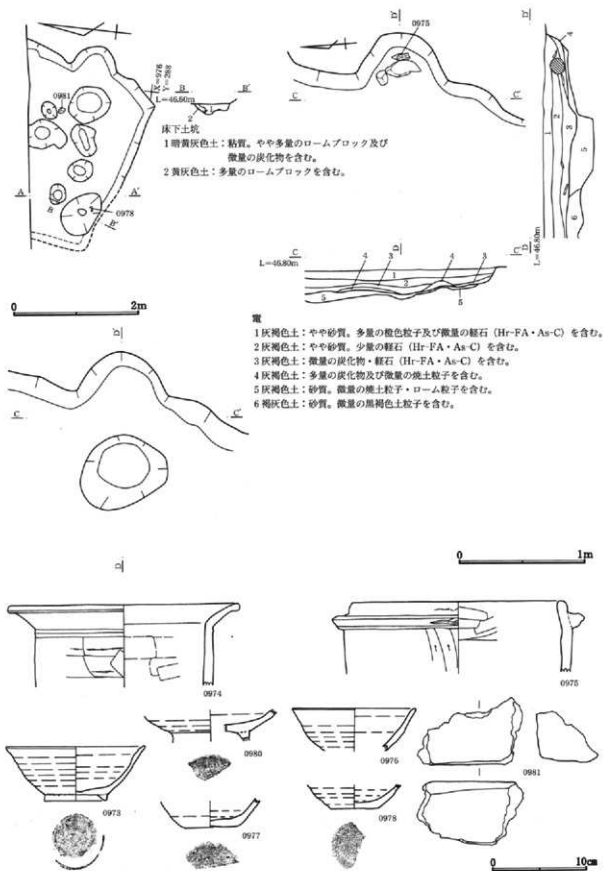
本住居跡の規模は、北側部分が調査区域外、西側が攪乱による破壊のため、確定できないが、東西約2.8mと推定され、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推測される。主軸はN-108°-Eである。

竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.3mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝を検出することができなかったが、南西隅付近と推定される位置から、貯蔵穴と考えることが可能な床下土坑を検出することができた。規模は、長軸約0.7m、短軸約0.5m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は、須恵器杯(976-977-978)、須恵器椀(973-980)、土師器甕(974)、羽釜(975)、土製品埴(981)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、10世紀前半である。



第172図 74号住居跡



第173図 74号住居跡掘り方、同電、同電掘り方、同出土遺物

75号住居跡

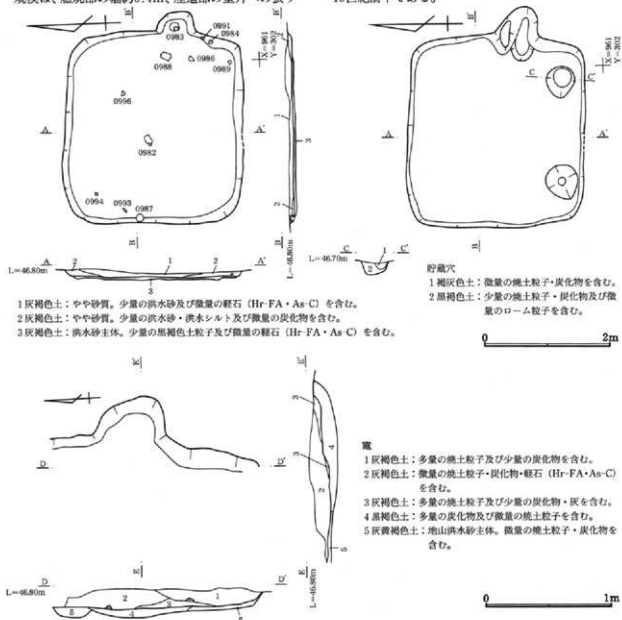
本住居跡は、21区のX=35.961・Y=-39.302付近で検出された。77号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の南東～南西部分の壁・床が、77号住居跡の北東～北西部分の壁・床・竈を破壊して築かれていることから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、東西約2.95～3.05m、南北約2.75～2.9mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-92°-Eである。

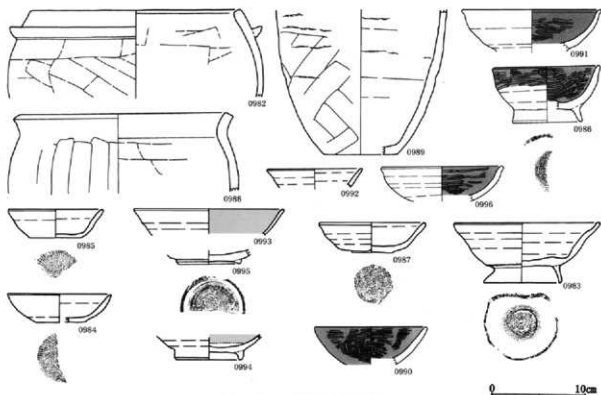
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り

出し約0.3mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかったが、掘り方調査で貯蔵穴と考えられるピットが、南東隅から検出できた。規模は、長軸約0.5m、短軸約0.45m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は、須恵器杯(984・985)、須恵器椀(983・986・987・990・991・992・996)、灰軸陶器椀(993・994・995)、土師器甕(988)、羽釜(982・989)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、10世紀前半である。



第174図 75号住居跡、同掘り方、同竈、同竈掘り方



第175図 75号住居跡出土遺物

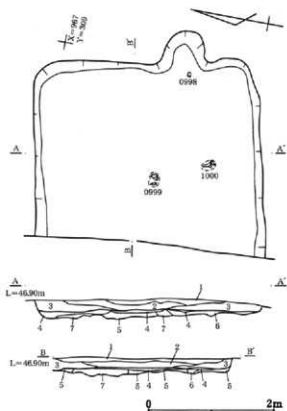
76号住居跡

本住居跡は、21区のX=35.967・Y=-39.309付近で検出された。他の遺構との重複はない。

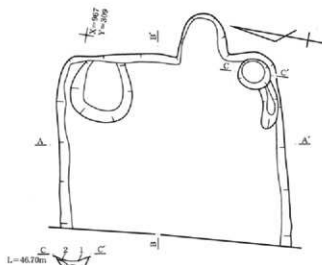
本住居跡の規模は、西側部分が調査区域外のため確定できないが、南北は約3.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-79°-Eである。

竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.5mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかったが、掘り方調査で貯蔵穴と推定できるピットを検出できた。規模は、直径約0.5m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は円形を呈する。また、貯蔵穴に続く南壁に沿い、壁溝の一部と考えられる溝状の落ち込みを検出できた。

遺物は、土師器杯(997・998)、須恵器碗(999)、土師器壺(1000・1001)石製品(1002)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀前半～中葉である。



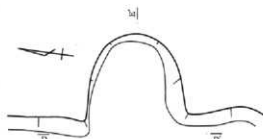
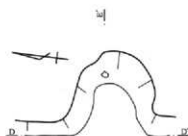
第176図 76号住居跡



- 1 灰褐色土：やや砂質。微量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 灰褐色土：微量のローム粒子・黒褐色土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 灰褐色土：硬く締る。多量の砂及び少量のローム粒子、微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 灰褐色土：微量の砂を含む。
- 6 灰褐色土：多量の黒褐色土ブロック及び微量の砂・ロームブロックを含む。
- 7 黄褐色土：多量のロームブロック・黒褐色土ブロック及び微量の砂を含む。

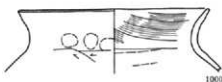
貯蔵穴

- 1 褐色土：砂質。多量の炭化物及び微量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰褐色土：砂質。微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。



竈

- 1 灰褐色土：やや砂質。微量の焼土粒子を含む。
- 2 暗赤褐色土：多量の焼土粒子及び微量の炭化物を含む。
- 3 灰赤色土：焼土主体。砂粒を含む。
- 4 灰褐色土：砂質。やや多量の焼土ブロックを含む。
- 5 褐色土：砂質。やや多量の焼土粒子及び微量の炭化物を含む。
- 6 褐色土：砂質。やや多量の黄褐色土ブロックを含む。
- 7 灰褐色土：微量の砂を含む。



第177図 76号住居跡掘り方、同竈、同竈掘り方、同出土遺物

77号住居跡

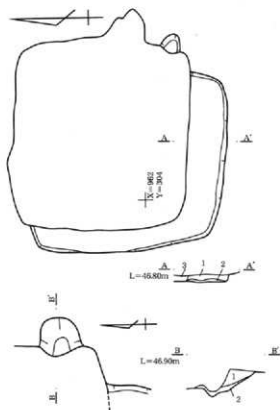
本住居跡は、21区のX=35.962・Y=-39.304付近で検出された。75号住居跡と重複する。新旧関係は、中央から北東の壁・床大部分及び竈燃焼部が、75号住居跡に破壊されていることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、75号住居跡による破壊で確定できないが、東西約2.7m、南北約2.9mであり、平

面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。主軸はN-90°-Eである。

竈は、東壁南よりに築かれている。規模は、燃焼部が破壊されているため不明である。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。

遺物の出土は少なく、土師器、須恵器の小破片が出土しているだけである。遺物等から推定する本住居跡の年代は、9世紀以後である。



- 1 灰褐色土：少量の洪水砂及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
 - 2 黄灰褐色土：多量の洪水砂及び少量の黒褐色土粒子を含む。
- 3 75号住居跡覆土

0 2m

竈

- 1 灰褐色土：少量の焼土粒子及び微量の炭化物を含む。
- 2 灰褐色土：少量の焼土粒子・洪水砂及び微量の炭化物を含む。

0 1m

第178図 77号住居跡、同掘り方、同竈

78号住居跡

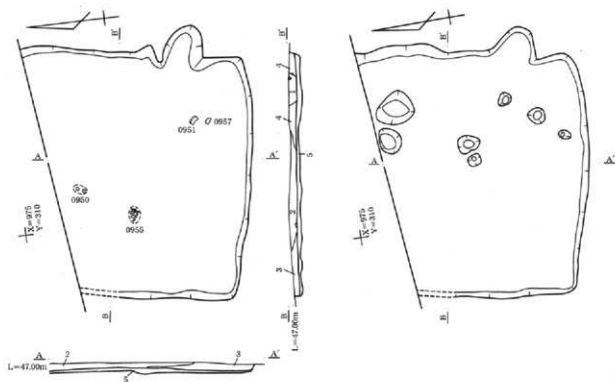
本住居跡は、21区のX=35.975・Y=-39.310付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、北側部分が水路により破壊されており、確定できないが、東西約3.8～3.9mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-100°-Eである。

竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り

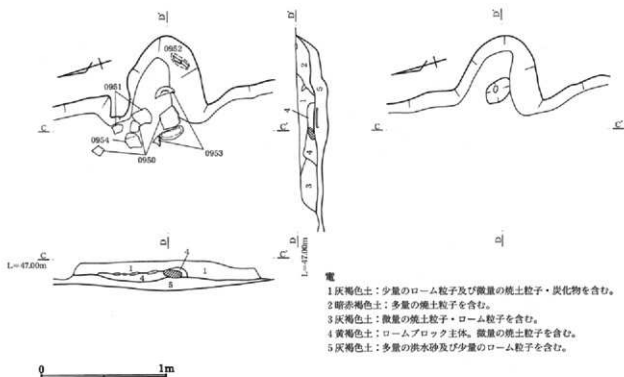
出し約0.5mである。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝を検出することはできなかった。掘り方調査で7基の土坑状・ピット状落ち込みを検出できたが、貯蔵穴・柱穴と考えられる土坑、ピットはなかった。

遺物は、須恵器杯（955・957）、須恵器椀（956・958）、土師器壺（950）、羽釜（951・952・953・954）等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、10世紀前半である。



- 1 灰褐色土：少量のロームブロック及び微量の焼土粒子・炭化物を含む。(他の遺構)
- 2 灰褐色土：少量の洪水砂・洪水シルトを含む。
- 3 褐灰色土：洪水砂主体。
- 4 灰褐色土：微量の焼土粒子・炭化物・ローム粒子を含む。
- 5 灰褐色土：多量の洪水砂及び少量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

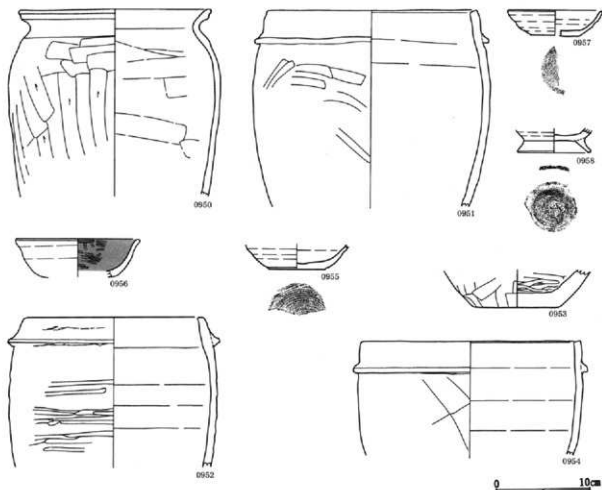
0 2m



- 1 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 2 暗赤褐色土：多量の焼土粒子を含む。
- 3 灰褐色土：微量の焼土粒子・ローム粒子を含む。
- 4 黄褐色土：ロームブロック主体。微量の焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色土：多量の洪水砂及び少量のローム粒子を含む。

0 1m

第179図 78号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方



第180図 78号住居跡出土遺物

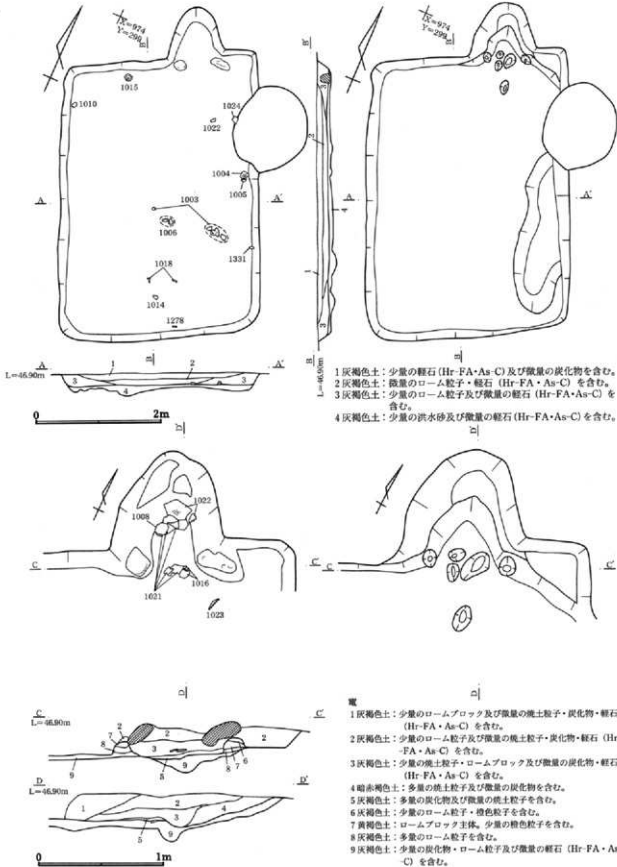
79号住居跡

本住居跡は、21区のX=35.974・Y=-39.299付近で検出された。21号掘立柱、125号土坑、164号土坑と重複する。21号掘立柱との新旧関係は、直接的に確認することはできなかったが、同掘立柱の北側中央の柱穴が検出できなかったことから、本住居跡の方が新しいと考えられる。125号土坑との新旧関係は、同土坑が本住居跡の東側の壁・床の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。164号土坑との新旧関係は、同土坑の南側の一部を破壊して、本住居跡の北側の壁・床の一部が築かれていることから、本住居跡のほうが新しい。

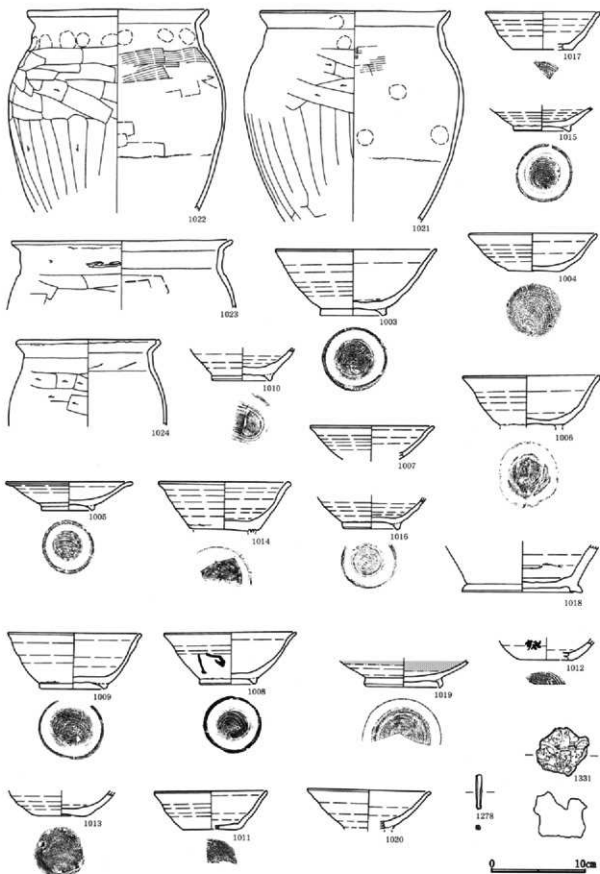
本住居跡の規模は、東西約3.1~3.2m、南北約4.4~4.5mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-33°-Wである。

竈は、北壁の東よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.7mである。竈の両袖からは、構築材に使用されたと考えられる石が、崩れた状態で検出できた。また、竈掘り方からは、石材を据えたと考えられるビットが検出できた。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、須恵器杯 (1004・1011・1012・1013・1017)、須恵器椀 (1003・1006・1007・1008・1009・1010・1014・1015・1016・1020)、須恵器皿 (1005)、灰陶陶器碗 (1019)、須恵器壺 (1018)、土師器甕 (1021・1022・1023・1024)、鉄製品 (1278)、鉄滓 (1331) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉~後半である。



第181図 79号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方



第182図 79号住居跡出土遺物

80号住居跡

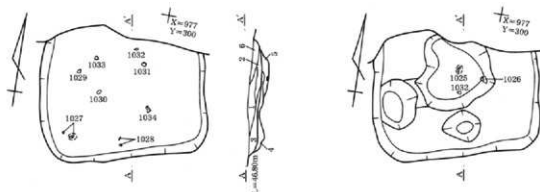
本住居跡は、21区のX=35.977・Y=-39.300付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、北側部分が水路により破壊されており確定できないが、東西約2.5～2.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈するものと推定される。

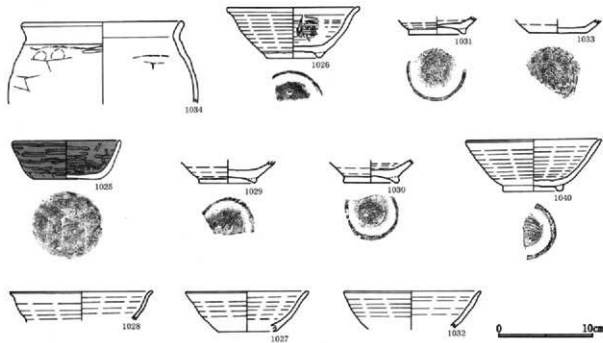
確認範囲から電は検出できなかった。床面から、

柱穴・貯蔵穴・壁溝を検出することはできなかった。掘り方調査では、3基の土坑状落ち込みを検出することができた。

遺物は、須恵器杯 (1025・1027・1028・1032・1033)、須恵器椀 (1026・1029・1030・1031・1040)、土師器甕 (1034) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀後半である。



- 1 灰褐色土：少量の炭化物及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰黄褐色土：洪水砂主体。微量の炭化物を含む。
- 3 灰褐色土：少量の洪水砂・焼土粒子・炭化物及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 灰褐色土：やや多量の洪水砂及び微量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 灰褐色土：洪水砂主体。やや多量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 6 雑乱。



第183図 80号住居跡、同掘り方、同出土遺物

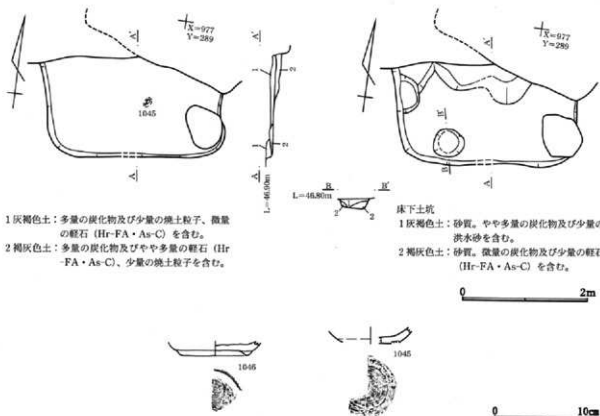
81号住居跡

本住居跡は、21区のX=35.977・Y=-39.289付近で検出された。74号住居跡、130号土坑と重複する。74号住居跡との新旧関係は、同住居跡により、本住居跡の北東部分の壁・床が破壊されていることにより、本住居跡のほうが古い。130号土坑との新旧関係は、同土坑により本住居跡の南東隅の壁・床の一部が破壊されていることにより、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、北側部分が破壊されており確定できないが、東西約2.8mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。遺構

確認範囲の床面から竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査では、南西隅から貯蔵穴と考えることが可能な床下土坑を検出することができた。規模は、長軸約0.6m、短軸約0.55m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物の出土は少ないが、須恵器椀(1045・1046)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。



- 1 灰褐色土：多量の炭化物及び少量の焼土粒子、微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 2 褐灰色土：多量の炭化物及びやや多量の軽石 (Hr-FA・As-C)、少量の焼土粒子を含む。

床下土坑

- 1 灰褐色土：砂質。やや多量の炭化物及び少量の洪水砂を含む。
 2 褐灰色土：砂質。微量の炭化物及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

第184図 81号住居跡、同掘り方、同出土遺物

82号住居跡

本住居跡は、18区のX=35.964・Y=-39.337付近で検出された。104号住居跡、58号溝と重複する。104号住居跡との新旧関係は、本住居跡の南側壁・床の一部が、104号住居跡の北側部分を破壊して築かれていることから、本住居跡の方が新しい。58号溝との新旧関係は、同溝の覆土中から本住居跡の電煙脚

部が検出できたことから、本住居跡の方が新しい。

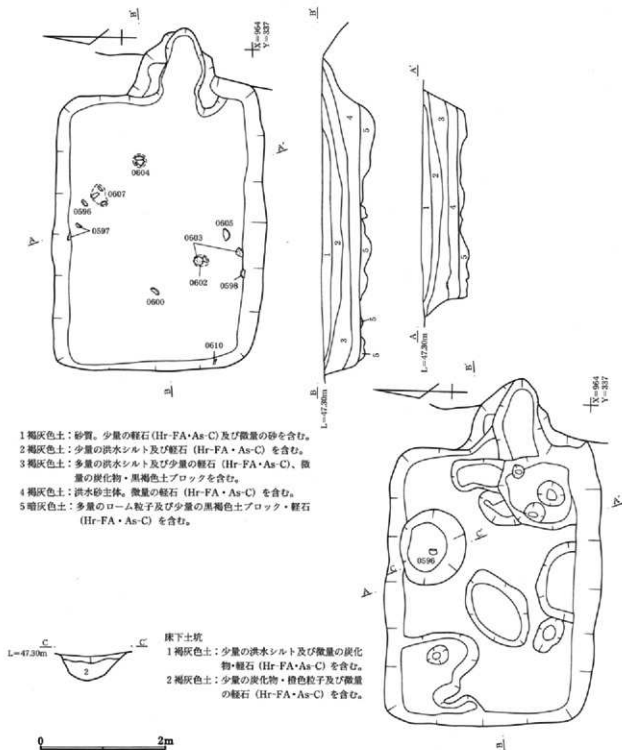
本住居跡の規模は、東西約4.4~4.6m、南北約3.3mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-86°-Eである。

竈は、東壁の中央やや南よりに築かれている。規模は、燃焼部の幅約0.6m、煙道部の壁外への張り出し約0.9mである。床面から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は

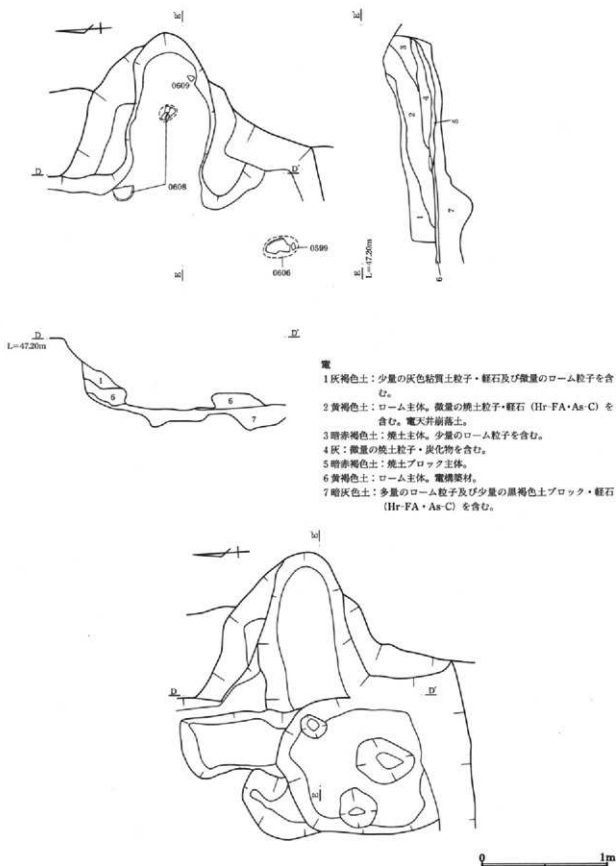
検出することができなかった。掘り方調査では、多くの土坑状落ち込み、ピット状落ち込みを検出できたが、柱穴・貯蔵穴と考えられる土坑・ピットは検出できなかった。

遺物は、土師器杯 (602・603・604・605・606・607・

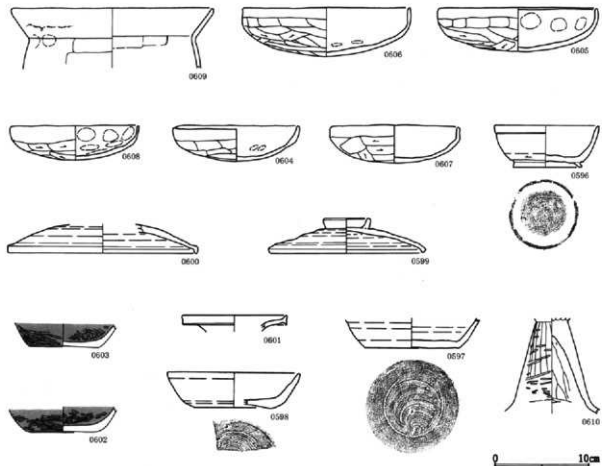
608)、須恵器杯 (597・598)、須恵器椀 (596)、土師器高杯(610)、須恵器蓋(599・600)、須恵器壺(601)、土師器甕 (609) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀前半～中葉である。



第185図 82号住居跡、同掘り方



第186図 82号住居跡電、同電掘り方



第187図 82号住居跡出土遺物

83号住居跡

本住居跡は、18区の $X=35.967 \cdot Y=-39.323$ 付近で検出された。84号住居跡と重複する。新旧関係は、同住居跡の東側部分の壁・竈の一部を破壊していることが確認できたことにより、本住居跡の方が新しい。

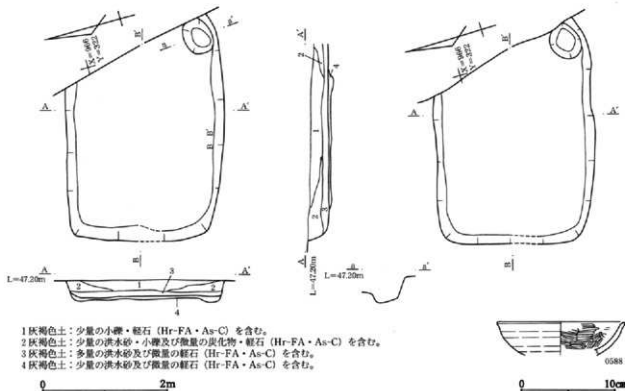
本住居跡の規模は、東側部分が調査不能のため確定できないが、東西約2.3~2.5m、南北3.5m以上であり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈すると推定される。

調査範囲内から、竈を検出することはできなかった。東壁に築かれているものと推測される。貯蔵穴は南東隅付近から検出された。規模は、長軸約0.6m、短軸約0.45m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面から、柱穴・壁溝は検出できなかった。

遺物の出土は少ないが、須恵器の椀(588)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀である。



第188図 83号住居跡、84号住居跡重複関係



第189図 83号住居跡、同掘り方、同出土遺物

84号住居跡

本住居跡は、18区のX=35.964・Y=-39.325付近で検出された。83号住居跡、151号土坑、152号土坑と重複する。83号住居跡との新旧関係は、同住居跡の西側部分の壁床が、本住居跡の東側部分の壁・竈の一部を破壊して築かれていることが確認できたことにより、本住居跡の方が古い。151号土坑との新旧関係は、同土坑が本住居跡の南壁の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。152号土坑との新旧関係は、同土坑が本住居跡の南壁の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約2.6～2.7m、南北約3.25～3.35mであり、平面形は横長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-122°-Eである。

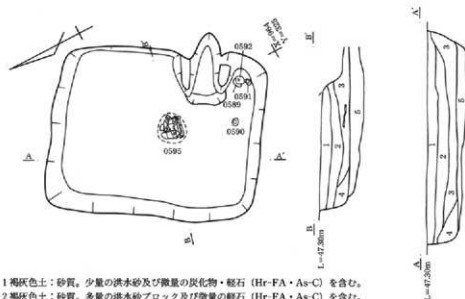
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.3mである。床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査からは、4基の土坑状・ピット状落ち込みが検出できたが、柱穴・貯蔵

穴と考えられる落ち込みは、検出できなかった。

遺物は、須恵器杯(589・590・591)、須恵器蓋(592)、土師器甕(595)、石製品(594)、鉄滓(593)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉である。

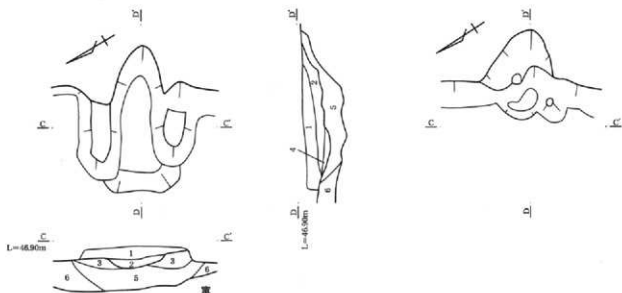


第190図 84号住居跡掘り方



- 1 褐灰色土：砂質。少量の洪水砂及び微量の炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 褐灰色土：砂質。多量の洪水砂ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 褐灰色土：少量の洪水砂及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 地山洪水砂の崩落土
- 5 褐灰色土：多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び黒褐色土粒子・ローム粒子・洪水シルトを含む。

0 2m

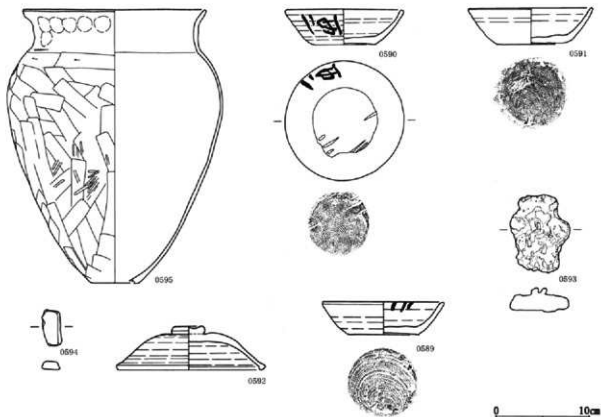


電

- 1 褐灰色土：砂質。微量の焼土粒子・ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰褐色土：多量の焼土粒子及び微量の炭化物・灰を含む。
- 3 褐灰色土：少量の焼土粒子・ローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 褐灰色土：少量の炭化物・灰及び微量の焼土粒子を含む。
- 5 黄灰色土：洪水砂主体。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量の黒褐色土粒子を含む。
- 6 褐灰色土：多量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び黒褐色土粒子・ローム粒子・洪水シルトを含む。

0 1m

第191図 84号住居跡、同電、同電掘り方



第192図 84号住居跡出土遺物

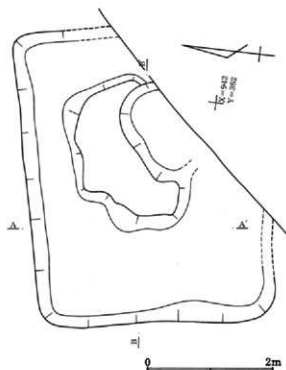
85号住居跡

本住居跡は、18区のX=35.942・Y=-39.362付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、南東側部分が調査できなかったため確定できないが、東西約4.75m、南北約3.8mであり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。

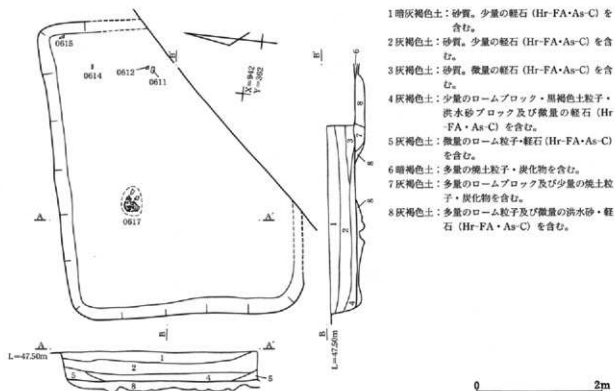
床面確認範囲から竈を検出することはできなかった。東壁の南よりに築かれていたものと推定される。床面確認範囲から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかった。掘り方調査で住居中央部分から土坑状落ち込みが検出できたが、柱穴・貯蔵穴とは考えられない。

遺物は、土師器杯 (611・612)、土師器壺 (613・614・617)、土師器台付壺 (615) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。

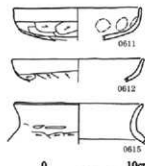
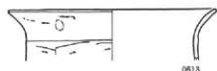
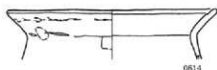
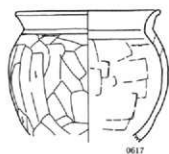


第193図 85号住居跡掘り方

第1節 住居跡



- 1 暗灰褐色土：砂質。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰褐色土：砂質。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 灰褐色土：砂質。微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 灰褐色土：少量のロームブロック・黒褐色土粒子・洪水砂ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 灰褐色土：微量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 暗褐色土：多量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 7 灰褐色土：多量のロームブロック及び少量の焼土粒子・炭化物を含む。
- 8 灰褐色土：多量のローム粒子及び微量の洪水砂・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。



第194図 85号住居跡、同出土遺物

86号住居跡

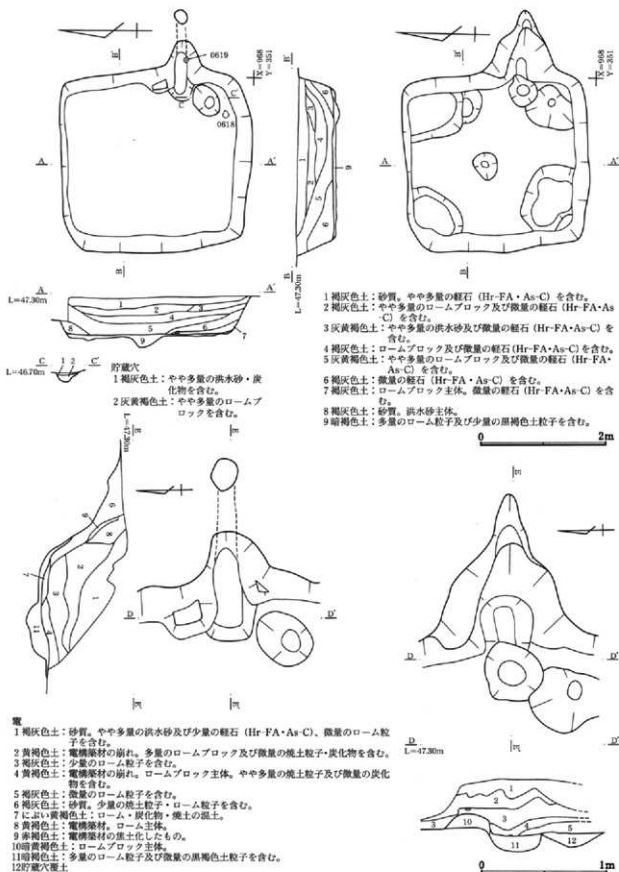
本住居跡は、18区のX=35.968・Y=-39.351付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約2.8~2.9m、南北約2.9~3.0mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-86-Eである。

竈は東壁の南よりに築かれている。竈燃焼部は破壊されていたが、煙道部の残存状態は良好であり、煙突部分の立ち上がりを確認することができた。規模は、燃焼部の幅約0.25m、煙道部の壁外への張り出し約0.9mである。貯蔵穴は、竈右、南東隅付近か

ら検出された。規模は、長軸約0.55m、短軸約0.4m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面から柱穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では、住居の中央、四隅、竈燃焼部付近から土坑状、ピット状の落ち込みが検出できた。

遺物は、土師器杯 (618)、土師器甕 (619・620) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。



第195図 86号住居跡、同掘形、同電、同電掘り方



第196図 86号住居跡出土遺物

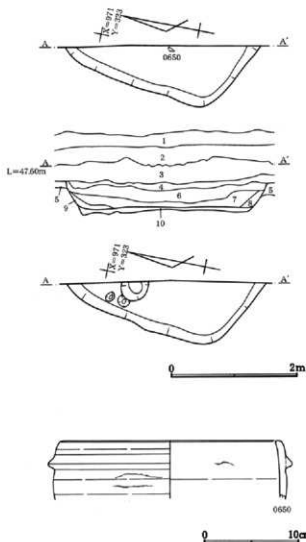
87号住居跡

本住居跡は、18区の $X=35.971 \cdot Y=-39.323$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東側の大部分が現道の下になり調査ができず、南西部の一部しか確認できなかったことにより、不明である。

調査可能な範囲内から、竈・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では、3基の土坑状・ピット状落ち込みを検出することができた。

遺物の出土は少ないが羽釜(650)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、10世紀前半である。



- 1 褐灰色土：現耕作土。
- 2 褐灰色土：旧耕作土。ロームブロックを含む。
- 3 黒褐色土：軽石（As-B）を含む。
- 4 黒褐色土：多量の軽石（As-B）を含む。
- 5 土に黄褐色土：洪水砂層。
- 6 灰黄褐色土：小礫を含む。
- 7 灰黄褐色土：少量の小礫を含む。
- 8 土に黄褐色土：洪水砂主体。
- 9 灰黄褐色土：粘質。黒褐色土ブロックを含む。
- 10 土に黄褐色土：黒褐色土ブロック及び少量の洪水砂を含む。

第197図 87号住居跡、同掘り方、同出土遺物

88号住居跡

本住居跡は、21区の $X=35.976 \cdot Y=-39.296$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

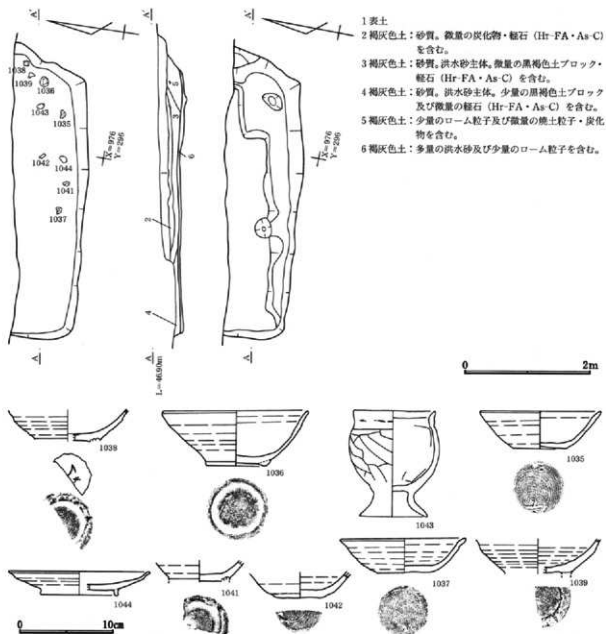
本住居跡の規模は、北側部分が現水路のため調査できなかったことにより確定できないが、東西は約4.4mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸は $N-84^{\circ}-E$ である。

竈は、東壁の南よりに築かれている。南半分の調査であり、規模は不明である。調査範囲の床面から、

柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査で南東隅付近からピットが検出できたが、貯蔵穴と考えるには難がある。また、南壁に沿った壁溝状の落ち込みが検出できた。

遺物は須恵器杯(1035・1037・1042)、須恵器椀(1036・1038・1039・1041)、緑釉陶器皿(1044)、土師器台付甕(1043)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。

第2章 発見された遺構・遺物



第198図 88号住居跡、同掘り方、同出土遺物

89号住居跡

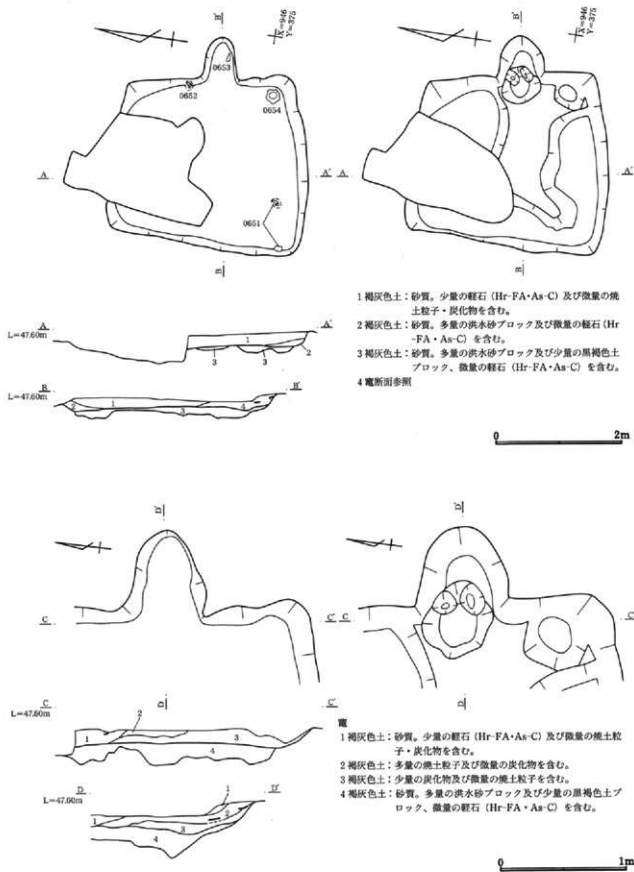
本住居跡は、18区のX=35.946・Y=-39.375付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は北側の一部が攪乱により破壊されているが、規模は、東西約2.5～3.0m、南北約2.7～3.2mであり、平面形は不整形な隅丸長方形ないしは隅丸台形を呈する。主軸はN-86°-Eである。

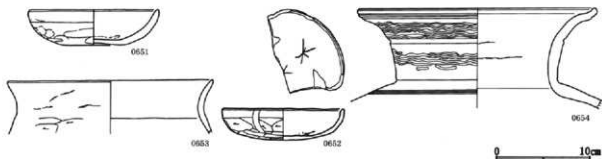
竈は、東壁の中央に築かれている。確認面での規模は、燃烧部の幅約0.5m、煙道部の壁外への張り出し約0.6mである。竈は破壊されており、袖は確認で

きなかったが、掘り方調査で、燃烧部から支脚を埋めたと推測できるビットが検出できた。床面から貯蔵穴・柱穴・壁溝は検出できなかったが、掘り方調査で南東隅から貯蔵穴と推測可能な落ち込みが検出できた。規模は長軸約0.6m、短軸約0.4mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は、土師器杯 (651・652)、土師器壺 (653)、須恵器壺 (654) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。



第199図 89号住居跡、同掘り方、同電、同電掘り方



第200図 89号住居跡出土遺物

90号住居跡

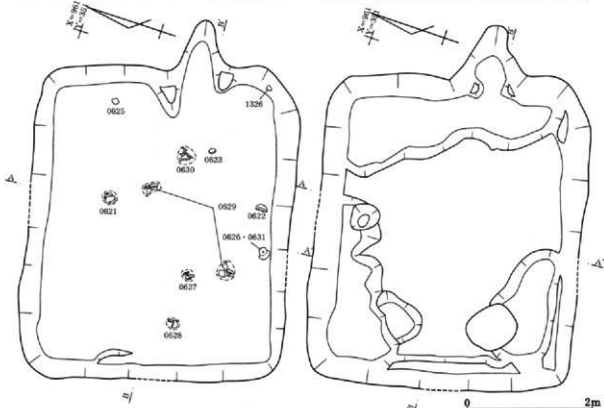
本住居跡は、18区のX=35.961・Y=-39.351付近で検出された。5号井戸、57号溝と重複する。5号井戸との新旧関係は、同井戸が本住居跡の床の一部を破壊していることから、本住居跡の方が古い。57号溝との新旧関係は、本住居跡の覆土中に同溝が検出できないことから、本住居跡の方が新しい。

本住居跡の規模は、東西5.0m、南北約4.2~4.3mであり、平面形は縦長の隅丸長方形を呈する。主軸はN-73°-Eである。

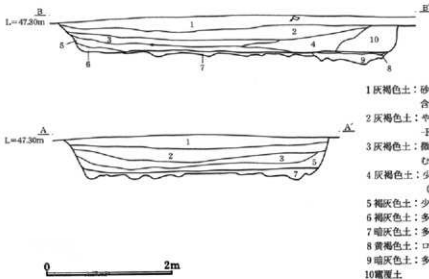
竈は、東壁の南よりに築かれている。確認面での

規模は、燃焼部の幅約0.5m、煙胴部の壁外への張り出し約0.7mである。竈では袖の一部が検出できた。床面から住穴・貯蔵穴・壁溝は検出することができなかったが、掘り方調査で、南西コーナー付近の南壁~西壁に沿い、壁溝を推測させる溝状の落ち込みが検出できた。

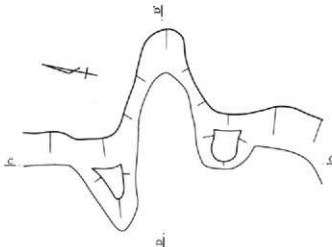
遺物は、土師器杯 (627・628)、須恵器杯 (621・622・623・624・625・632)、土師器鉢 (626)、土師器壺 (629・630・633)、鉄製品馬具 (1326)、石製品蒜石 (631) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀末~9世紀前半である。



第201図 90号住居跡、同掘り方

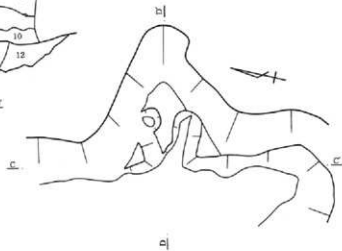
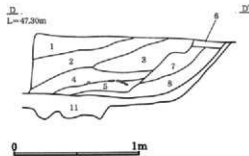
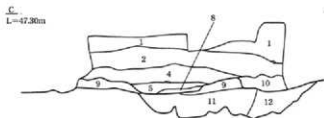


- 1 灰褐色土：砂質。少量の洪水砂・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰褐色土：やや砂質。少量の洪水砂及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 灰褐色土：微量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 褐灰色土：少量のローム粒子を含む。
- 6 褐灰色土：多量のローム粒子を含む。
- 7 暗灰色土：多量のローム粒子を含む。
- 8 黄褐色土：ローム。微量の焼土粒子を含む。(貼床)
- 9 暗灰色土：多量のローム粒子及び少量の焼土粒子を含む。
- 10 覆層土

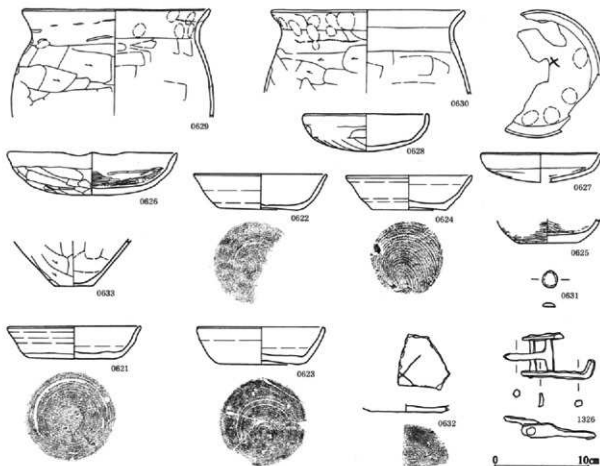


電

- 1 灰褐色土：やや砂質。少量の洪水砂及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰褐色土：少量のローム粒子及び微量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黄褐色土：ローム主体。下部に少量の焼土粒子を含む。電機築材の崩落。
- 4 灰黄褐色土：多量のローム粒子及び少量の焼土粒子、微量の炭化物を含む。
- 5 黄褐色土：ローム主体。多量のローム粒子を含む。
- 6 褐灰色土：少量の焼土粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗赤褐色土：焼土主体。
- 8 黒褐色土：炭化物・灰。多量の焼土粒子を含む。
- 9 黄褐色土：ローム。電軸の残り。
- 10 暗褐色土：少量の炭化物及び微量のローム粒子を含む。
- 11 暗灰色土：多量のローム粒子・ロームブロック及び少量の焼土粒子を含む。
- 12 暗灰色土：多量のローム粒子を含む。



第202図 90号住居跡セクション、同電、同電掘り方



第203図 90号住居跡出土遺物

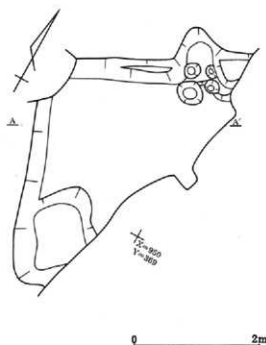
91号住居跡

本住居跡は、18区のX=35.950・Y=-39.369付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、南東部が攪乱により破壊されており確定できないが、南北約3.6mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。主軸はN-30°-Wである。

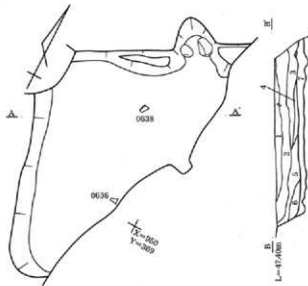
竈は、北壁の中央付近に築かれている。確認面での規模は、燃焼部の幅約0.4m、煙道部の壁外への張り出し約0.45mである。燃焼部内からは、構築材に使用されたと考えられる石が検出されている。床面検出範囲内から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物は、土師器杯(634・635)、須恵器杯(637)、土師器甕(636)、須恵器甕(638)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。



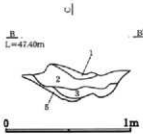
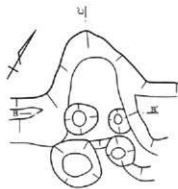
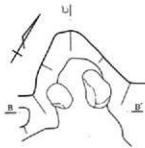
第204図 91号住居跡掘り方

第1節 住居跡



- 1 褐灰色土：砂質。少量の軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量の橙色粒子を含む。
- 2 褐灰色土：砂質。微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 暗褐色土：砂質。微量の炭化物・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 におい黄褐色土：やや多量のローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 暗褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C)・橙色粒子を含む。
- 6 灰黄褐色土：砂質。洪水砂主体。
- 7 におい黄褐色土：多量のロームブロック及び微量の洪水砂を含む。

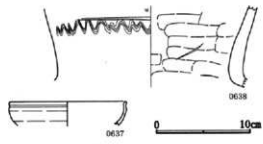
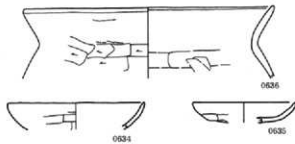
0 2m



L=47.60m

電

- 1 褐灰色土：砂質。やや多量の洪水砂及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 褐灰色土：砂質。多量の焼土粒子及びやや多量の洪水砂、少量の炭化物・ローム粒子を含む。
- 3 暗褐色土：多量の炭化物及びやや多量の焼土粒子を含む。
- 4 褐灰色土：砂質。やや多量の洪水砂及び少量の炭化物・ローム粒子を含む。
- 5 におい黄褐色土：多量のロームブロック及びやや多量の炭化物を含む。
- 6 におい黄褐色土：多量のロームブロック及び微量の洪水砂を含む。



第205図 91号住居跡、同電、同電掘り方、同出土遺物

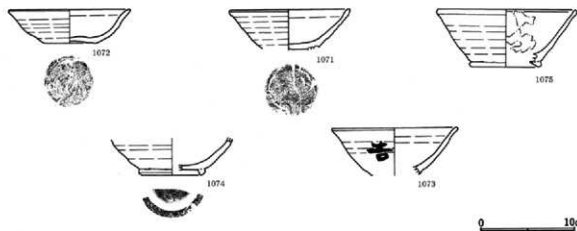
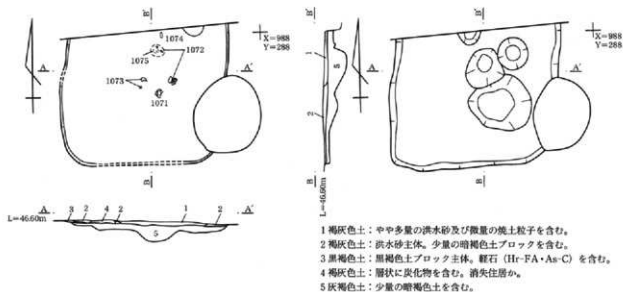
94号住居跡

本住居跡は、22区のX=35.988・Y=-39.288付近で検出された。171号土坑と重複する。新旧関係は、本住居跡の東側の壁・床の一部を同土坑が破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、北側部分が破壊されているため確定できないが、東西約2.6～2.7mであり、平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。

床面検出範囲内から、竈は検出できなかったが、北壁に構築されていたと推測される。また、床面検出範囲内から、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では4基の土坑状・ピット状落ち込みを検出できた。

遺物は、須恵器杯(1071・1072・1073)、須恵器碗(1074・1075)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、9世紀中葉～後半である。



第206図 94号住居跡、同掘り方、同出土遺物

95号住居跡

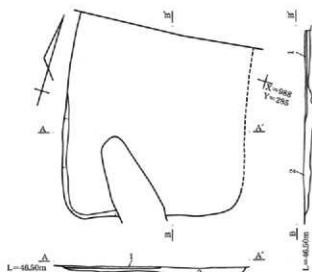
本住居跡は、22区のX=35.988・Y=-39.285付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、北側部分が破壊されているため確定できないが、東西約2.9m、南北は3.2m以上であり、平面形は隅丸長方形を呈すると推定される。

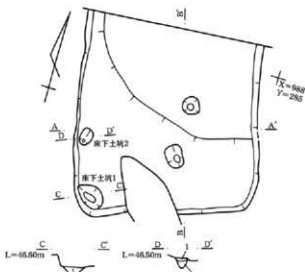
床面検出範囲内から、竈は検出できなかった。北壁に構築されていたと推測される。床面検出範囲内から柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り

方調査では、4基の土坑状・ピット状落ち込みを検出できた。南西隅から検出された床下土坑1は、貯蔵穴の可能性も考えられる。規模は、長軸約0.5m、短軸約0.3m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物の出土は少ないが、覆土中土師器の破片が少量出土している。遺物等から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半以後である。



- 1 黄褐色土：少量の洪水砂及び微量の軽石 (Hr・FA・As・C) を含む。
2 黄褐色土：やや多量の暗褐色土ブロックを含む。



- 床下土坑1
1 灰褐色土：少量の黒褐色土ブロック・暗褐色土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。

- 床下土坑2
1 灰褐色土：微量の炭化物を含む。
2 灰黄褐色土：微量の炭化物・ローム粒子を含む。

第207図 95号住居跡、同掘り方

98号住居跡

本住居跡は、18区のX=35.971・Y=-39.329付近で検出された。59号溝と重複する。新旧関係は、本住居跡の南東隅部分の壁・床を同溝が破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約2.4~2.45m、南北約2.55~2.6mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸はN-26°-Wである。

床面検出範囲内から、竈を検出することはできな

かった。また、同範囲内から柱穴・貯蔵穴・壁溝を検出することはできなかった。掘り方調査では、1基の土坑状ないしはピット状落ち込みを検出できた。

遺物は、土師器高杯 (656)、土師器壺 (655・657) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。

第II章 発見された遺構・遺物



- 1 黒褐色土：少量の軽石（As-C）及び微量のローム粒子を含む。
- 2 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石（As-C）を含む。
- 3 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 4 暗褐色土：多量のローム粒子及び少量の炭化物を含む。
- 5 暗黄褐色土：多量のローム粒子を含む。



0 10cm

第208図 98号住居跡、同掘り方、同出土遺物

99号住居跡

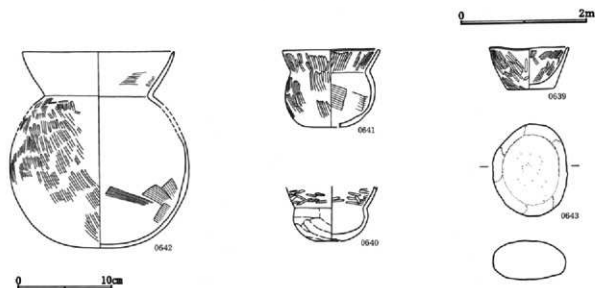
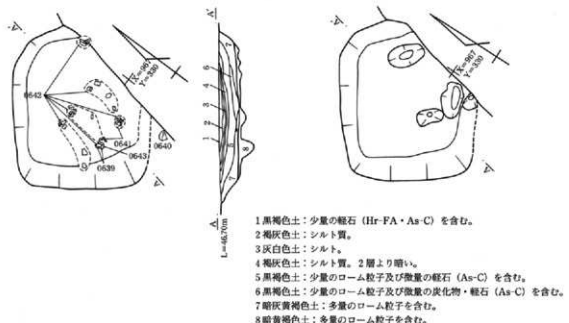
本住居跡は、18区のX=35.967・Y=-39.330付近で検出された。59号溝と重複する。新旧関係は、本住居跡の南東部分の壁・床の一部を同溝が破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約2.4~2.5m、南北約2.1~2.2mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-52°-Eである。

床面検出範囲内から、伊を検出することはできな

かった。また、同範囲内から柱穴・貯蔵穴・壁溝を検出することはできなかった。掘り方調査では、4基の土坑状・ビット状落ち込みを検出することができた。

遺物は、土師器杯（639）、土師器埴（640・641）、土師器甕（642）、石製品（643）等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



第209図 99号住居跡、同掘り方、同出土遺物

100号住居跡

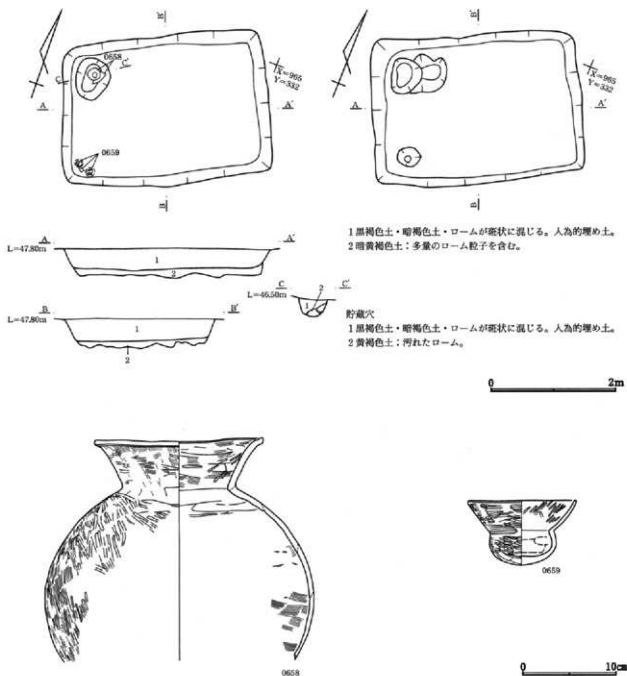
本住居跡は、18区のX=35.965・Y=-39.332付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、東西約3.25～3.35m、南北約2.2～2.4mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-65°-Eである。

住居内から炉を検出することはできなかった。竪穴内に炉はなく、屋外炉等を設置していたものと推測される。貯蔵穴は、北西隅から検出された。規模

は、長軸約0.65m、短軸約0.5m、床面からの深さ約0.3mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。床面から、柱穴・壁溝は確認できなかった。掘り方調査では、貯蔵穴以外に2基の土坑状・ピット状落ち込みを確認することができた。

遺物は、土師器埴（659）、土師器甕（658）等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



1 黒褐色土・暗褐色土・ロームが斑状に混じる。人為的埋め土。
2 暗黄褐色土：多量のローム粒子を含む。

貯蔵穴

1 黒褐色土・暗褐色土・ロームが斑状に混じる。人為的埋め土。
2 黄褐色土：得れたローム。

第210図 100号住居跡、同掘り方、同出土遺物

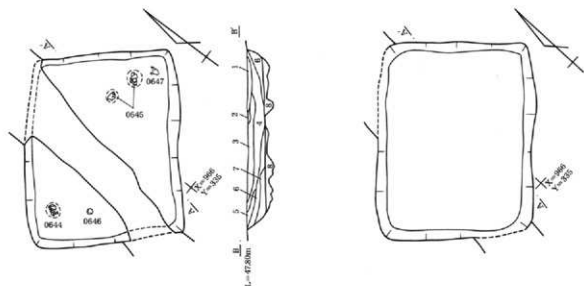
101号住居跡

本住居跡は、18区の $X=35.966 \cdot Y=-39.335$ 付近で検出された。58号溝と重複する。新旧関係は、本住居跡の北西部～南東部の壁・床の一部を同溝が破壊していることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、長辺約3.0m、短辺約2.3～2.5mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-

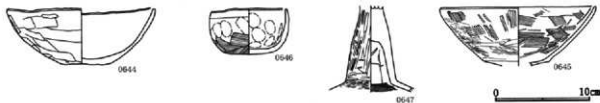
49'-Eである。確認できた床面範囲から、炉を検出することはできなかった。また床面から柱穴・貯蔵穴・壁溝を検出することはできなかった。

遺物は、土師器杯(644)、土師器埴(646)、土師器高杯(645・647)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は5世紀前半である。



- 1 黒褐色土：微量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 灰色シルト土
- 3 暗褐色土：微量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 暗褐色土：多量のローム粒子及び微量の軽石 (As-C) を含む。
- 5 褐色土：シルト質。少量のローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 7 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 8 暗黄褐色土：多量のローム粒子を含む。

0 2m



第211図 101号住居跡、同掘り方、同出土遺物

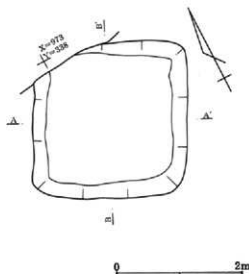
102号住居跡

本住居跡は、18区の $X=35.973 \cdot Y=-39.338$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

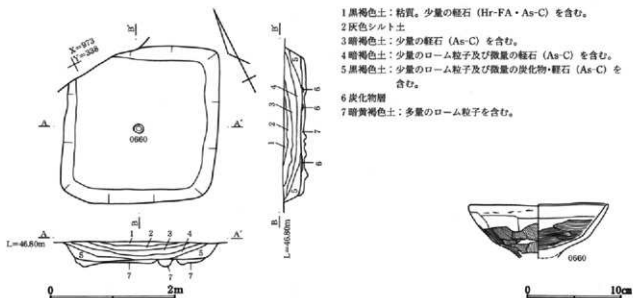
本住居跡の規模は、東西約2.4~2.45m、南北約2.45~2.5mであり、平面形は隅丸方形を呈する。主軸は $N-64^{\circ}-W$ である。

北西隅は未調査であるが、床面から炉は検出できなかった。柱穴・貯蔵穴・壁溝も、床面から検出することはできなかった。

遺物の出土は少ないが、土師器高杯(660)等が出土している。土層、遺物等から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



第212図 102号住居跡掘り方



第213図 102号住居跡、同出土遺物

- 1 黒褐色土：粘質。少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 2 灰色シルト土
- 3 暗褐色土：少量の軽石（As-C）を含む。
- 4 暗褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石（As-C）を含む。
- 5 黒褐色土：少量のローム粒子及び微量の炭化物・軽石（As-C）を含む。
- 6 炭化物層
- 7 暗黄褐色土：多量のローム粒子を含む。

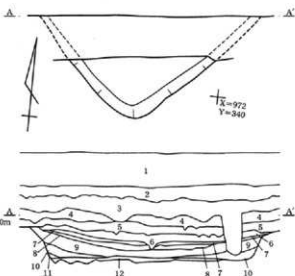
103号住居跡

本住居跡は、18区のX=35.972・Y=-39.340付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡の規模は、大部分が調査区域外であり、南隅の検出であるため、不明である。平面形は隅丸方形ないしは隅丸長方形を呈すると推定される。

床面検出範囲内から、炉・柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。

遺物の出土は少量であるが、磨き土師器高杯の小破片が出土している。遺物等から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



- 1 表土
- 2 黒褐色土：軽石（As-B）を含む。
- 3 灰褐色土：砂質。
- 4 洪水砂
- 5 灰褐色粘質土：多量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 6 黒褐色土：多量の軽石（Hr-FA）を含む。下面に軽石ブロックがあり、Hr-FA降下面と考えられる。
- 7 黒褐色土：粘質。
- 8 灰色シルト土
- 9 暗褐色土：微量の軽石（As-C）を含む。
- 10 黒褐色土：少量のローム粒子及び微量の軽石（As-C）を含む。
- 11 暗黄褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 12 暗黄褐色土：多量のローム粒子を含む。

第214図 103号住居跡、同掘り方

104号住居跡

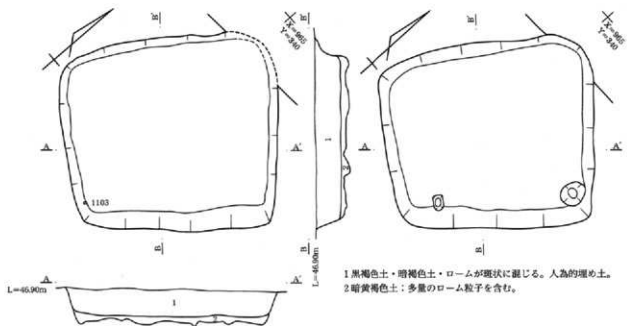
本住居跡は、18区のX=35.965・Y=-39.340付近で検出された。82号住居跡と重複する。新旧関係は、本住居跡の北隅部分の壁・床を破壊して、82号住居跡の南側の壁・床の一部が築かれていることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約2.92～3.1m、南北約3.2～3.5mであり、平面形は不整形な隅丸長方形もしくは隅丸台形を呈する。主軸はN-37-Eである。

床面から、炉・柱穴・貯蔵穴・壁溝を検出するこ

とはできなかった。炉は住居外に設置されていたと推測される。掘り方調査では、貯蔵穴と考えることも可能な土坑状落ち込みが東隅から検出できた。規模は、長軸約0.4m、短軸約0.35m、床面からの深さ約0.15mである。

遺物は、土師器甕(648・649)、鉄製品(1103)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は5世紀前半である。



0 2m



0 10cm

第215図 104号住居跡、同掘り方、同出土遺物

105号住居跡

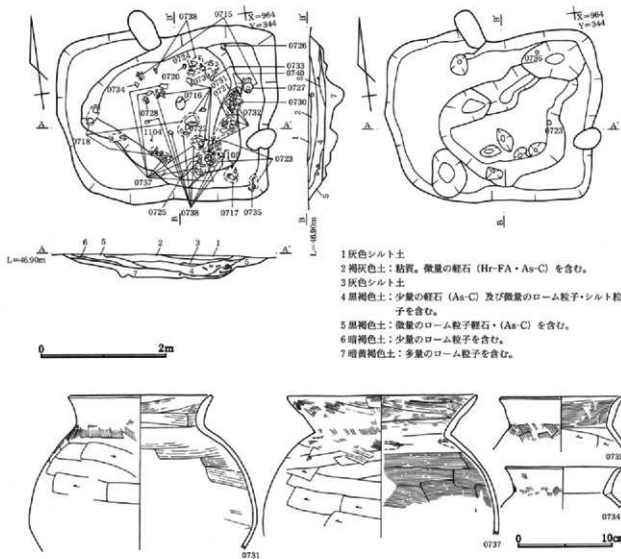
本住居跡は、18区のX=35.964・Y=-39.344付近で検出された。602号ピット、610号ピットと重複する。602号ピットとの新旧関係は、本住居跡の北壁・床の一部を破壊して同ピットが築かれていることから、本住居跡の方が古い。610号ピットとの新旧関係は、本住居跡の東壁・床の一部を破壊して同ピットが築かれていることから、本住居跡の方が古い。

本住居跡の規模は、東西約3.1～3.5m、南北約2.7～2.8mであり、平面形は不整形な隅丸長方形を呈する。主軸はN-85°-Wである。

床面から、炉・貯蔵穴・柱穴・壁溝は検出することができなかつた。掘り方調査では、10基の土坑状・

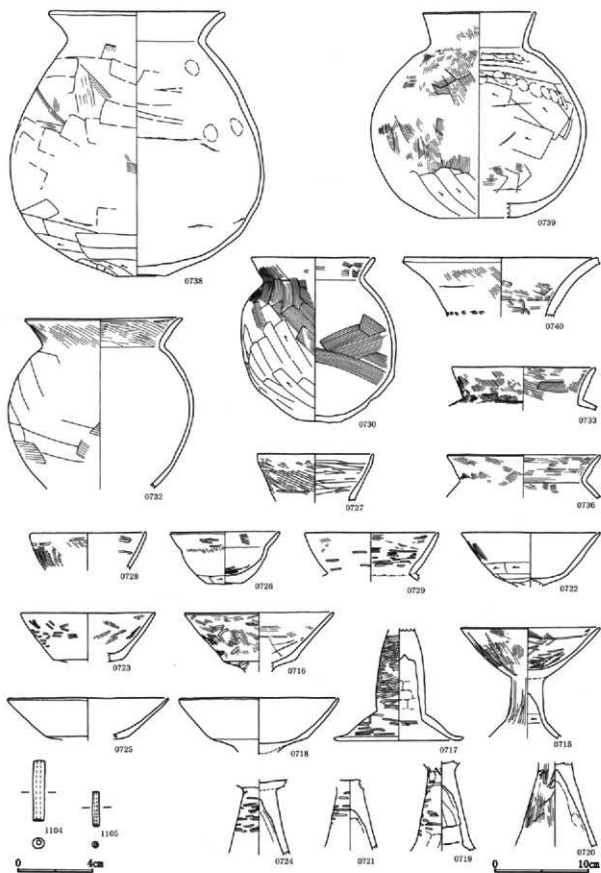
ピット状落ち込みが検出できた。北東隅から検出できた土坑状落ち込みは、貯蔵穴と考えることも可能である。規模は、長軸約0.95m、短軸約0.6m、床面からの深さ約0.35mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

本住居跡からは、廃棄された状態で多量の遺物が出土している。出土している遺物は、土師器高杯(715・716・717・718・719・720・721・722・723・724・725)、土師器埴(726・727・728・729)、土師器甕(730・731・732・733・734・735・736・737・738・739・740)、石製品管玉(1104・1105)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



- 1 灰色シルト土
- 2 褐灰色土：粘質。微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 灰色シルト土
- 4 黒褐色土：少量の軽石 (As-C) 及び微量のローム粒子・シルト粒子を含む。
- 5 黒褐色土：微量のローム粒子軽石・(As-C) を含む。
- 6 暗褐色土：少量のローム粒子を含む。
- 7 暗黄褐色土：多量のローム粒子を含む。

第216図 105号住居跡、同掘り方、同出土遺物(1)



第217圖 105号住居跡出土遺物(2)

106号住居跡

本住居跡は、18区のX=35.955・Y=-39.344付近で検出された。192号土坑と重複する。新旧関係は、不明である。

本住居跡の規模は、東西約4.5~4.7m、南北約4.0~4.3mであり、平面形は隅丸長方形を呈する。主軸はN-20°-Wである。

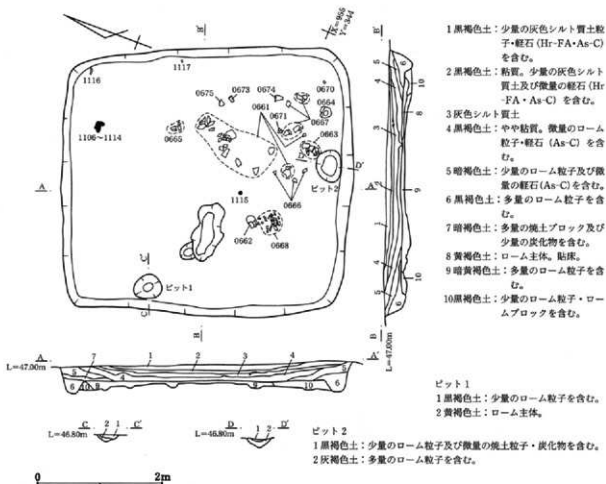
炉は、住居内中央部やや西よりに築かれている。規模は、長軸約0.9m、短軸約0.4m、床面からの深さ約0.15mであり、平面形は不定形である。

床面からは、2基のピットが検出できたが、その位置、形状から柱穴とは考え難い。床面からは、柱穴・貯蔵穴・壁溝は検出できなかった。掘り方調査では、貯蔵穴と考えられる土坑、壁溝と考えられる溝、間仕切と考えられる溝が検出できた。

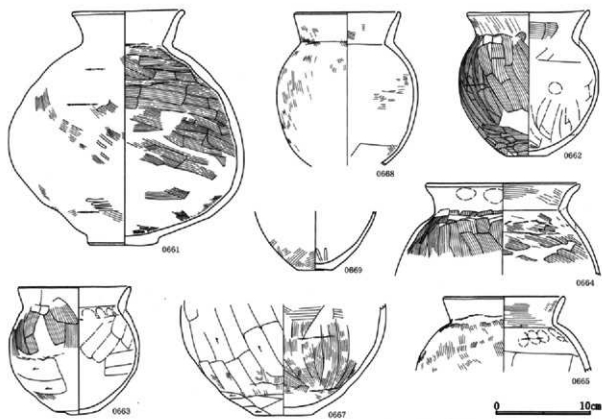
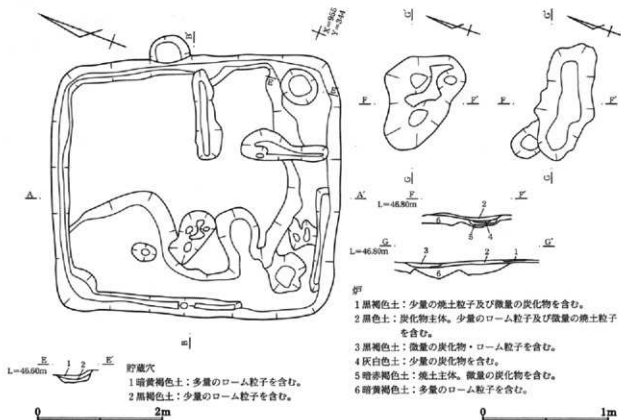
貯蔵穴と考えられる土坑は、南東隅から検出でき

た。規模は、長軸約0.65m、短軸約0.55m、床面からの深さ約0.2mであり、平面形は楕円形を呈する。壁溝と考えられる溝は、東壁から北壁に沿い、西壁の中央南よりまでと、南壁の一部に沿い検出できた。規模は、幅約0.1~0.25m、確認面からの深さ約0.05~0.1mである。間仕切と考えられる溝は、住居内南東部から検出された。規模は、幅約0.2~0.4m、確認面からの深さ約0.05~0.15mである。

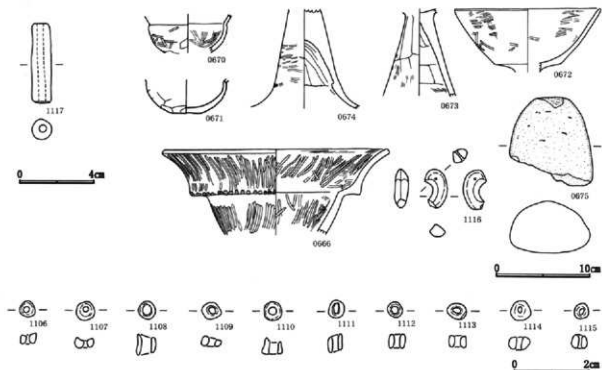
遺物は、土師器高杯 (672・673・674)、土師器罎 (670・671)、土師器壺 (661・662・663・664・665・667・668・669)、土師器壺 (666)、石製品 (675)、ガラス製小玉 (1106・1107・1108・1109・1110・1111・1112・1113・1114・1115)、琥珀製勾玉 (1116)、石製品管玉 (1117) 等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、5世紀前半である。



第218図 106号住居跡



第219図 106号住居跡掘り方、同炉、同炉掘り方、同出土遺物(1)



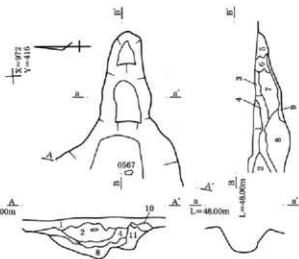
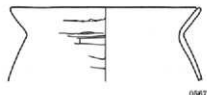
第220図 106号住居跡出土遺物(2)

110号住居跡

本住居跡は、3区のX=35.972・Y=-39.416付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本住居跡は、大部分が調査区域外であり、電のみの検出のため、規模は不明である。電は、検出された位置、構造から東壁に構築されていたと推定できる。規模等は、不明である。柱穴・貯蔵穴・壁溝は住居跡本体が調査区域外のため、不明である。

遺物の出土は少ないが、電から土師器壺(567)等が出土している。遺物から推定する本住居跡の年代は、8世紀後半である。



電

- 1 黄褐色土：多量の砂及び焼土粒子を含む。
- 2 黄褐色土：粘質で締り有り。下部が焼けている。天井の崩れ。
- 3 褐色土：焼土小ブロックを含む。
- 4 褐色土：多量の焼土粒子を含む。
- 5 黒褐色土：焼土粒子・砂質土小ブロック・ローム粒子を含む。
- 6 褐色土：砂質。焼土粒子・暗褐色土粒子を含む。
- 7 赤褐色土：多量の焼土粒子・焼土小ブロックを含む。
- 8 褐色土：砂質。焼土粒子・焼土小ブロックを含む。
- 9 灰褐色土：砂質。焼土粒子を含む。
- 10 褐色土：焼土粒子を含み、締り有り。
- 11 黄褐色土：砂質で締り有り。



第221図 110号住居跡電、同出土遺物

第2節 掘立柱・柱穴列

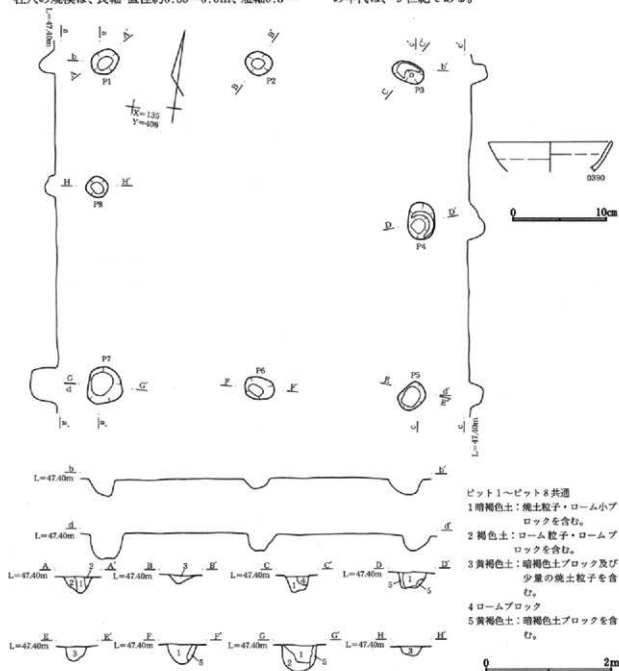
1号掘立柱跡

本掘立柱跡は、5区X=36.135・Y=-39.408付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本掘立柱跡の規模は、桁行2間・約5.2m、梁行2間・約4.8~4.9mの側柱である。柱間の距離は、桁行で約2.0~3.2mであり、梁行で2.4~2.5mである。柱穴の規模は、長軸・直径約0.35~0.6m、短軸0.3~

0.45m、確認面からの深さ約0.15~0.4mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。柱穴の覆土には少量の焼土粒子が含まれていた。主軸はN-6°-Wである。

遺物の量は少ないが、ピット9から須恵器杯(390)等が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第222図 1号掘立柱、同出土遺物

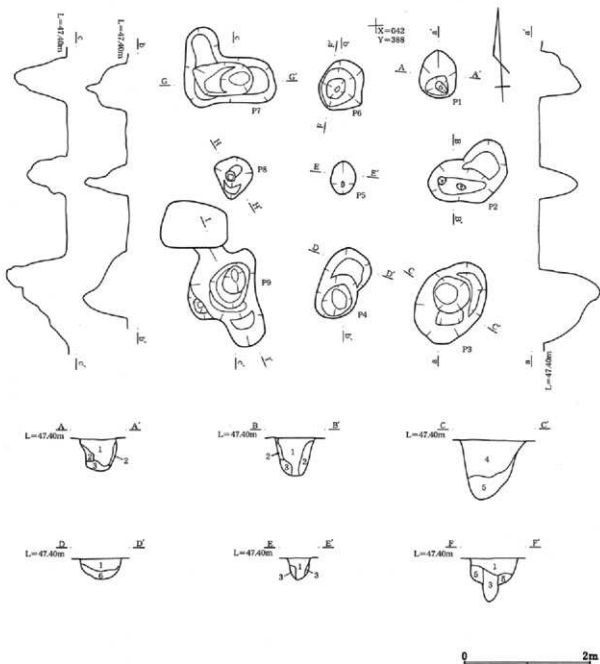
2号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=36.042・Y=-39.388付近で検出された。他の遺構との重複はない。

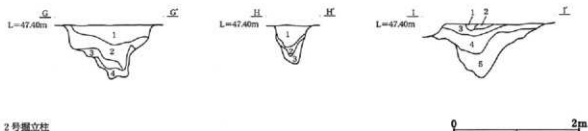
本掘立柱跡の規模は、桁行2間・約3.3~3.4m、梁行2間・約3.1~3.3mの竪柱である。柱間の距離は、桁行で1.6~1.8m、梁行約1.5~1.8mである。柱穴の規模は、長軸約0.5~1.7m、短軸約0.4~1.2m、床面からの深さ約0.6~0.95mであり、平面形は

不整形な楕円形ないしは不定形を呈する。覆土は洪水土を含む暗褐色土・褐色土であり、ピット9の覆土には多量の焼土・炭化物が含まれていた。主軸はN-84°-Wである。

遺物の出土は少ないが、ピット4から土師器壺(549)等が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第223図 2号掘立柱



2号掘立柱

ビット1～ビット6共通

1 褐灰色土：細砂・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

2 黒褐色土：褐灰色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

3 褐灰色土：黒褐色土ブロックを含む。

4 褐灰色土：黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(人為的な埋土)

5 暗褐色土：褐灰色土ブロック・黄褐色土ブロックを含む。

6 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

ビット7

1 褐灰色土：多量の洪水砂及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

2 暗褐色土：多量の灰褐色土・灰色砂質土及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

3 暗褐色土：多量のロームブロックを含む。

4 黄褐色土：灰白色砂及び暗褐色土ブロックを含む。

ビット8

1 褐灰色土：砂質土。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

2 暗褐色土：シルト質。細砂を含む。

3 褐灰色土：暗褐色土ブロックを含む。

ビット9

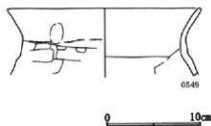
1 黒褐色土：砂質土。

2 褐灰色土：砂質土。焼土粒子・炭化物粒子を含む。

3 褐灰色土：砂質土。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

4 褐灰色土：灰黄褐色土粒子を含む。

5 褐灰色土：多量のロームブロック・暗褐色土ブロックを含む。



第224図 2号掘立柱セクション、同出土遺物

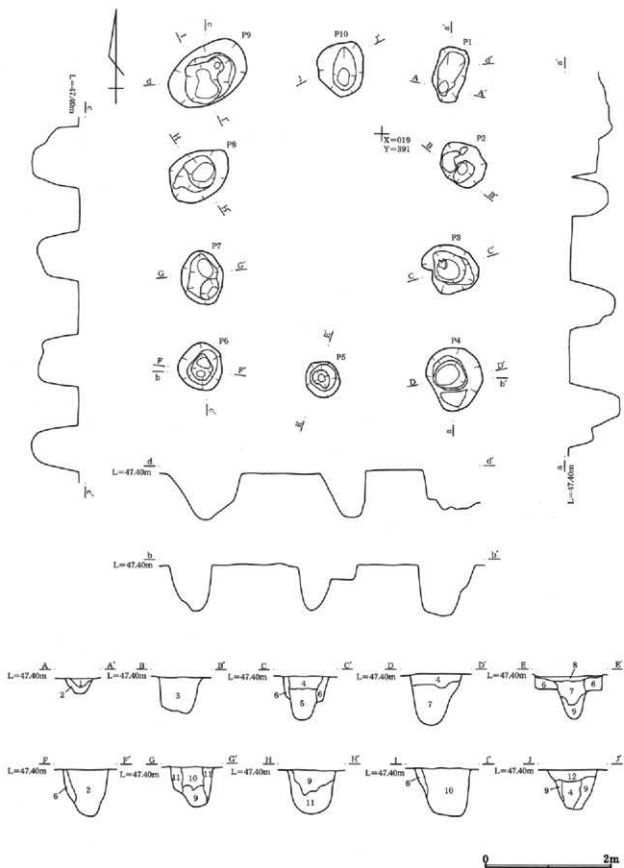
3号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=36.019・Y=-39.391付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本掘立柱跡の規模は、桁行3間・約4.6～4.7m、梁行2間・約3.8～4.0mの側柱である。柱間の距離は、桁行で約1.5～1.7m、梁行で約1.7～2.0mである。柱穴の規模は、直径0.55mないしは長軸約0.7～1.8m、短軸0.5～0.9m、確認面からの深さ約0.65～

0.85mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。覆土は暗褐色土ないしは褐色土であり、ビット2は人為的な埋め土であり、覆土には焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。主軸はN-1°-Wである。

遺物の出土は少ないが、ビット3から須恵器盤(550)、石製品紡錘車(1143)等が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第225図 3号掘立柱

3号掘立柱ビット1〜ビット10共通

1暗褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

2暗褐色土：黄褐色土ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

3褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・黒褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(人為的な埋土)

4褐色土：明黄褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

5褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

6暗褐色土：地山

7褐色土：明黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。

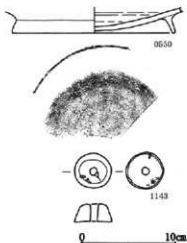
8褐色土：黄褐色土ブロックを含む。

9暗褐色土：黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。

10褐色土：焼土粒子・黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(人為的な埋土)

11暗褐色土：少量の黄褐色土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

12褐色土：少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。



第226図 3号掘立柱出土遺物

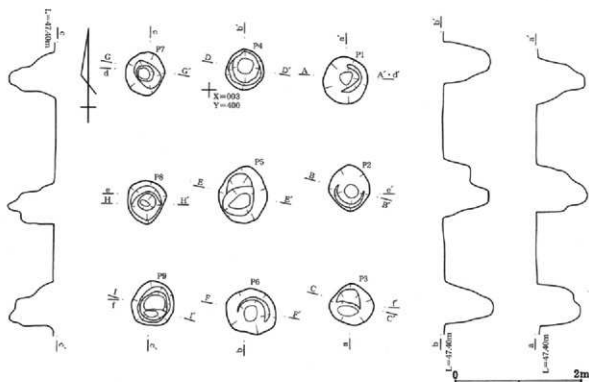
4号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=36.003・Y=-39.400付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本掘立柱跡の規模は、桁行2間・約3.7~3.9m、梁行2間・約3.2~3.3mの総柱である。柱間の距離は、桁行で1.8~2.0m、梁行で1.6~1.8mである。柱穴の規模は、直径・長軸約0.65~0.9m、短軸約0.6~0.8m、確認面からの深さ約0.7~0.8mであり、平

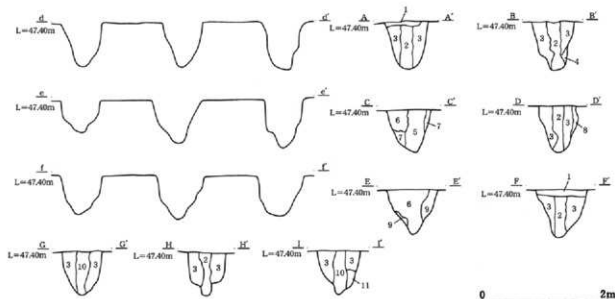
面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。覆土は、暗褐色土であり、柱痕が認められた。また、覆土中には焼土・炭化物が含まれていた。主軸はN-1°-Wである。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第227図 4号掘立柱

第二章 発見された遺構・遺物



ピット1～ピット9共通

- 1 暗褐色土：多量の黄褐色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土小ブロック・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 3 暗褐色土：多量の黄褐色土ブロック及び少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 4 黄褐色土ブロック
- 5 褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・黒褐色土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 7 暗褐色土：少量の黄褐色土ブロックを含む。
- 8 褐色土：地山。
- 9 暗褐色土：黄褐色土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土：少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。
- 11 暗褐色土：炭化物粒子及び少量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。

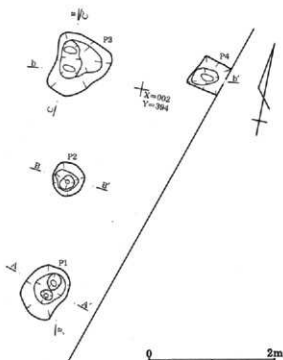
第228図 4号掘立柱セクション、同エレベーション

5号掘立柱跡

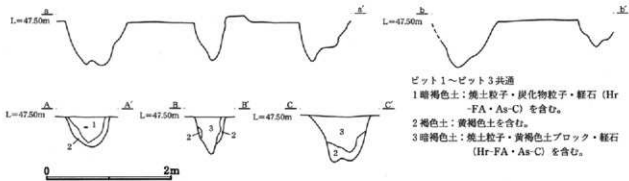
本掘立柱跡は、3区のX=36.002・Y=-39.394付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本掘立柱の規模は、東側部分が調査区域外のため確定できないが、南北方向は2間と考えられる。柱間の距離は、南北方向が約1.8～1.9m、東西方向が約2.2mである。柱穴の規模は、長軸・直径・一辺約0.5～1.0m、短軸約0.6～0.9mであり、確認面からの深さ約0.4～0.65mであり、平面形は、不整形な円形、不整形な方形ないしは不整形な楕円形を呈する。柱穴の覆土は暗褐色土であり、焼土粒子・炭化物が含まれていた。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第229図 5号掘立柱



第230図 5号掘立柱セクション、同エレベーション

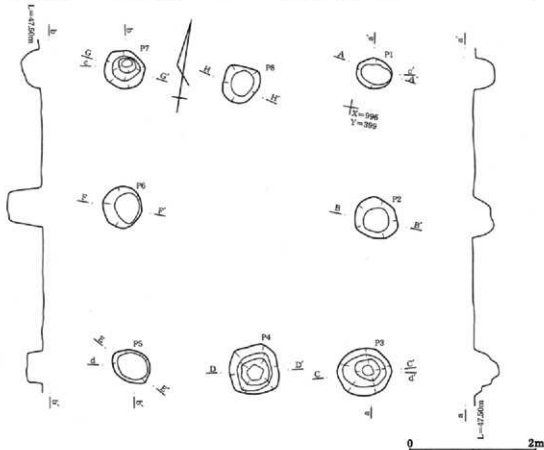
6号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=35.996・Y=-39.399付近で検出された。18号溝と重複する。新旧関係は不明である。

本掘立柱の規模は、桁行2間・約4.2～4.4m、梁行2間・約3.8～4.0mの側柱である。柱間の距離は、桁行で2.3～2.4m、梁行で1.8～2.0mである。柱穴の規模は、長軸約0.55～0.9m、短軸約0.5～0.75m

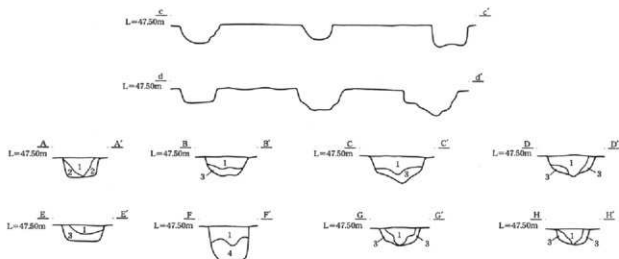
ないしは一辺約0.75m、確認面からの深さ約0.3～0.55mであり、平面形は不整形な楕円形ないしは不整形な方形を呈する。柱穴の覆土は暗褐色土ないしは褐色土であり、覆土中には焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。主軸はN-11°-Wである。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第231図 6号掘立柱

第二章 発見された遺構・遺物



ピット1～ピット9共通

1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石（Hr・FA・As・C）を含む。

2 褐色土：黄褐色土及び少量の軽石（Hr・FA・As・C）を含む。

3 暗褐色土：黄褐色土粒子・黄褐色土ブロックを含む。

4 褐色土。

第232図 6号掘立柱セクション、同エレベーション

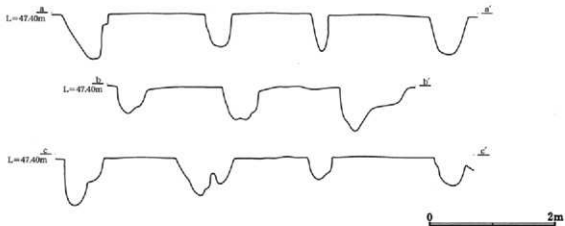
7号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=35.987・Y=-39.404付近で検出された。21号溝、22号溝、23号溝と重複する。21号溝、22号溝との新旧関係は、直接の切合いがなく、不明である。23号溝との新旧関係は、本掘立柱のピット5・ピット6が、同溝跡の一部を破壊していること、同溝の覆土中から本掘立柱の一部が確認できたことから、本掘立柱跡の方が新しい。

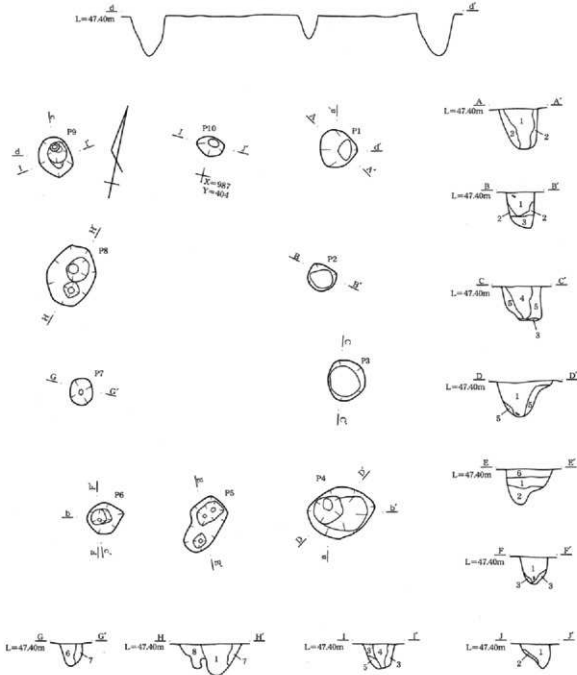
本掘立柱跡の規模は、桁行3間・約5.7～5.9m、梁行2間・約4.0～4.4mの側柱である。柱間の距離は、桁行で約1.8～2.0m、梁行で約1.9～2.5mであ

る。柱穴の規模は、長軸約0.45～1.1m、短軸約0.3～0.8m、確認面からの深さ約0.35～0.75mであり、平面形は不整形な楕円形ないしは不定形を呈する。主軸はN-15°-Wである。覆土は暗褐色土であり、大部分の柱穴の覆土には、焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第233図 7号掘立柱エレベーション



ビット1～ビット10共通

- 1 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：黄褐色土粒子・黄褐色土ブロックを含む。
- 3 黄褐色土：地山。
- 4 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 5 褐色土：黄褐色土粒子・黄褐色土小ブロックを含む。
- 6 暗褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 暗褐色土：黄褐色土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(別のビット)

0 2m

第234図 7号掘立柱

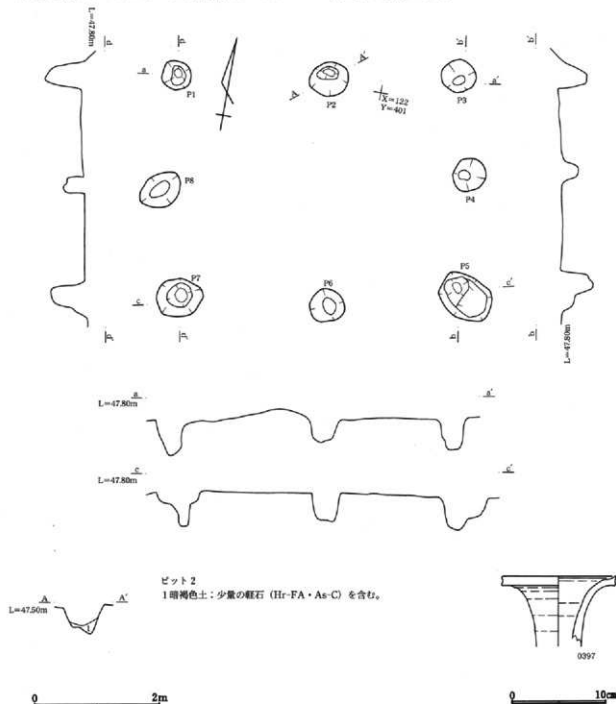
8号掘立柱跡

本掘立柱跡は、4区のX=36.122・Y=-39.401付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本掘立柱の規模は、桁行2間・約4.5m、梁行2間・3.4~3.5mの側柱である。柱間の距離は、桁行で約2.1~2.3m、梁行で1.5~1.8mである。柱穴の規模は、直径約0.45~0.5mないしは長軸約0.6~0.85・

短軸約0.5~0.7m、確認面からの深さ約0.3~0.65mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。主軸はN-80°-Eである。

遺物の出土は少ないが、須恵器長頸壺(397)等が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第235図 8号掘立柱、同出土遺物

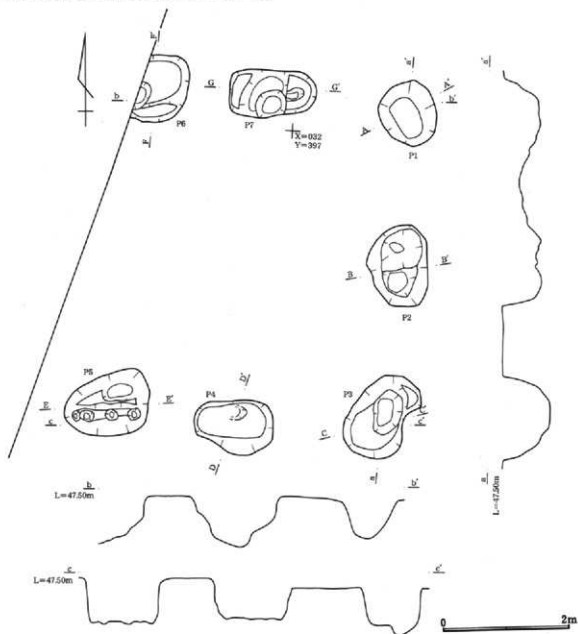
9号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=36.032・Y=-39.397付近で検出された。2号柱穴列・44号土坑・46号土坑・229号土坑・230号土坑・231号土坑・236号土坑・246号土坑と重複する。いずれの遺構も直接的な切り合いはなく、新旧関係は不明である。

本掘立柱の規模は、ピット5とピット6の間に柱穴がなく、西側調査区域外に伸びると推定されるため確定できないが、桁行3間・約4.5m以上、梁行2間・約4.7mである。柱間の距離は、桁行で2.1~2.3

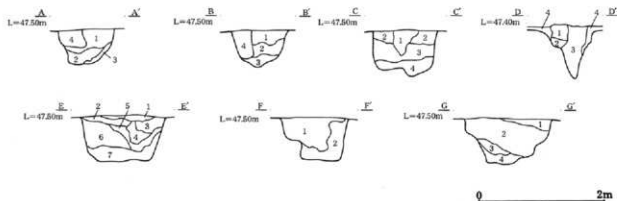
m、梁行で約2.3~2.4mである。柱穴の規模は、長軸約1.0~1.4m、短軸約0.7~1.0m、確認面からの深さ約0.55~0.8mであり、平面形は不整形な楕円形ないしは不定形を呈する。覆土は軽石(Hr-FA・As-C)・黄褐色土を含む暗褐色土であり、ピット4には、焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第236図 9号掘立柱

第II章 発見された遺構・遺物



ピット 1

- 1 暗褐色土：多量の黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック及び焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：多量の黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 褐色土：黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(別のピット)

ピット 2

- 1 暗褐色土：多量の黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック及び軽石 (Hr-FA・As-C)、少量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 暗褐色土：多量の黒褐色土ブロック・黄褐色土ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 褐色土：黄褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット 3

- 1 褐色土：黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 褐色土：黄褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 暗褐色土：黄褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 暗褐色土：黄褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含む。

ピット 4

- 1 暗褐色土：多量の黄褐色土ブロック及び軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土：少量の黄褐色土ブロック及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量の焼土粒子・炭化物粒

子を含む。

- 4 黒褐色土：地山。
- 5 暗褐色土：地山。
- 1 灰黄褐色土：砂質。多量の黄褐色土粒子及び焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黄褐色土：ロームブロック主体。灰黄褐色土・暗褐色土・灰色砂質土を含む。

ピット 5

- 3 褐色土：褐灰色砂質土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土：褐灰色砂質土を含む。
- 5 褐灰色土：多量のローム粒子及び暗褐色土粒子を含む。
- 6 褐灰色土：砂質。ロームブロック・暗褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗褐色土：多量のローム小ブロックを含む。

ピット 6

- 1 褐灰色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び微量の黄褐色土小ブロックを含む。
- 2 暗褐色土：多量の黒褐色土ブロック・暗褐色土ブロック・黄褐色土ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット 7

- 1 褐灰色土：洪水砂・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 褐灰色土：多量の暗褐色土小ブロック・黄褐色土小ブロック及び微量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土
- 4 暗褐色土：多量の黄褐色土小ブロックを含む。

第237図 9号掘立柱セクション

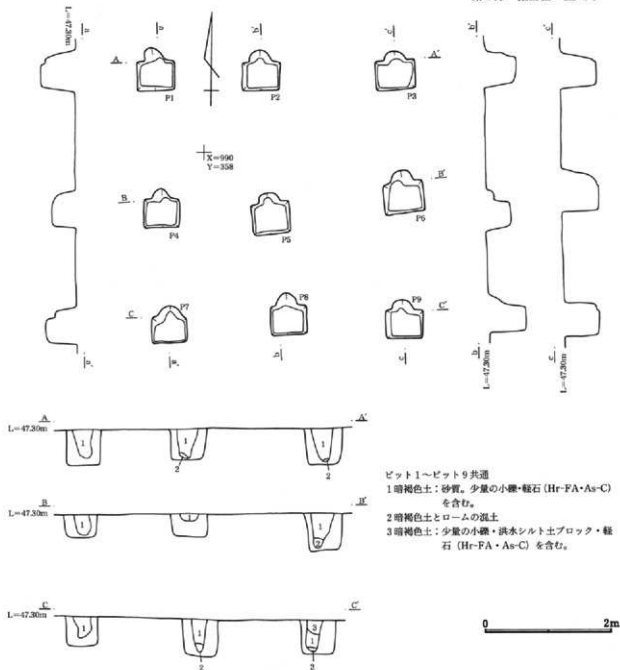
10号掘立柱跡

本掘立柱は、19区の X=35.990・Y=-39.358付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本掘立柱の規模は、桁行2間・約4.0m、梁行2間・約3.9~4.0mの総柱である。柱間の距離は桁行で2.0~2.3m、梁行で1.8~2.1mである。柱穴の規模は、長辺約0.55~0.6m、短辺約0.4~0.5mであり、確認面からの深さ約0.4~0.6mであり、平面形は長方形

を呈する。また、各柱穴の北側の長辺には、径約0.25~0.3mの半円形の張り出しが付く。柱を埋めたとき若しくは抜いたときの凹みであろうか。覆土は、少量の小礫・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む暗褐色土である。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第238図 10号掘立柱

15号掘立柱跡

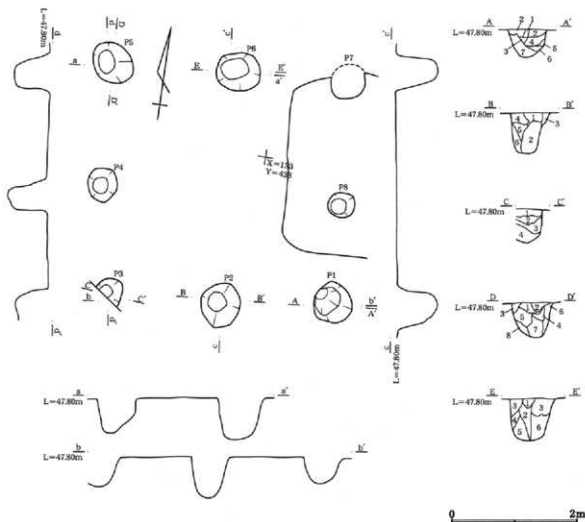
本掘立柱跡は、5区のX=36.133・Y=-39.433付近で検出された。62号住居跡と重複する。新旧関係は、本掘立柱のビット7・ビット8が同住居跡の掘り方で検出されているが、同部分が試掘トレンチに当たるため不明である。

本掘立柱跡の規模は、桁行2間・約3.5～3.8m、梁行2間・約3.4～3.6mの側柱である。柱間の距離は、桁行で約1.7～2.0m、梁行で約1.5～1.9mであ

る。柱穴の規模は、直径約0.35～0.6mないしは長軸約0.55～0.75m短軸約0.45～0.65m、確認面からの深さ約0.4～0.65mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。覆土は軽石 (Hr-FA・As-C)・ロームブロックを含む黒褐色土である。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。

第II章 発見された遺構・遺物



ビット 1

- 1 黒褐色土：ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：ローム小ブロック及び少量の炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 4 黒褐色土：やや多量のローム斑・ロームブロックを含む。
- 5 暗褐色土：崩れた地山。
- 6 暗褐色土：多量の崩れたローム斑を含む。
- 7 黒褐色土：ローム粒子を含む。

ビット 2

- 1 黒褐色土：ローム小ブロック及び少量の炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：ローム粒子を含む。
- 3 黒褐色土：やや多量のロームを含む。
- 4 黒褐色土：多量のロームを含む。
- 5 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 6 黒褐色土：やや多量のローム斑・ロームブロックを含む。

ビット 3

- 1 黒褐色土：洪水土主体。少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。

- 3 黒褐色土：洪水土小斑を含む。

- 4 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。

ビット 5

- 1 黒褐色土：やや多量のローム斑・ロームブロックを含む。
- 2 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 3 黒褐色土：締まっている。
- 4 暗褐色土：やや締まっている。
- 5 黒褐色土：洪水土主体。粘性有り、締まっている。
- 6 黒褐色土：ローム小斑を含む。
- 7 黒褐色土：ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 暗褐色土：ローム斑主体。やや多量のクロボク土を含む。

ビット 6

- 1 黒褐色土：ローム小ブロック及び少量の炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：ローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：やや多量のロームを含む。
- 4 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 5 暗褐色土：多量の崩れたローム斑を含む。やや締まっている。
- 6 暗褐色土：多量の崩れたローム斑を含む。

第239図 15号掘立柱

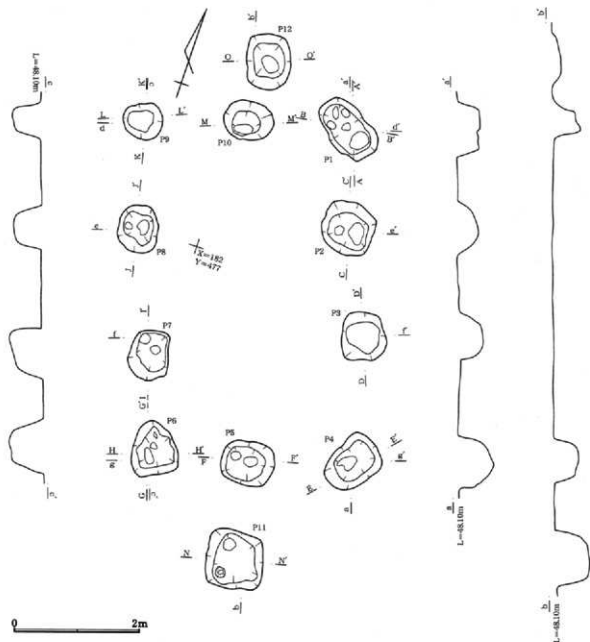
16号掘立柱跡

本掘立柱跡は、5区のX=36.182・Y=-39.477付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本掘立柱跡の規模は、桁行3間・約5.3~5.4m、梁行2間・約3.2~3.3mの側柱であり、南北各梁行中間柱穴の外側に2基の柱穴を持つ。柱間の距離は、桁行で約1.7~1.9m、梁行で約1.6~1.7m、梁行中間柱穴と外側柱穴で約1.1~1.5mである。柱穴の規模は、一辺0.8~0.9mないしは長軸約0.65~1.1m、

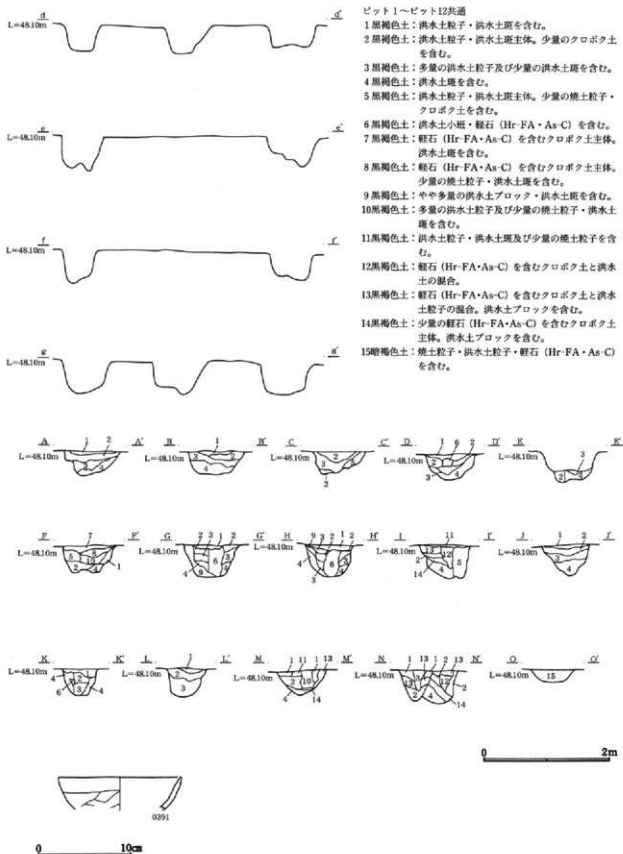
短軸約0.55~0.7、確認面からの深さ約0.15~0.55mであり、平面形は不整形な方形ないしは不整形な長方形、不整形な楕円形を呈する。覆土は、黒褐色土であり、一部少量の焼土粒子が検出できた。主軸はN-20°-Wである。

遺物の出土は少ないが、ビット7・ビット8から土師器杯(391)等が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、8世紀後半~9世紀である。



第240図 16号掘立柱

第II章 発見された遺構・遺物



第241図 16号獨立柱セクション、同エレベーション、同出土遺物

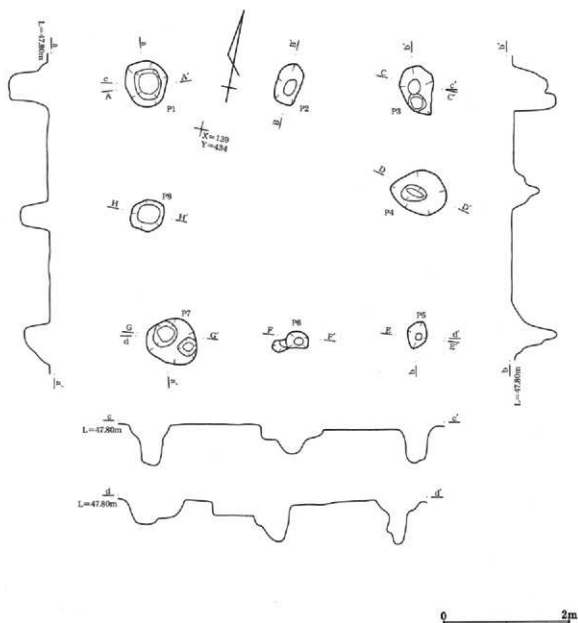
17号掘立柱跡

本掘立柱跡は、5区の $X=36.139 \cdot Y=-39.434$ 付近で検出された。18号掘立柱と重複する。新旧関係は、不明である。

本掘立柱の規模は、桁行2間・約4.1~4.3m、梁行2間・約4.0~4.1mの側柱である。柱間の距離は、桁行で約2.0~2.3m、梁行で約1.7~2.2mである。柱穴の規模は、長軸約0.45~0.9m、短軸約0.25~0.7m、確認面からの深さ約0.45~0.7mであり、平面形

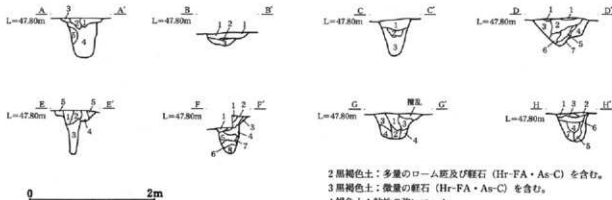
は不整形な楕円形ないしは不定形を呈する。覆土はロームブロック・軽石(Hr-FA・As-C)を含む暗褐色土であり、ピット1・ピット2・ピット3・ピット4・ピット7・ピット8には、焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。主軸は $N-78^{\circ}-E$ である。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第242図 17号掘立柱

第II章 発見された遺構・遺物



ビット 1

- 1 黒褐色土：多量のローム小ブロック・ローム小斑及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：やや多量のローム小ブロック・ローム小斑及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土：多量のローム粒子及び炭化物粒子及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のローム粒子を含む。
- 5 黒褐色土：多量のロームブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ビット 2

- 1 黒褐色土：炭化物粒子を含む。
- 2 ロームブロック
- 3 暗褐色土：汚れたロームとローム漸移層の混土。

ビット 3

- 1 黒褐色土：やや多量のローム小ブロック・ローム小斑及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量の炭化物粒子・地山ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) 及び少量のローム粒子を含む。

ビット 4

- 1 褐色土：雑土。
- 2 黒褐色土：多量の炭化物粒子及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：ローム斑及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：混入物無し。
- 6 黒褐色土：少量の焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗褐色土：崩れたローム。

ビット 5

- 1 黒褐色土：ローム小斑・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

- 2 黒褐色土：多量のローム斑及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 褐色土：粘性の強いローム。
- 5 黒褐色土：ローム斑を含み、締まっている。
- ビット 6
- 1 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含むクロコ土。やや多量のローム斑を含む。
- 2 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含むクロコ土とローム斑の混土。
- 3 暗褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 4 褐色土：粘性の強いローム。
- 5 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含むクロコ土。多量のローム粒子を含む。
- 6 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。
- 7 暗褐色土：粘性の強いロームと地山ロームの混土。
- 8 暗褐色土：やや多量のローム粒子を含む。
- ビット 7
- 1 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・ローム粒子を含む。
- 2 黒褐色土：混入物殆ど無し。
- 3 黒褐色土：ローム斑を含む。
- 4 黒褐色土：少量のローム粒子を含む。
- ビット 8
- 1 黒褐色土：やや多量のローム小ブロック・ローム小斑及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：多量のローム小ブロック・ローム小斑及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土：やや多量の地山小斑及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 4 黒褐色土：少量の炭化物粒子・地山ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：地山小斑及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 黒褐色土：少量の焼土粒子・ローム粒子及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 黒褐色土：少量のローム粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

第243図 17号掘立柱セクション

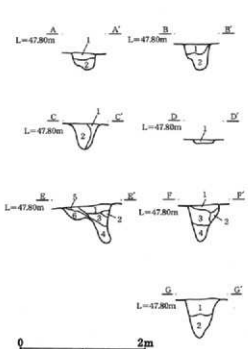
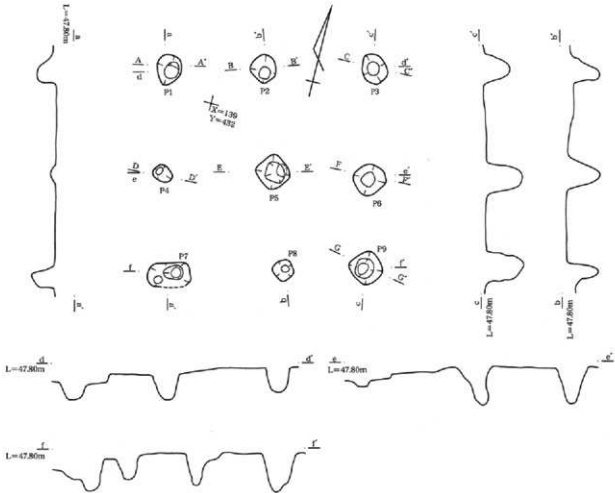
18号掘立柱跡

本掘立柱跡は、5区のX=36.139・Y=-39.432付近で検出された。17号掘立柱と重複する。新旧関係は、不明である。

本掘立柱跡の規模は、桁行2間・約3.2~3.3m、梁行2間・約3.1~3.2mの総柱である。柱間の距離は、桁行で約1.3~1.8m、梁行で約1.4~1.6mである。柱穴の規模は、一辺約0.5mないしは長軸約0.3~0.7m、短軸約0.25~0.4m、確認面からの深さ約

0.1~0.6mであり、平面形は不整形な方形ないしは不整形な楕円形を呈する。覆土は、黒褐色土であり、ビット1・ビット2・ビット9には焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



- ピット 1
 1 黒褐色土：洪水土。炭化物粒子を含む。
 2 暗褐色土：汚れたロームとローム漸移層の混土。
- ピット 2
 1 黒褐色土：洪水土。機土粒子・炭化物粒子を含む。
 2 黒褐色土：洪水土。炭化物粒子を含む。
- ピット 3
 1 黒褐色土：多量のロームブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 2 黒褐色土：少量のローム粒子及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- ピット 4
 1 黒褐色土：洪水土。やや多量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- ピット 5
 1 黒褐色土：やや多量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 2 暗褐色土：地山ロームの汚れた珪を含む。
 3 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 4 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 5 黒褐色土：ロームブロックを含む。
 6 黒褐色土：締り弱い。微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- ピット 6
 1 黒褐色土：やや多量のローム斑及び機土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 2 黒褐色土：微量の機土粒子・炭化物粒子及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 3 黒褐色土：締まり有り。やや多量のローム斑を含む。
 4 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- ピット 9
 1 黒褐色土：機土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 2 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

第244図 18号掘立柱

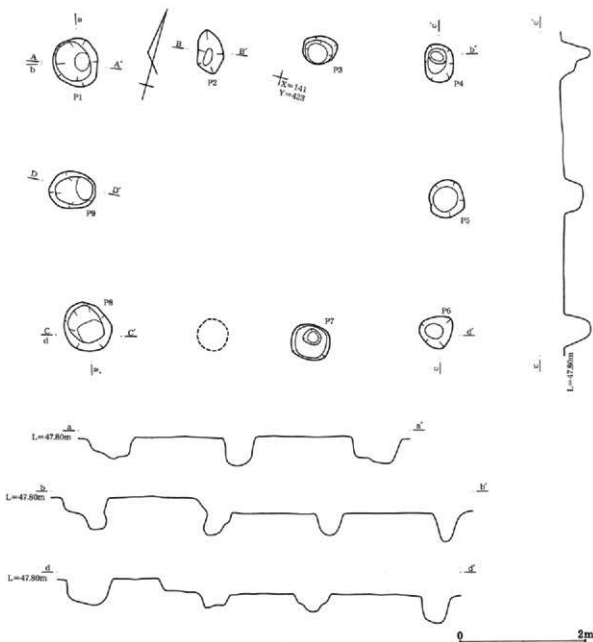
19号掘立柱跡

本掘立柱跡は、5区のX=36.141・Y=-39.423付近で検出された。69号ビット・71号ビット・314号ビットと重複するが、いずれのビットとも直接の切り合いはなく、新旧関係は不明である。

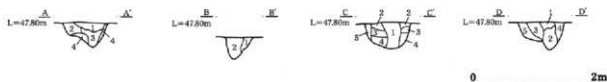
本掘立柱の規模は、桁行3間・約5.3~5.5m、梁行2間・約4.4~4.5mのむ側柱である。柱間の距離は、桁行で約1.8~2.0m、梁行で約2.1~2.3mである。柱穴の規模は、長辺・長軸0.5~0.85m、短辺・

短軸約0.4~0.7m、確認面からの深さ約0.3~0.5mであり、平面形は不整形な長方形ないしは不整形な楕円形を呈する。覆土は、黒褐色土であり、ビット1・ビット2・ビット8・ビット9には焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。主軸はN-74°-Eである。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第245図 19号掘立柱



ピット1

- 1 黒褐色土：多量のローム斑及び焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 2 黒褐色土：少量の炭化物粒子・地山ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・地山小ブロックを含む。
- 4 黒褐色土：多量の地山ブロック及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット2

- 1 暗褐色土：ローム粒子・焼土斑を含む。
- 2 黒褐色土：炭化物粒子及び少量のローム斑・焼土斑を含む。

ピット3

- 1 黒褐色土：多量の焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) 及びやや多量の粘土質ローム斑を含む。
- 2 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子・粘土質ローム斑・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 3 褐色土：粘土質ローム。
- 4 黒褐色土：粘土質ローム斑・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット4

- 1 黒褐色土：炭化物粒子及び微量のローム小ブロックを含む。
- 2 黒褐色土：焼土粒子・炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土：多量のローム小ブロックを含む。
- 4 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 5 黒褐色土：微量のローム小ブロックを含む。

第246図 19号掘立柱セクション

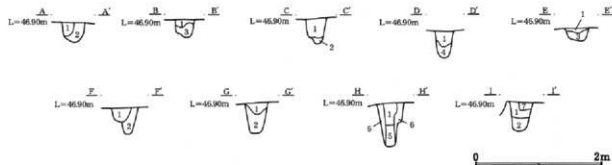
21号掘立柱跡

本掘立柱は、21区のX=35.970・Y=-39.296付近で検出された。79号住居跡と重複する。新旧関係は、直接的に観察できなかったが、本掘立柱の北側中央の柱穴が同住居跡の覆土中から検出できなかったことから、本掘立柱の方が古いと推定される。

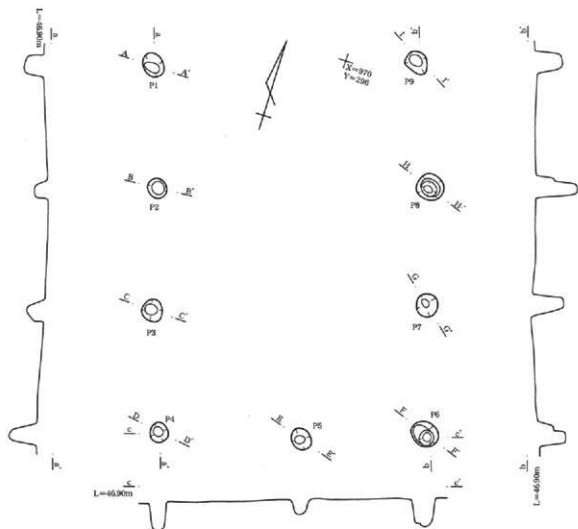
本掘立柱の規模は、桁行3間・約5.8～6.0m、梁行2間・約4.3～4.4mの側柱である。柱間の距離は、桁行で約1.8～2.1m、梁行で約2.0～2.2mである。柱穴の規模は、長軸約0.35～0.45m、短軸約0.3～0.4

m若しくは直径約0.3～0.35mであり、床面からの深さは約0.3～0.65m、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。柱穴の覆土は、洪水シルト及び少量の炭化物を含む灰褐色土である。主軸はN-19°-Wである。

遺物は少量であるが、須石器・土器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第247図 21号掘立柱セクション



ピット1～ピット9共通

- 1 灰褐色土：少量の洪水シルト土及び微量の炭化物を含む。
- 2 灰褐色土：多量の洪水シルト土を含む。
- 3 灰褐色土：多量の洪水シルト土及び少量の黒褐色土粒子を含む。
- 4 灰褐色土：微量のローム粒子を含む。

- 5 灰褐色土：少量のロームブロックを含む。
- 6 灰褐色土：微量の洪水砂・炭化物を含む。
- 7 灰褐色土：多量の炭化物及び少量の洪水砂を含む。

第248図 21号掘立柱

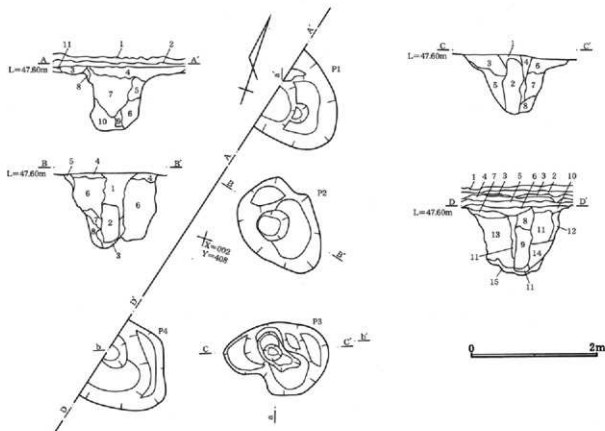
24号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=36.002・Y=-39.408付近で検出された。266号土坑・267号土坑・268号土坑と重複するが、いずれの土坑とも直接の切り合いはなく、新旧関係は不明である。

本掘立柱跡の規模は、西側部分が調査区域外のため不明であるが、東西1間以上、南北2間以上である。柱間の距離は、東西で約2.6m、南北で約2.1mである。柱穴の規模は、長軸約1.6～1.7m、短軸約

1.2～1.4m、確認面からの深さ約0.95～1.2mであり、平面形は、不整形な楕円形ないしは不定形を呈する。覆土は、軽石(As-C・Hr-FA)・ロームブロックを含む黒褐色土・暗褐色土であり、ピット1には焼土粒子、ピット2には炭化物粒子が含まれていた。

遺物の出土は少ないが、ピット4から須恵器鉢(548)等が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



ピット 1

- 1 黒褐色土：粘性有り。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(基本土層)
- 2 褐色土：シルト質。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(基本土層)
- 3 褐色土：褐色砂質土ブロック・暗褐色土ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(崩断面)
- 4 暗褐色土：ロームブロック・暗褐色土粒子・焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 黒褐色土：灰褐色砂質土・ローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 黒褐色土：少量の灰褐色砂質土・ローム粒子及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗褐色土：多量のロームブロック・灰褐色砂質土ブロック及び微量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 8 暗褐色土：褐色シルト質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 9 暗褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 10 黄褐色土：ロームブロック主体。暗褐色土とロームブロックが楕状に堆積。
- 11 黒褐色土：褐色シルト質土が部分的に堆積。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(基本土層)

ピット 2

- 1 暗褐色土：ローム粒子・炭化物粒子・褐色砂質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 2 暗褐色土：1層ブロックのまばらな堆積。(柱痕)
- 3 褐色土：多量のローム小ブロックを含む。
- 4 暗褐色土：ローム粒子・褐色砂質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 5 暗褐色土：灰褐色砂質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 6 暗褐色土：多量のローム小ブロック及び炭化物粒子・灰褐色砂質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
- 7 暗褐色土：多量のローム小ブロック・褐色砂質土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土：多量のローム小ブロックを含む。

ピット 3

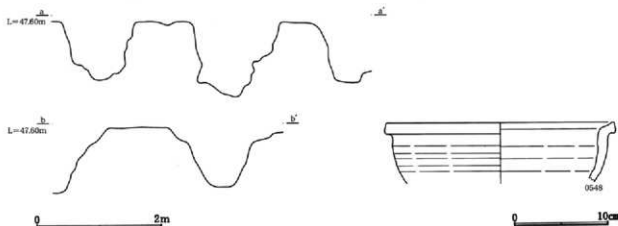
- 1 暗褐色土：ローム粒子・黒褐色土粒子・褐色砂質土・軽石 (Hr-

-FA・As-C) を含む。

- 2 暗褐色土：1層ブロックのまばらな堆積。(柱痕)
 - 3 暗褐色土：多量のローム小ブロック・褐色砂質土及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 4 暗褐色土：多量のローム小ブロック・褐色砂質土を含む。
 - 5 暗褐色土：ローム小ブロック・褐色砂質土を含む。
 - 6 暗褐色土：褐色砂質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 7 暗褐色土：多量の褐色砂質土及び少量の軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 8 暗褐色土：ロームブロックを含む。
- ピット 4
- 1 暗褐色土：少量の As-B 及び黄褐色土粒子を含む。(基本土層)
 - 2 黒褐色土：やや多量の As-B 及び黄褐色土粒子を含む。(基本土層)
 - 3 黒褐色土：多量の As-B を含む。(基本土層)
 - 4 黒褐色土：シルト質。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(基本土層)
 - 5 褐色土：シルト質。軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(基本土層)
 - 6 黒褐色土：多量の暗褐色土粒子及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(崩断面)
 - 7 黒褐色土：微量の暗褐色土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。(崩断面)
 - 8 黒褐色土：多量の砂及び褐色土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 9 黒褐色土：8層ブロックのまばらな堆積。(柱痕)
 - 10 黒褐色土：砂質。多量の褐色土粒子及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 11 黒褐色土：多量の褐色土小ブロック及び軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 12 暗褐色土：黒褐色土を含む。
 - 13 黒褐色土：褐色土小ブロック・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。
 - 14 暗褐色土：黒褐色土・砂質土を含む。
 - 15 黒褐色土：多量の暗褐色土ブロックを含む。

第249図 24号掘立柱

第II章 発見された遺構・遺物



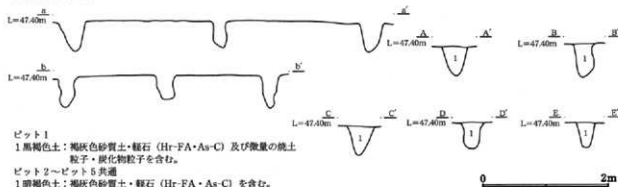
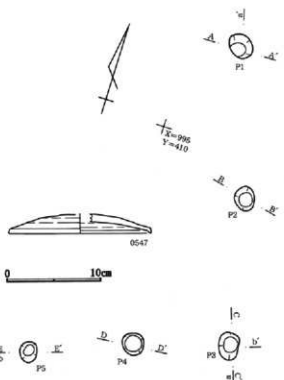
第250図 24号掘立柱エレベーション、同出土遺物

27号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区のX=35.995・Y=-39.410付近で検出された。738号ビットと重複するが、直接の切り合いはなく、新旧関係は不明である。

本掘立柱跡の規模は、西側部分が調査区域外のため不明であるが、東西2間以上、南北2間以上である。柱間の距離は、東西方向で約1.6~1.7m、南北方向で約2.3~2.4mである。柱穴の規模は、直径約0.35mないしは長軸0.35~0.45m、短軸約0.25~0.35m、確認面からの深さ約0.4~0.5mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。覆土は、軽石(As-C・Hr-FA)を含む暗褐色土であり、ビット1焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。

遺物は少量であるが、須恵器蓋(547)等が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



ビット1

1 黒褐色土：褐色色砂質土・軽石(Hr-FA・As-C)及び微量の焼土粒子・炭化物粒子を含む。

ビット2~ビット5 共通

1 暗褐色土：褐色色砂質土・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。

第251図 27号掘立柱、同出土遺物

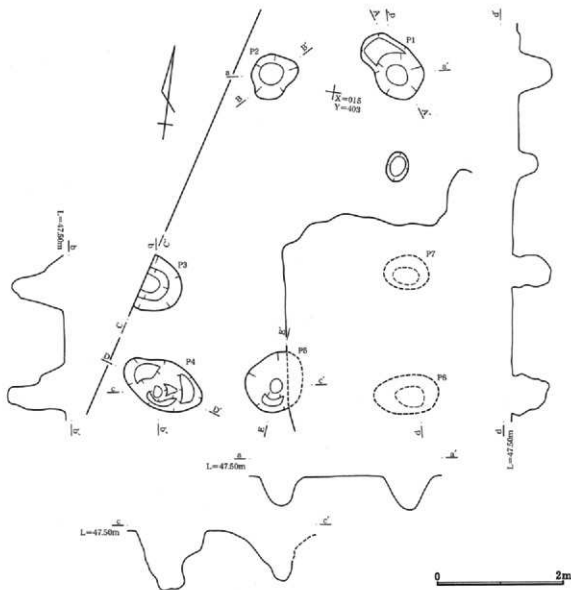
28号掘立柱跡

本掘立柱跡は、3区の $X=36.015 \cdot Y=-39.403$ 付近で検出された。19号住居跡・250号土坑・251号土坑・255号土坑・256号土坑と重複する。19号住居跡との新旧関係は、断面において、同住跡の覆土中に本掘立柱跡が確認できたことから、本掘立柱跡の方が新しい。250号土坑・251号土坑・255号土坑・256号土坑との新旧関係は、直接的な切合いがなく、不明である。

本掘立柱の規模は、西側部分が調査区域外のため確定できないが、桁行3間・約5.2m、梁行2間・約4.1mと推定している。柱間の距離は、桁行で約1.6～

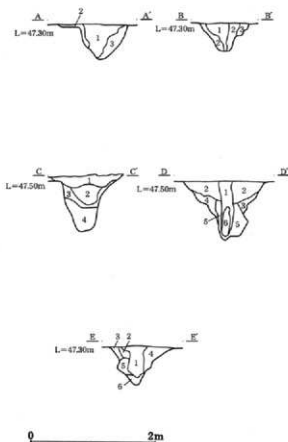
1.9m、梁行で約2.0～2.2mである。柱穴の規模は、長軸約0.5～1.35m、短軸約0.35～0.8m、確認面からの深さ約0.35～0.95mであり、平面形は不整形な楕円形ないしは不定形を呈する。主軸はN-12°-Wである。覆土は、軽石(Hr-FA・As-C)、ロームブロックを含む暗褐色土・黒褐色土であり、ピット1・ピット2には焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。

遺物は少量であるが、須臾器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀である。



第252図 28号掘立柱

第二章 発見された遺構・遺物



第253図 28号掘立柱セクション

2号柱穴列

本柱穴列は、3区のX=36.030・Y=-39.397付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本柱穴列は、ほぼ南北方向に4基のピットが並ぶ柱穴列である。柱間の距離は0.7~0.8mである。柱穴の規模は、径0.25~0.3m、床面からの深さ約0.25~0.35mであり、平面形は不整形な円形ないしは不整形な楕円形を呈する。本遺構からは、遺物が出土していない。従って時期の確定はできないが、検出面から平安時代より新しいと推測される。

ピット 1

1 褐灰色土：灰色シルト質土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット 2

1 褐灰色土：灰色シルト質土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット 3

1 褐灰色土：焼土粒子・灰色シルト質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット 4

1 褐灰色土：焼土粒子・灰色シルト質土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

ピット 1

1 暗褐色土：褐灰色砂質土・焼土粒子・炭化物粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

2 黄褐色土：暗褐色土を含む。

3 暗褐色土：多量のローム粒子を含む。

ピット 2

1 暗褐色土：灰褐色砂質土・焼土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

2 褐色土：多量のロームブロック・暗褐色土ブロックを含む。

3 褐色土：多量のロームブロックを含む。

ピット 3

1 暗褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土ブロックを含む。

2 黒褐色土：ローム粒子・暗褐色土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土を含む。

3 暗褐色土：ローム粒子を含む。

4 暗褐色土：多量のロームブロックを含む。

ピット 4

1 暗褐色土：ローム粒子・褐灰色砂質土を含む。

2 暗褐色土：ローム小ブロック・褐灰色砂質土を含む。

3 褐色土：ローム小ブロック主体。暗褐色土を含む。

4 褐色土：ロームブロック主体。暗褐色土・褐灰色砂質土を含む。

5 暗褐色土：多量のローム小ブロック及び暗褐色土・褐灰色砂質土を含む。

6 空洞 (柱痕)

ピット 5

1 暗褐色土：ローム粒子・褐灰色砂質土・黒褐色土・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

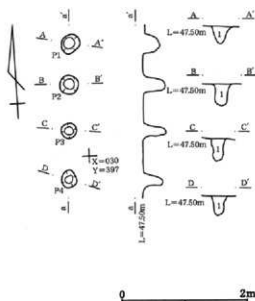
2 黒褐色土：褐灰色砂質土・ローム粒子を含む。

3 褐色土：ローム粒子を含む。

4 暗褐色土：多量のローム粒子及び微量の黒褐色土粒子・軽石 (Hr-FA・As-C) を含む。

5 褐色土：ロームブロックを含む。

6 褐色土：多量のロームブロックを含む。

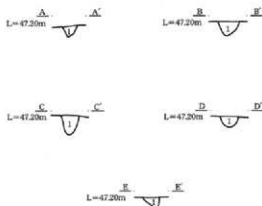


第254図 2号柱穴列

3号柱穴列

本柱穴列は、4区のX=36.085・Y=-39.367付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本柱穴列は、やや北に振れるが、東西方向に5基のピットが並ぶ柱穴列である。柱間の距離は、約4.4～2.1mである。柱穴の規模は、径0.3～0.6m、確認面からの深さ約0.15～0.3mであり、平面形は不整形な円形、不整形な楕円形を呈する。本遺構からは、遺物が出土していない。従って時期の確定はできないが、検出面から平安時代末より新しいと推測される。



ピット 1

1 黒褐色土：多量の洪水砂ブロックを含む。締りやや有り。

ピット 2

1 灰褐色土：洪水砂。締まり弱い。

ピット 3

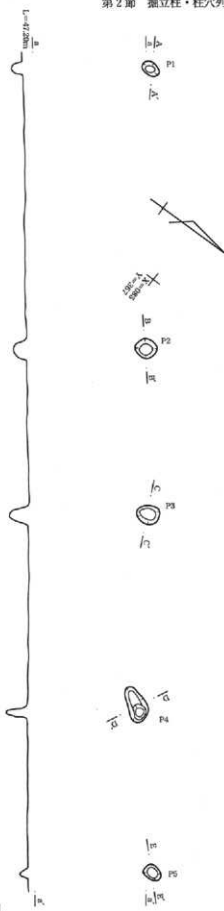
1 灰褐色土：洪水砂。締まり弱い。

ピット 4

1 灰褐色土：洪水砂。締まり弱い。

ピット 5

1 黒褐色土：多量の洪水砂ブロックを含む。締りやや有り。



第255図 3号柱穴列

第II章 発見された遺構・遺物

第1表 孤立柱一覧

遺構 番号	出土位置	規模〔 〕は 遺存壁 (m)	柱間の長さ (m)	梁間の長さ (m)	主 軸 (柱穴の方位)	柱穴の形状	柱穴の規模	備 考
							径(cm)×深(cm)	
01	X=36.130~.136 Y=-39.403~.408	2間×2間 5.2×4.9	2.0~3.2	2.4~2.5	N-6°-W	円形・楕円形	35~60×15~40	銅柱。須恵器杯 (390)
02	X=36.037~.042 Y=-39.387~.391	2間×2間 5.2×4.9	3.3~3.4	3.1~3.3	N-84°-W	楕円形・不定形	50~170×60~95	総柱。土師器壺 (549)
03	X=36.015~.020 Y=-39.390~.394	3間×2間 4.7×4.0	1.5~1.7	1.7~2.0	N-1°-W	円形・楕円形	70~180×65~85	銅柱。須恵器壺 (550)
04	X=35.999~36.004 Y=-39.397~.402	2間×2間 3.9×3.3	1.8~2.0	1.6~1.8	N-1°-W	円形・楕円形	65~90×70~80	総柱。
05	X=35.998~36.003 Y=-39.393~.396	南北2間	東西 2.2	南北 1.8~1.9		円形・方形・楕 円形	50~100×40~65	
06	X=35.991~.997 Y=-39.398~.403	2間×2間 4.4×4.0	2.3~2.4	1.8~2.0	N-11°-W	方形・楕円形	50~90×30~55	銅柱。18号溝→不明
07	X=35.982~.988 Y=-39.403~.408	3間×2間 5.9×4.4	1.8~2.0	1.9~2.5	N-15°-W	楕円形・不定形	45~110×35~75	銅柱。21・22号溝→不明、23号溝→7号孤立柱。
08	X=36.117~.122 Y=-39.401~.409	2間×2間 4.5×3.5	2.1~2.3	1.5~1.8	N-80°-E	円形・楕円形	60~85×30~65	銅柱。須恵器長頸壺 (397)
09	X=36.027~.033 Y=-39.395~.340	3間×2間 4.5以上×4.7	2.1~2.3	2.3~2.4		楕円形・不定形	100~140×55~80	2号柱穴列、44・65・229・230・231・236・246号土坑→不明。
10	X=35.987~.992 Y=-39.355~.359	2間×2間 4.0×3.9	2.0~2.3	1.8~2.1		長方形	55~60×25~30	銅柱。須恵器長頸壺 (397)
15	X=36.130~.135 Y=-39.431~.437	2間×2間 3.8×3.6	1.7~2.0	1.5~1.9		円形・楕円形	55~75×40~60	銅柱。62号住居跡→不明
16	X=36.177~.185 Y=-39.473~.479	3間×2間 5.4×3.3	1.7~1.9	1.6~1.7	N-20°-W	方形・長方形・楕 円形	80~110×15~55	銅柱。梁行中間柱穴の外側に柱穴有り。
17	X=36.135~.141 Y=-39.430~.435	2間×2間 4.3×4.1	2.0~2.3	1.7~2.2	N-78°-E	楕円形・不定形	45~90×45~70	銅柱。18号孤立柱→不明
18	X=36.136~.140 Y=-39.439~.433	2間×2間 3.3×3.2	1.3~1.8	1.4~1.6		方形・楕円形	30~70×10~60	銅柱。17号孤立柱→不明
19	X=36.136~.142 Y=-39.419~.426	3間×2間 5.5×4.5	1.8~2.0	2.1~2.3	N-74°-E	長方形・楕円形	40~85×30~50	銅柱。69・71・314号土坑→不明。
21	X=35.983~.971 Y=-39.293~.299	3間×2間 6.0×4.4	1.8~2.1	2.0~2.2	N-19°-W	円形・楕円形	40~85×30~50	銅柱。79号住居跡→21号孤立柱。
24	X=35.999~36.005 Y=-39.406~.409		東西 2.6	南北 2.1		楕円形・不定形	30~45×30~65	266・267・268号土坑→不明。須恵器鉢 (545)。
27	X=35.991~.997 Y=-39.408~.411		東西 1.6~1.7	南北 2.3~2.4		円形・楕円形	35~45×40~50	738号ピット→不明。須恵器壺 (547)。
28	X=36.010~.016 Y=-39.400~.406	3間×2間 5.2×4.1	1.6~1.9	2.0~2.2		楕円形・不定形	50~135×35~95	19号住居跡→28号孤立柱、250・251・253・256→不明。

第2表 柱穴列一覧

遺構 番号	出土位置	規模〔 〕は 遺存壁 (m)	柱間の長さ (m)	主 軸 (柱穴列の方位)	柱穴の形状	柱穴の規模	備 考
						径(cm)×深(cm)	
02	X=36.029~.032 Y=-39.387~.398	3間 2.7	0.7~0.8		不整円形・不整楕円形	25~30×25~35	
03	X=36.083~.091 Y=-39.359~.370	4間 12.8	2.6~3.9		不整円形・不整楕円形	30~60×20~30	

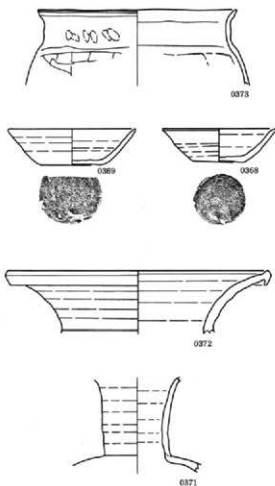
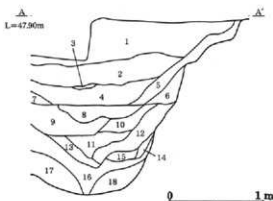
第3節 井戸

2号井戸

本井戸は、5区のX=36.202・Y=-39.435付近で検出された。4号井戸と重複する。新旧関係は不明である。

本井戸の規模は、北側の一部が調査区域外のため確定できないが、東西約2.6m、確認面からの深さ約1.8mであり、平面形は不整形な楕円形、若しくは不定形を呈すると推定される。

遺物は、須恵器杯(368・369)、土師器甕(373)、須恵器甕(372)、灰釉陶器壺(371)等が出土している。遺物等から推定する本井戸の年代は、9世紀中葉～後半である。



- 1 黒褐色土：多量の焼土小ブロック・炭化物片及び軽石(Hr-FA・As-C)を含む。部分的に灰の膠状斑を挿む。
- 2 黒褐色土：多量の焼土粒子及び炭化物・地山小ブロック・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 3 地山ロームの扁平な斑
- 4 黒褐色土：炭化物・焼土粒子を含む。
- 5 黒褐色土：地山ローム小ブロック・地山ローム斑を含む。
- 6 黒褐色土：やや多量の地山ローム小ブロック・地山ローム斑を含む。
- 7 黒褐色土：少量の地山ローム小ブロックを含む。
- 8 黒褐色土：褐色土小斑・軽石(Hr-FA・As-C)を含む。
- 9 暗褐色土：多量の黄褐色土ブロック・褐色土斑を含む。
- 10 黒褐色土：焼土小ブロック・炭化物及び少量の褐色土ブロックを含む。
- 11 黒褐色土：やや多量の褐色土ブロック及び焼土小ブロック・炭化物を含む。
- 12 暗褐色土：多量の褐色土ブロック・褐色土斑を含む。
- 13 褐色土：軟らかいロームブロック主体。暗褐色土を含む。
- 14 黒褐色土：クロボク土の再堆積。
- 15 褐色土：汚れたロームの再堆積。
- 16 暗褐色土と褐色土・黄褐色土の遊状堆積。
- 17 黒褐色土と黄褐色土の混土。
- 18 黄褐色土：ロームの再堆積。

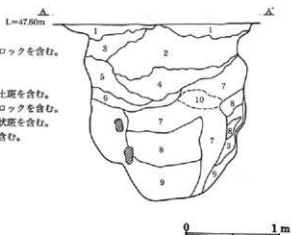
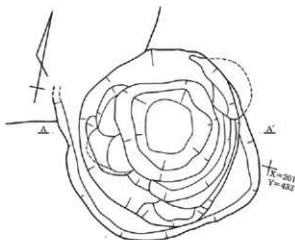
第256図 2号井戸、同出土遺物

4号井戸

本井戸は、5区のX=36.201・Y=-39.433付近で検出された。2号井戸と重複する。新旧関係は不明である。

本井戸の規模は、一辺約2.0m、確認面からの深さ約1.85mであり、平面形は不整形な隅丸方形を呈する。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀以後である。



- 1 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土主体。褐色土小ブロックを含む。
- 2 褐色土：黒褐色土斑を含み、硬く締まる。
- 3 褐色土：地山の崩落土。
- 4 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土主体。少量の褐色土斑を含む。
- 5 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土主体。黄褐色土ブロックを含む。
- 6 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土主体。褐色土の帯状斑を含む。
- 7 黒褐色土：軽石 (Hr-FA・As-C) を含む黒褐色土主体。褐色土斑を含む。
- 8 褐色土：黒褐色土斑を含む。
- 9 黒褐色土：ローム小ブロックを含む。
- 10 空洞

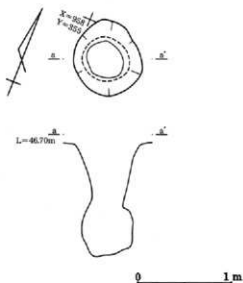
第257図 4号井戸

5号井戸

本井戸は、18区のX=35.958・Y=-39.355付近で検出された。90号住居跡と重複する。新旧関係は、本井戸が同住居跡の南西部の床の一部を破壊して築かれていることから、本井戸が新しい。

本井戸の規模は長軸約0.8m、短軸約0.7m、確認面からの深さ約1.2mであり、平面形は不整形な楕円形を呈する。

遺物は少量であるが、須恵器・土師器の小破片が出土している。遺物等から推定する本掘立柱跡の年代は、9世紀中葉以後である。



第258図 5号井戸

第4節 溝

1号溝

本溝は、4区の $X=36.090 \cdot Y=-39.380 \sim X=36.113 \cdot Y=-39.352$ 付近で検出された。2号溝・3号溝と重複する。各溝との新旧関係は、不明である。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.5m、確認面からの深さ約0.1mである。

遺物は、少量の土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

2号溝

本溝は、4区の $X=36.091 \cdot Y=-39.382 \sim X=36.114 \cdot Y=-39.357$ 付近で検出された。1号溝・3号溝と重複する。1号溝との新旧関係は、不明である。3号溝との新旧関係は、3号溝覆土中に、本溝の底面及び立ち上がりが確認できたことから、本溝の方が新しい。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.2~0.7m、確認面からの深さ約0.05~0.06mである。

遺物は、土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

3号溝

本溝は、4区の $X=36.093 \cdot Y=-39.385 \sim X=36.115 \cdot Y=-39.357$ 付近で検出された。1号溝・2号溝と重複する。1号溝との新旧関係は不明である。2号溝との新旧関係は、本溝の覆土中に2号溝の底面・立ち上がりが検出できたことから、本溝の方が古い。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.6m、確認面からの深さ約0.05~0.1mである。

遺物は、少量の土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

4号溝

本溝は、4区の $X=36.097 \cdot Y=-39.384 \sim X=36.106 \cdot Y=-39.371$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.45~0.95m、確認面からの深さ約0.03mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中に多量のAs-Bが含まれてる。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

5号溝

本溝は、4区の $X=36.103 \cdot Y=-39.388 \sim X=36.117 \cdot Y=-39.373$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.5m、確認面からの深さ約0.12mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

6号溝

本溝は、4区の $X=36.093 \cdot Y=-39.396 \sim X=36.108 \cdot Y=-39.383$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.35~0.55m、確認面からの深さ約0.05~0.1mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

7号溝

本溝は、4区の $X=36.103 \cdot Y=-39.388 \sim X=36.117 \cdot Y=-39.373$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.3～0.6m、確認面からの深さ約0.03～0.05mである。

本溝から遺物の出土はないが、覆土中にAs-Bが含まれており、平安時代末以後と推定できる。

8号溝

本溝は、4区の $X=36.112 \cdot Y=-39.388 \sim X=36.113 \cdot Y=-39.380$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北北東から南南西方向の溝である。規模は、上幅約0.3～0.45m、確認面からの深さ約0.02～0.05mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中に多量のAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

9号溝

本溝は、5区の $X=36.168 \cdot Y=-39.318 \sim X=36.186 \cdot Y=-39.323$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は大部分が調査区域外のため、方向規模は確定できないが、北北西から南南東方向の溝であり、上幅約7.0m以上、確認面からの深さ約0.7m以上である。

遺物は、陶器椀(377)、軟質陶器焙烙(383)、土製品鍾(384)、石製品五輪塔(385)等が出土している。遺物等から推定する本溝の年代は、近世以後である。

10号溝

本溝は、5区の $X=36.174 \cdot Y=-39.345 \sim X=36.177 \cdot Y=-39.331$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.5～0.8m、確認面からの深さ約0.1～0.2mであ

る。

遺物の出土もなく、覆土も砂質土で埋没しているため、時期は不明である。

11号溝

本溝は、4区の $X=36.130 \cdot Y=-39.339 \sim 5$ 区の $X=36.175 \cdot Y=-39.346$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ南北方向の溝である。規模は、上幅約0.6～1.2m、確認面からの深さ約0.7mである。

遺物は、須恵器杯(386)、須恵器壺(387)等が出土している。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

12号溝

本溝は、5区の $X=36.168 \cdot Y=-39.320 \sim X=36.184 \cdot Y=-39.327$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.5～1.1m、確認面からの深さ約0.1～0.23mである。

遺物の出土はないが、覆土中にHr-FA・As-Cが含まれており、6世紀後半以後の溝である。

13号溝

本溝は、5区の $X=36.141 \cdot Y=-39.450 \sim X=36.168 \cdot Y=-39.400$ 付近で検出された。35号溝と重複する。新旧関係は、35溝の覆土中に本溝の底面、立ち上がりが確認できたことから、本溝の方が新しい。

本溝は、湾曲しつつ北東から南西方向に位置する溝である。規模は、上幅0.2～0.4m、確認面からの深さ約0.1～0.25mである。

遺物は、須恵器杯(388・389)等が出土している。また、覆土にHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

14号溝

本溝は、3区の $X=35.967 \cdot Y=-39.405 \sim X=35.985 \cdot Y=-39.413$ 付近で検出された。26号溝・106号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、

上幅約3.0~4.5m、確認面からの深さ約1.3~1.5mである。

遺物は、土師器杯(468・469・470・471・472・473・474)、須恵器杯(461・463・464)、須恵器椀(462・465)、須恵器蓋(466・467)、土師器甕(475)等が出土している。

本溝は、人為的に掘削された溝であり、その時代は、出土遺物から8世紀中葉~後半と推定される。またその断面から何度か埋没した後、再び掘削され、利用されていると考えられる。

15号溝

本溝は、4区の $X=36.104 \cdot Y=-39.407 \sim X=36.131 \cdot Y=-39.357$ 付近で検出された。1号住居跡と重複する。新旧関係は、本溝が、1号住居跡の東壁及び西壁の一部を破壊していることから、本溝の方が新しい。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.5m、確認面からの深さ約0.2~0.3mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

16号溝

本溝は、3区の $X=36.023 \cdot Y=-39.397 \sim X=36.028 \cdot Y=-39.397$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ南北方向の溝である。規模は、上幅約0.4~0.5m、確認面からの深さ約0.35mである。覆土中に焼土粒子・炭化物粒子が含まれていた。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後の溝である。

17号溝

本溝は、3区の $X=35.993 \cdot Y=-39.406 \sim X=35.996 \cdot Y=-39.407$ 付近で検出された。18号溝と重複する。新旧関係は、断面観察により18号溝覆土

中に17号溝の立ち上がりが確認できたことにより、本溝のほうが新しい。

本溝は、北西から南東に向かう溝である。規模は、上幅約0.3~0.4m、確認面からの深さ約0.12mである。

遺物は、少量であるが土師器の小破片が出土している。また、覆土中にHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

18号溝

本溝は、3区の $X=35.993 \cdot Y=-39.408 \sim X=35.990 \cdot Y=-39.402$ 付近で検出された。17号溝・6号掘立柱と重複する。17号溝との新旧関係は、断面観察により、本溝中に17号溝の底面・立ち上がりが確認できたことにより、本溝の方が古い。6号掘立柱との新旧関係は、6号掘立柱ビット6の覆土中に本溝が検出できないことから、本溝の方が古い。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.35~0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。

本溝は、19・20・21号溝と方向、溝の規模・形態が類似しており、畝跡の可能性が推測できる。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

19号溝

本溝は、3区の $X=35.991 \cdot Y=-39.408 \sim X=35.9592 \cdot Y=-39.402$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。

本溝は、18・20・21号溝とともに畝跡の可能性が考えられる。遺物は、少量であるが土師器の小破片が出土している。また、覆土中にHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

20号溝

本溝は、3区の $X=35.989 \cdot Y=-39.408 \sim X=35.990 \cdot Y=-39.401$ 付近で検出された。他の遺構

との重複はない。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.5m、確認面からの深さ約0.13mである。

本溝は、18・19・21号溝とともに畝跡の可能性が考えられる。遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

21号溝

本溝は、3区の $X=35.987 \cdot Y=-39.408 \sim X=35.980 \cdot Y=-39.401$ 付近で検出された。7号掘立柱・55号土坑と重複する。7号掘立柱との新旧関係は、直接の切合いがなく、不明である。55号土坑との新旧関係は、新旧を確認することができず、不明である。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.4m、確認面からの深さ約0.13mである。

本溝は、18・19・20号溝とともに畝跡の可能性が考えられる。遺物の出土はないが、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれている。また18~20号溝との類似性から、9世紀以後の溝と推測される。

22号溝

本溝は、3区の $X=35.983 \cdot Y=-39.406 \sim X=35.986 \cdot Y=-39.399$ 付近で検出された。23号住居跡と重複する。新旧関係は、本溝が23号住居跡の西壁の一部を破壊していることから、本溝の方が新しい。

本溝は、北東~南西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。

遺物の出土はないが、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれており、6世紀以後の溝である。

23号溝

本溝は、3区の $X=35.978 \cdot Y=-39.409 \sim 19$ 区の $X=36.337 \cdot Y=-39.330$ 付近で検出された。3区と19区の間が大きく離れているが、溝の形態・覆土・方向等から同一の溝と判断した。23号住居跡・37号住居跡・38号住居跡、14号溝・24号溝・25号溝と重複する。23号住居跡との新旧関係は、本溝が23

号住居跡の西壁の一部を破壊していることから、本溝の方が新しい。37号住居跡との新旧関係は、本溝が37号住居跡の北東部から南西部にかけての壁・床の一部を破壊していることから、本溝の方が新しい。38号住居跡との新旧関係は、本溝の覆土中に38号住居跡の電が築かれていることから、本溝の方が古い。14号溝・24号溝・25号溝との新旧関係は、不明である。

本溝は、北東~南西方向の溝である。規模は、上幅約0.5~2.3m、確認面からの深さ0.15~0.75mである。

遺物は、須恵器杯(931・933・934)、須恵器鉢(930)、須恵器(932)等が出土している。遺物等から推定する本溝跡の年代は、9世紀である。

24号溝

本溝は、3区の $X=35.978 \cdot Y=-39.405 \sim X=35.982 \cdot Y=-39.407$ 付近で検出された。23号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.4m、確認面からの深さ約0.1mである。

遺物の出土はなく、年代の確定はできないが、覆土から6世紀以後の溝である。

25号溝

本溝は、3区の $X=35.972 \cdot Y=-39.403 \sim X=35.983 \cdot Y=-39.404$ 付近で検出された。23号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.25~0.45m、確認面からの深さ約0.3mである。

遺物の出土はないが、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれており、6世紀以後の溝である。

34号溝

本溝は、20区の $X=36.105 \cdot Y=-39.314 \sim X=36.125 \cdot Y=-39.311$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ南北方向の溝である。規模は、上幅約0.7~1.1m、確認面からの深さ約0.15~0.25mである。

本溝からは、遺物の出土もなく、覆土もシルト質の土で埋まっており、時期は不明である。

35号溝

本溝は、5区の $X=36.143 \cdot Y=-39.434 \sim X=36.174 \cdot Y=-39.447$ 付近で検出された。55号住居跡・63号住居跡・13号溝と重複する。55号住居跡との新旧関係は、55号住居跡覆土中に本溝が確認できなかったことから、本溝の方が古い。63号住居跡との新旧関係は、本溝覆土中に63号住居跡の竈煙道部が検出できたことから、本溝の方が古い。13号溝との新旧関係は、本溝覆土中に13号溝の底面、立ち上がりが確認できたことから、本溝の方が古い。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.5～1.3mであり、確認面からの深さ約0.25～0.35mである。

遺物は、少量であるが土師器の小破片が出土している。また、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

37号溝

本溝は、5区の $X=36.178 \cdot Y=-39.490 \sim X=36.187 \cdot Y=-39.492$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約3.2～3.4m、確認面からの深さ約1.5～1.75mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。本溝は、砂・小礫・シルトの互層で埋没しており、形態は3区14号溝に類似している。遺物等から推定する本溝の年代は、8世紀後半以後である。

44号溝

本溝は、19区の $X=35.979 \cdot Y=-39.326 \sim X=35.983 \cdot Y=-39.324$ 付近で検出された。66号住居跡と重複する。新旧関係は、本溝が66号住居跡南東部の壁・床の一部を破壊していることから、本溝の方が新しい。

本溝は、北北東から南南西方向の溝である。規模

は、上幅約0.8～0.9m、確認面からの深さ約0.4mである。

遺物は、少量であるが土師器の小破片が出土している。また、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれていること、66号住居より新しいことから、本溝の年代は、6世紀以後である。

45号溝

本溝は、2区の $X=35.953 \cdot Y=-39.411 \sim X=35.962 \cdot Y=-39.414$ 付近で検出された。46号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約3.0～3.6m、確認面からの深さ約1.3～1.5mである。

遺物は、土師器高杯(527)等が出土している。また、溝覆土には部分的に Hr-FA・As-C が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、6世紀以後である。

46号溝

本溝は、2区の $X=35.952 \cdot Y=-39.412 \sim X=35.952 \cdot Y=-39.422$ 付近で検出された。45号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、湾曲するが、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約1.1～1.4m、確認面からの深さ約0.35～0.4mである。

遺物は、土師器台付壺の破片が出土している。また、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

47号溝

本溝は、2区の $X=35.947 \cdot Y=-39.413 \sim X=35.952 \cdot Y=-39.422$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約0.2～0.45m、確認面からの深さ約0.04～0.08mである。

遺物の出土はないが、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれていることから、6世紀以後と考えられる。

48号溝

本溝は、2区の $X=35.942 \cdot Y=-39.417 \sim X=$

35.949・Y=-39.422付近で検出された。49号溝と重複する。新旧関係は不明である。

本溝は北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.4~0.7m、確認面からの深さ約0.03~0.07mである。

遺物の出土はないが、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれていることから、6世紀以後と考えられる。

49号溝

本溝は、2区のX=35.942・Y=-39.415~X=35.943・Y=-39.423付近で検出された。48号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、西北西から東南東方向の溝である。規模は、上幅0.35~0.5m、確認面からの深さ約0.04~0.07mである。

遺物は、須恵器の小破片が1点出土している。また、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

50号溝

本溝は、2区のX=35.933・Y=-39.414~X=35.940・Y=-39.424付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約1.8~2.7m、確認面からの深さ約0.35~0.5mである。

遺物は須恵器杯(531)等が出土している。また、覆土中には Hr-FA・As-C が含まれていることから、年代は9世紀以後である。

51号溝

本溝は、2区のX=35.908・Y=-39.421~X=35.916・Y=-39.422付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ南北方向の溝である。規模は、上幅0.45~0.55m、確認面からの深さ約0.1mである。

本溝は、遺物の出土もなく、覆土も不明であるので、時代は不明である。

52号溝

本溝は、2区のX=35.914・Y=-39.418~X=35.923・Y=-39.427付近で検出された。他の遺構

との重複はない。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約0.4~0.6m、確認面からの深さ約0.05mである。

本溝は、遺物の出土はなく、覆土もロームの混土であるので、年代は不明である。

53号溝

本溝は、18区のX=35.913・Y=-39.377~X=35.930・Y=-39.388付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約5.2~5.9m、確認面からの深さ約1.1~1.25mである。

本溝からは、底面から立ち上がる部分にビットが検出できた。これらのビットは並行して両側に穿たれており、土留めの杭が打たれていたと推定される。また、本溝はその形態から、3区14号溝と同一の可能性がある。

遺物は、須恵器杯(676・677)、土師器壺(678)、鉄滓(679・680)等が出土している。また、溝覆土には Hr-FA・As-C の混入も見られる。また、埋没した後に再掘削した跡も見られる。これらのことから、本溝の年代は8世紀中葉から後半に掘削され、埋没後に再掘削し使用されていたと推定している。

54号溝

本溝は、18区のX=35.933・Y=-39.375~X=35.935・Y=-39.383付近で検出された。67号溝と重複する。新旧関係は、本溝が67号溝の上面から検出されていることから、本溝の方が新しい。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.9~1.4m、確認面からの深さ約0.04~0.13mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中に As-B が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

55号溝

本溝は、18区のX=35.935・Y=-39.374~X=

35.936・Y=-39.378付近で検出された。56号溝、67号溝と重複する。56号溝との新旧関係は、不明である。67号溝との新旧関係は、本溝が67号溝の上面から検出されていることから、本溝の方が新しい。

本溝は、西北西から東南東方向の溝である。規模は、上幅約0.5~0.9m、確認面からの深さ約0.05~0.15mである。

遺物の出土はないが、溝覆土にAs-Bが含まれている。本溝の年代は、平安時代末以後と考えられる。

56号溝

本溝は、18区のX=35.934・Y=-39.378~X=35.938・Y=-39.377付近で検出された。56号溝、67号溝と重複する。56号溝との新旧関係は、不明である。67号溝との新旧関係は、本溝が67号溝の上面から検出されていることから、本溝の方が新しい。

本溝は、北北東から南南西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.5m、確認面からの深さ約0.02~0.1mである。

遺物は、少量であるが須恵器の小破片が出土している。また、溝覆土にはAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

57号溝

本溝は、18区のX=35.957・Y=-39.354~X=35.964・Y=-39.354付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ南北方向の溝であるが、南端付近で東にほぼ90度曲がり、確認できなくなっている。規模は、上幅約0.4~0.55m、確認面からの深さ約0.05mである。

遺物は、土師器壺(681)等が出土している。また、溝覆土にAs-Bが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

58号溝

本溝は、18区のX=35.957・Y=-39.339~X=35.974・Y=-39.336付近で検出された。82号住居跡と重複する。82号住居跡との新旧関係は、本溝の覆土中から82号住居跡の竈煙道部が検出できたこと

から、本溝の方が古い。

本溝は、ほぼ南北の溝であり、西側にやや湾曲している。規模は、上幅約2.1~2.4m、確認面からの深さ約0.7~0.9mである。本溝は、断面から一度埋没した後、掘削しなおされている。

遺物は、須恵器杯(683・685・686・689・708・709)、須恵器椀(688・710)、灰釉陶器椀(682)、須恵器甕(684・690)等が出土している。また、溝覆土にはHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の時期は、9世紀後半~10世紀前半である。

59号溝

本溝は、18区のX=35.959・Y=-39.333~X=35.974・Y=-39.328付近で検出された。156号土坑、159号土坑と重複する。156号土坑との新旧関係は、本溝の西側上面の一部を同土坑が破壊していることから、本溝の方が古い。159号土坑との新旧関係は、本溝の東側上面の一部を同土坑が破壊していることから、本溝の方が古い。

本溝は、北北東から南南西方向の溝である。規模は、上幅約1.8~2.1m、確認面からの深さ約0.95~1.05mである。

遺物は、須恵器杯(694・695・698・700・701・702・704・705・707)、須恵器椀(697・699・703)、須恵器皿(696)、甕(706)、鉄斧(691・1332)等が出土している。また、溝覆土にはHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の時期は、9世紀後半~10世紀前半である。

60号溝

本溝は、18区のX=35.923・Y=-39.374~X=35.941・Y=-39.382付近で検出された。67号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約1.0~1.55m、確認面からの深さ約0.6~0.7mである。

遺物は、須恵器杯(741)等が出土している。また、溝覆土にはHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の時期は、9世紀である。

61号溝

本溝は、21区の $X=35.961 \cdot Y=-39.303 \sim X=35.973 \cdot Y=-39.308$ 付近で検出された。64号溝と重複する。新旧関係は、本溝が64号溝の南西部を破壊していることから、本溝の方が新しい。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.55～1.55m、確認面からの深さ約0.1～0.2である。しかし、中央部が膨らんでおり、その部分の上幅は2.2～3.5mである。

本溝からは遺物の出土もなく、土層も不明であるので、時代は確定できない。

62号溝

本溝は、21区の $X=35.962 \cdot Y=-39.298 \sim X=35.964 \cdot Y=-39.295$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.5～0.75m、確認面からの深さ約0.05～0.1mである。

遺物の出土はないが、覆土に Hr-FA・As-C が含まれており、6世紀以後の溝と推定される。

63号溝

本溝は、21区の $X=35.966 \cdot Y=-39.273 \sim X=35.969 \cdot Y=-39.277$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝であるが、北東に湾曲している。規模は、上幅約0.3～0.4m、確認面からの深さ約0.12～0.22mである。

遺物の出土はないが、覆土に Hr-FA・As-C が含まれており、6世紀以後の溝と推定される。

64号溝

本溝は、21区の $X=35.971 \cdot Y=-39.308 \sim X=35.973 \cdot Y=-39.307$ 付近で検出された。61号溝と重複する。新旧関係は、本溝の南西部が61号溝に破壊されていることから、本溝の方が古い。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.6～0.7m、確認面からの深さ約0.11～0.13mである。

遺物の出土はないが、覆土に Hr-FA・As-C が含

まれており、6世紀以後の溝と推定される。

66号溝

本溝は、18区の $X=35.905 \cdot Y=-39.385 \sim X=35.918 \cdot Y=-39.391$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約2.6～4.0m、確認面からの深さ約1.55～1.7mである。本溝は、その形態・方向から2区45号溝の延長と考えられる。

遺物は、土師器高杯(692)、土師器台付壺(693)等が出土している。遺物等から推定する本溝の年代は5世紀前半である。

67号溝

本溝は、18区の $X=35.928 \cdot Y=-39.375 \sim X=35.943 \cdot Y=-39.382$ 付近で検出された。54号溝、55号溝、56号溝、60号溝と重複する。54号溝・55号溝・56号溝との新旧関係は、本溝が各溝の下面から検出されていることから、本溝の方が古い。60号溝との新旧関係は、不明である。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約0.55～0.8m、確認面からの深さ約0.2～0.25mである。

遺物の出土はないが、覆土に Hr-FA・As-C が含まれており、6世紀以後の溝と推定される。

68号溝

本溝は、22区の $X=36.022 \cdot Y=-39.303 \sim X=36.044 \cdot Y=-39.307$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.6～0.85m、確認面からの深さ約0.05～0.1mである。

遺物の出土はないが、覆土中に As-B が含まれており、平安時代末以後の溝と推定される。

69号溝

本溝は、22区の $X=35.987 \cdot Y=-39.278 \sim X=36.015 \cdot Y=-39.314$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は北東～南東方向へ湾曲しつつ向かう。規模

は、上幅約0.8~1.3m、確認面からの深さ約0.3~0.35mである。

遺物は、須恵器碗(1089)、須恵器把手付き壺(1088)、鉄製品(1285)等が出土している。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

70号溝

本溝は、22区の $X=35.993 \cdot Y=-39.278 \sim X=36.017 \cdot Y=-39.314$ 付近で検出された。71号溝・73号溝・75号溝と重複する。71号溝との新旧関係は不明である。73号溝との新旧関係は、本溝の覆土中に同溝の西側の立ち上がりが確認できたことから、本溝の方が古い。75号溝との新旧関係は、同溝の覆土中に本溝の東側の立ち上がりが確認できたことから、本溝の方が新しい。

本溝は北西から南東に湾曲しつつ向い、73号溝との重複部分で切れる。規模は、上幅約0.5~1.5m、確認面からの深さ約0.1~0.3mである。

遺物は、須恵器杯(1082)、須恵器碗(1083)等が出土しているが、流れ込みと考えられる。本溝の時代は、一部でAs-Bが検出できたことから、平安時代末以後の溝と推定される。

71号溝

本溝は、22区の $X=36.016 \cdot Y=-39.313 \sim X=36.024 \cdot Y=-39.315$ 付近で検出された。70号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、北北西から南南東方向に向かう。規模は、上幅約0.6~0.7m、確認面からの深さ約0.1mである。遺物の出土はないが、覆土中にAs-Bが確認できたことから、平安時代末以後の溝と推定される。

72号溝

本溝は、22区の $X=36.011 \cdot Y=-39.311 \sim X=36.026 \cdot Y=-39.262$ 付近で検出された。73号溝・74号溝と重複する。73号溝・74号溝との新旧関係を、断面等から確認することはできなかった。同溝と覆土が類似しており、ほぼ同時期の溝と推定される。

本溝は、東北東から西南西方向の溝である。規模は、上幅約1.2~1.6m、確認面からの深さ約0.2~0.25mである。

遺物は、須恵器碗(1084)、須恵器蓋(1085)等が出土している。遺物等から推定する本溝の時期は、9世紀以後である。

73号溝

本溝は、22区の $X=35.987 \cdot Y=-39.273 \sim X=36.022 \cdot Y=-39.293$ 付近で検出された。70号溝・72号溝・76号溝と重複する。70号溝との新旧関係は、70号溝覆土中に、本溝の西側の立ち上がりが確認できたことから、本溝の方が新しい。72号溝との新旧関係は、不明であるがほぼ同時期の溝と推定している。76号溝との新旧関係は、不明である。

本溝は北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約1.0~1.3m、確認面からの深さ約0.3~0.35mである。

遺物は、少量であるが須恵器杯(1087)、須恵器碗(1086)等の小破片が出土している。また、溝覆土中からAs-Bが一部確認されている。遺物等から推定する本溝の年代は平安時代末以後である。

74号溝

本溝は、22区の $X=36.023 \cdot Y=-39.292 \sim X=36.056 \cdot Y=-39.301$ 付近で検出された。72号溝と重複する。新旧関係は不明であるが、覆土からほぼ同時期の溝と推定している。

本溝は北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.8~1.1mであり、確認面からの深さ約0.2~0.25mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、溝覆土中からAs-Bが一部確認されている。遺物等から推定する本溝の年代は平安時代末以後である。

75号溝

本溝は、22区の $X=35.988 \cdot Y=-39.276 \sim X=36.004 \cdot Y=-39.294$ 付近で検出された。70号溝・76号溝と重複する。70号溝との新旧関係は、本溝覆土中に75号溝の東側の立ち上がりが確認できたことから、本溝の方が古い。76号溝との新旧関係は、不明である。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、

第二章 発見された遺構・遺物

上幅約0.55~1.0m、確認面からの深さ約0.08mである。

遺物は、須恵器杯(1090)等が出土しているが、覆土中からAs-Bが一部確認されており、遺物は流れ込みと考えられる。遺物から推定する本溝の年代は、平安時代末以後である。

76号溝

本溝は、22区の $X=35.987 \cdot Y=-39.277 \sim X=35.593 \cdot Y=-39.261$ 付近で検出された。73号溝・75号溝・77号溝と重複する。各溝との新旧関係は不明であるが、75号溝・77号溝との覆土は類似しており、ほぼ同時期の溝と推定している。

本溝は、北北東から南南西方向の溝である。規模は、上幅約0.6~1.2m、確認面からの深さ約0.2mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。75号溝との時期は近いものと推定している。

77号溝

本溝は、22区の $X=35.988 \cdot Y=-39.270 \sim X=35.593 \cdot Y=-39.261$ 付近で検出された。73号溝・77号溝と重複する。各溝との新旧関係は不明であるが、76号溝とは覆土が類似しており、時期は近いものと推定している。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅約0.1m、確認面からの深さ約0.3mである。

遺物の出土はなく、溝の年代は不明であるが、76号溝と時期的に近いものと推定している。

78号溝

本溝は、22区の $X=36.047 \cdot Y=-39.257 \sim X=36.047 \cdot Y=-39.266$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.6~1.0m、確認面からの深さ約0.15mである。

本溝から遺物の出土はないが、溝覆土中からAs-Bが一部確認されている。本溝の年代は、平安時代末以後と推定される。

79号溝

本溝は、22区の $X=36.037 \cdot Y=-39.236 \sim X=36.039 \cdot Y=-39.239$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北北西から南南東方向の溝である。規模は、上幅0.3~0.5m、確認面からの深さ約0.07mである。

遺物の出土はないが、溝覆土中からAs-Bが一部確認されている。本溝の年代は、平安時代末以後と推定される。

84号溝

本溝は、16区の $X=35.756 \cdot Y=-39.418 \sim X=35.788 \cdot Y=-39.403$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北北東から南南西方向の溝である。規模は、上幅約0.4~2.2m、確認面からの深さ約0.05~0.55mである。南へ下がるほど浅くなり、 $X=35.756 \cdot Y=-39.418$ 付近で確認できなくなる。

遺物は、磁器椀(574・575・576)、陶器香炉(577)、石製品砥石(578)、鉄製品(1102)等が出土している。遺物等から推定する本溝の時代は、近世以後である。

85号溝

本溝は、16区の $X=35.743 \cdot Y=-39.416 \sim X=35.749 \cdot Y=-39.421$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、西北西から東南東方向の溝である。規模は、上幅約1.4~1.9m、確認面からの深さ約0.09~0.22mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

92号溝

本溝は、17区の $X=35.818 \cdot Y=-39.408 \sim X=35.819 \cdot Y=-39.412$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.3~0.4m、確認面からの深さ約0.05~0.1mであ

る。

遺物の出土はないが、溝覆土中から多量のAs-Bが検出されている。本溝の年代は、平安時代末以後と推定される。

93号溝

本溝は、17区の $X=35.828 \cdot Y=-39.401 \sim X=35.833 \cdot Y=-39.409$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北東から南西方向の溝である。規模は、上幅約0.45～0.65m、確認面からの深さ約0.15～0.25mである。

遺物の出土はないが、溝覆土中からはAs-Bが検出されている。本溝の年代は、平安時代末以後と推定される。

94号溝

本溝は、17区の $X=35.833 \cdot Y=-39.406 \sim X=35.834 \cdot Y=-39.409$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北西から南東方向の溝である。規模は、上幅約0.7～0.9m、確認面からの深さ約0.12～0.24mである。

遺物の出土はないが、溝覆土中からはAs-Bが検出されている。本溝の年代は、平安時代末以後と推定される。

95号溝

本溝は、17区の $X=35.801 \cdot Y=-39.408 \sim X=35.804 \cdot Y=-39.413$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北西から南東方向の溝であるが、 $X=35.803 \cdot Y=-39.403$ 付近で南へ湾曲する。規模は、上幅約0.5～0.65m、確認面からの深さ約0.04～0.1mである。

遺物の出土はないが、溝覆土はAs-B主体の土である。本溝の年代は、平安時代末以後と推定される。

99号溝

本溝は、3区の $X=36.040 \cdot Y=-39.397 \sim X=36.041 \cdot Y=-39.391$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.8～1.3m、確認面からの深さ約0.12～0.15mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中にAs-Bが含まれている。遺物等から推定される本溝の年代は、平安時代末以後である。

102号溝

本溝は、17区の $X=35.868 \cdot Y=-39.393 \sim X=35.867 \cdot Y=-39.401$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、ほぼ東西方向の溝である。規模は、上幅約0.45～0.95m、確認面からの深さ約0.15～0.2mである。

遺物の出土はないが、溝覆土中からはAs-Bが検出されている。本溝の年代は、平安時代末以後と推定される。

103号溝

本溝は、3区の $X=36.018 \cdot Y=-39.401 \sim X=36.028 \cdot Y=-39.399$ 付近で検出された。104号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、ほぼ南北方向の溝である。規模は、上幅約1.0～1.2m、確認面からの深さ約0.05～0.1mである。

遺物は、やや多量の土師器の小破片が出土している。また、覆土にHr-FA・As-Cが含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、6世紀以降である。

104号溝

本溝は、3区の $X=36.015 \cdot Y=-39.402 \sim X=36.022 \cdot Y=-39.400$ 付近で検出された。103号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は、ほぼ南北方向の溝である。規模は、0.3～0.6m、確認面からの深さ約0.08mである。

遺物の出土はなく、年代は不明である。

106号溝

本溝は、3区の $X=35.973 \cdot Y=-39.417 \sim X=35.975 \cdot Y=-39.411$ 付近で検出された。14号溝・

110号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

本溝は北北東～南南西方向の溝である。規模は、上幅約1.8～2.5m、確認面からの深さ約0.45mである。

遺物は、土師器甕(478)等が出土している。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

107号溝

本溝は、3区の $X=36.017 \cdot Y=-39.403 \sim X=36.023 \cdot Y=-39.403$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、南北方向の溝であり、中央部で東に湾曲している。規模は、上幅約0.6～0.95m、確認面からの深さ約0.1mである。

遺物は、須恵器の小破片が出土している。また、覆土中に Hr-FA・As-C が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

109号溝

本溝は、3区の $X=36.038 \cdot Y=-39.398 \sim X=$

$36.036 \cdot Y=-39.395$ 付近で検出された。他の遺構との重複はない。

本溝は、北西から南東に向かう溝である。規模は、上幅約1.6～1.9m、確認面からの深さ約0.35mである。

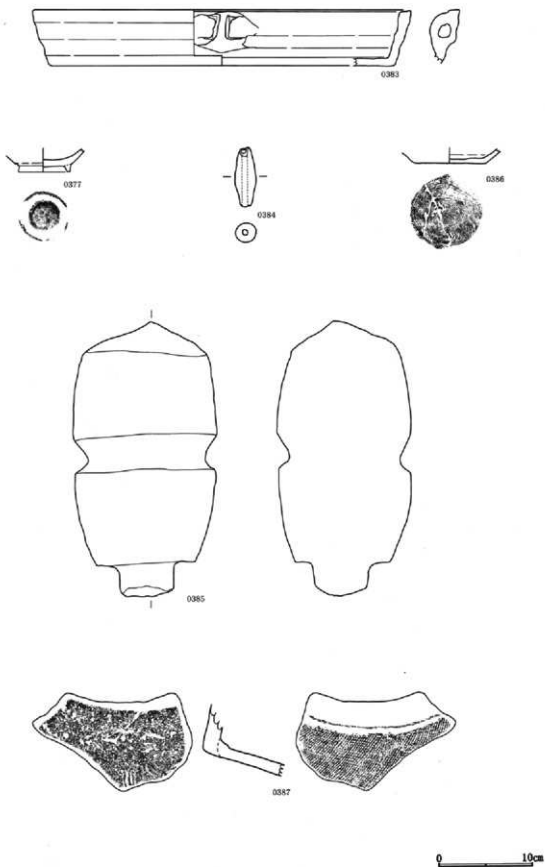
遺物は、須恵器の小破片が1点出土している。また、溝覆土中に Hr-FA・As-C が含まれている。遺物等から推定する本溝の年代は、6世紀以後である。

110号溝

本溝は、3区の $X=35.966 \cdot Y=-39.415 \sim X=35.970 \cdot Y=-39.417$ 付近で検出された。106号溝と重複する。新旧関係は、不明である。

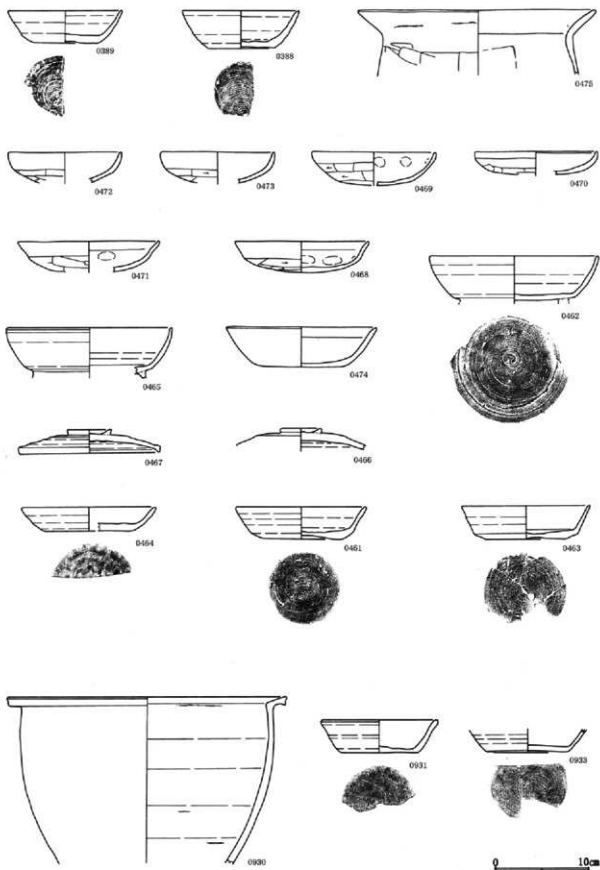
本溝は北北西から南南東に向かう溝である。規模は、上幅約3.0～3.5m、確認面からの深さ1.8mである。

遺物は、少量であるが土師器、須恵器の小破片が出土している。覆土は洪水による砂層である。遺物等から推定する本溝の年代は、9世紀以後である。

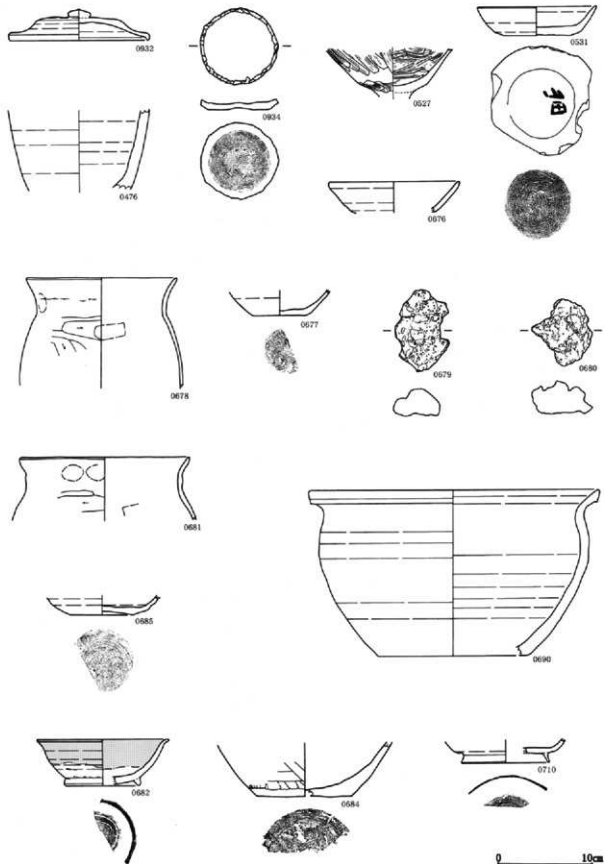


第259図 9・11号溝出土遺物

第II章 発見された遺構・遺物

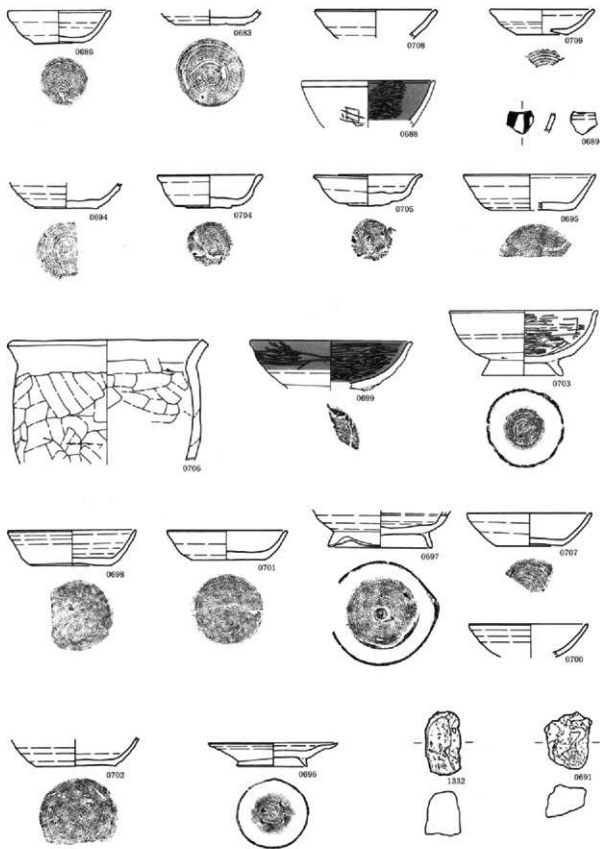


第260図 13・14・23号溝出土遺物

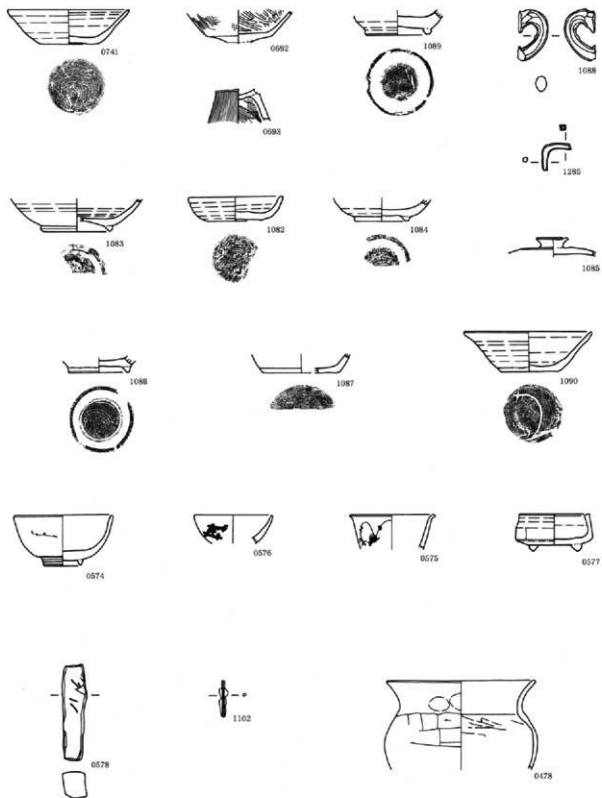


第261图 23·45·50·53·57·58号沟出土遗物

第二章 発見された遺構・遺物



第262図 58・59号溝出土遺物



第263圖 60・66・69・70・72・73・75・84・106号溝出土遺物

第5節 土 坑

東今泉鹿島遺跡で土坑は、196基検出された。その分布は、偏りはなく、1区～6区・16区～22区の遺跡全体から検出されている。そのうち、196・198・199・201号土坑は、遺物の出土状態から縄文時代の土坑である。縄文土坑は16・18区に集中している。

その他の土坑は、その覆土により大きく二時期に分けられる。ひとつは覆土にHr-FA・As-Cを含む土坑であり、基本的に住居跡の覆土と同じであり、年代は古代以降（正確には、6世紀中葉以降）である。住居跡と同じ時期と考えれば、8世紀～10世紀前半である。覆土中にAs-Cを含むものは、古墳時代の土坑であり、1区121号土坑がそれに当たる。

覆土中軽石を含まないものは、時期の確定が困難であるが、古代遺構の土坑に当たるものが多いと推測する。また、6世紀中葉より古い土坑、平安時代

より新しい土坑も含まれる。土坑一覧の年代・その他の項に、出土遺物と総合年代を示した。

土坑全体として、覆土中に焼土粒子・焼土ブロック・炭化物等を含むものが比較的多くある。時期は、住居との時期とほぼ同じと推定している。

土坑の中でその性格が推定できるものは、土壌墓である。その形態、覆土中の焼土・炭化物などから推測して、19区82号土坑・86号土坑は土壌墓の可能性が考えられる。また、特殊な土坑（便宜上土坑に分類した。）として、4区7号土坑、5区283号土坑が挙げられる。底面の形態、土坑の深さなどから、住居の構築材取集のための粘土採掘坑と考える。

便宜上土坑に分類したが、5区の29号～37号土坑は、住居跡の掘り方と推測できる。以下、東今泉鹿島遺跡検出の土坑は、土坑一覧に示す。

第3表 土坑一覧

土坑番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模 (cm) 長辺×長軸×短辺×短軸×深さ	出土遺物	年代・その他
001	4	X=36.123 Y=-39.412		楕円形	210×120×40	須恵器小破片2	底面が広がる。古代以後。
002	4	X=36.124 Y=-39.413		楕円形	300×250×85	土師器台付罎 (521)、土師器・須恵器小破片	覆土中に多量の焼土粒子・炭化物を含む。9世紀。
003	5	X=36.153 Y=-39.363		楕円形	130×105×20		
004	5	X=36.159 Y=-39.367		楕円形	160×100×45	須恵器小破片4	
007	4	X=36.120 Y=-39.347		不定形	(720以上)×(390以上)×95	須恵器杯 (522)、土師器・須恵器小破片	粘土採掘坑か。一部焼土粒子を含む層あり。9世紀以後。
008	5	X=36.170 Y=-39.413		楕円形	115×100×60		古代以後。
009	5	X=36.182 Y=-39.420		不整形	70×65×20	土師器小破片1、須恵器小破片1	焼土粒子を含む。9世紀以後。
010	5	X=36.181 Y=-39.420		楕円形	90×60×35	須恵器碗 (399)、土師器・須恵器小破片	焼土粒子を含む。9世紀以後。
011	5	X=36.180 Y=-39.419		不整形楕円形	70×60×25	土師器小破片1、須恵器小破片1	焼土粒子を含む。9世紀以後。
012	5	X=36.181 Y=-39.418		不定形	85×55×35	土師器小破片1	焼土粒子を含む。古代以後。
013	5	X=36.181 Y=-39.418		楕円形	70×55×20		焼土粒子を含む。古代以後。
015	5	X=36.142 Y=-39.405		方形	90×35	土師器小破片9、須恵器小破片1	9世紀以後。

第5節 土 坑

土坑 番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模(cm)長辺・長軸 ×短辺・短軸×深さ	出土遺物	年代・その他
016	5	X=36.142 Y=-39.406		長方形	140×120×40	土師器小破片3、須恵器小破片1	9世紀以後。
017	5	X=36.145 Y=-39.406		楕円形	75×60×13		古代以後。
018	5	X=36.145 Y=-39.407		楕円形	75×65×40		古代以後。
019	5	X=36.144 Y=-39.409		長方形	130×85×60		古代以後。
020	5	X=36.143 Y=-39.409		方形	130×20		古代以後。
021	5	X=36.142 Y=-39.411		不整形長方形	165×105×25	土師器小破片1	古代以後。
022	5	X=36.147 Y=-39.408		円形	60×35		古代以後。
023	5	X=36.144 Y=-39.397		楕円形	135×125×20		古代以後。
024	5	X=36.181 Y=-39.419		不整形円形	45×23		古代以後。
025	5	X=36.179 Y=-39.419		楕円形	70×55×30	土師器壺破片	古代以後。
026	4	X=36.112 Y=-39.355		不整形長方形	85×70×23		焼土小ブロック・炭化物を含む。
027	4	X=36.119 Y=-39.356		不整形長方形	135×95×20		
028	5	X=36.139 Y=-39.409		不整形長方形	405×250×50	須恵器杯(396)、土師器・須恵器小破片多	焼土粒子・炭化物を含む。9世紀以後。
029	5	X=36.183 Y=-39.403		不整形楕円形	130×120×20	29~41土坑、須恵器杯(401・402・404)、須恵器碗(400)、土師器壺(409)、土師器古付蓋(410)、小破片	焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀以後。
030	5	X=36.183 Y=-39.403	31号土坑→30号土坑・35号土坑→30号土坑・30号土坑→36号土坑	不整形楕円形	130×(90)×35		焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
031	5	X=36.183 Y=-39.403	31号土坑→30号土坑・32・35号土坑→不明	不定形	125×(100)×45		焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
032	5	X=36.183 Y=-39.403	32号土坑→不明	不整形楕円形	(115)×80×55	土師器壺(407・408)、土師器・須恵器小破片	焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
033	5	X=36.183 Y=-39.403	34号土坑→33号土坑	不定形	105×85×30	土師器小破片4	焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
034	5	X=36.183 Y=-39.403	35号土坑→34号土坑→33号土坑	不定形	110×(75)×30	土師器壺破片	焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
035	5	X=36.183 Y=-39.403	35号土坑→34号土坑・35号土坑→30号土坑・31号土坑→不明	不定形	170×(90)×20	土師器小破片4	焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
036	5	X=36.179 Y=-39.402	36号土坑→30号土坑・37号土坑→36号土坑	不整形円形	110×30	須恵器碗(403)、須恵器壺(405)、小破片	焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
037	5	X=36.179 Y=-39.402	37号土坑→36号土坑	不定形	125×(120)×20	土師器壺(406)、土師器・須恵器小破片	焼土粒子・炭化物を含む。住居跡の掘り方か。9世紀後半。
038	5	X=36.184 Y=-39.401		円形	80×45		
039	5	X=36.181 Y=-39.401		不整形楕円形	80×45×35		

第II章 発見された遺構・遺物

土坑 番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模(cm)長辺・長軸 ×短辺・短軸×深さ	出土遺物	年代・その他
040	5	X=36.181 Y=-39.401		不整楕円形	40×30×45		
041	5	X=36.181 Y=-39.400		不定形	135×60×30		
042	5	X=36.178 Y=-39.407		不整楕円形	(80)×85×35	須恵器器(392)、土師器・須恵器小破片	焼土小ブロック・炭化物を含む。9世紀以後。
044	3	X=36.633 Y=-39.396		楕円形	115×85×45	須恵器杯(477)	焼土粒子を含む。古代以後。9世紀以後。
046	3	X=36.629 Y=-39.397		不定形	100×80×65	土師器・須恵器小破片やや多	焼土小ブロック・炭化物を含む。9世紀以後。
049	3	X=36.622 Y=-39.395		不整長方形	125×80×50	土師器小破片1、須恵器小破片3	焼土粒子・炭化物を含む。9世紀以後。
050	3	X=36.618 Y=-39.393		楕円形	155×105×25	土師器小破片3	炭化物を含む。古代以後。
051	3	X=36.619 Y=-39.395		楕円形	95×80×35		古代以後。
052	3	X=36.616 Y=-39.395		楕円形	75×50×20		古代以後。
053	3	X=35.998 Y=-39.397	54号土坑→不明	楕円形	(95)×70×25		焼土粒子・炭化物を含む。古代以後。
054	3	X=35.998 Y=-39.397	53号土坑→不明	不明	55×(38)×25		
055	3	X=35.987 Y=-39.405	99号ピット→55号土坑	不定形	150×125×30		焼土粒子・炭化物を含む。古代以後。
056	4	X=36.121 Y=-39.416	57号土坑→56号土坑	不整楕円形	75×65×70		古代以後。
057	4	X=36.121 Y=-39.416	57号土坑→56号土坑	不整楕円形	75×(60)×50		古代以後。
058	4	X=36.118 Y=-39.408	58号土坑→59号土坑	不整楕円形	(115)×95×20		古代以後。
059	4	X=36.118 Y=-39.408	58号土坑→59号土坑	不定形	110×(95)×62		古代以後。
060	4	X=36.125 Y=-39.413		不定形	110×60×65	土師器・須恵器小破片	焼土粒子・炭化物を含む。9世紀以後。
061	5	X=36.153 Y=-39.424		不定形	125×105×20	土師器小破片1・須恵器小破片1	9世紀以後。
062	5	X=36.153 Y=-39.422		不定形	95×65×16	土師器小破片8	焼土小ブロック・炭化物を含む。古代以後。
064	6	X=36.209 Y=-39.439		楕円形	170×130×70		
073	6	X=36.210 Y=-39.444		楕円形	95×75×30		焼土粒子・炭化物を含む。
074	6	X=36.214 Y=-39.446	74号土坑→75号土坑	楕円形	(100)×75×35	土師器器(538)、土師器・須恵器小破片	焼土粒子・炭化物を含む。9世紀以後。
075	6	X=36.214 Y=-39.446	74号土坑→75号土坑	不整円形	(110)×45	土師器・須恵器小破片やや多	焼土粒子・炭化物を含む。9世紀以後。
078	19	X=36.007 Y=-39.346		不整方形	260×65	土師器・須恵器小破片	炭化物・焼土を含む。9世紀以後。
079	19	X=36.010 Y=-39.342		不整方形	225×25	土師器・須恵器小破片	9世紀以後。
080	19	X=36.007 Y=-39.339		楕円形	230×200×30	土師器小破片7、須恵器小破片1	9世紀以後。
081	19	X=36.005 Y=-39.335		楕円形	95×80×10		
082	19	X=35.900 Y=-39.333		不整長方形	140×90×60		多量の炭化物・焼土粒子を含む。基壇か。

第5節 土 坑

土坑 番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模 (cm) 長辺・長軸 ×短辺・短軸×深さ	出土遺物	年代・その他
083	19	X=35.984 Y=-39.338		不整楕円形	120×100×45		焼土粒子を含む。古代以後。
084	19	X=35.986 Y=-39.366	85号土坑→84号土坑	不定形	190×130×15		古代以後。
085	19	X=35.986 Y=-39.366	85号土坑→84号土坑	不定形	140×125×13	土師器小破片	古代以後。
086	19	X=35.996 Y=-39.357		不整楕円形 (長方形)	190×135×45 (140× 85×45)	炭化物・土師器蓋 (935)、須恵器杯(936)	多量の炭化物及び焼土 粒子を含む。墓填み。 古代以後。
087	19	X=35.995 Y=-39.361		隅丸長方形	95×70×20		炭化物を含む。古代以 後。
088	19	X=35.988 Y=-39.351		不整楕円形	75×60×20		炭化物を含む。古代以 後。
089	19	X=36.001 Y=-39.340		楕円形	85×70×10	須恵器杯(937)、土師 器小破片2	9世紀以後。
090	19	X=36.002 Y=-39.341		楕円形	115×85×30		焼土粒子・炭化物を含 む。
092	5	X=36.175 Y=-39.463		楕円形	120×75×25		古代以後。
093	19	X=36.002 Y=-39.338		楕円形	85×55×20	土師器小破片3	多量の炭化物を含む。 古代以後。
094	19	X=36.008 Y=-39.362		長方形	(155)×120×70	土師器・須恵器小破片	9世紀以後。
095	19	X=35.990 Y=-39.366		不定形	195×85×55	土師器小破片3、須恵 器小破片3	焼土粒子を含む。9世 紀以後。
096	19	X=36.014 Y=-39.355		不整形	120×75	土師器杯(938)、須恵 器蓋(939)	古代以後。
097	19	X=36.029 Y=-39.350		不整形	100×22	土師器小破片1	古代以後。
098	19	X=36.030 Y=-39.351		楕円形	85×70×25		古代以後。
099	19	X=36.011 Y=-39.343		不定形	140×75×45		古代以後。
100	19	X=35.984 Y=-39.333		不整楕円形	220×170×26		
104	5	X=36.172 Y=-39.431		不整楕円形	70×65×45	須恵器杯(393)、土師 器・須恵器小破片	9世紀以後。
105	5	X=36.174 Y=-39.431		不整楕円形	95×85×20	須恵器蓋(394)、土師 器・須恵器小破片	9世紀以後。
106	5	X=36.177 Y=-39.433		不整形	80×25		古代以後。
107	5	X=36.181 Y=-39.434		楕円形	100×90×20		古代以後。
108	5	X=36.182 Y=-39.433		楕円形	100×85×15	土師器小破片7、須恵 器小破片3	9世紀以後。
109	5	X=36.187 Y=-39.432		不整楕円形	120×95×18		多量の炭化物粒子を含 む。古代以後。
111	5	X=36.188 Y=-39.447		楕円形	175×145×35	須恵器杯(395)、土師 器・須恵器小破片	多量の焼土粒子・炭化 物を含む。9世紀以後。
112	5	X=36.180 Y=-39.440		楕円形	120×95×25	土師器小破片4、須恵 器小破片1	炭化物粒子を含む。9 世紀以後。
113	5	X=36.178 Y=-39.440		不定形	80×70×30		炭化物粒子を含む。古 代以後。
115	5	X=36.144 Y=-39.432		不整楕円形	200×190×80	須恵器杯(396)、土師 器・須恵器小破片	炭化物を含む。古代以 後。
116	5	X=36.130 Y=-39.427		不整形	95×55×15	土師器小破片1、須恵 器小破片1	焼土粒子・炭化物を含 む。9世紀以後。

第II章 発見された遺構・遺物

土坑 番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模(cm)長辺・長軸 ×短辺・短軸×深さ	出土遺物	年代・その他
117	5	X=36.132 Y=-39.428		不整形円形	75×55	須恵器壺破片 1	9世紀以後。
118	5	X=36.130 Y=-39.431		不整形長方形	135×85×45	土師器小破片 1、須恵器小破片 1	9世紀以後。
119	5	X=36.128 Y=-39.421		不整形楕円形	95×70×15		
120	5	X=36.129 Y=-39.421		不整形円形	75×20	土師器小破片 1、須恵器小破片 1	9世紀以後。
121	1	X=35.564 Y=-39.459		不整形円形	80×65	土師器蓋(525)、土師器高杯(526)	古墳時代。
122	18	X=35.938 Y=-39.375		楕円形	135×125×13	羽釜(711)、土師器小破片 4、須恵器小破片 1	炭化物粒子を含む。10世紀以後。
123	18	X=35.963 Y=-39.367		楕円形	80×70×30		古代以後。
124	18	X=35.964 Y=-39.363		不整形楕円形	180×135×22		古代以後。
125	21	X=35.974 Y=-39.297		楕円形	140×115×33	須恵器椀(1053・1054)、土師器・須恵器小破片	少量の炭化物粒子を含む。9世紀以後。
126	21	X=35.987 Y=-39.286		楕丸長方形	285×155×32	須恵器杯(1048)、平瓦(1051)	少量の炭化物粒子を含む。9世紀以後。
127	21	X=35.971 Y=-39.285		楕丸長方形	185×95×20	土師器・須恵器・灰釉小破片	9世紀以後。
128	21	X=35.968 Y=-39.289	128号土坑→129号土坑	楕丸長方形	225×125×30	土師器・須恵器・灰釉小破片	炭化物を含む。9世紀以後。
129	21	X=35.968 Y=-39.289	128号土坑→129号土坑・545号ピット→129号土坑	楕丸長方形	135×125×35	土師器・須恵器小破片	炭化物を含む。9世紀以後。
130	21	X=35.976 Y=-39.289		楕円形	93×80×30	須恵器椀(1055・1056・1057)	微量の炭化物を含む。9世紀以後。
131	21	X=35.974 Y=-39.290		不整形円形	95×10		
132	21	X=35.973 Y=-39.294		不整形楕円形	160×80×12	土師器・須恵器小破片	微量の炭化物を含む。9世紀以後。
133	21	X=35.973 Y=-39.293		不整形楕円形	90×65×15		
134	21	X=35.976 Y=-39.294		不整形楕円形	90×60×12	須恵器杯(1047)、土師器・須恵器小破片	9世紀以後。
135	21	X=35.977 Y=-39.296		楕円形	55×48×10	土師器小破片 2、須恵器小破片 2	9世紀以後。
138	21	X=35.971 Y=-39.305		不整形円形	80×10		
139	21	X=35.970 Y=-39.308		不整形円形	95×11		
140	21	X=35.971 Y=-39.306		楕円形	60×50×8		
141	18	X=35.962 Y=-39.346		楕円形	110×85×11		古代以後。
142	18	X=35.971 Y=-39.348		楕円形	70×60×63		古代以後。
143	21	X=35.975 Y=-39.301		楕円形	100×90×19	土師器・須恵器小破片	9世紀以後。
144	21	X=35.973 Y=-39.300		楕円形	110×90×20	土師器小破片 1	古代以後。
145	21	X=35.974 Y=-39.302		不整形方形	50×6		

第5節 土 坑

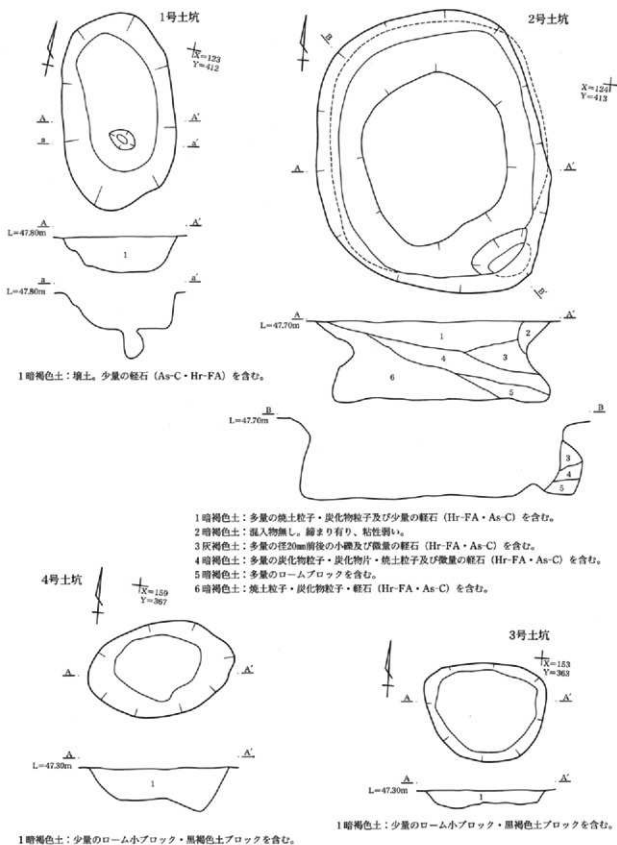
土坑 番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模 (cm) 長辺×長軸 ×短辺×短軸×深さ	出土遺物	年代・その他
146	21	X=35.972 Y=-39.300		不整楕円形	50×40×8		微量の炭化物を含む。
148	21	X=35.975 Y=-39.299		不整円形	95×15	土師器・須恵器小破片	9世紀以後。
149	21	X=35.969 Y=-39.290	149号土坑→150号土坑・555号ピット→149号土坑・556号ピット→149号土坑	不整楕円形	130×110×25		微量の炭化物を含む。 古代以後。
150	21	X=35.969 Y=-39.290	149号土坑→150号土坑	不整楕円形	95×(85)×37		微量の炭化物を含む。 古代以後。
151	18	X=35.966 Y=-39.327		不整楕円形	85×75×10	土師器小破片3、須恵器小破片1	微量の炭化物を含む。 9世紀以後。
152	18	X=35.965 Y=-39.326		楕円形	115×90×27	土師器小破片4、須恵器小破片2	9世紀以後。
153	18	X=35.963 Y=-39.326		楕円形	(55)×65×22		
154	18	X=35.963 Y=-39.327		楕円形	95×(45)×25	須恵器椀(747)、須恵器小破片1	9世紀以後。
155	18	X=35.962 Y=-39.330		隅丸長方形	100×(45)×21		
156	18	X=35.964 Y=-39.333		不整楕円形	(185)×130×30	土師器小破片3、須恵器小破片2	9世紀以後。
157	18	X=35.968 Y=-39.328		不整楕円形	105×85×33	須恵器小破片1	微量の炭化物粒子を含む。 9世紀以後。
158	18	X=35.972 Y=-39.351		隅丸方形	45×13	土師器小破片1	焼土粒子・炭化物粒子を含む。 古代以後。
159	18	X=35.963 Y=-39.328	159号土坑→160号土坑・560号ピット→149号土坑		(120)×180×32	須恵器杯(748)、土師器・須恵器小破片	9世紀以後。
160	18	X=35.963 Y=-39.328	159号土坑→160号土坑・560号ピット→160号土坑		(165)×135×30	土師器小破片3	古代以後。
161	18	X=35.972 Y=-39.346		楕円形	(65)×50×45	須恵器椀(746)、土師器・須恵器小破片	焼土ブロックを含む。 9世紀以後。
162	18	X=35.971 Y=-39.349		不整楕円形	80×75×45	須恵器杯(712)、土師器・須恵器小破片	9世紀以後。
163	18	X=35.960 Y=-39.349		不整円形	110×20	土師器燹破片	多量の焼土粒子を含む。 9世紀以後。
164	21	X=35.974 Y=-39.299	164号土坑→79号住居		(70)×55×10	須恵器杯(1050)、須恵器椀(1049)	微量の炭化物を含む。 9世紀以後。
165	21	X=35.978 Y=-39.282		不整楕円形	235×130×41		古代以後。
166	21	X=35.969 Y=-39.290		不定形	193×90×16		
167	22	X=35.984 Y=-39.304		不整円形	65×15		
168	22	X=35.991 Y=-39.307	168号土坑→175号土坑	楕円形	93×850×12	土師器小破片	
169	22	X=35.989 Y=-39.301		不整円形	110×7		微量の炭化物粒子を含む。
170	22	X=35.990 Y=-39.301		不整楕円形	53×45×7	須恵器杯(1080)、須恵器小破片	焼土粒子・炭化物粒子を含む。 9世紀以後。
171	22	X=35.987 Y=-39.288		楕円形	120×95×22		
172	22	X=35.989 Y=-39.308		楕円形	50×45×13	灰釉陶器皿(1076)	9世紀以後。
173	22	X=35.991 Y=-39.307	173号土坑→174号土坑	楕円形	(50)×(45)×5		焼土粒子・炭化物粒子を含む。 古代以後。

第二章 発見された遺構・遺物

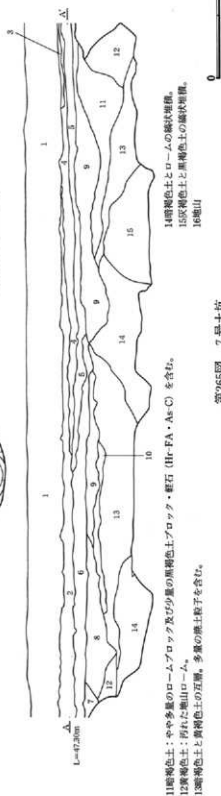
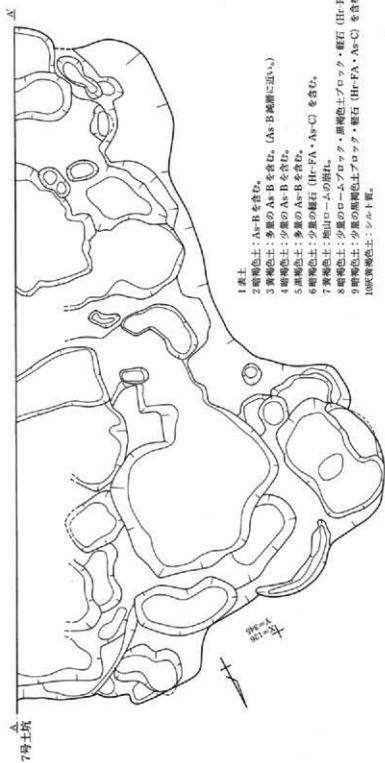
土坑 番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模 (cm) 長辺・長軸 ×短辺・短軸×深さ	出土遺物	年代・その他
174	22	X=35.991 Y=-39.307	173号土坑→174号土坑・175号土坑→174号土坑	不整形	40×10		焼土粒子・炭化物粒子を含む。古代以後。
175	22	X=35.991 Y=-39.307	168号土坑→175号土坑・175号土坑→174号土坑	不整形	(60)×(55)×10	土師器小破片1	焼土粒子・炭化物粒子を含む。古代以後。
176	22	X=35.991 Y=-39.307	175号土坑→168号土坑→175号土坑・569号ピット→174号土坑		深さ11	土師器小破片2	焼土粒子・炭化物粒子を含む。古代以後。
180	22	X=35.989 Y=-39.304		不整形	45×15		古代以後。
181	22	X=35.986 Y=-39.304		不整形	75×70×6		炭化物を含む。住居跡の隅り方か。古代以後。
182	22	X=35.986 Y=-39.302		不整形	95×15		古代以後。
183	22	X=35.989 Y=-39.300		不整形	75×65×37		古代以後。
184	22	X=35.993 Y=-39.298		不定形	380×265×95	須恵器杯(1077・1079)、須恵器碗(1078)	粘土採掘坑か。古代以後。9世紀以後。
187	22	X=35.992 Y=-39.284		不定形	70×53×15		・
189	18	X=35.970 Y=-39.342		不整形	45×26	土師器小破片7	古代以後。
190	18	X=35.970 Y=-39.337		不整形	200×100×12		
191	18	X=35.958 Y=-39.351		不整形	(125)×85×38		古代以後。
192	18	X=35.958 Y=-39.345	106号住居→不明	楕円形	62×(30)×33	石製品砥石(745)	古代以後。
196	16	X=35.779 Y=-39.416		不整形	150×115×20	縄文土器深鉢(1196)、石製品(573)	縄文土坑
197	16	X=35.782 Y=-39.416		不整形	75×23	軟質陶器滑破片2	江戸時代以後。
198	16	X=35.781 Y=-39.408		不定形	180×125×43	縄文土器深鉢(1197・1198・1199)	縄文土坑
199	16	X=35.784 Y=-39.411		不定形	(115)×145×55	縄文土器深鉢(1200)	縄文土坑
200	16	X=35.782 Y=-39.417		不整形	170×95×23		
201	16	X=35.771 Y=-39.410	201号土坑→202号土坑	不整形	103×75×60	縄文土器深鉢(1201・1202)	縄文土坑
202	16	X=35.771 Y=-39.410	201号土坑→202号土坑	不定形	(390)×(200)×50		
203	17	X=35.855 Y=-39.405		不定形	(140)×95×22		古代以後。
204	17	X=35.864 Y=-39.401		楕円形	80×52×24		
225	3	X=36.039 Y=-39.394		不整形	130×105×30	須恵器小破片1	9世紀以後。
226	3	X=36.033 Y=-39.396		楕円形	(70)×(75)×60	土師器小破片、須恵器小破片1	9世紀以後。
227	3	X=36.034 Y=-39.397		不整形	65×45	土師器小破片3、須恵器小破片1	微量の焼土粒子を含む。9世紀以後。
228	3	X=36.034 Y=-39.400		不整形	90×(50)×50	土師器小破片2、須恵器小破片2	微量の焼土粒子を含む。9世紀以後。
229	3	X=36.032 Y=-39.399		楕円形	145×120×37	土師器小破片2、須恵器小破片1	9世紀以後。

第5節 土 坑

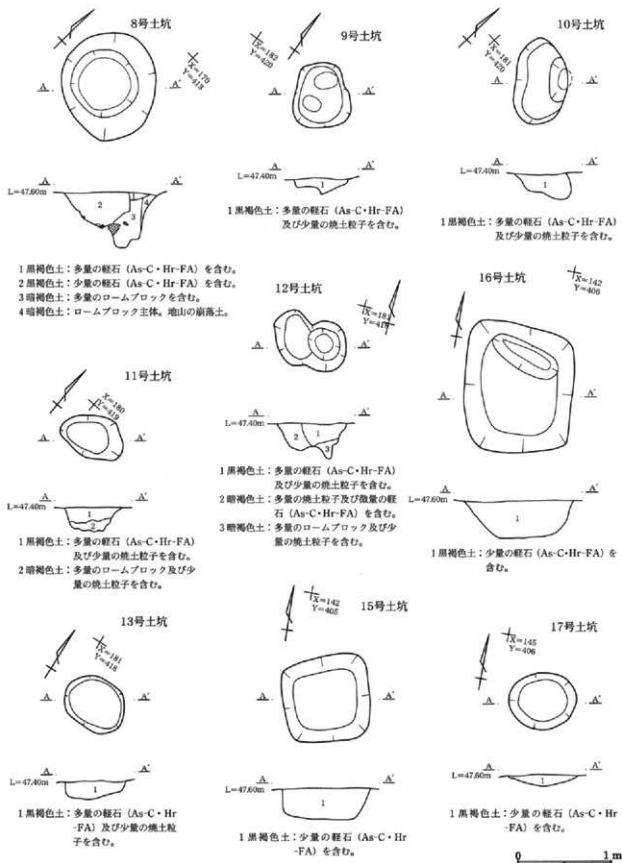
土坑番号	地区	出土位置	重複関係	平面形	規模 (cm) 長辺・長軸 × 短辺・短軸 × 深さ	出土遺物	年代・その他
230	3	X=36.032 Y=-39.400	660号ピット→230号土坑	楕円形	90×(45)×35	土師器小破片7、須恵器小破片2	焼土粒子を含む。9世紀以後。
231	3	X=36.029 Y=-39.397		楕円形	50×45×35	土師器小破片1	古代以後。
233	3	X=36.026 Y=-39.399		不整形円形	50×30		
236	3	X=36.031 Y=-39.397		不整形円形	40×37		炭化物粒子を含む。古代以後。
246	3	X=36.029 Y=-39.400		楕円形	70×50×45		
247	3	X=36.023 Y=-39.401		不整形円形	50×45×12		古代以後。
248	3	X=36.024 Y=-39.401		楕円形	75×55×35		
249	3	X=36.040 Y=-39.391		不整形長方形	105×75×22	須恵器小破片1	焼土粒子・炭化物粒子を含む。9世紀以後。
250	3	X=36.013 Y=-39.403		楕円形	80×70×25		
251	3	X=36.015 Y=-39.405		楕円形	(45)×65×30		古代以後。
255	3	X=36.012 Y=-39.405		楕円形	65×55×20		
256	3	X=36.012 Y=-39.404		不整形楕円形	50×40×18	土師器小破片1	古代以後。
259	3	X=36.973 Y=-39.415		不整形楕円形	140×70×15		焼土粒子を含む。
266	3	X=36.005 Y=-39.406		不整形楕円形	45×40×17		古代以後。
267	3	X=36.002 Y=-39.407		不整形楕円形	35×30×35	須恵器椀(479)、土師器・須恵器小破片各1	古代以後。
268	3	X=36.001 Y=-39.408		不定形	100×60×65		古代以後。
269	3	X=36.005 Y=-39.405		不整形楕円形	55×50×25		古代以後。
271	3	X=35.989 Y=-39.410		不整形楕円形	75×40×6		炭化物粒子・焼土粒子を含む。
275	3	X=36.031 Y=-39.399		不整形楕円形	80×65×45		
279	5	X=36.127 Y=-39.429		不整形楕円形	145×110×20	土師器小破片4、須恵器小破片6	121号土坑より変更。9世紀以後。
280	22	X=35.994 Y=-39.295		不整形円形	47×21		189号土坑より変更。
281	22	X=36.000 Y=-39.308		不定形	50×45×30		197号土坑より変更。
283	5	X=36.185 Y=-39.479		不整形楕円形	550×440×130	須恵器杯(124・125・126・127・128・129・130)、須恵器椀(131・132・133・134・135・136・137・138・139・140)、須恵器蓋(141)、須恵器蓋(143)、土師器甕(144・145・146)、須恵器鉢(152)、須恵器釜(142)、土師器台付蓋(147)、土製品鍋(148・149)、土製品(150・151)	47号住居跡より変更。粘土探窟か。



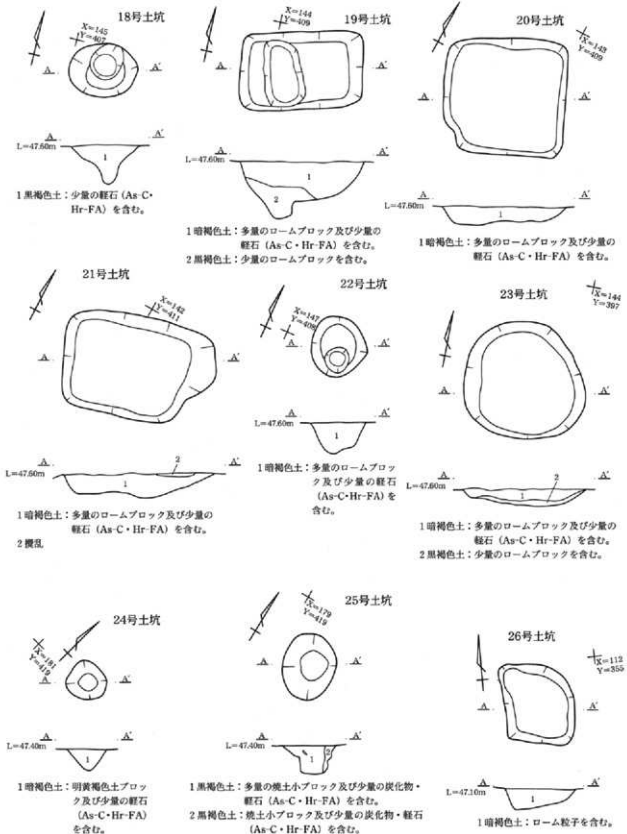
第264図 1・2・3・4号土坑



第265図 7号土坑

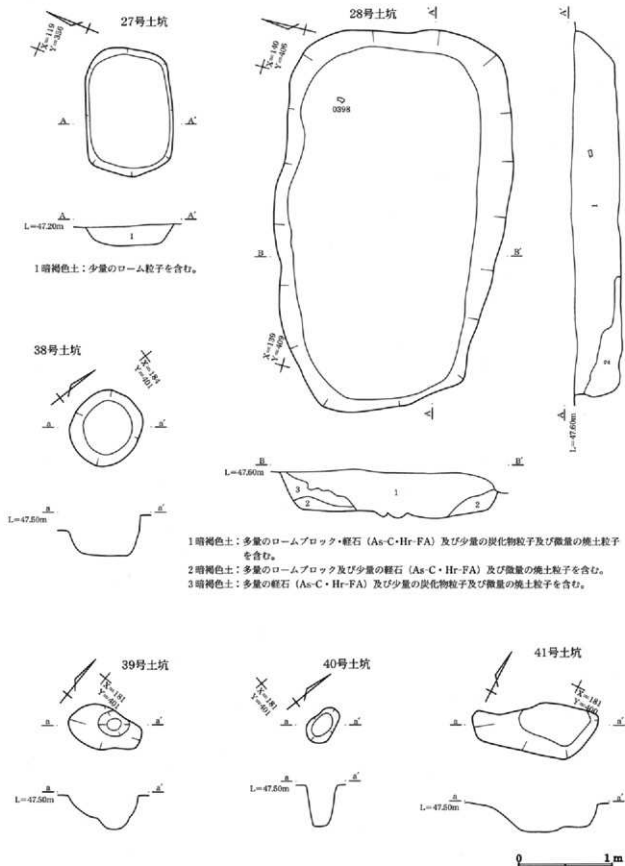


第266図 8・9・10・11・12・13・15・16・17号土坑

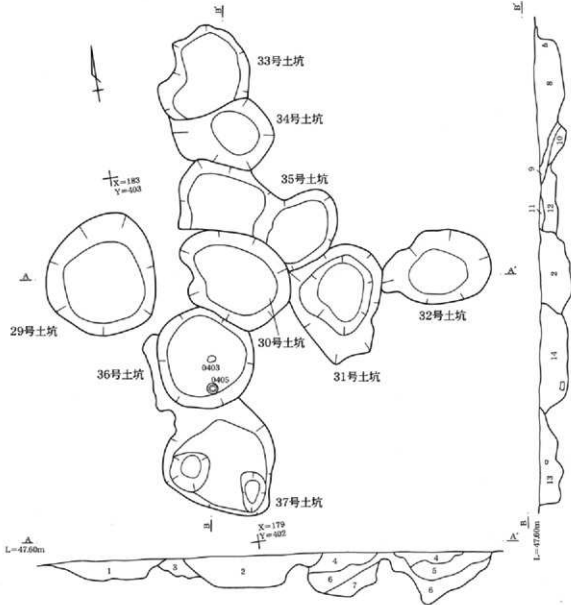


第267図 18・19・20・21・22・23・24・25・26号土坑

第二章 発見された遺構・遺物



第268図 27・28・38・39・40・41号土坑



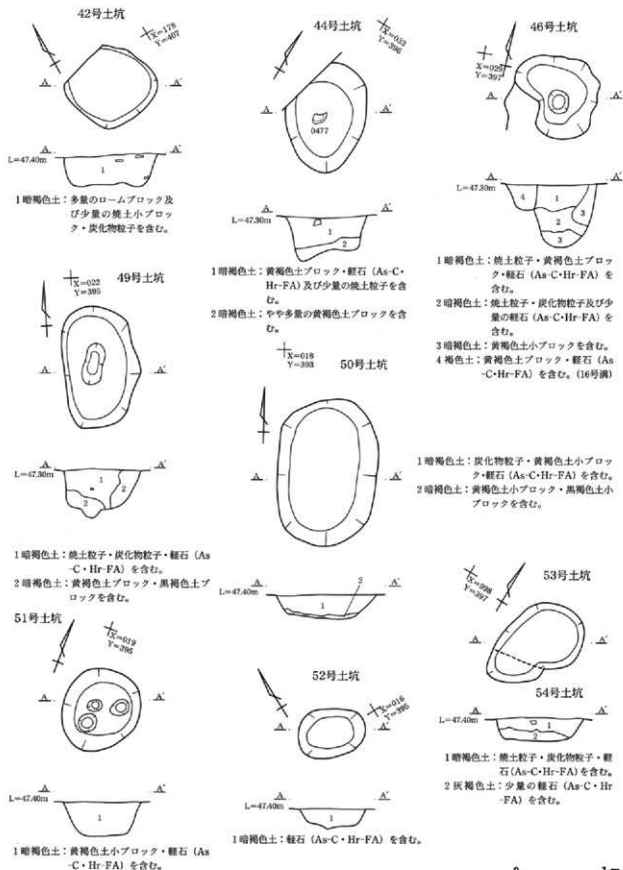
29～37号土坑（5区）

- 1 暗褐色土：少量の焼土ブロック・炭化物及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（29号土坑）
- 2 暗褐色土：少量の焼土小ブロック・炭化物ブロック及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（30号土坑）
- 3 黒褐色土：少量のローム小ブロック・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（30号土坑）
- 4 暗褐色土：少量の焼土小ブロック・炭化物・黒褐色土小ブロック及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（31・32号土坑）
- 5 暗褐色土：少量の炭化物及び微量の焼土小ブロック・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（32号土坑）
- 6 暗褐色土：多量の焼土小ブロック及び少量の炭化物を含む。（31・32号土坑）
- 7 黒褐色土：少量のロームブロック及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（31号土坑）
- 8 暗褐色土：多量のロームブロック及び少量の炭化物及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（33号土坑）
- 9 褐色土：挟雑物なし。（34号土坑）
- 10 暗褐色土：微量の焼土粒子・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（34号土坑）
- 11 黄褐色土：微量の焼土粒子を含む。（35号土坑）
- 12 暗褐色土：炭化物及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（35号土坑）
- 13 暗褐色土：少量の焼土ブロック・炭化物及び微量の軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（37号土坑）
- 14 暗褐色土：多量の焼土小ブロック及び少量の炭化物・軽石（Hr-FA・As-C）を含む。（36号土坑）

0 1m

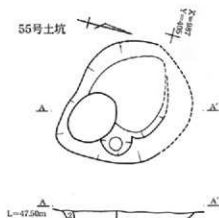
第269図 29・30・31・32・33・34・35・36・37号土坑

第二章 発見された遺構・遺物

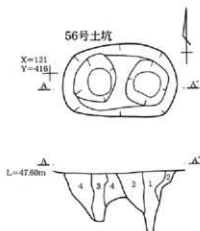


第270図 42・44・46・49・50・51・52・53・54号土坑

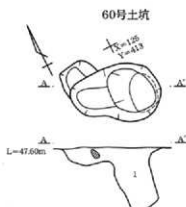
第5節 土坑



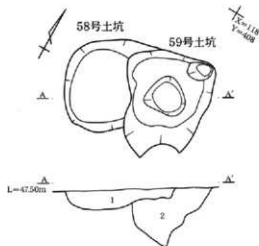
- 1 暗褐色土：軽石 (As・C・Hr-FA) 及び少量の
焼土粒子・炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土：黄褐色土ブロック及び少量の軽石
(As・C・Hr-FA) を含む。
3 99号ピット覆土



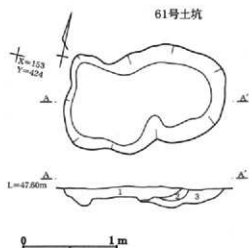
- 1 黄褐色土：ロームブロック主体、微
量の軽石 (As・C・Hr
-FA) を含む。(57号土
坑)
2 暗褐色土：やや多量のロームブロッ
ク及び微量の軽石 (As
-C・Hr-FA) を含む。(57
号土坑)
3 黄褐色土：多量のロームブロック及
び少量の軽石 (As・C・Hr
-FA) を含む。(56号土
坑)
4 暗褐色土：やや多量のロームブロッ
ク及び軽石 (As・C・Hr
-FA) を含む。(56号土
坑)



- 1 暗褐色土：少量の焼土粒子・炭化物粒子・ロームブ
ロック・軽石 (As・C・Hr-FA) を含む。



- 1 暗褐色土：少量のロームブロック及び多量の軽石 (As・C・Hr-FA)
を含む。(58号土坑)
2 暗褐色土：多量のロームブロック及び少量の軽石 (As・C・Hr-FA)
を含む。(59号土坑)



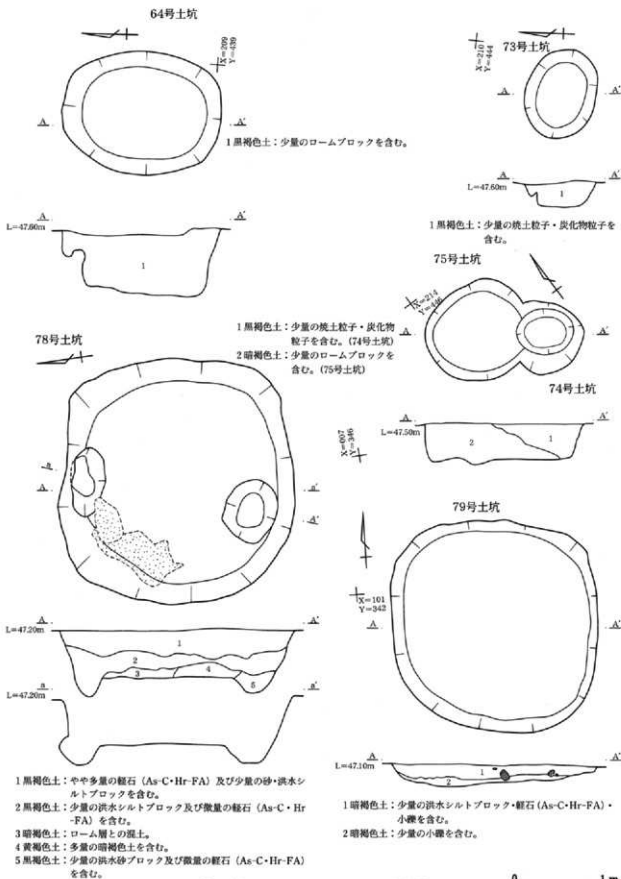
- 1 黒褐色土：多量のロームブロック・軽
石 (As・C・Hr-FA) を含む。
2 黄褐色土：ローム主体。少量の黒褐色
土ブロックを含む。
3 暗褐色土：少量の黒褐色土ブロック・
軽石 (As・C・Hr-FA) を含
む。



- 1 暗褐色土：少量の焼土小ブロック・
炭化物・軽石 (As・C・Hr
-FA) を含む。

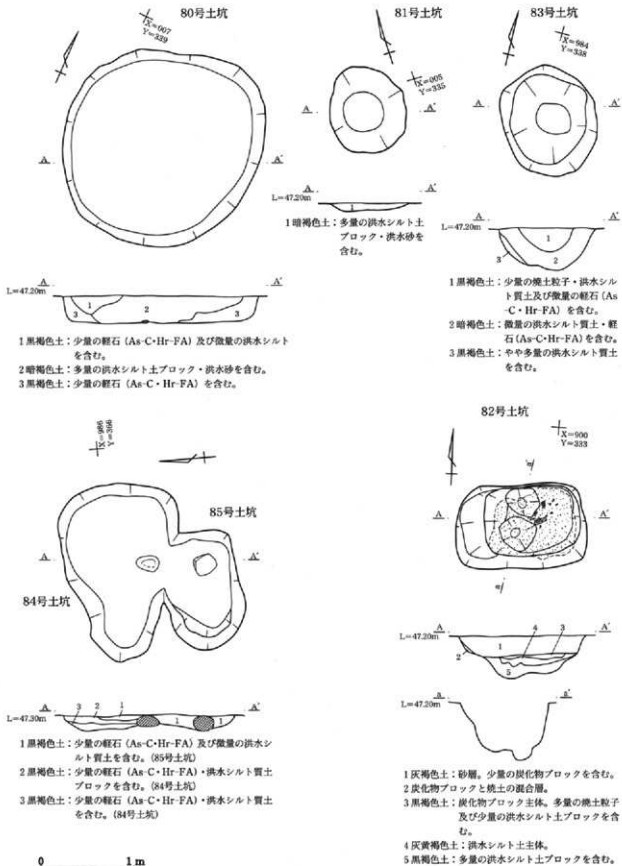
第271図 55・56・57・58・59・60・61・62号土坑

第二章 発見された遺構・遺物



第272図 64・73・74・75・78・79号土坑

0 1m



第273図 80・81・82・83・84・85号土坑